

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第424集

さ つ き た て あと に しょう じ さん
五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道4号小鳥谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道4号小鳥谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。先人たちが創造し遺してきたこれら多くの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは県民に課せられた大切な責務であります。

一方広大な面積を有する本県は、県上の大部分が山林であることから社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発もまた県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。財団法人岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は国道4号小烏谷バイパス建設事業に関連して、平成13から14年度にかけて発掘調査を行った一戸町の五月館跡、仁昌寺Ⅲ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

遺跡は一戸町の中央部を北流する馬淵川の支流である平糠川左岸の丘陵地に立地しており、調査の結果、五月館跡からは縄文時代の遺構と遺物が、仁昌寺Ⅲ遺跡からは縄文時代と平安時代の遺構及び遺物などが発見され、貴重な資料を提供し、大きな成果をあげることができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご支援・ご協力を賜りました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、一戸町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成16年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、岩手県二戸郡一戸町小鳥谷字上里48ほかに所在する五月館跡と同町小鳥谷字仁昌寺66-10ほかに所在する仁昌寺Ⅲ遺跡の発掘調査を収録したものである。
2. 五月館跡と仁昌寺Ⅲ遺跡の発掘調査は、国道4号小鳥谷バイパス建設に伴い、記録保存を目的として行った緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と岩手県教育委員会生涯学習文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
3. 岩手県遺跡登録台帳における番号と調査時の遺跡略号は以下の通りである。

五月館跡 J F 40-0005 / S T T-01・S T T-02
仁昌寺Ⅲ遺跡 J F 30-2061 / N S J Ⅲ-02
4. 野外調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。

五月館跡 平成13年7月2日～10月26日 / 4,508㎡ / 中村直美・北田 勲・飯坂一重
平成14年4月11日～6月28日 / 7,942㎡ / 飯坂一重・原 美津子
仁昌寺Ⅲ遺跡 平成14年6月20日～10月4日 / 6,250㎡ / 原 美津子・飯坂一重
5. 室内整理期間・整理担当者は以下の通りである。

五月館跡 平成13年11月1日～平成14年3月29日 / 飯坂一重・北田 勲
平成14年12月1日～平成15年3月31日 / 飯坂一重
仁昌寺Ⅲ遺跡 平成14年11月1日～平成15年3月31日 / 原 美津子
6. 遺物の分析・鑑定及び保存処理にあたっては次の機関に委託した。(敬称略)

石質鑑定 花崗岩研究会
赤色顔料分析鑑定・鉄製品保存処理 岩手県立博物館
7. 委託業務にあたっては次の機関に委託した。

五月館跡 基準点測量 株式会社ハイマーテック
航空写真撮影 株式会社ハイマーテック、東邦航空株式会社
仁昌寺Ⅲ遺跡 基準点測量 株式会社岩手開発測量設計
航空写真撮影 東邦航空株式会社
8. 野外調査及び報告書の作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導をいただいた。(敬称略)

高田和徳 中村明央(一戸町教育委員会)、室野秀文(盛岡市教育委員会)
井上喜久男(愛知県陶磁資料館)、鈴木聡(二戸市教育委員会)
9. 発掘調査においては一戸町教育委員会をはじめ地元の方々にご協力をいただいた。
10. 遺跡の調査結果は現地公開資料、調査略報ほかに掲載したが、本書の内容が優先する。
11. 本報告書の執筆・編集は飯坂一重、原美津子が担当した。
12. 五月館跡、仁昌寺Ⅲ遺跡から出上した遺物及び図面・写真等の調査資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目 次

序
例 言
目 次

【本 文】

I. 調査に至る経過	7	V. 仁昌寺Ⅲ遺跡	43
II. 遺跡の位置と立地	7	1. 遺跡の立地	45
1. 位置と立地	7	2. グリッド設定	45
2. 周辺の遺跡	8	3. 基本土層	47
III. 調査と整理の方法	8	4. 検出した遺構と遺構内出土遺物	50
1. 野外調査の方法	8	(1) 縄文時代	50
2. 室内整理の方法	12	(2) 平安時代	86
IV. 五月館跡	13	5. 遺構外出土遺物	88
1. 遺跡の立地	15	(1) 土器・土製品・陶磁器	88
2. グリッド設定	15	(2) 石器	91
3. 基本土層	16	(3) 銭貨	92
4. 検出遺構と出土遺物	16	6. まとめ	100
(1) 概要	16	(1) 遺構	100
(2) 曲輪状平坦地・切岸状急斜面	17	(2) 遺物	100
(3) 土坑	20	7. 分析結果	102
(4) 遺物	22		
5. まとめ	23		
(1) 五月館の縄張りとは	23		
(2) 縄文時代	28		

【図 版】

第1図 遺跡位置図	4
第2図 地形分類図	5
第3図 地形と周辺の遺跡	6
第4図 周辺の遺跡分布図	9

五月館跡

第1図	グリッド配置図	15	第7図	4号土坑出土遺物・ 遺構外出土遺物(土器1)	24
第2図	基本土層柱状図	16	第8図	遺構外出土遺物(土器2)	25
第3図	遺構配置図	17	第9図	遺構外出土遺物 (石器・石製品・鉄製品・銭貨)	26
第4図	曲輪状平坦地・切岸状急斜面(1)	18	第10図	五月館跡細張想定図	28
第5図	曲輪状平坦地・切岸状急斜面(2)	19			
第6図	土坑	21			

仁昌寺Ⅲ遺跡

第1図	グリッド配置図	46	第19図	5号竪穴住居跡出土遺物	66
第2図	基本土層柱状図	47	第20図	6号竪穴住居跡	68
第3図	遺構配置図	48	第21図	6号竪穴住居跡出土遺物	69
第4図	図版凡例	49	第22図	1～4号土坑	75
第5図	1号竪穴住居跡(1)	51	第23図	5～9号土坑	76
第6図	1号竪穴住居跡(2)・出土遺物	52	第24図	10～14号土坑	77
第7図	2号竪穴住居跡(1)	53	第25図	15～20号土坑	78
第8図	2号竪穴住居跡(2)	54	第26図	21～25号土坑	79
第9図	2号竪穴住居跡出土遺物(1)	55	第27図	26～29号土坑	80
第10図	2号竪穴住居跡出土遺物(2)	56	第28図	30～33号土坑	81
第11図	3号竪穴住居跡	58	第29図	34～37号土坑	82
第12図	3号竪穴住居跡出土遺物	59	第30図	38～42号土坑	83
第13図	4・5号竪穴住居跡(1)	60	第31図	43～45号土坑・土坑出土遺物	84
第14図	4・5号竪穴住居跡(2)	61	第32図	土坑・1号集石焼土遺構出土遺物	85
第15図	4号竪穴住居跡出土遺物(1)	62	第33図	1号集石焼土遺構	87
第16図	4号竪穴住居跡出土遺物(2)	63	第34図	遺構外出土遺物(土器1)	89
第17図	4号竪穴住居跡出土遺物(3)	64	第35図	遺構外出土遺物(土器2・土製品)	90
第18図	5号竪穴住居跡	65	第36図	遺構外出土遺物(石器・銭貨)	93

【写真図版】

五月館跡

写真図版1	空中写真	31	写真図版8	南側低地・空中写真	38
写真図版2	調査区近景・現況	32	写真図版9	4号土坑出土遺物・ 遺構外出土遺物(土器)	39
写真図版3	基本土層・曲輪状平坦地	33	写真図版10	遺構外出土遺物 (石器・石製品・鉄製品・銭貨)	40
写真図版4	曲輪状平坦地	34	写真図版11	遺構外出土遺物(陶磁器)	41
写真図版5	西側近景・東側畑地	35			
写真図版6	土坑	36			
写真図版7	曲輪状平坦地	37			

仁昌寺Ⅲ遺跡

写真図版 1	空中写真	111	写真図版 17	34～37号土坑	127
写真図版 2	調査区近景・基本上層	112	写真図版 18	38～41号土坑	128
写真図版 3	1号竪穴住居跡	113	写真図版 19	42～45号土坑	129
写真図版 4	2号竪穴住居跡	114	写真図版 20	1号集石焼土遺構	130
写真図版 5	3号竪穴住居跡	115	写真図版 21	1・2号竪穴住居跡出土遺物	131
写真図版 6	4・5号竪穴住居跡(1)	116	写真図版 22	2号竪穴住居跡出土遺物	132
写真図版 7	4・5号竪穴住居跡(2)	117	写真図版 23	3・4号竪穴住居跡出土遺物	133
写真図版 8	6号竪穴住居跡	118	写真図版 24	4号竪穴住居跡出土遺物	134
写真図版 9	1～4号土坑	119	写真図版 25	5・6号竪穴住居跡出土遺物・ 土坑出土遺物	135
写真図版 10	5～8号土坑	120	写真図版 26	1号集石焼土遺構・遺構外 出土遺物(土器1)	136
写真図版 11	9～12号土坑	121	写真図版 27	遺構外出土遺物 (土器2・土製品)	137
写真図版 12	13～16号土坑	122	写真図版 28	遺構外出土遺物 (石器・陶磁器・銭貨)	138
写真図版 13	17～21号土坑	123			
写真図版 14	22～25号土坑	124			
写真図版 15	26～29号土坑	125			
写真図版 16	30～33号土坑	126			

【表】

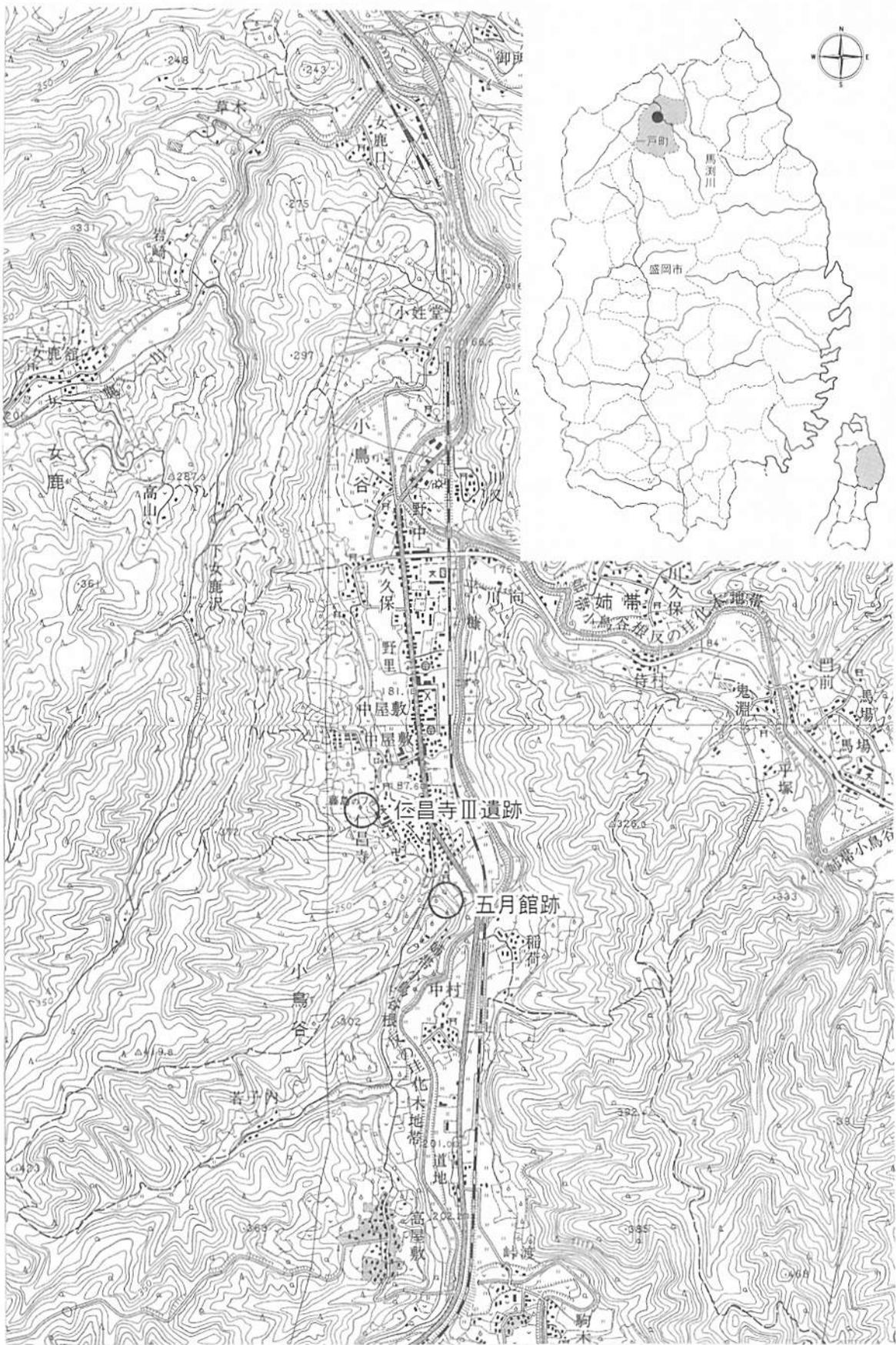
第1表	周辺の遺跡	10
-----	-------	----

五月館跡

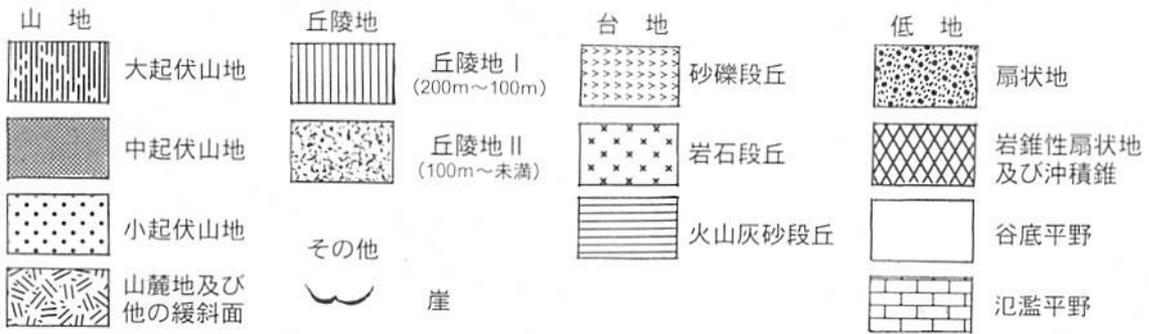
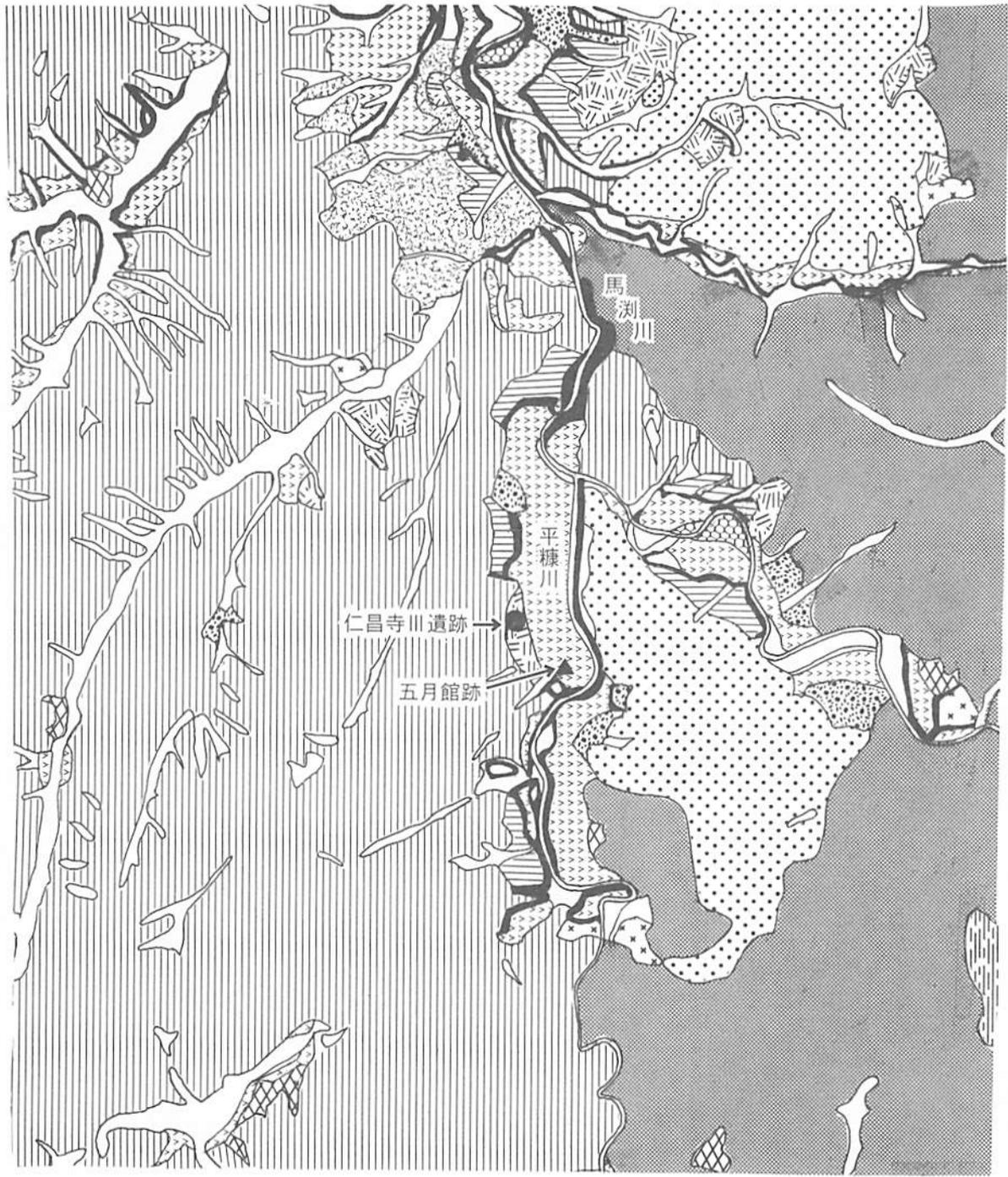
第1表	遺物観察表	27
-----	-------	----

仁昌寺Ⅲ遺跡

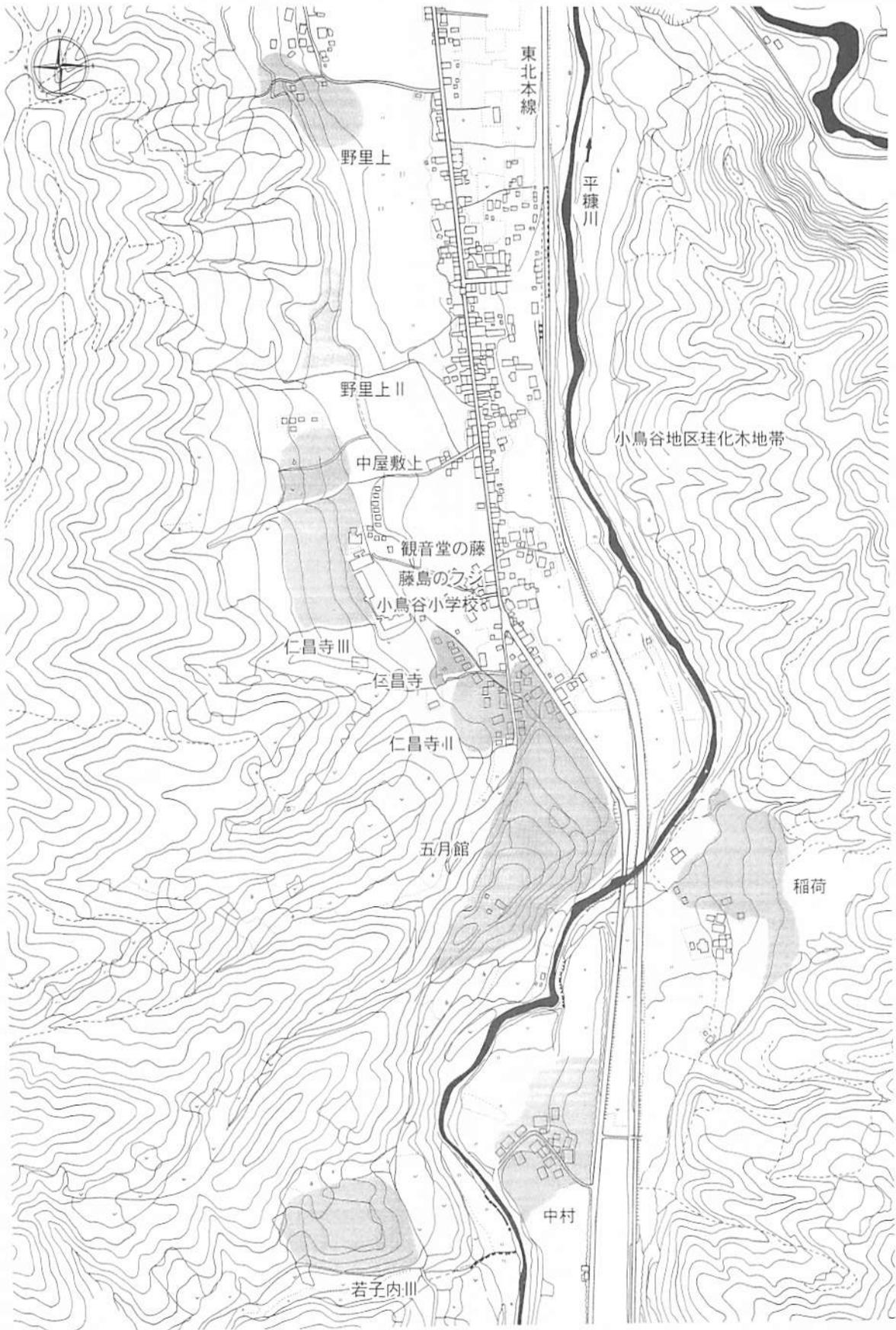
第1表	土坑観察表	70
第2表	遺物観察表(土器・ミニチュア形土器)	94
第3表	遺物観察表(土製品)	97
第4表	遺物観察表(陶磁器)	98
第5表	遺物観察表(鉄製品・鉄滓・銭貨)	98
第6表	遺物観察表(石器)	99



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図



第3図 地形と周辺の遺跡

I. 調査に至る経過

「五月館跡」及び「仁昌寺Ⅲ遺跡」は、小鳥谷バイパス改築工事の施工に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道4号は、東京を起点として、福島県、宮城県、岩手県を経て青森県に至る東北地方の大動脈を担っている主要幹線道路である。

小鳥谷バイパスは、二戸郡一戸町大字小鳥谷字中村を起点とし、同町大字岩館字子守を終点とした国道4号の人家密集、幅員狭小による交通混雑と、急カーブの連続、冬期間の凍結、降雪等による交通の隘路の解消、交通安全の確保、沿道環境の改善を図ると共に、周辺市町村との連絡を強化して、地域活性化の支援を目的とする道路として、昭和63年に事業化し、延長は4,300mである。

又、バイパス整備の効果として特に次の4点を目標としている。

1. ゆとりのある交通

交通混雑が解消され、スムーズな通勤・通学が出来るようになる。

2. 生活環境の改善

交通がスムーズに流れるため騒音、振動が改善され、住みやすい町づくりに貢献する。

3. 安全な交通

交通量が分散減少され、沿道の人や通過する人々の交通の安全性が高まる。

4. 地域活性化の支援

産業・観光を支える道路の機能が強化され、地域が活性化する。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成2年度に分布調査を実施し、「五月館跡」「仁昌寺Ⅲ遺跡」も確認されている。

二つの遺跡についての試掘調査は平成11、12年度実施され、その結果に基づいて岩手県教育委員会は国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所（現国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）に対し、事業について照会した。回答を受けた岩手県教育委員会は岩手工事事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

II. 遺跡の位置と立地

1. 位置と立地

五月館跡は二戸郡一戸町小鳥谷字上里48ほか、仁昌寺Ⅲ遺跡は二戸郡一戸町小鳥谷字仁昌寺66-10ほかに所在する。五月館跡が北緯40度09分36秒・東経141度18分38秒、仁昌寺Ⅲ遺跡が北緯40度10分00秒・東経141度18分08秒の地点にあり、国土地理院発行2万5千分の1地形図「仁昌寺」、同5万分の1地形図「葛巻」の図幅に含まれる。

一戸町は岩手県の内陸北部に位置し、県庁所在地の盛岡市からは北に約65kmの地点にある。東は九戸郡九戸村・岩手郡葛巻町、南は岩手郡岩手町、西は二戸郡浄法寺町、北は二戸市の1市3町1村に接し、二戸広域行政圏に含まれている。隣県である青森県との境までは直線距離にして約15kmほどである。町の面積は298.52㎡で、総面積の80%以上を山林原野が占める山間地となっている。町の中央部には馬淵川が北流し、その支流域に集落と耕地が散在している。国道4号・いわて銀河鉄道の主要交通路が中央部を南北に通って

おり、それに沿って市街地が形成されている。町の南部の奥中山は馬淵川と北上川の分水界をなし、十三本木峠（標高485m）は国道4号の最高地点となっている。遺跡のある小烏谷地区は一戸町の中央部やや北側にあたり、町の中心市街地からはほど近い地区である。遺跡の東側には国道4号に沿うように平瀬川が北流し、約1.4km北方で馬淵川と合流する。馬淵川はさらに約3.3km北方で東流する女鹿川、約3.5km北方で西流する根反川を合わせて北流する。この平瀬川～根反川流域一帯は珪化木の産地として知られ「根反の大珪化木」が有名である。五月館跡南側の平瀬川の断崖より上流一帯は小烏谷珪化木地帯である。また本地区は名勝「藤島の藤」でも知られている。

遺跡は先述の奥中山にある西岳（標高1,018m）の裾野付近から端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の緩やかな斜面上に立地する。下方には沖積世～洪積世に形成されたとされる砂礫（小烏谷）段丘と火山灰砂（小姓堂）段丘が広がる。これらの段丘には、下位に八戸火山灰、その上には南部浮石・中郷浮石などのテラフが載るが、本地域においてはこれらのテラフは浮石粒が黒色土と混合して暗黄褐色土層として見られるにすぎない。遺跡の載る丘陵は第三紀に堆積した堆積岩を基盤とする四つ役層からなる。この基盤層は青緑色砂岩、泥岩、礫岩、凝灰岩質の砂岩から構成され、下位の泥岩・砂岩からは動物化石を、中位の泥岩・砂岩、上位の砂岩からは植物化石を産出する。

2. 周辺の遺跡

岩手県教育委員会によると、一戸町では490遺跡が報告されている。ここでは、本遺跡の存する小烏谷地区を中心に周辺の遺跡124箇所を第4図・第1表に示した。五月館跡と仁昌寺Ⅲ遺跡の間に位置する104仁昌寺、105仁昌寺Ⅱ遺跡は平成12、13年度に調査が行われている。仁昌寺遺跡では縄文時代後期の竪穴住居跡が確認された。仁昌寺Ⅱ遺跡では縄文時代中期の竪穴住居跡、中世の竪穴建物跡・掘立柱建物跡が多数確認されたほか、中世の工房跡・工房関連施設も確認され、縄文土器・陶磁器・鉄札等の鉄製品が出土している。仁昌寺Ⅲ遺跡の北側には、縄文時代の遺跡である94野里上、95野里上Ⅱ、96中屋敷上がある。館跡は、馬淵川に沿って123姉帯城、121田中Ⅰ、120田中Ⅱ、119上野、118一戸城、107小滝館、108西法寺館、馬淵川支流の根反川流域に122根反館がある。

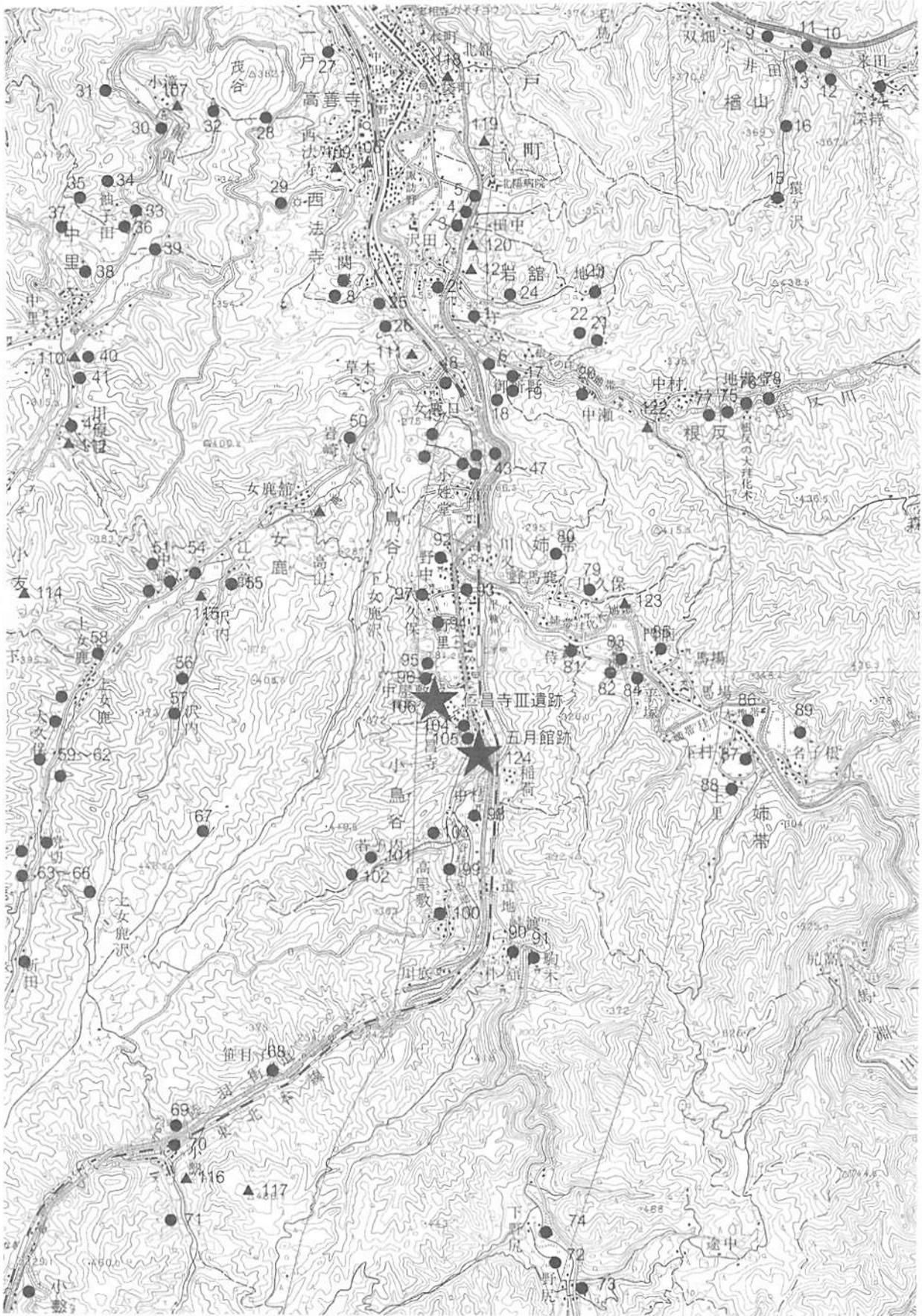
Ⅲ. 調査と整理の方法

1. 野外調査の方法

(1) 粗掘と遺構検出・遺構精査と遺物の取り上げ

① 五月館跡

調査は雑物撤去と刈払い作業から開始した。メインベルトを設定し遺跡の状況を把握し、表土除去・遺構検出・精査の順に進めた。表土は重機（ユンボ0.3t）を使い除去した。検出した遺構は、土坑については2分法を原則として精査を行った。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階において行った。平面実測は光波トランシットにより測量を行い1/100の平面図を作成した。土坑の図面は1/20とし断面図と平面図を作成した。遺物は出土量が少ないことから、光波トランシットにより個々に出土地点を平面図に入れ、層位を記し、番号を付して取り上げることを基本とした。遺構内出土の遺物についても可能な限り層位を明らかにした上で取り上げている。



第4図 周辺の遺跡分布図

表1 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺物等
1	御所野	散布地	岩館字御所野	縄文・平安	縄文土器(中期)、土師器、石鏃、磨製石斧
2	馬場平	集落跡	岩館字馬場平	縄文	縄文土器(中期)
3	田中Ⅲ	散布地	岩館字田中	縄文・平安	縄文土器(前・後期)
4	田中Ⅳ	散布地	岩館字田中	縄文・平安	縄文土器(中期)、土師器
5	田中Ⅴ	散布地	岩館字子守	縄文・平安	縄文土器(中期)、土師器
6	子守A	散布地	岩館字子守	縄文・平安	縄文土器(中期)、土師器
7	大平	集落跡	西法寺字大平	縄文・弥生・平安	縄文土器(中～後期)、弥生土器、土師器
8	大平Ⅱ	散布地	西法寺字大平	縄文・弥生・平安	縄文土器(前・中・後期)、弥生土器、土師器
9	小木田	集落跡	松山字了木田	縄文	縄文土器(後～晩期)
10	似平Ⅰ	集落跡	松山字似平	縄文	縄文土器(晩期)
11	似平Ⅱ	集落跡	松山字似平	縄文	縄文土器(前・中・晩期)
12	野馬Ⅰ	集落跡	松山字野馬	縄文・弥生	縄文土器(晩期)
13	野馬Ⅱ	集落跡	松山字野馬	縄文	縄文土器(中・晩期)
14	中野敷	集落跡	松山字中野敷	縄文・平安	縄文土器(後・晩期)、土師器
15	猿ヶ沢	散布地	松山字猿ヶ沢	縄文	縄文土器(後・晩期)
16	猿ヶ沢Ⅱ	散布地	松山字猿ヶ沢	縄文	縄文土器(晩期)
17	子守C	散布地	岩館字子守	縄文	縄文土器(中期)
18	漆畑	散布地	根反字漆畑	縄文・弥生	縄文土器(前・中期)、弥生土器
19	漆畑Ⅱ	散布地	根反字漆畑	縄文・平安	縄文土器(前・中・後期)、石鏃、土師器
20	中瀬	散布地	根反字中瀬	縄文	縄文土器(中期)
21	御所野	散布地	岩館字御所野	縄文・弥生・平安	縄文土器(中期)、弥生土器、土師器、磨石
22	御所野Ⅱ	散布地	岩館字御所野	縄文	縄文土器(中期)
23	上地切	散布地	岩館字上地切	縄文・奈良	縄文土器・土師器
24	下地切	散布地	岩館字下地切	縄文・弥生	縄文土器(中期)、弥生土器
25	関屋	散布地	西法寺字関屋	縄文・弥生・奈良	縄文土器(早・前・中期)、磨石、弥生土器、土師器
26	館越	散布地	西法寺字館越	縄文・弥生	縄文土器(中期)、弥生土器、石器
27	傘木	散布地	高善寺字傘木	縄文	縄文土器(後・晩期)、石鏃
28	茂谷	散布地	高善寺字茂谷	縄文・平安	縄文土器・土師器
29	西法寺Ⅱ	散布地	西法寺字西法寺	縄文	縄文土器
30	小滝	散布地	一戸字小滝	縄文	縄文土器(後期)
31	小滝Ⅱ	散布地	一戸字小滝	縄文・平安	縄文土器(後・晩期)、土師器
32	小滝Ⅲ	散布地	一戸字小滝	縄文	縄文土器(後期)
33	柚子田	散布地	中里字柚子田	縄文・平安	縄文土器(後・晩期)、土師器、須恵器、鉄滓
34	柚子田Ⅱ	散布地	中里字柚子田	縄文・弥生・平安	縄文土器(早・前期)、弥生土器、土師器
35	柚子田Ⅲ	散布地	中里字柚子田	縄文・平安	縄文土器(中期)、土師器
36	馬場野	散布地	中里字馬場野	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器、須恵器
37	馬場野Ⅱ	散布地	中里字馬場野	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器、須恵器
38	柚越	散布地	中里字柚越	縄文・弥生・平安	縄文土器(前・晩期)、弥生土器、土師器
39	小荒木	散布地	中里字荒木	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器
40	武道平Ⅱ	散布地	中里字武道平	縄文・弥生・平安	縄文土器(中・後期)、弥生土器、土師器
41	下川原Ⅰ	散布地	小友字下川原Ⅰ	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器、須恵器
42	下川原Ⅱ	散布地	小友字下川原Ⅱ	縄文・奈良・平安	縄文土器(前・中期)、土師器、石器
43	小姓堂Ⅰ	散布地	小鳥谷字小姓堂	縄文	縄文土器(晩期)
44	小姓堂Ⅱ	散布地	小鳥谷字小姓堂	縄文・古代	縄文土器(後・晩期)
45	小姓堂Ⅲ	散布地	小鳥谷字小姓堂	縄文	縄文土器(早・中・後期)
46	小姓堂Ⅳ	散布地	小鳥谷字小姓堂	縄文	縄文土器
47	小姓堂Ⅴ	散布地	小鳥谷字小姓堂	縄文	縄文土器
48	女鹿Ⅰ	散布地	小鳥谷字女鹿Ⅰ	縄文・弥生・平安	縄文土器(前・中・後期)、弥生土器
49	女鹿Ⅱ	散布地	小鳥谷字女鹿Ⅱ	縄文・平安	縄文土器(早・前・後期)、続縄文土器、土師器
50	岩崎	散布地	女鹿字岩崎	縄文・平安	縄文土器(中・後期)、土師器
51	中崎	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器、凹石
52	中崎Ⅱ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器
53	中崎Ⅲ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器
54	中崎Ⅳ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器(中・後期)、土師器
55	江六前	散布地	女鹿字江六前	縄文	縄文土器(前・後期)
56	沢内Ⅰ	散布地	女鹿字沢内Ⅰ	縄文	縄文土器(後期)
57	沢内Ⅱ	散布地	女鹿字沢内Ⅱ	縄文・弥生	縄文土器(後期)、弥生土器
58	上女鹿	散布地	女鹿字上女鹿	縄文・平安	縄文土器(後期)、土師器
59	大久保	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器(中・晩期)
60	大久保Ⅱ	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器(後期)
61	大久保Ⅲ	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器(後期)
62	大久保Ⅳ	散布地	女鹿字大久保	縄文・平安	縄文土器(後・晩期)、土師器
63	焼切Ⅰ	散布地	女鹿字焼切Ⅰ	縄文	縄文土器(中・晩期)
64	焼切Ⅱ	散布地	女鹿字焼切Ⅱ	縄文・弥生・平安	縄文土器、弥生土器、土師器

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺物等
65	焼切Ⅲ	散布地	女鹿字焼切	縄文	縄文土器(晩期)
66	焼切Ⅳ	散布地	女鹿字焼切	縄文	
67	女鹿沢内	散布地	女鹿沢内	縄文	縄文土器
68	下平	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器(晩期)
69	下平Ⅱ	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器(後・晩期)
70	下平Ⅲ	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器(後・晩期)
71	小繁尻	散布地	小繁字小繁	縄文	縄文土器(後・晩期)
72	野岡	散布地	平糲字田岡	縄文	土器
73	田岡	散布地	平糲字田岡	縄文	縄文土器、石棒、石斧
74	田岡Ⅱ	散布地	平糲字田岡	縄文	土器
75	中村	散布地	根反字中村	弥生	弥生土器
76	中村Ⅱ	散布地	根反字中村	縄文	縄文土器(中期)、磨製石斧
77	中村Ⅲ	散布地	根反字中村	縄文	縄文土器(前期)
78	中村Ⅳ	散布地	根反字中村	縄文・弥生・平安	縄文土器(後期)、弥生土器
79	野馬鹿	散布地	姉帯字野馬鹿	縄文・弥生・平安	縄文土器(前・後期)、弥生土器、土師器
80	野馬鹿Ⅱ	散布地	姉帯字野馬鹿	縄文・弥生・奈良・平安	縄文土器(前・中・晩期)、弥生土器、土師器
81	侍村	散布地	姉帯字侍村	縄文	縄文土器(後・晩期)、石製円盤
82	侍村Ⅱ	散布地	姉帯字侍村	縄文	縄文土器(中・後・晩期)、石製円盤、石錐
83	鬼湖	散布地	姉帯字鬼湖	縄文・弥生・平安	縄文土器(前・中・後・晩期)、弥生土器、土師器、須恵器
84	鬼湖Ⅱ	散布地	姉帯字鬼湖	縄文・弥生・平安	縄文土器、弥生土器、土師器
85	門前	散布地	姉帯字門前	縄文・弥生・奈良	縄文土器(前・中・後・晩期)、弥生土器、土師器
86	下村	散布地	姉帯字下村	縄文	縄文土器(晩期)、注口土器、磨製石棒、石斧
87	下村Ⅱ	散布地	姉帯字下村	縄文・弥生	縄文土器(前・中・後・晩期)、弥生土器、石錐
88	上里	散布地	姉帯字上里	縄文	縄文土器(後期)
89	月花	散布地	姉帯字月花	縄文・弥生・平安	縄文土器(後期)、弥生土器、土師器
90	朴館	散布地	小鳥谷字朴館	縄文	縄文土器(中・晩期)、石皿
91	駒木	散布地	小鳥谷字駒木	縄文・塚	縄文土器(後期)
92	野中	散布地	小鳥谷字野中	縄文	縄文土器(晩期)
93	野里	散布地	小鳥谷字野里	縄文	縄文土器(晩期)、注口土器、石斧、土偶
94	野里上	散布地	小鳥谷字野里上	縄文	縄文土器
95	野里上Ⅱ	散布地	小鳥谷字野里上	縄文	縄文土器
96	中屋敷上	散布地	小鳥谷字中屋敷上	縄文	縄文土器
97	穴久保	散布地	小鳥谷字穴久保	縄文	土器
98	中村	散布地	小鳥谷字中村	縄文	縄文土器
99	古屋敷	散布地	小鳥谷字古屋敷	縄文	縄文土器(中・晩期)、石鏃
100	高屋敷	散布地	小鳥谷字高屋敷	縄文	縄文土器(後・晩期)
101	若子内	散布地	小鳥谷字若子内	縄文	縄文土器(後・晩期)
102	若子内Ⅱ	散布地	小鳥谷字若子内	縄文	縄文土器(晩期)
103	若子内Ⅲ	散布地	小鳥谷字若子内	中世	堀、平場、切岸
104	仁昌寺	散布地	小鳥谷字仁昌寺	縄文	縄文土器(十腰内Ⅲ式)
105	仁昌寺Ⅱ	散布地	小鳥谷字仁昌寺	縄文	縄文土器(大木10式)
106	仁昌寺Ⅲ	散布地	小鳥谷字仁昌寺	縄文	縄文土器(晩期後葉)
107	小滝館	城館跡	一戸字樋ノ口	中世	堀切、平場、帯郭
108	西法寺館	城館跡	西法寺字桶荷	中世	堀、平場、帯郭
109	西法寺館Ⅲ	散布地	西法寺字西法寺	縄文・中世	縄文土器、石鏃、中世遺物
110	中里館	城館跡	中里字武道平	縄文・中世	堀、平場、陶器、縄文土器、土師器
111	老ヶ館	城館跡	西法寺字館越	弥生・中世	堅堀?、平場、腰郭
112	小友館	城館跡	小友字下川原目	中世	郭、平場
113	女鹿館	城館跡	女鹿字女鹿館	古代・中世	郭、平場、腰郭
114	半在家館	城館跡	小友字半在家	古代・中世	
115	女鹿沢内館	城館跡	女鹿字沢内	古代・中世	
116	新館林館Ⅱ	城館跡	小繁字新館林	中世	
117	新館林館	城館跡	小繁字新館林	中世	
118	一戸城跡	城館跡	一戸字北館	縄文・中世	掘、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、陶磁器、鉄製品、古銭、木製品、縄文土器(中・後期)、土師器
119	上野	集落跡	一戸字上野、字北館	縄文・弥生・古代・中世	縄文土器、弥生土器、土師器、石器
120	田中Ⅱ	散布地	岩館字田中	縄文・中世	縄文土器、弥生土器、土師器、石器
121	田中Ⅰ	散布地	岩館字田中	縄文・中世	縄文土器(早・前・中・晩期)、磨石、土師器
122	根反館	城館跡	根反字野崎向	中世	平場、単郭、堀、土塚
123	姉帯城	城館跡	姉帯字川久保	中世	堀、土塚、郭
124	五月館	城館跡	平糲字高間木	中世	堀切、平場

② 仁昌寺Ⅲ遺跡

遺跡の地形に応じてトレンチを入れ、遺跡の状況を把握した。表土除去は重機（ユンボ0.4t）を用いて行った。遺構検出・精査の順に進めた。検出した遺構は土坑は2分法、竪穴住居跡・竪穴住居状遺構・炉跡は4分法を原則として精査を行った。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階のおいて行った。竪穴住居跡・土坑類の図面は1/20、炉跡の図面は1/10を基本として断面図と平面図を作成した。平面実測は光波トランシットを用いて行った。遺構の命名については、特に略号を用いず、検出した順に1号土坑、1号竪穴住居跡とした。本報告書で使用した名称は野外調査時の名称を整理し改名したものである。遺物は遺構内出土遺物は遺構毎に、遺構外出土遺物はグリッド毎に層位を記して取り上げている。

(2) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ1台（モノクロ）と35mm判カメラ2台（モノクロ、カラー・リバーサル）を使用し、遺構・遺物の検出状況や出土状況を必要に応じて撮影している。仁昌寺Ⅲ遺跡ではデジタルカメラも使用した。他にポラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用している。撮影にあたっては、整理時の混乱を防止するために、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に撮影している。また五月館跡は平成13年度調査開始時と平成14年度調査終了時に、仁昌寺Ⅲ遺跡は14年度調査終了時にそれぞれ小型飛行機による空中写真の撮影を実施している。

(3) 広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、見学希望者に対しては随時対応した。また仁昌寺Ⅲ遺跡では平成14年9月27日（金）に現地公開を開催している。

2. 室内整理の方法

(1) 作業手順

室内整理は野外で洗浄できなかった遺物の水洗から開始し、グリッド・遺構ごとの仕分け、遺物の接合・復原、遺物の実測、計測、拓本、遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影、遺構・遺物図版、写真図版の順に作業を進めた。これらの作業と並行して原稿の執筆を進めるとともに、各種の鑑定・分析を行って、報告書に掲載している。

(2) 遺構

遺構図面は、原図を種別毎に分類し点検を行った上必要なものについては第二原図を作成してトレースを行った。撮影されたフィルムはネガアルバムに写真と一緒に収納した。カラスライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。

(3) 遺物

遺物は野外及びセンターで洗浄した後、全出土遺物を点検し、実測や拓本の必要なものを選択・登録して、接合・復原、注記を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じ実大もしくは縮尺して図化した。全体の遺物量が少ないことや小破片のものが多いため、実測・拓本の必要のないものは写真掲載のみにとどめている。

IV. 五 月 館 跡

所在地	二戸郡一戸町小烏谷字上里48ほか
委託者	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 国道4号小烏谷バイパス建設
遺跡台帳番号	JF40-0005
調査略号	STT-01/STT-02
調査面積	13年度 4,508㎡ 14年度 7,942㎡
調査期間	平成13年7月2日～10月26日 平成14年4月11日～6月28日
整理期間	平成13年11月1日～平成14年3月29日 平成14年12月2日～平成15年3月31日
調査担当者	13年度 飯坂一重・中村直美・北田 勲 14年度 飯坂一重・原 美津子
整理担当者	13年度 飯坂一重・北田 勲 14年度 飯坂一重
協力機関	一戸町教育委員会

1. 遺跡の立地

五月館跡は二戸郡一戸町小鳥谷字上里48ほかに所在する。いわて銀河鉄道一戸駅の南方約5.3kmに位置し、国道4号と町道（旧奥州街道）に挟まれた平糠川左岸の丘陵部に立地している。五月館の南側は平糠川の断崖を呈し、東側は数段の急斜面、北側もV字形の断崖、西側は狭い鞍部から山地へと続いている。調査区の標高は約188～234mである。遺跡の現況は大部分が山林及び原野であるが、東側下段は畑地である。調査区のうち北東向きの斜面は昭和50年代まではぶどう畑として利用されていた。本遺跡は町道を挟んで仁昌寺Ⅱ遺跡と隣接している。

2. グリッド設定

グリッドの設定にあたっては、日本測地系平面直角座標第X系を用いた。まず基準点1を座標原点として設定した。設定した座標原点は $X = 17,880.000$ $Y = 40,650.000$ である。

これを基準にして、座標軸を 45° 傾けてグリッドを設定した。この基準点を南隅とし、一辺が40mの大グリッドを設定した。さらに調査区全体をカバーできるように各方向にこの大グリッドを設定した。グリッド名は調査区の南端が入るグリッドを基に、南東から北西に向かってはアルファベットの大文字A～Hを、南西から北東に向かってはローマ数字のⅠ～Ⅳを付した。またこの大グリッドを10等分し 4×4 mに区画した小グリッドを設定し、南東から北西に向かってはアルファベットの小文字a～jを、南西から北東に向かっては算用数字の1～10を付した。グリッド名は大小のグリッドを組み合わせるⅡE1c・ⅢF1aというように呼称している。

各規準点の日本測地系座標（X・Y）、標高値（H）は次の通りである。

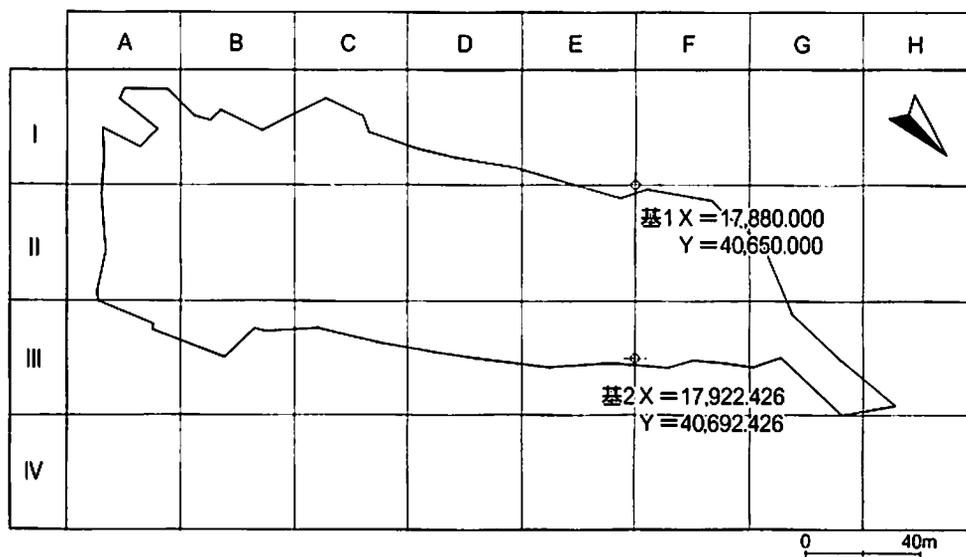
基準点1 $X = 17,880.000$ $Y = 40,650.000$ $H = 220.550$ m

基準点2 $X = 17,922.426$ $Y = 40,692.426$ $H = 203.268$ m

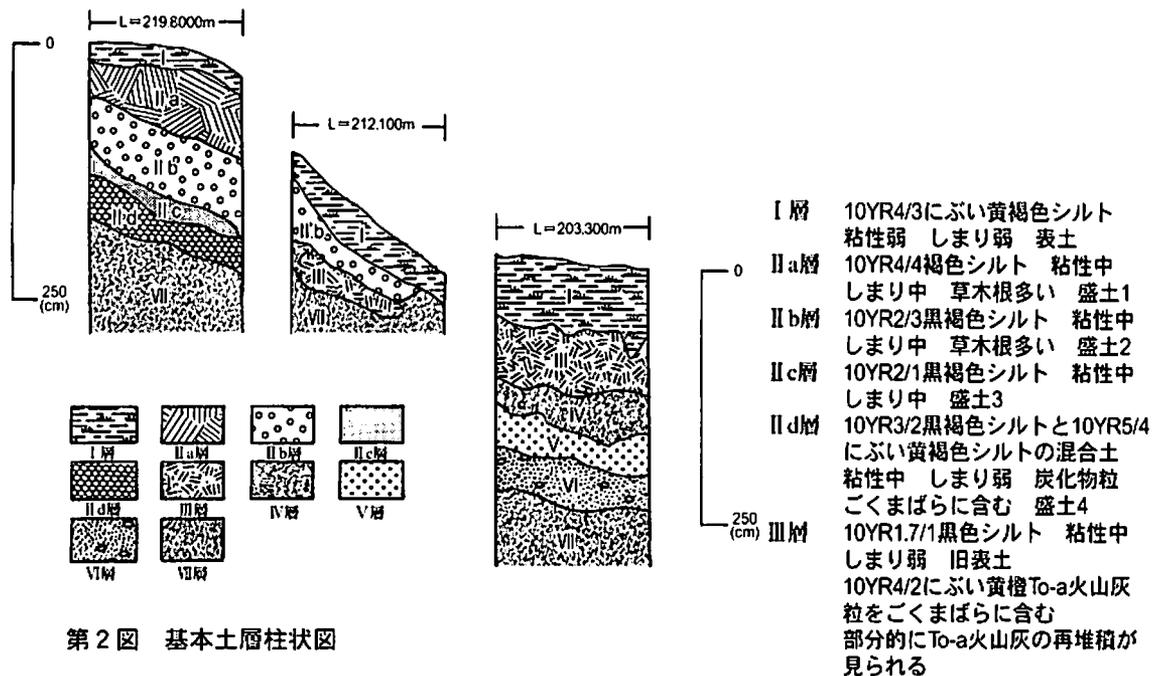
世界測地系座標（X・Y）は次の通りである。

基準点1 $X = 18,187.1771$ $Y = 40,350.9523$

基準点2 $X = 18,229.6018$ $Y = 40,393.3770$



第1図 グリッド配置図



第2図 基本土層柱状図

3. 基本土層

調査区は南北に約280m、東西に約90mの長さを持つが、東側最下段の畑地と南側の低地部分を除いては、旧ぶどう畑が大部分で南西から北東に向かっている数段の斜面地である。その斜面の調査区内の比高が約46mである。そこで斜面に沿った試掘トレンチから、上段部・中段部・下段部の3箇所を深掘りし、その土層断面を遺跡の基本土層とした。

IV 層 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり強
V 層 10YR3/1黒褐色シルト 粘性強 しまり強
VI 層 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘性強 しまり強 地山漸移層
VII 層 10YR7/8黄橙浮石を1%含む
10YR6/8明黄褐色火山灰 (八戸火山灰) 粘性強 しまり強 地山

4. 検出遺構と出土遺物

(1) 概要

五月館跡は、西岳の裾野付近に端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の北東方向に張り出す尾根に立地している。館は南東側が平糠川の断崖、北西側がV字形の断崖という自然地形を利用している。平地から主郭と想定される地点までの比高は65mを測る。ここには近年まで使用されていた小島谷浄水場があるが、現在は使用されておらず建物だけが残されている。尾根の後背となる、建物の南西側には2条の堀が確認されている。尾根の裾となる、建物の北東側へ向けては数段からなる斜面地となっている。地表観察では上段は緩やかな傾斜の広い平坦地が3段からなり、その下は狭い平坦地と比高の大きな急斜面が数段続き、さらにその下は標高200m付近で再び緩やかな平坦地となり平地へと続いている。今回の調査区は、この斜面の中～下段の急斜面から平地に続く緩やかな平坦地までが対象となった。発掘調査の結果、曲輪状の平坦地7箇所、切岸状の急斜面5箇所を確認した。この平坦地や急斜面には重機等の痕跡が見られたり、番線が至るところから見つかるなどしている。また上層から推測してもこれらの地形は、現代の畑の造成の際の盛り土による平坦地、急斜面であると思われる。また縄文時代の土坑が検出され、縄文土器が出土していることから、五月館跡は縄文時代と中・近世の遺跡から成る複合遺跡であることが明らかになった。

(2) 曲輪状平坦地・切岸状急斜面

曲輪状平坦地を階段状に7箇所、切岸状急斜面を5箇所確認した。曲輪状平坦地は調査区北側の南北に伸びる尾根の西側に2箇所、東側には5箇所確認しその上段調査区外にもさらに数段確認されている。

1号曲輪状平坦地 (第3・4図)

<位置> 調査区ⅡF2c～ⅡF7fグリッド、標高217.6～220.0mに位置する。

<規模> 規模は長軸14.5m、短軸12.8m、面積112㎡で方形を呈する。

2号曲輪状平坦地 (第3・4図)

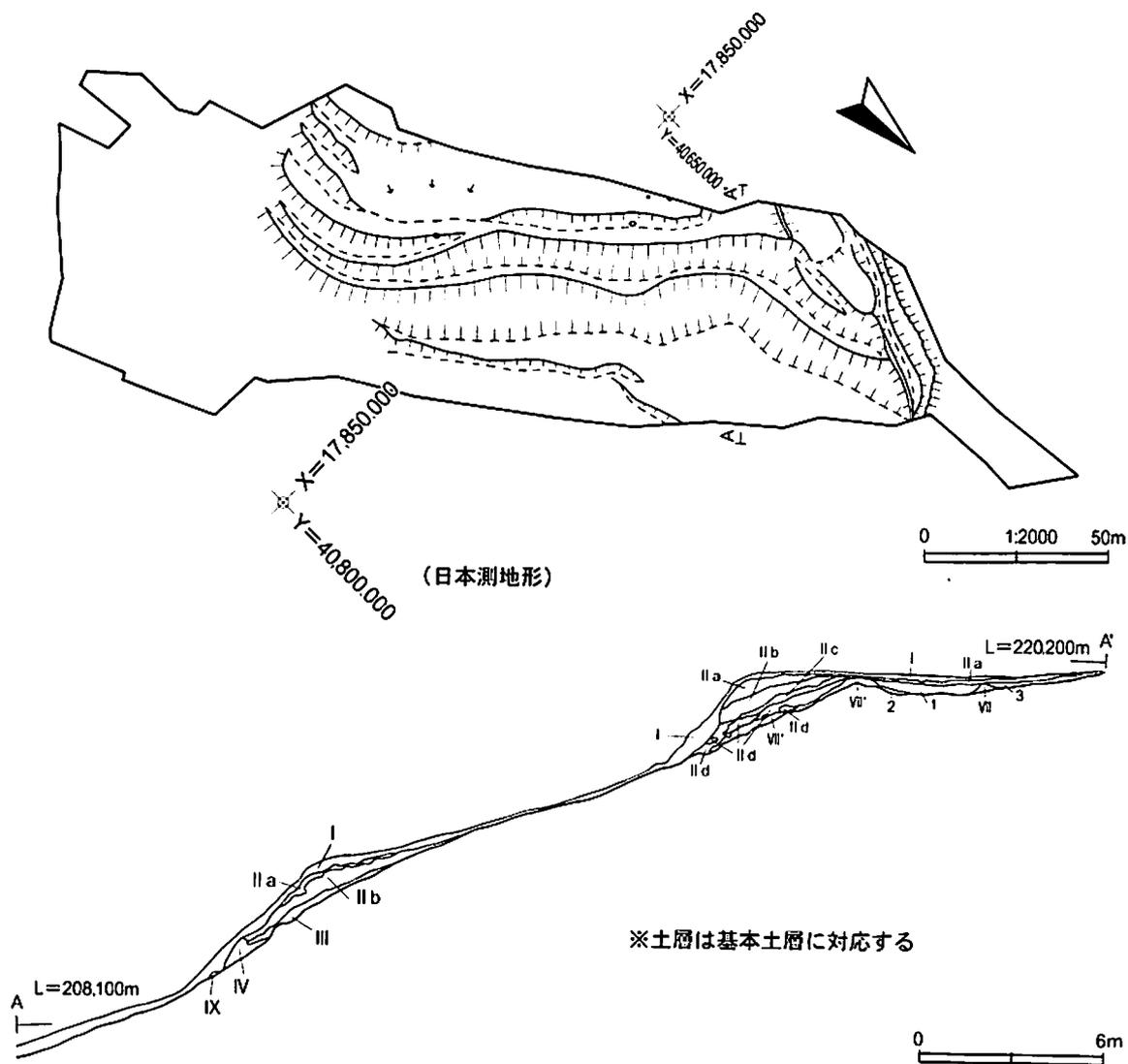
<位置> 調査区ⅡF6f～ⅡF9hグリッド、標高215.0m～217.6mに位置する。

<規模> 規模は長軸17.0m、短軸8.0m、面積100㎡で槍先形を呈する。

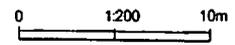
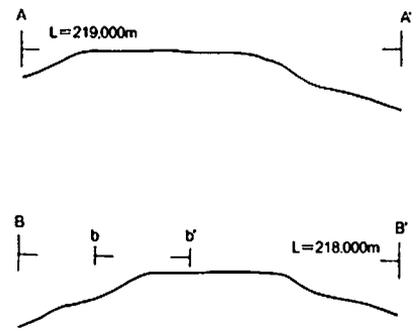
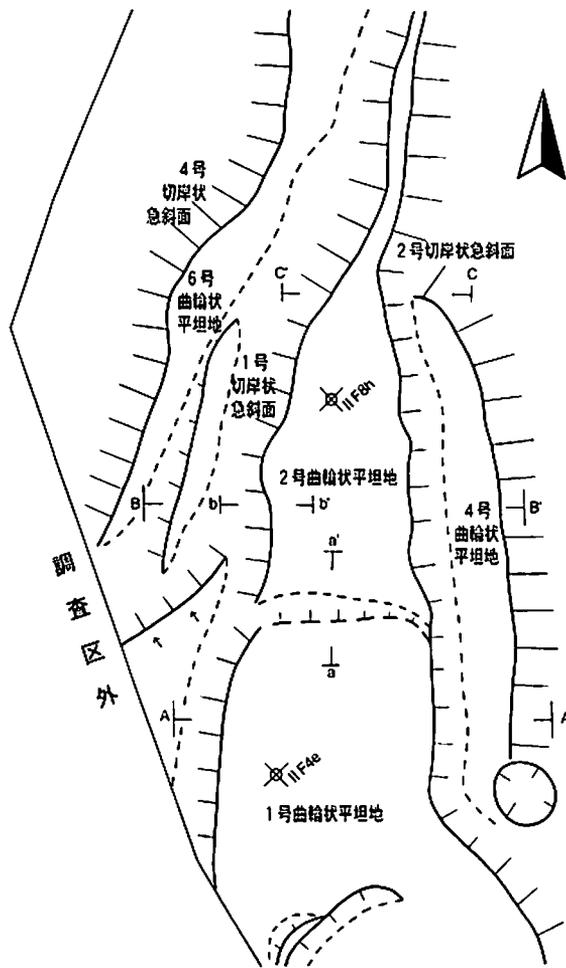
3号曲輪状平坦地 (第3・5図)

<位置> 調査区ⅡD2b～ⅡF4bグリッド、標高222.0m～223.4mに位置する。

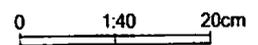
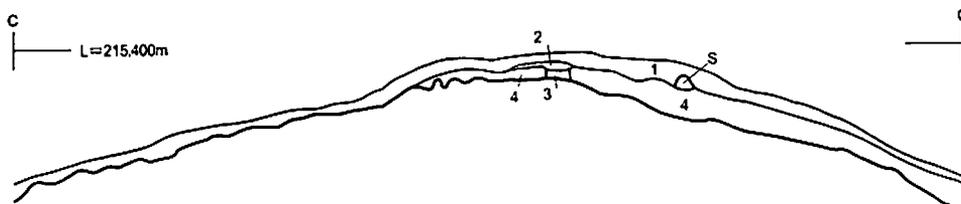
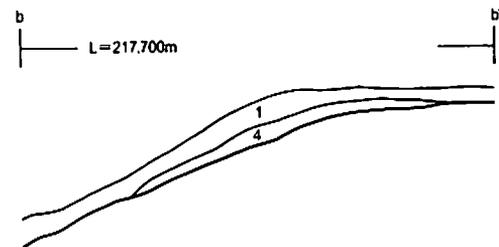
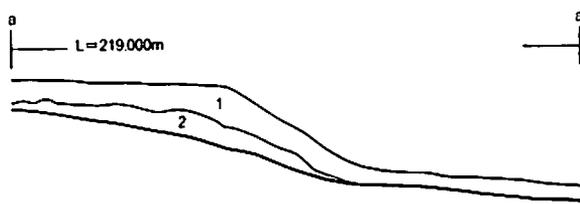
<規模> 規模は長軸41.5m、短軸16.5m、面積388㎡で帯状を呈する。



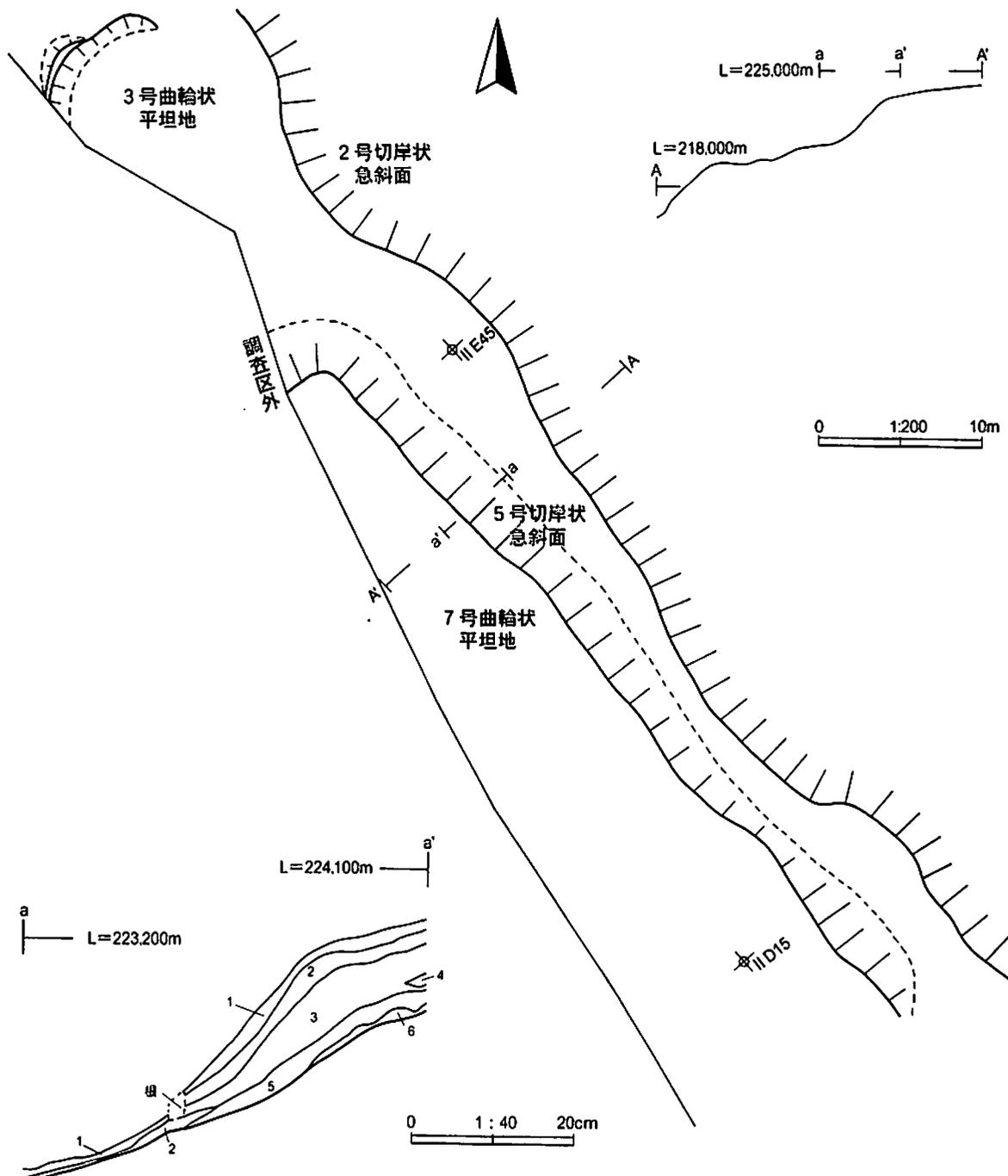
第3図 遺構配置図



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり弱 表土・耕作土
- 2 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまり中 草木根 多い 盛土
- 3 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまり中 草木 根多い 盛土
- 4 10YR1.7/1黒色シルト 粘性中 しまり弱 旧表土 10YR7/4鈍い黄橙粒 (To-a火山灰) をごくまばらに 含む 部分的だがTo-a火山灰の再堆積が認められる



第4図 曲輪状平坦地・切岸状急斜面 (1)



- 1 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや弱 草木根多量 やや砂質
- 2 10YR2/3黒褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 粘性弱 しまりやや弱 草木根多量 やや砂質
- 3 10YR2/2シルト 粘性弱 しまり弱 草木根多量 畑地造成時盛土 総じてしまりがなく段のへりに近づくほど粗くなる この層まで草木根が張りめぐっている 新しい造成の跡と思われるが、土質はほぼ均一で混入する異質土も少ない
- 4 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂が20%所々層状に混在 上段は5層で検出をかけたが所々に砂の溜まりが見られた
- 5 10YR2/1シルト 粘性やや強 しまり中 10YR5/6黄褐色砂質シルトTo-cuブロック状に混在 上段のみに見られ、縄文の検出面である プライマリー層と思われる 断面には現れていないが、検出時To-a火山灰が点在
- 6 10YR5/6黄褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強 10YR6/8明黄褐色To-cu粒3%混入

第5図 曲輪状平坦地・切岸状急斜面 (2)

4号曲輪状平坦地（第3・4図）

<位置>調査区ⅡF4b～ⅡF10gグリッド、標高214.5m～217.5mに位置する。

<規模>規模は長軸28.5m、短軸3.0m、面積59㎡で帯状を呈する。

5号曲輪状平坦地（第3図）

<位置>調査区ⅡF5a～ⅢF1hグリッド、標高210.3m～212.4mに位置する。

<規模>規模は長軸35.4m、短軸2.6m、面積150㎡で帯状を呈する。

6号曲輪状平坦地（第3・4図）

<位置>調査区ⅡF4h～ⅢG3bグリッド、標高208.4m～213.4mに位置する。

<規模>規模は長軸42.4m、短軸1.2～5.0m、面積99㎡で帯状を呈する。

7号曲輪状平坦地（第3・5図）

<位置>調査区ⅡD1c～ⅡE1gグリッド、標高223.5m～225.8mに位置する。

<規模>規模は長軸28.5m、短軸16.5m、面積533㎡で帯状を呈する。

1号切岸状急斜面（第3・4図）

<位置>調査区ⅡF2d～ⅢG6bグリッド、標高207.6m～219.5mに位置する。

<規模>1号曲輪状平坦地・2号曲輪状平坦地と6号曲輪状平坦地の間にあり、この間の比高差は約12mを測る。南側は調査区外の山林に続いている。

2号切岸状急斜面（第3・4・5図）

<位置>調査区ⅡF9h～ⅡD1bグリッド、標高219.8m～214.5mに位置する。

<規模>1・2・3号曲輪上平坦地と5号曲輪状平坦地の間にある。3号曲輪状平坦地の下では南東から北西方向に、1・2号曲輪状平坦地の下にきて南から北に向かっている。

3号切岸状急斜面（第3図）

<位置>調査区ⅡF6a～ⅢG3cグリッド、標高209.8m～206.7mに位置する。

<規模>5号曲輪状平坦地の下にあり、この斜面の下は畑地・宅地に連なっていく。

4号切岸状急斜面（第3・4図）

<位置>調査区ⅡF4i～ⅢG3bグリッド、標高211.2m～200.2mに位置する。

<規模>6号曲輪状平坦地の下にあり、調査区外及び町道に続く。

5号切岸状急斜面（第3・5図）

<位置>調査区ⅡE1g～ⅡD8aグリッド、標高220.1m～224.0mに位置する。

<規模>7号曲輪状平坦地と3号曲輪状平坦地の間にある。2号切岸状急斜面の南側に並行している。

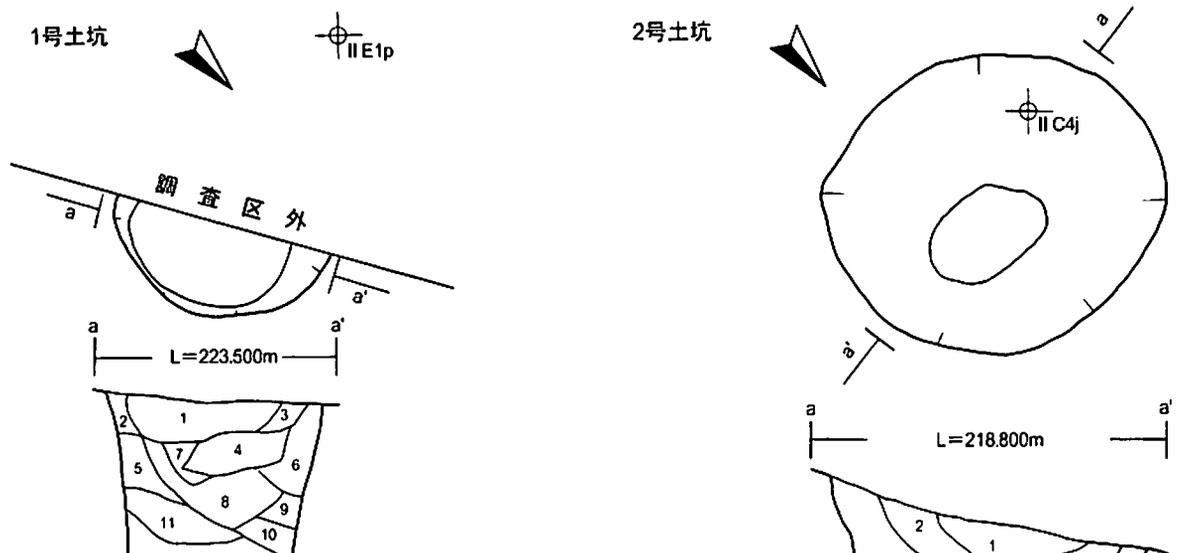
(3) 土坑

土坑4基を登録した。3基は西側上段部調査区境付近から検出されている。重複関係はなく、それぞれ独立している。他の1基は調査区中央部から検出されている。

1号土坑（第6図、写真図版6）

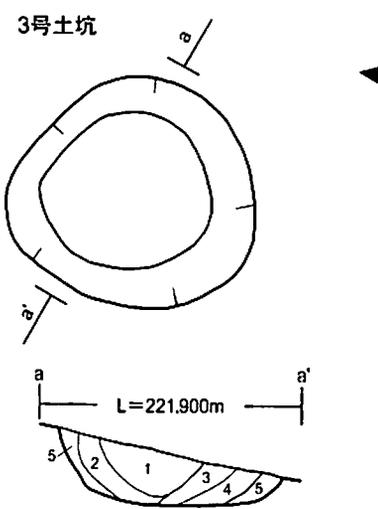
<位置>ⅡE1eグリッド、標高223.3mに位置する。調査区境から検出された。

<形状・規模> 調査区外に延びているため全体的な規模や平面形は不明である。検出された部分の規模は、開口部径110cm、底部径86cm、深さ92cmを測る。平面形は円形と推測される。

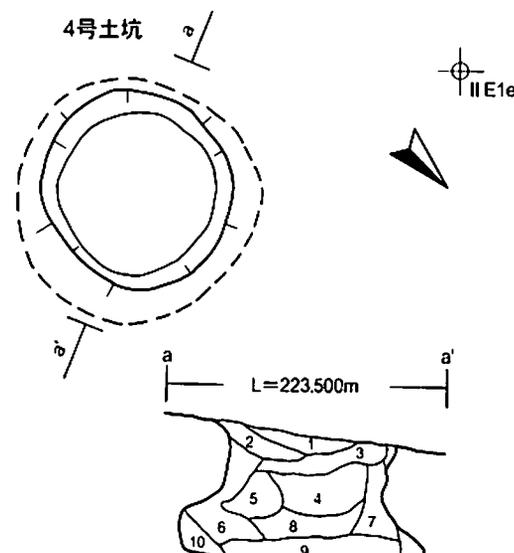


- 1号土坑**
- 1 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中しまり中 10YR5/6黄褐色シルト10%含む
10YR7/6明黄褐色To-cu粒2%混合 草木根含む
 - 2 10YR6/8明黄褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 10YR2/2黒褐色シルト
10%含む
 - 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性中しまり中 10YR4/4褐色シルト10%含む
 - 4 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトと10YR2/2黒褐色
シルトの混合土。粘性やや強 しまりやや強
 - 5 10YR5/8黄褐色粘土質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまり中
 - 6 10YR4/4褐色粘土質シルトと10YR6/8明黄褐色粘土質シルトの混合土
粘性やや強 しまり中
 - 7 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 炭化物粒1%混入
 - 8 10YR3/3暗褐色粘土質シルトに10YR4/6褐色シルト5%含む
 - 9 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中
 - 10 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
10YR6/6明黄褐色粘土質シルト5%含む
 - 11 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 砂粒3%含む
 - 12 10YR3/4暗褐色粘土 粘性強 しまり強

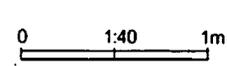
- 2号土坑**
- 1 10YR1.7/1黒色土シルト 粘性弱 しまり弱
草木根含む
 - 2 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり中
 - 3 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中しまり中
径5mm以上の礫微量含む



- 3号土坑**
- 1 10YR2/1黒色シルト 粘性中しまり中 10YR6/6明黄褐色To-cu2%混入
 - 2 10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混
合土 粘性弱 しまり弱
 - 3 10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性弱 しまり中
10YR6/8明黄褐色シルト粒20%以下混入
 - 4 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 10YR6/8明黄褐色To-cu2%
混入
 - 5 10YR5/8黄褐色粘土質シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまり中



- 4号土坑**
- 1 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中しまり中 炭化物粒3%含む
 - 2 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中しまりやや強 10YR6/8明黄褐色To-cu粒1%含む
 - 3 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色粘土質シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
炭化物粒1%含む
 - 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土
粘性やや強 しまりやや強
 - 5 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 10YR5/8黄褐色粘土質シルト5%含む
小礫3%含む
 - 6 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 10YR5/8黄褐色粘土質シルト5%含む
 - 7 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 10YR5/8黄褐色シルト粒3%含む
 - 8 10YR2/3黒褐色粘土質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 9 10YR3/4暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 10YR5/8黄褐色シルト粒5%含む 炭化物3%含む
 - 10 10YR5/8黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中
 - 11 10YR3/4暗褐色粘土質シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱



第6図 土坑

〈埋土〉 黄褐色シルトを主体とする12層に細分される。人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 遺物は出土していない。

〈時期〉 縄文時代と考えられる。

2号土坑（第6図、写真図版6）

〈位置〉 II C 3 i グリッド、標高218.2～218.6mに位置する。V層下で検出された。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形は楕形である。開口部径180×158cm、深さ60cmを測る。

〈埋土〉 しまりの異なる黒色シルトと黒褐色シルトの3層で構成される。

〈出土遺物〉 遺物は出土していない。

〈時期〉 不明である。

3号土坑（第6図、写真図版6）

〈位置〉 II E 1 c グリッド、標高221.8mに位置する。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形は皿形である。開口部径120×134cm、底部径84×90cm、深さ36cmを測る。

〈埋土〉 黒色シルトを主体に5層で構成される。人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉 遺物は出土していない。

〈時期〉 縄文時代と考えられる。

4号土坑（第6図、写真図版6）

〈位置〉 II E 1 d グリッド、標高223.2mに位置する。

〈形状・規模〉 平面形は円形、断面形はフラスコ形である。開口部径106×102cm、底部径134×124cm、深さ75cmを測る。

〈埋土〉 黒褐色シルトを主体とする11層に細分される。

〈出土遺物〉 埋土1～2層から縄文時代晩期の土器2点（掲載番号1、2）出土している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

(4) 遺物

今回の調査で出土した遺物は土器約1箱、石器・石製品2点、鉄製品19点、銭貨2枚、陶磁器約1箱である。これらのうち遺構内遺物は4号土坑から出土した縄文土器2点だけで、他は全て遺構外遺物である。土器や陶磁器のほとんどは破片である。

① 土器（第7・8図、写真図版9）

土器は小コンテナで約1箱出土している。東側最下段畑地や南側低地を含む広い範囲から出土している。その中でも多く出土しているのは西側上段部II E・II Fグリッドである。時期は縄文時代中期～晩期、弥生時代である。主体となるものは縄文時代晩期である。

② 石器・石製品（第9図、写真図版10）

石器・石製品は各1点ずつ出土している。

③ 鉄製品（第9図、写真図版10）

鉄製品は、なべ、刀、刀子、鎌、火箸、鉄片など19点が出土し、6点を掲載した。東側畑地、南側低地部分を除く調査区中・上段部の表土及びI・II層上位から出土している。

④ 錢貨（第9図、写真図版10）

錢貨は2枚出土している。至大通寶（34）、寛永通寶（35）である。

⑤ 陶磁器（写真図版11）

陶磁器は小コンテナで約1箱分出土している。遺物の出土地点は調査区のほぼ全域にわたっているが、ほとんどが表土及びI層からの出土である。いずれも国産であり、製作年代は18～19世紀である。遺物は全て破片もしくは小破片であり、完形のものは出土していない。

a 肥前産磁器

碗が7点（38・42・43・44・45・60・61）のほか、急須（46）、徳利（47）、そば猪口（59）が各1点が出土している。碗のうち38には底裏銘が、43には内面に銘款が施されている。碗以外では徳利に網目文が施されている。製作年代は46・60が19世紀で、他は全て18世紀である。

b 東北産陶器

甕（37）、碗（40）、壺（50）、すり鉢（51）が出土している。51以外は表土付近からの出土である。製作年代は4点とも19世紀である。

c 東北産磁器

瓶（36）、急須（41）、碗（48・62）、紅皿（49）、皿（55・56・57・58）、壺（63）、鉢（64）、上瓶（65）、が出土している。55～58の4点は釉調や胎土から同一個体と思われる。製作年代は62・64が18世紀で、他は全て19世紀である。

d その他の陶磁器

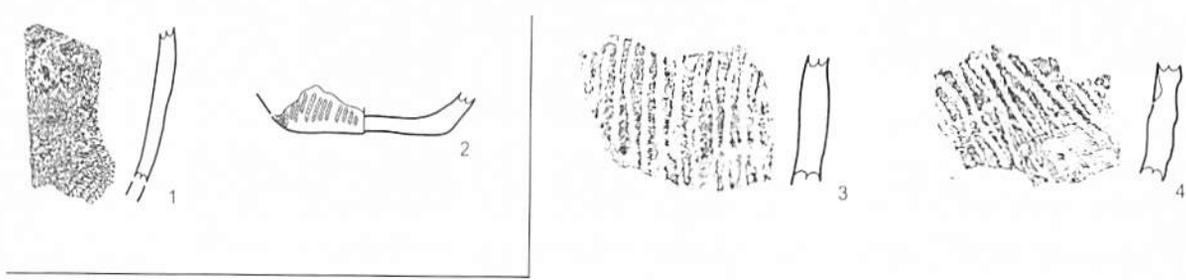
鉢（39）、人形（52）、行平のなべ（53）、掛花入（54）の4点が出土している。39は美濃産の黄瀬戸系で灰釉が施されている。19世紀の作である。54は茶道具である。

5. まとめ

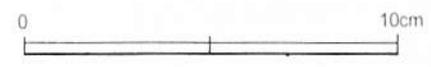
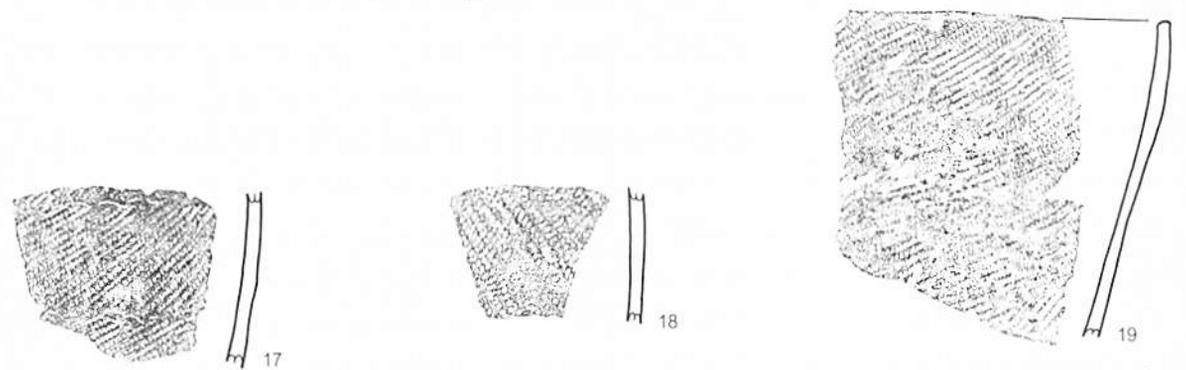
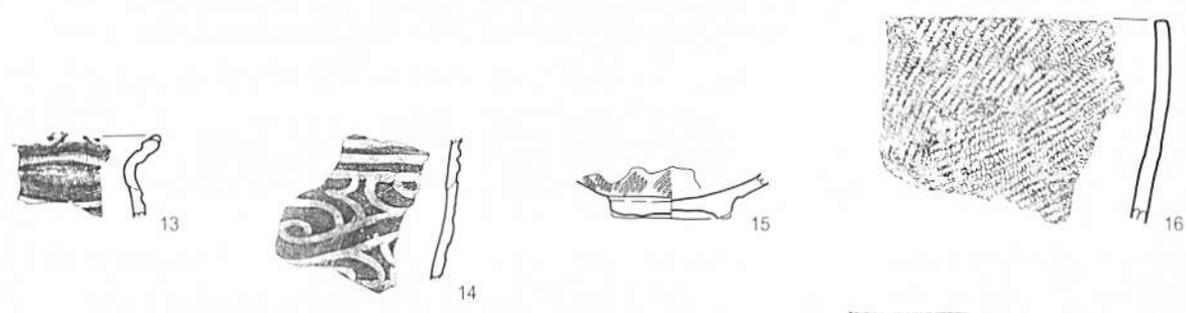
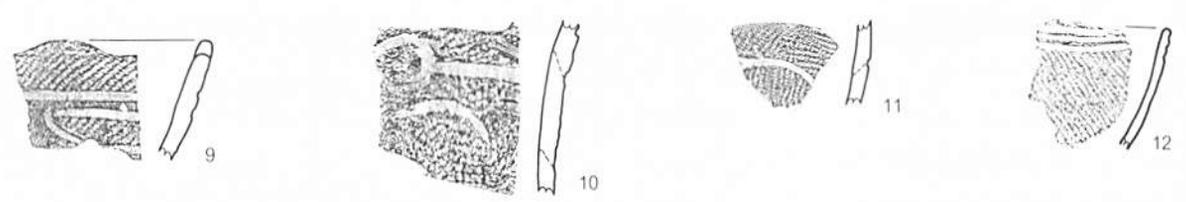
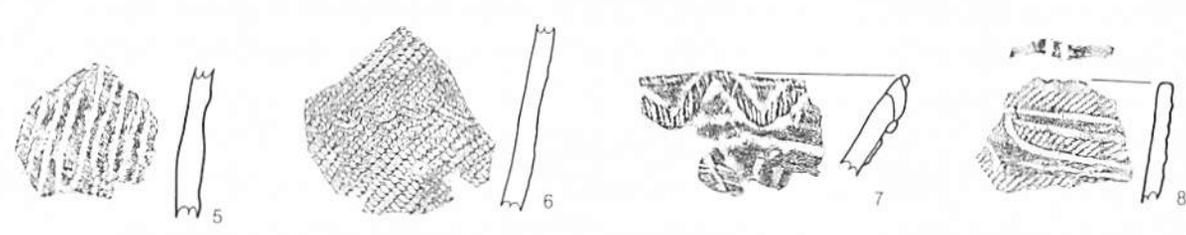
五月館跡で検出された遺構は土坑4基であり、出土した遺物の量も少ない。それぞれについて考察を加えるとともに、本遺跡は中世の館跡であることから、そのことについても言及し、まとめとする。

(1) 五月館の縄張りと館

五月館跡は西岳の裾野付近から端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の北東方向に張り出す尾根に立地している。主郭と想定される地点には、近年まで使用されていた小鳥谷浄水場の建物が残っている。平地からの比高は65m、平糠川からの比高は75mを測り、西南方に続く山地を背に南～東～北方向に広がる街道筋や平野部を一望することができる。ここから北東側に向かって数段の斜面地になっており、今回の調査区はこの斜面中～下段で、標高は188～234mである。調査の結果、普請・作事の跡が見られず、土層や出土遺物から畑造成による斜面と思われる。ぶどう畑造成前の旧地形は、館の下部に広がるなだらかな斜面地であったものと推定される。このなだらかな斜面には平田地状の箇所がいくつか見られたが、その形状は一様ではなく、この平坦地状地形も自然地形の一部であると考えられる。これに対し主郭があったと推定される付近は、平糠川に臨む断崖に続く南側、尾根の南西側には東南東から西北西に向かって2条の堀が構築されているのが確認され、北西側は狭い鞍部から山地に続いている。調査区外であったため館の性格等詳しいことはわからなかったが、館としての範囲は主郭と想定される最上段とその周辺のみであり、今回の調査区は館の外側の斜面地であったものと推定される。五月館は『二戸志』によると延暦・弘仁期の遠田公五月に由来す



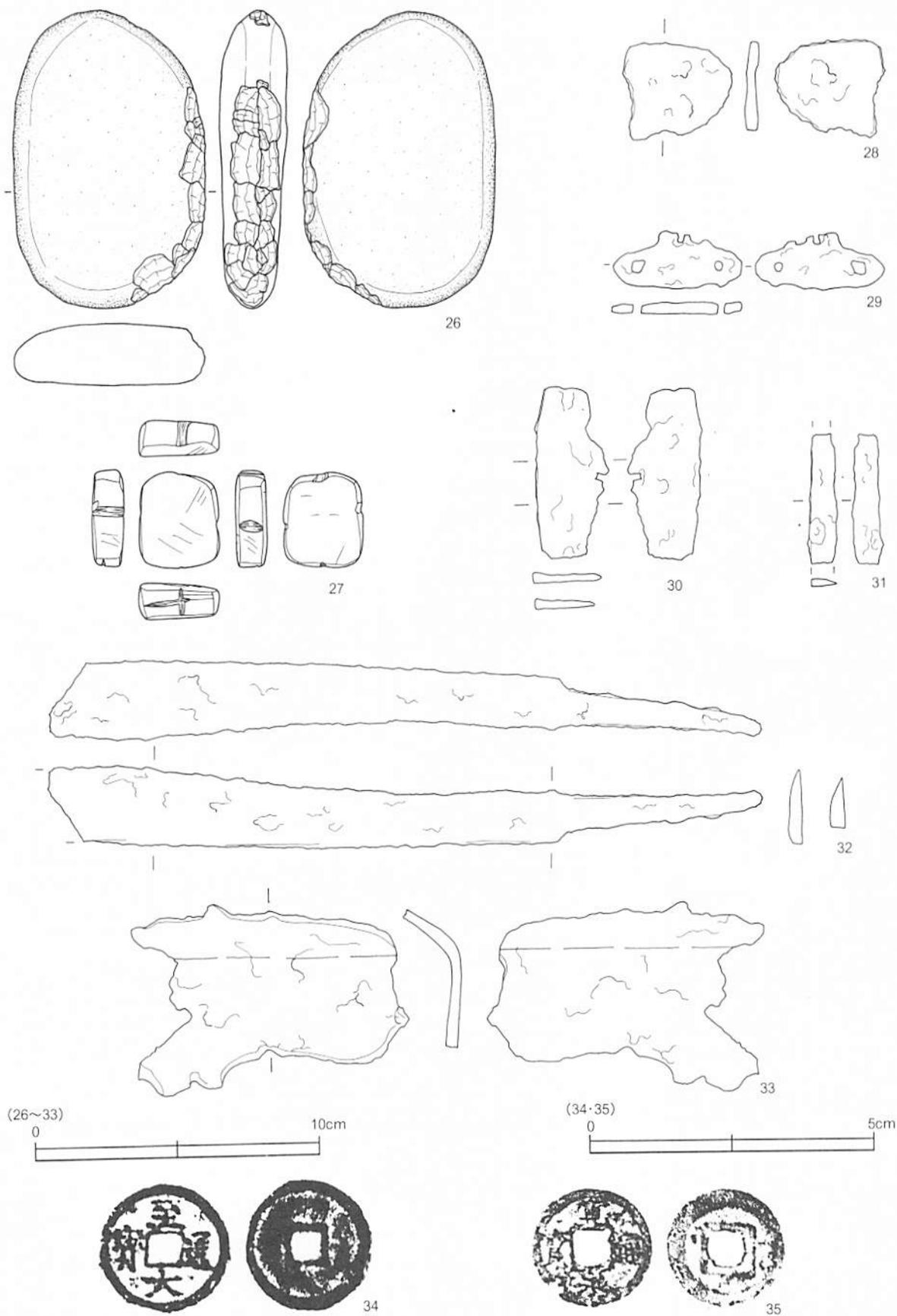
4号土坑



第7图 4号土坑·遺構外出土遺物(土器1)



第8図 遺構外出土遺物（土器2）



第9図 遺構外出土遺物(石器・石製品・鉄製品・錢貨)

第1表 遺物観察表

掲載番号	器種	出土地点			部位	時期	文 様 等
		グリッド	層位	遺構名			
1	深鉢	ⅡE1d	埋土1~	4号土坑	胴?	晩期	L/R縹?
2	深鉢	ⅡE1d	埋土1~	4号土坑	底	晩期	L/R縹、ミガキ顯著
3	深鉢	ⅡF10i	表土		胴	前期	(L/R)縹系文
4	深鉢	ⅡF10i	表土		胴	前期	(L/R)縹系文
5	深鉢	ⅡF6f	I層下位		胴	前期	(L/R)縹系文
6	深鉢	ⅡE1a	IV層		胴	前期	L/R縹、結節回転文
7	深鉢	ⅡE2d	IV層		口縁	中期	口縁部細粘土紐貼り付けにより肥厚、細粘土紐に沿う刺突文
8	深鉢	ⅢF5f	Ⅲ層上位		口縁	後期	L/R縹、沈線、口唇部棒状工具によりM字形に成形
9	深鉢	ⅡE1d	IV層		胴	後期	L/R縹、沈線、口唇部に小波状の突起
10	深鉢	I・ⅡD?	排土内		胴	後期	L/R縹、粗い沈線
11	深鉢	ⅡD1h	Ⅲ層下位		胴	後期	L/R多方向、沈線、赤色塗彩
12	深鉢	ⅢF1j	I層下位		口縁	晩期	R/L縹、口唇部棒状工具による圧痕、口縁部3条の平行沈線
13	造形土器	ⅡE1c	Ⅲ層		口縁	晩期	口唇部に二個一対の突起、ミガキ顯著
14	造形土器	ⅡE1c	V層		胴	晩期	沈線により羊歯状文wの構成、ミガキ顯著
15	深鉢	ⅡC2j	表土		底	後~晩期	L/R縹
16	深鉢	ⅡF5h	I層中位		口縁	後~晩期	L/R縹
17	深鉢	ⅢF5f	Ⅲ層上位		胴	後~晩期	L/R縹
18	深鉢	ⅢF5a	Ⅲ層中位		胴	後~晩期	R/L縹
19	深鉢	ⅡF5h	I層中位		口縁~胴	後~晩期	L/R縹
20	深鉢	ⅢF5a	Ⅲ層中位		胴~底	後~晩期	L/R多方向
21	深鉢	ⅡA3g	IV層		胴~底	後~晩期	L/R縹
22	深鉢	ⅡF5h	表土下		口縁~胴	弥生	R/L縹、口唇部棒状工具の交互刺突による小波状文が2条走る、胎土金銀母
23	深鉢	ⅡF5h	表土下		底	弥生	R/L縹、22と同一個体
24	深鉢	I C7c	Ⅱ層		胴	弥生	L/R/R/L羽状縹文
25	土師器	ⅡF5e	表土		胴		内外面共ナテ調整

石器・石製品

掲載番号	器種	出土地点		重さ (g)	石質	産地
		グリッド	層位			
26	磨石	I D9g	Ⅱ層	948.2	ひん岩	北上山地
27	石製品	ⅡD1g	Ⅲ層	13.5	凝灰岩	奥羽山脈

鉄製品

掲載番号	器種	出土地点		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
		グリッド	層位				
28	なべ	ⅡF5f	表土	3.8	3.4	0.4	17.94
29	不明	ⅡF4d	I層下位	4.5	1.9	0.4	7.95
30	不明	ⅡF5b	I層下位	6.0	2.5	0.2	13.43
31	刀子	ⅡF4a	Ⅱa層中	4.5	1.0	0.2	3.41
32	刀	ⅢF2f	Ⅱ層上位	24.9	2.6	0.4	109.17
33	なべ	ⅢE1b	I層下位	7.9	6.4	0.4	114.55

銭貨

掲載番号	種類	出土地点		厚さ (cm)	重さ (g)
		グリッド	層位		
34	至大通貨	ⅡE3i	IV層	0.1	2.60
35	寛大通貨	ⅡF5a	Ⅱa層下	0.1	1.88

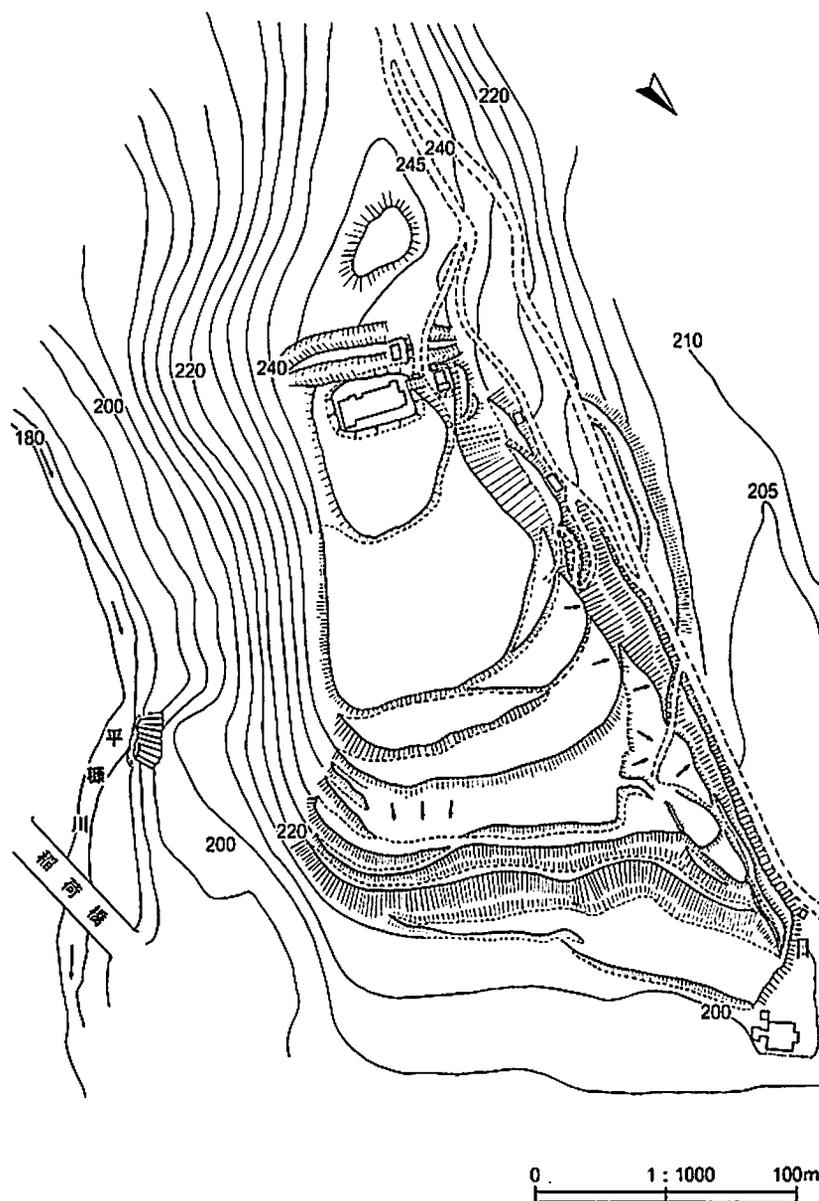
陶磁器

掲載番号	器種	出土地点		胎土	製作地	製作年代	文 様 等
		グリッド	層位				
36	瓶	I C10h	表土	灰白色	東北	19C	胴部小破片
37	甕	I D7b	表土	淡黄色	東北	19C	底部破片
38	碗	ⅡD2i	Ⅲ層	灰白色	肥前	18C中	口縁~底部、底裏銘
39	鉢	ⅡD4c	不明	淡黄色	美濃	19C	口縁~胴部、灰釉、黄瀬戸系
40	碗	ⅡE3j	表土	灰白色	東北	19C	白磁体
41	急須	ⅡE9i	I層下位	淡黄色	東北	19C	口縁部片
42	碗	ⅡF8d	表土	白色	肥前	18C中	底~胴部片
43	碗	ⅡF7f	I層下位	灰白色	肥前	18C後	底部、内面に銘款
44	碗	ⅡF5c	Ⅱa層下	灰白色	肥前	18C中	口縁~底部
45	碗	ⅡF5c	Ⅱa層下	灰白色	肥前	18C中	底部
46	急須	ⅡF7e	I層下位	灰白色	肥前	18C中	染付痕
47	徳利	ⅡF3a	Ⅱ層中位	白色	肥前	18C後	細日文
48	碗	ⅡF6d	I層中位	淡黄色	東北	19C	胴部小破片
49	紅皿	ⅡD10d	I層下位	白色	東北	19C	口縁~底部
50	つぼ	ⅡF2b	表土	灰白色	東北	19C	内面にも釉薬
51	すり鉢	ⅡF7e	I層下位	淡黄色	東北	19C	口縁部小破片
52	人形	ⅡF3g	表土	灰白色	不明	不明	型合わせ
53	なべ	ⅡF3b	Ⅱb層下	淡黄色	不明	不明	行平のなべ
54	插花入	ⅡF6c	Ⅱa層下	淡黄色	不明	不明	茶道具
55	皿	ⅡF10h	表土	灰白色	東北	19C	口縁部片、56・57・58と同一個体
56	皿	ⅡF10i	表土	灰白色	東北	19C	口縁部片、55・57・58と同一個体
57	皿	ⅢD3g	表土	灰白色	東北	19C	底部片、55・56・58と同一個体
58	皿	ⅡF10h	I層下位	灰白色	東北	19C	底部片、55・56・57と同一個体
59	そば猪口	ⅢF4i	I層下位	灰白色	肥前	18C初	底部片、蛇の目凹形高台
60	碗	ⅡD2c	表土	白色	肥前	19C	口縁部小破片
61	碗	ⅢD1g	I層下位	灰白色	肥前	18C	口縁部小破片
62	碗	ⅢF1a	表土	淡黄色	東北	18C	口縁部、胴部小破片
63	つぼ	ⅢF2d	I層下位	淡黄色	東北	19C	胴部、外面のみ施釉
64	鉢	ⅡG10a	I層下位	淡黄色	東北	18C	釉薬が変色
65	土瓶	不明	表土	淡黄色	東北	19C	

るといわれ、遠田公五月が坂上田村麻呂の征討軍に協力し、その軍事拠点として利用されたと伝えられている。また、天正年間に小島谷摂津が居城した小島谷館が五月館ともされているが、同時期の「九戸の戦い」において周辺の姉帯城や根反館が軍記物や盛岡藩史に記述されているのに対し、五月館についての文書による資料はない。

(2) 縄文時代

土坑を4基検出した。1号・3号・4号土坑の3基はⅡEグリッド、北西側上段部調査区境付近から検出されている。この3基の形状は、断面形に相違はあるものの、平面形は円形であり、また埋土の状況から同じ時期のものと思われる。遺物は4号土坑から縄文時代晩期の土器片2点が出土している。3基の土坑が検出された付近から標高223~224mほどの緩やかな平坦地が南西側調査区外に向けて広がっている。この平坦部の辺部から土坑がまとめて検出されたことから調査区外にも遺構が存在する可能性がある。調査が進むことで今回検出された土坑の位置付けが明らかになるものと思われる。



第10図 五月館縄張想定図

写 真 图 版



写真図版1 空中写真



遺跡全景（東から）



遺跡近景（東から）



調査区現況



雑物撤去



刈払い

写真図版 2 調査区近景・現況



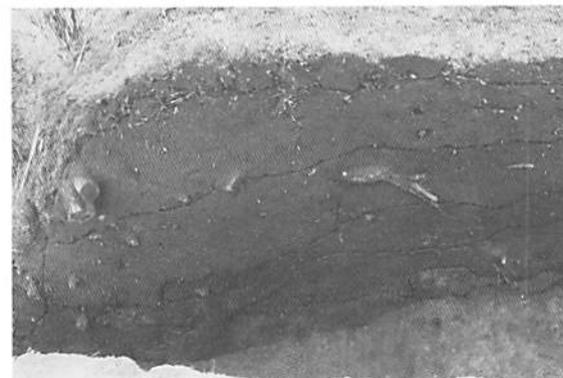
調査区外堀跡



調査区外堀跡



基本土層①



基本土層②



基本土層②



基本土層②



曲輪状平坦地断面

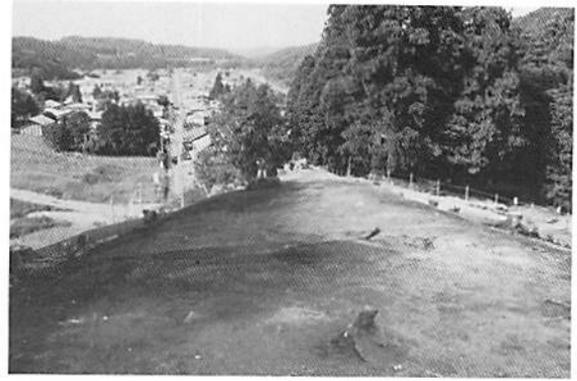


曲輪状平坦地断面

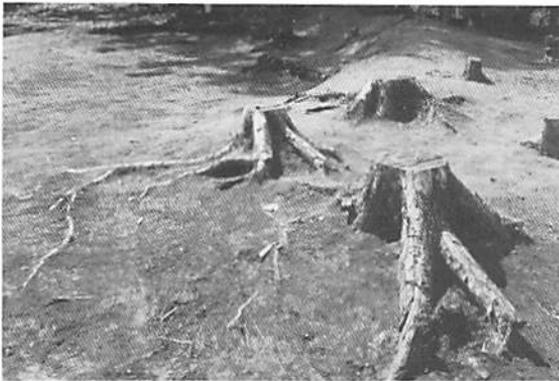
写真図版 3 基本土層・曲輪状平坦地



北東側完掘（南から）



北西側完掘（南から）



北東側完掘（北から）



北西側完掘（北から）



西側完掘（北から）



西側完掘（北から）



北東側完掘（北東から）

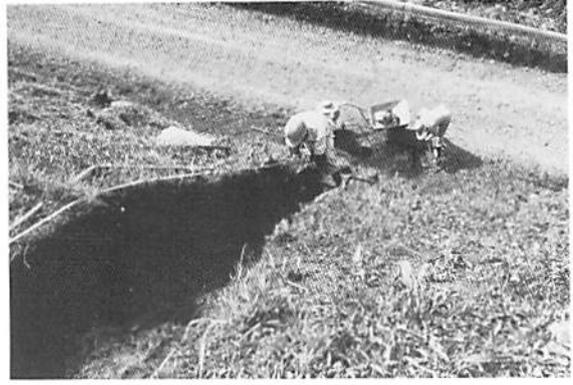


北側尾根完掘（北東から）

写真図版4 曲輪状平坦地



西側急斜面近景



西側急斜面作業風景



西側急斜面断面実測



西側急斜面断面



東側畑地作業風景



東側畑地土層

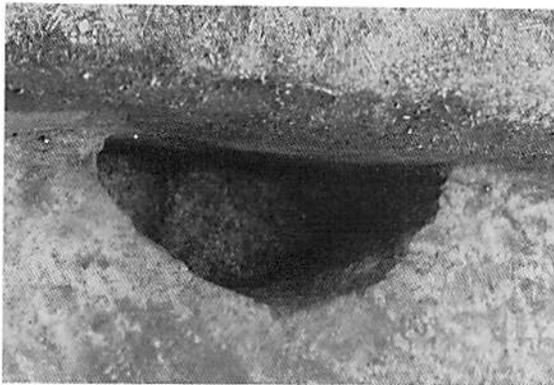


東側畑地トレンチ

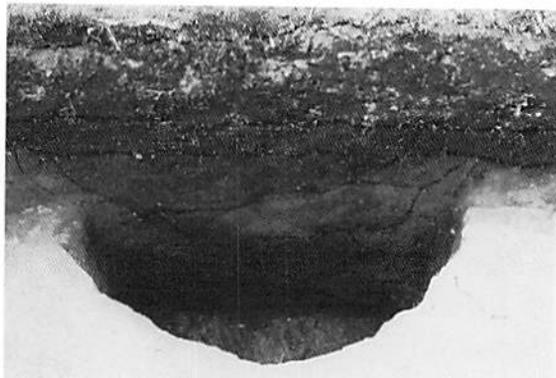


東側畑地トレンチ

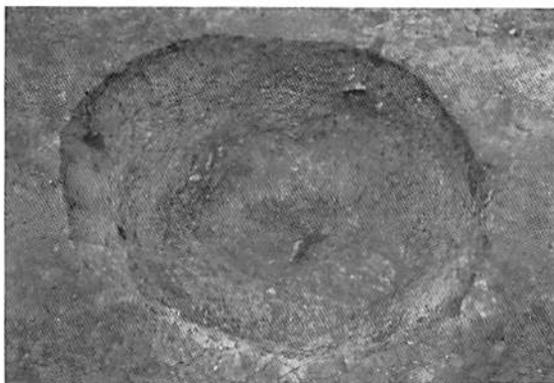
写真図版 5 西側近景・東側畑地



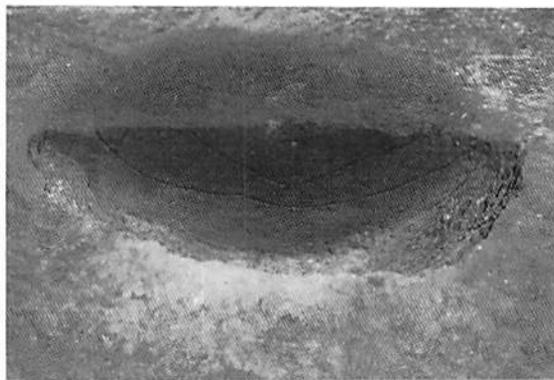
1号土坑平面



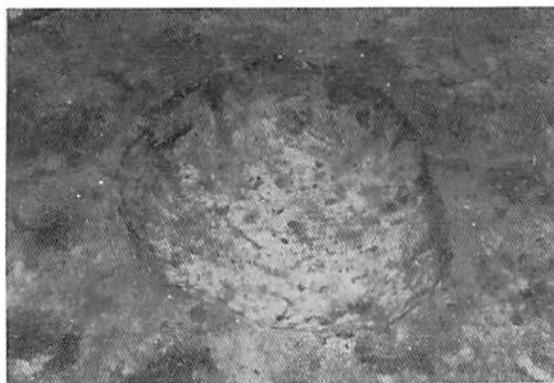
1号土坑断面



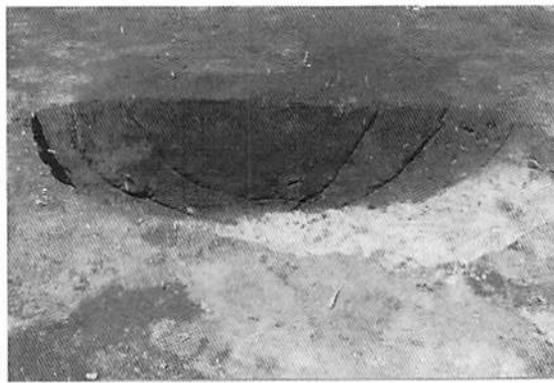
2号土坑平面



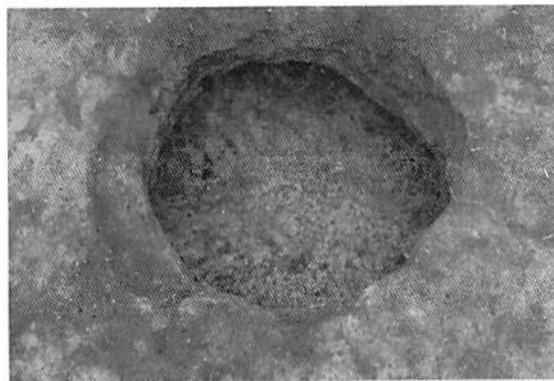
2号土坑断面



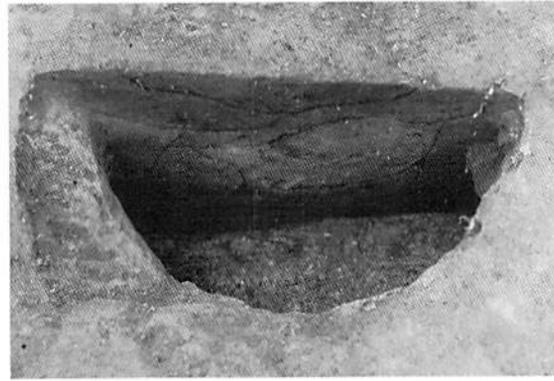
3号土坑平面



3号土坑断面



4号土坑平面



4号土坑断面

写真图版 6 1·2·3·4号土坑



遺跡近景（南から）



南側完掘（西から）



南側完掘（北西から）



南側完掘（北から）



最上段部完掘（南から）



西側完掘（南東から）

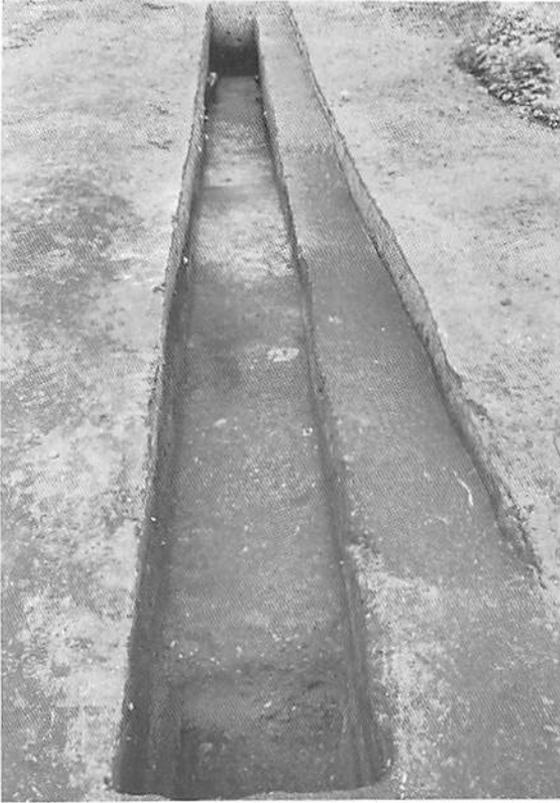


中央部完掘（南から）



完掘空中写真（南から）

写真図版7 曲輪状平坦地



南側低地トレンチ



南側低地空中写真

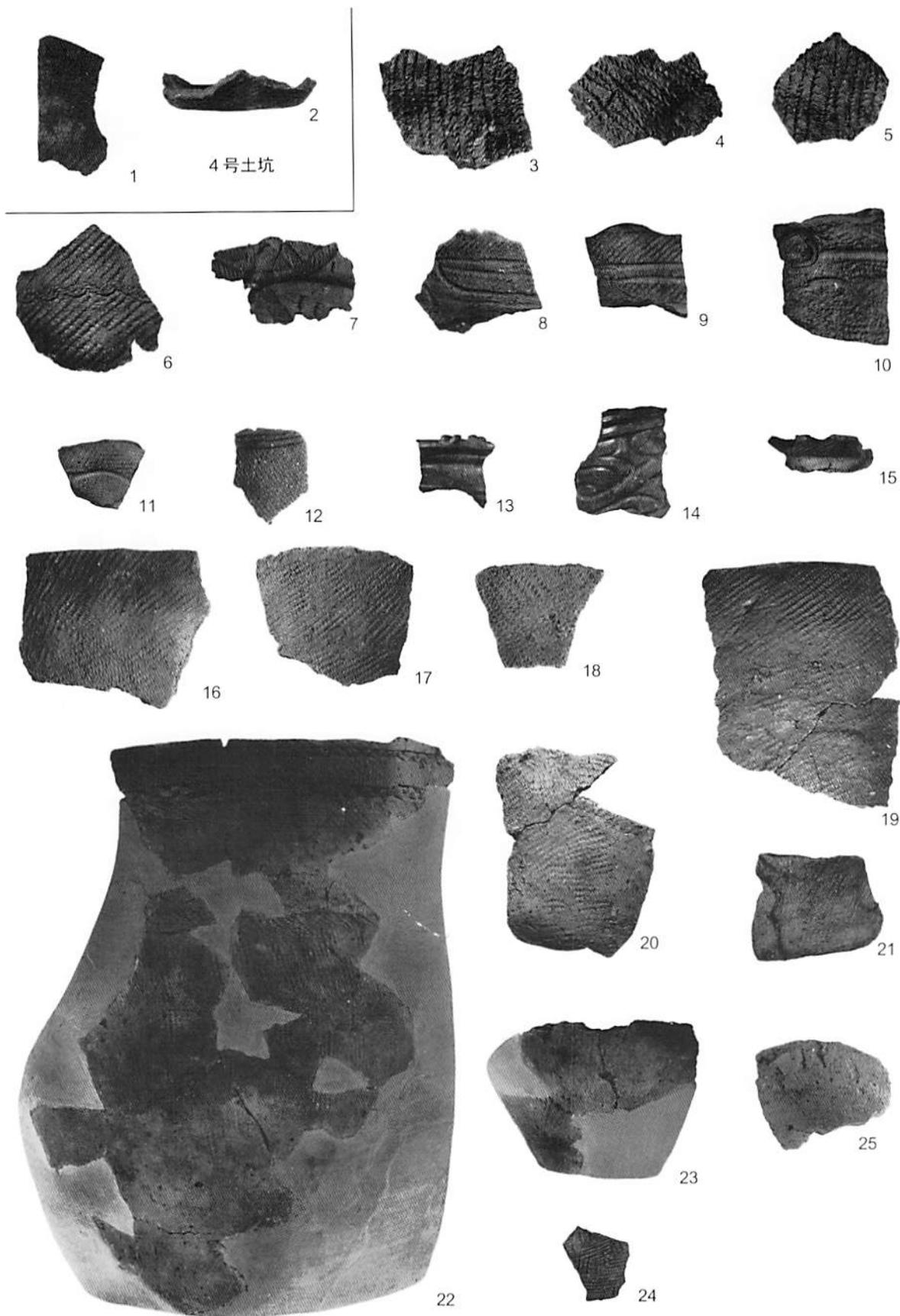


南側低地土層

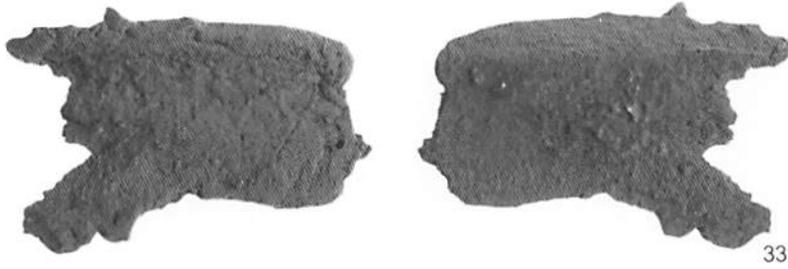
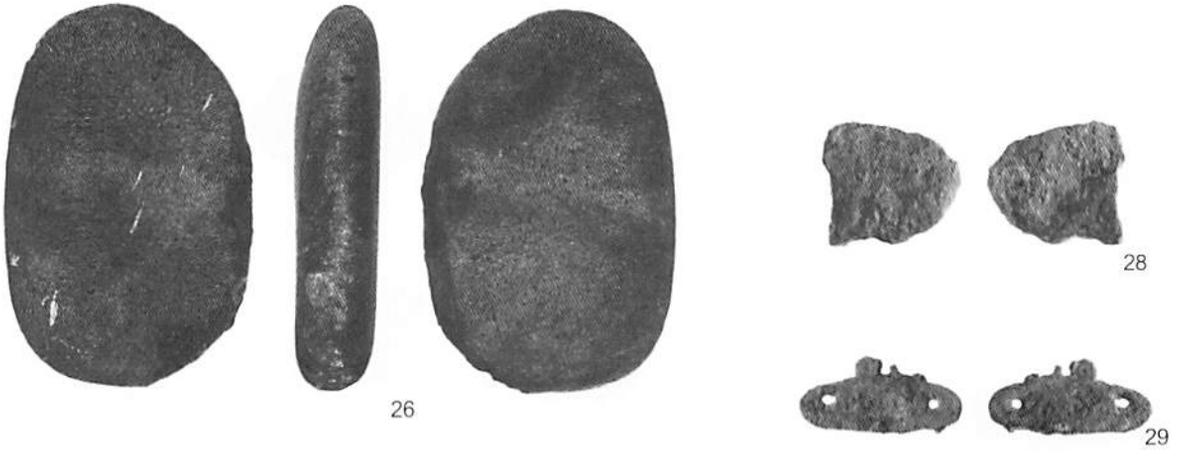


空中写真（東から）

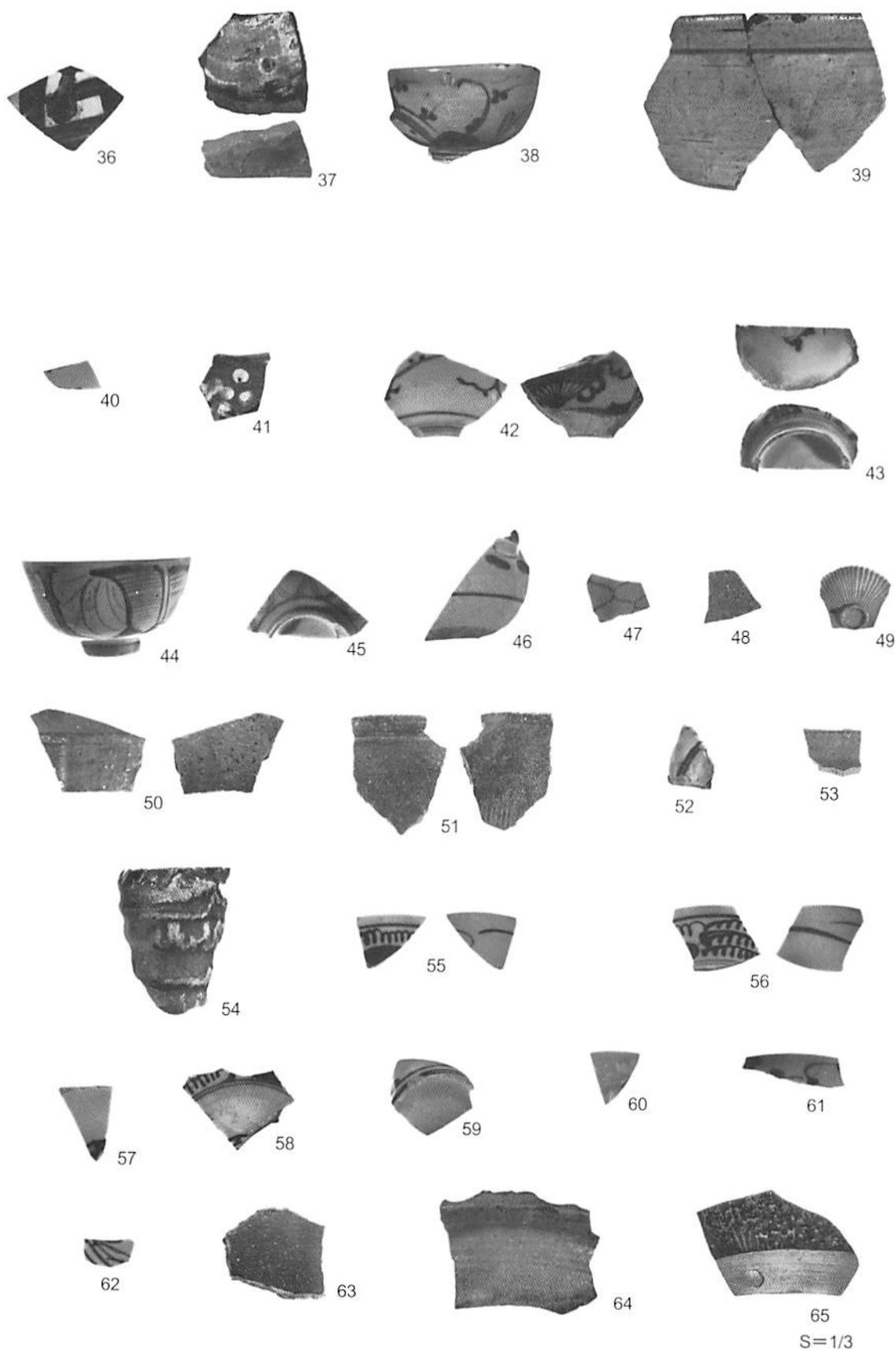
写真図版8 南側低地・空中写真



写真图版9 4号土坑·遺構外出土遺物（土器）



写真図版10 遺構外出土遺物（石器・石製品・鉄製品・銭貨）



写真図版11 遺構外出土遺物 (陶磁器)

報告書抄録

ふりがな	さつきたてあととほくつちょうさほうこくしょ							
書名	五月館跡発掘調査報告書							
副書名	国道4号小烏谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第424集							
編著者名	飯坂一重							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 Tel 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦2004年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
五月館跡	岩手県二戸郡 一戸町小烏谷 字上里46ほか	03524	JF40- 0005	40度 09分 36秒	141度 18分 38秒	2001.07.02 ～ 2001.10.26 2002.04.11 ～ 2002.06.28	4,508㎡ 7,942㎡	国道4号小烏 谷バイパス建 設に伴う緊急 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
五月館跡	散布地	縄文	上坑4基		土器 石器・石製品			
	城館跡	近世			鉄製品 銭貨 陶磁器			

緯度と経度は世界測地系

V. 仁昌寺Ⅲ遺跡

所在地	二戸郡一戸町小鳥谷字仁昌寺66-10ほか
委託者	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 国道4号小鳥谷バイパス建設
遺跡台帳番号	JF30-2061
調査略号	NSJⅢ-02
調査面積	6,250㎡
調査期間	平成14年6月20日～10月4日
整理期間	平成14年11月1日～平成15年3月31日
調査担当者	原 美津子・飯坂一重
整理担当者	原 美津子
協力機関	一戸町教育委員会

1. 遺跡の立地

仁昌寺Ⅲ遺跡は I G R いわて銀河鉄道（旧 J R 東北本線）一戸駅の南方約4.9kmに位置し、馬淵川の支流・平糠川によって形成された砂礫段丘の背後の東向き緩斜面に立地している。標高は約211～222mで、平糠川との比高は約36mである。調査区の現況は畑地・果樹園である。本遺跡の北には沢を隔てて中屋敷上遺跡が、南東に向かっては仁昌寺遺跡、仁昌寺Ⅱ遺跡、五月館跡の順に隣接している。

2. グリッド設定

仁昌寺Ⅲ遺跡のグリッド設定は、基準点測量を委託し、日本測地系を利用してグリッドの配置を行った。調査区内に基準点1、基準点2を設けこれを基準線とした。そしてこの基準線を延長し、40×40mのメッシュで全調査区を区画した。このメッシュの南西端を基準として南-北方向には南からA、B、C、Dのアルファベットを、西-東方向には西からⅠ、Ⅱ、Ⅲの番号を付し、大区画としてⅠA区、ⅡB区、・・・と表示した。さらにこの大区画を10等分して、4×4mの小区画として、南から北へa～j、西から東へ1～10を付し、その組み合わせによりⅠA2b、ⅡB5jのように呼称した。

基準点の日本測地系座標（X・Y）、標高値（H）は次のとおりである。

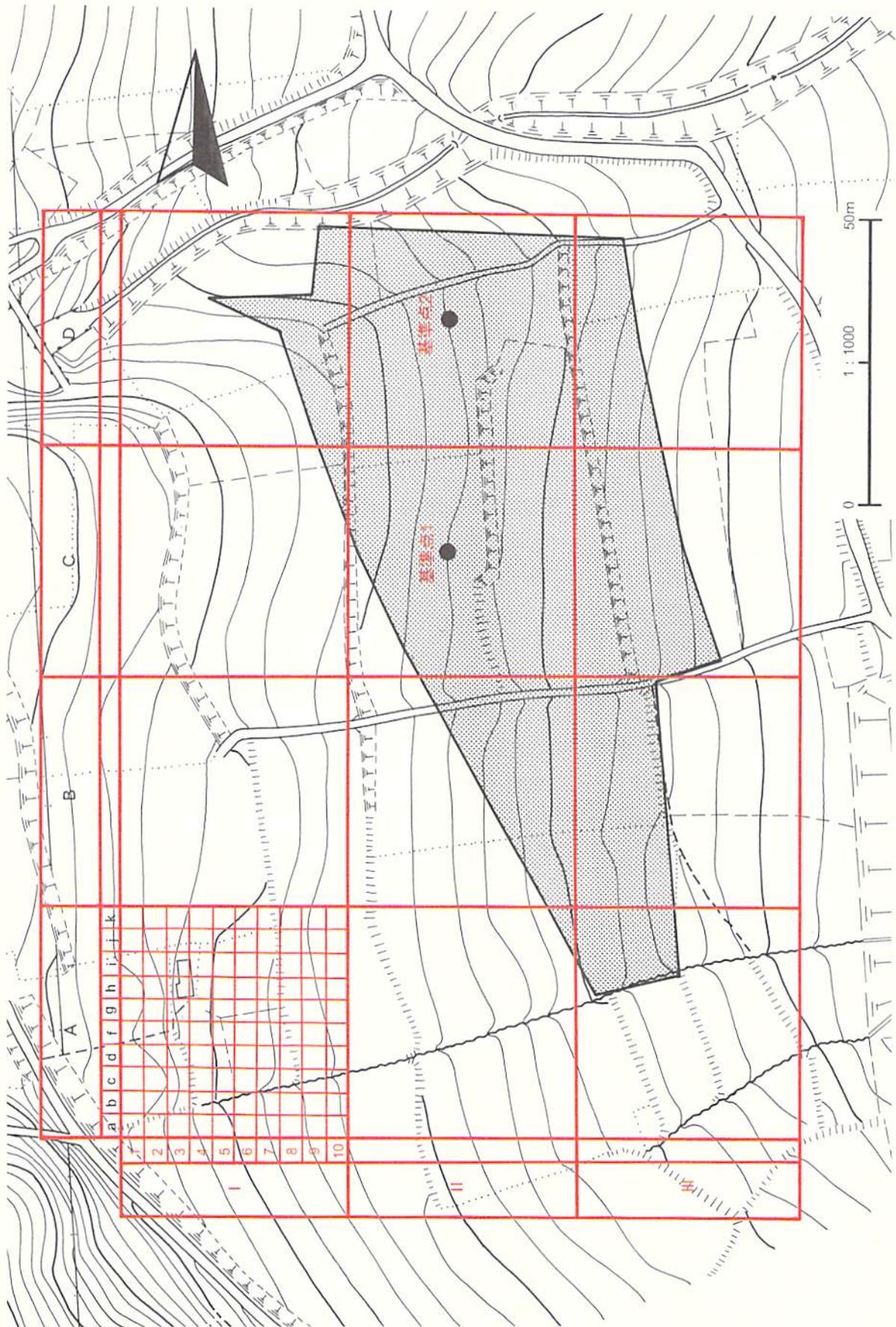
基準点1	X = 18,320.000	Y = 40,260.000	H = 218.422m
基準点2	X = 18,360.000	Y = 40,260.000	H = 218.546m

世界測地系座標（X・Y）は次のとおりである。

基準点1	X = 18,627.1778	Y = 39,960.9864
基準点2	X = 18,667.1772	Y = 39,960.9874

本稿遺構平面図のグリッドポイントは上記のグリッドの南西端（X = 18,220.000、Y = 40,200.000）を基点として北方向へは「N～」、東方向へは「E～」(単位m)と表記している。

遺構名は、調査時には種別ごと・検出順に1号竪穴住居跡、1号土坑というように名称を付していたが、調査の結果不登録となったもの、種別が変わったものが出てきたので、整理時には変更されている。収納した遺構・遺物記録媒体へはそれぞれ旧遺構名と新遺構名が明記してある。

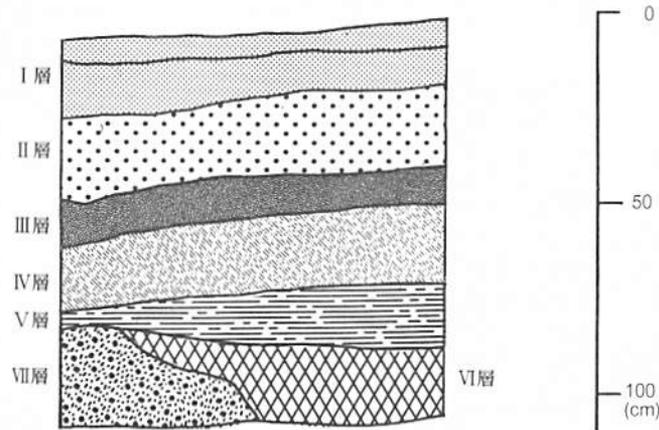


第1図 グリッド配置図

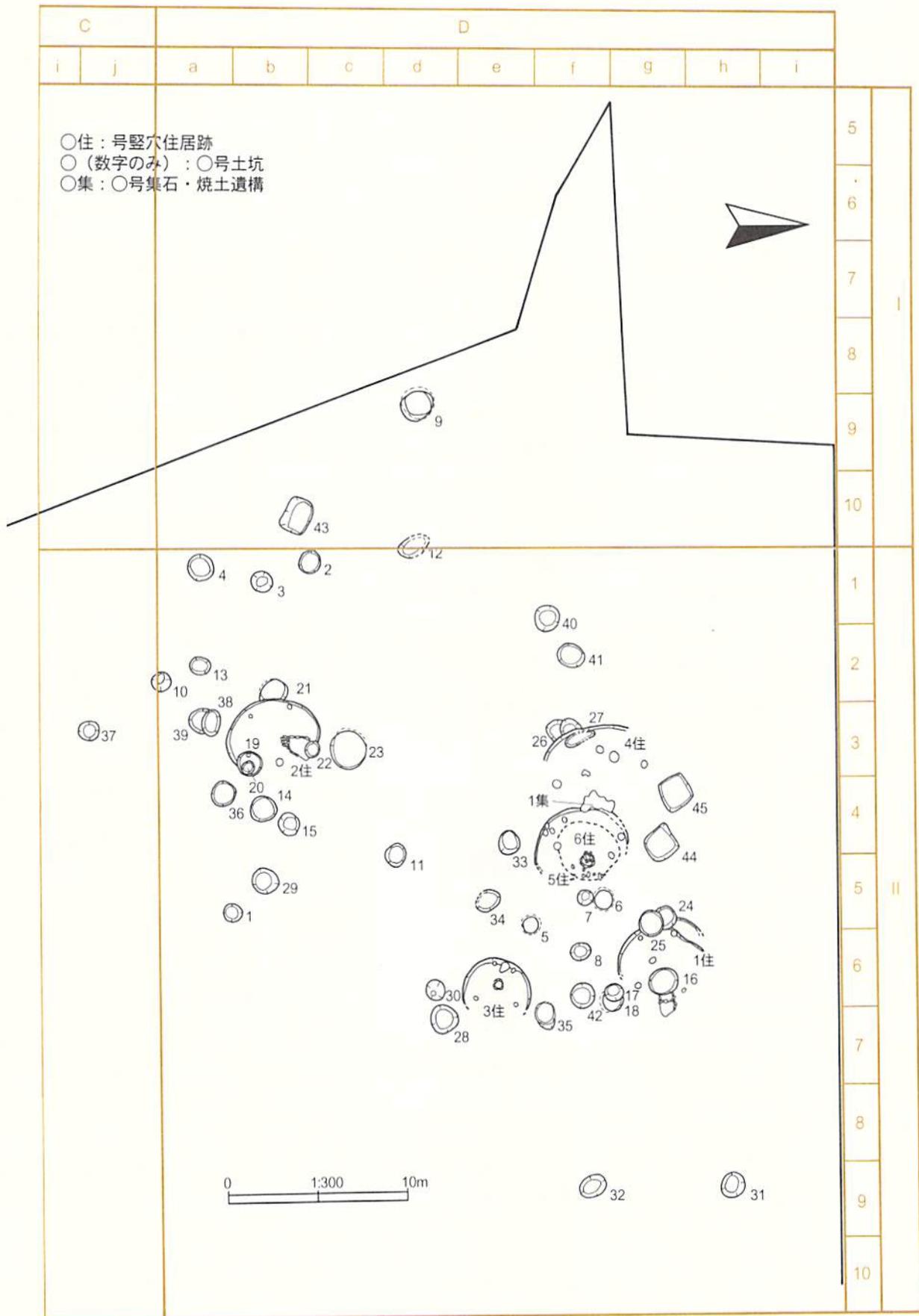
3. 基本土層

仁昌寺Ⅲ遺跡の調査区は、前述のとおり緩斜面に立地し、南北に約132m、斜面方向の東西に最大92mの範囲で設定される。面積にして6,250㎡である。この調査区の土層・遺構検出面を把握するため、18本のトレンチを入れ、その断面から決定した。遺物が検出される黒色シルト層は、現況の畑地・果樹園を造成するために大部分が削平・移動されⅡ層と化している。自然層としての黒色シルト層、Ⅲ層は部分的にわずかに認められるだけであった。表土直下でⅣ・Ⅴ層となるところが多く、事実上、検出面はⅣ・Ⅴ層である。

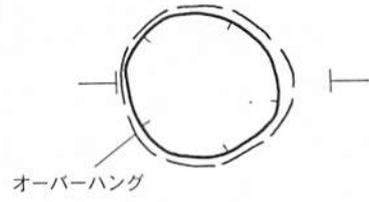
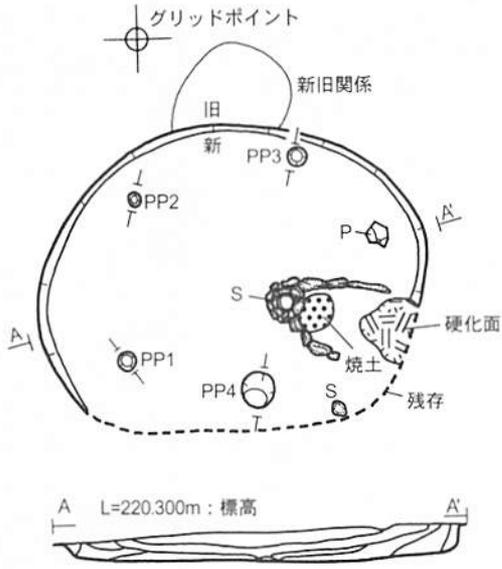
I層	10Y R 3/2 黒褐色シルト	粘性弱 しまり弱] 表土
	10Y R 2/2 黒褐色シルト	粘性やや弱 しまり弱	
II層	10Y R 2/1 黒色シルト	粘性やや弱 しまり弱	耕作土
III層	10Y R 2/1 黒色シルト	十和田中振浮石火山灰 (T o - c h) 微量含む	— 検出面
		粘性中 しまりやや強	
IV層	10Y R 3/3 暗褐色シルト	十和田中振浮石火山灰微量含む	粘性中 しまり中
V層	10Y R 4/4 褐色シルト	粘性中 しまり強	
VI層	10Y R 5/6 黄褐色粘質シルト	粘性やや強 しまり強	
VII層	10Y R 7/2 にぶい黄褐色粘土	粘性強 しまり強	
	10Y R 6/6 明黄褐色粘土	粘性やや強 しまり強	



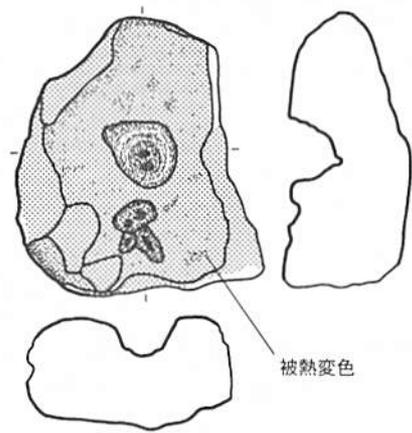
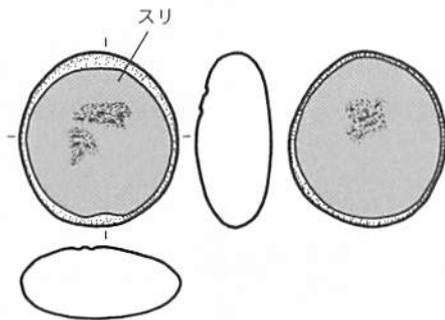
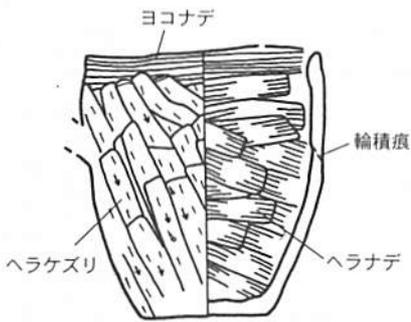
第2図 基本土層柱状図



第3図 仁昌寺Ⅲ遺跡遺構配置図



P : 土器
S : 石・礫
PPO : 柱穴



第4図 図版凡例

4. 検出した遺構と遺構内出土遺物

(1) 縄文時代

① 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第5・6図、写真図版3）

〈位置〉調査区北部、斜面中位のⅡD6fグリッドに位置する。

〈検出状況〉V層中で黒～黒褐色の半円形プランと炉跡、土坑プランの重複として確認した。斜面下方を削平され、プラン東側は残存しない。西側を24号土坑・25号土坑に切られ、半円形プラン東側と炉の間で16号土坑と重複し、これに切られる。

〈規模・形状〉東側が削平され不明であるが、残存する西壁と炉の位置から推定すると、直径510cm前後の円形あるいは楕円形と思われる。炉の向きから主軸方向は西－東である。

〈埋土〉Ⅲ層起源の黒～黒褐色シルトを主体に構成される。床面近くには炭化物が多く含まれていた。

〈壁・床〉壁はやや外傾ぎみに立ち上がり、残存する南西側の壁高は約15cmである。床面はV層土で、硬くしまり、ほぼ平坦である。このV層土を追って行くと、北西の床が一段高くなっている。他の床面よりもしまりが弱い、あるいはこちらが壁かもしれない。

〈柱穴〉5基検出したが、炉方向を軸対称にPP1・2・3・5が配されている。

〈炉〉推測されるプランの中心部より東に位置する。西側を16号土坑に切られ上部も削られているため、が石が抜けている部分があり、全体像は不明であるが、〔石囲部+石組の前庭部〕の複式炉と思われる。前庭部と思われる部分はレンガ状に硬化しており、凹凸がある。焼土は見られないが、石囲部の埋土に炭化物粒が含まれていた。壁のまわり方から推測すると平面的な位置は適当であるが、炉の検出レベルが床面レベルに比べ低いので、本遺構に付属するものではない可能性も考えられる。

〈遺物〉（第6図、写真図版22の1）

土器 中～後期に相当すると思われる粗製土器が数片出土している。時期を特定できる資料ではないため、掲載していない。

石器 1点のみ出土した。1はリタッチド・フレイクで、石質は頁岩である。

〈時期〉時期を特定できる遺物が出土していないため詳細は明らかではないが、他の竪穴住居跡と同じく縄文時代中期後葉～末葉に属するものと思われる。

2号竪穴住居跡（第7・8図、写真図版4）

〈位置〉調査区北部、他の住居跡よりは斜面上方、ⅡD3aグリッドに位置する。

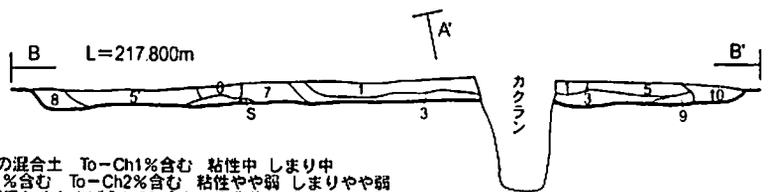
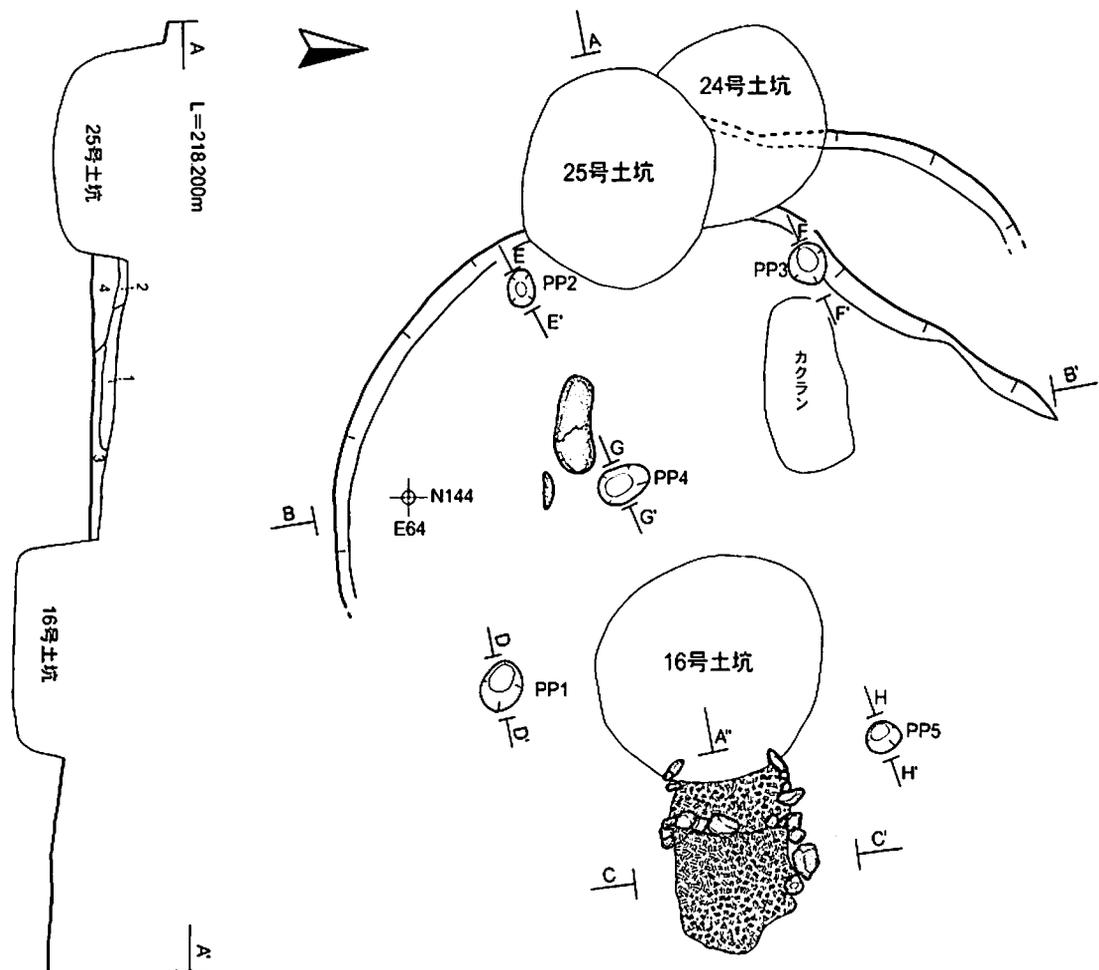
〈検出状況〉V層中で黒色の円形プランと土坑プランとの重複として確認した。西を21号土坑に、北を22号土坑に、南東を19号土坑に切られる。斜面下方の東側プランははっきりしない。

〈規模・形状〉東側が削平されているが、残存する壁・床から判断すると、長径約470cm、短径約410cmの楕円形と思われる。主軸方向は、南西－北東方向である。

〈埋土〉上位はⅢ層系の黒～黒褐色シルトを主体とし、中位以下はⅣ層系の暗褐～褐色シルトを主体としている。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はほぼ垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。

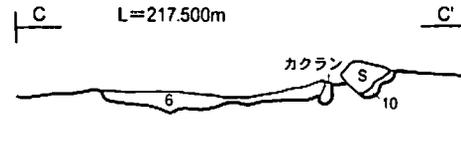
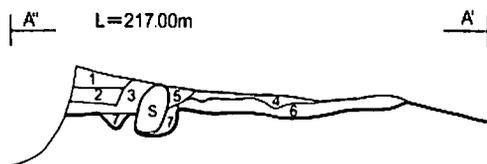
〈柱穴〉5基検出した。炉の方向を軸として、PP1・2・3・5が対称に配されている。また一部壁の残る部分で径約5cm、深さ10cm程度の極小ピットを12基検出した。東側では検出されなかった。



1号竖穴住居跡

- 1 10YR2/1黒色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
- 2 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物粒 (φ1cm) 1%含む To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒 (φ5~10mm) 多量に含む To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまり中
- 4 10YR4/4褐色シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに5%含む 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック (φ3~4cm) 5%含む To-Ch3%含む 粘性中 しまり やや弱
- 5 10YR3/2黒褐色砂質シルト 炭化物粒 (φ5~10mm) 1%含む To-Ch1%含む 粘性弱 しまり中
- 5 5層に同じ 炭化物粒が3%
- 6 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまり中
- 7 10YR2/2黒褐色シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトまばらに10%含む 炭化物粒 (φ1~2cm) 3%含む 粘性中 しまり弱
- 9 9層に同じ
- 9 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 粘性中 しまり中
- 10 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトまばらに5%含む 粘性中 しまり中

0 1:50 2m

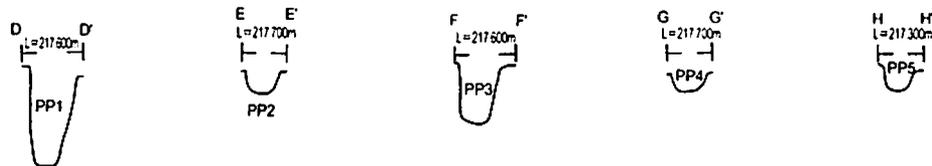


1号竖穴住居跡 炉

- 1 10YR2/3黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに5%含む粘性中 しまりやや弱
- 2 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/8黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒 (φ5mm以下) 2%含む 粘性中 しまり中
- 3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR1. 7/1黒色シルトまばらに10%、10YR5/6黄褐色V層系シルト粒 (1cm以下) 5%含む 炭化物粒 (φ5mm以下) 1%含む 粘性弱 しまりやや弱
- 4 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物粒 (φ1cm) 1%含む 粘性弱 しまりやや弱
- 5 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱
- 6 10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや強 しまり強
- 7 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまりやや弱
- 10 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱

0 1:25 1m

第5図 1号竖穴住居跡 (1)



1号竪穴住居跡 柱穴

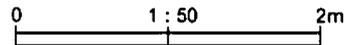
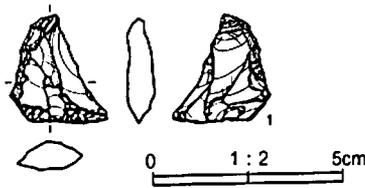
PP1 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土 上位に炭化物粒(φ5mm)1%含む
粘性やや強 しまり中

PP2 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱

PP3 PP1に同じ

PP4 PP2に同じ

PP5 PP2に同じ



1号竪穴住居跡 柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	34×28	25×20	28×27	36×25	25×21
深さ(cm)	64	14	39	13	17

第6図 1号竪穴住居跡(2)・出土遺物

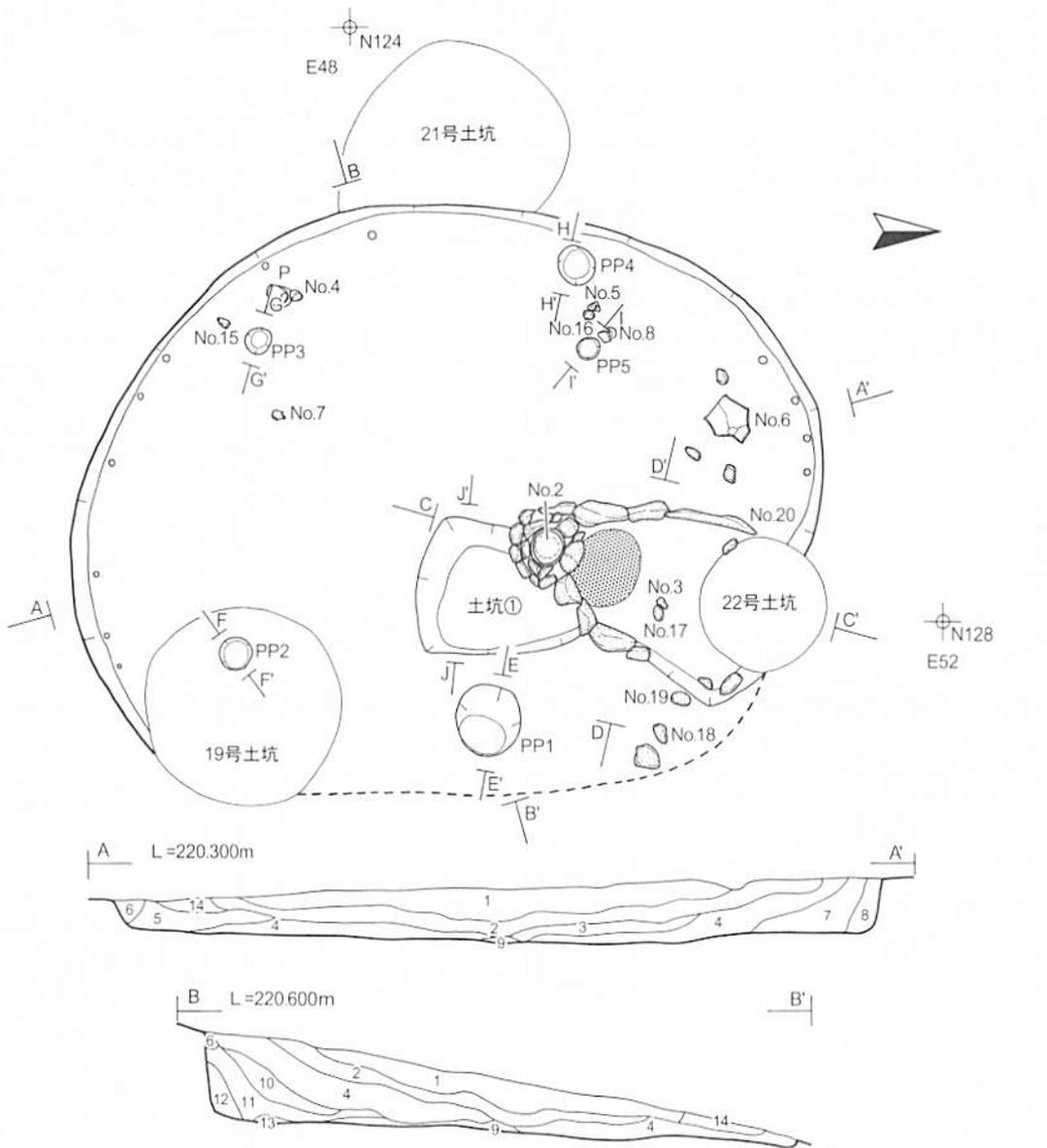
〈炉〉北西壁に接する〔土器埋設石囲+石組みの前庭部〕から構成される複式炉である。土器埋設部は大きめの掘り方(上坑①)に深鉢2が正立の状態で見られ、その周囲に大小さまざまな石が土器の最下部まで隙間無く詰まっている。焼土は、石囲のすぐ脇に54×39cmの範囲に4cmほどの厚さで形成されている。前庭部から3のミニチュア形土器と17の敲・磨石類が出土した。そのほか、炉内埋土からは石の小剥片、ミニチュア形土器の破片等も出土した。

〈遺物〉(第9・10図、写真図版21・22の2~20)

土器 深鉢7点、小形の深鉢1点ミニチュア形土器4点を掲載した。2は炉埋設土器で、胴部には原体縦回転による地文が施されている。3は炉前庭部から(敲・磨石類)と並んで出土した。5・8・9・10・11は、縦方向の沈線区画や磨消細文による施文特徴を持ち、大木9式に相当する。3・13はC字状・S字状の沈線区画や磨消細文により横方向へ展開することから、大木10式に相当する。ほか4・6・7・12は中期に属すると思われる粗製土器である。不掲載の土器類も上記時期に収まる。

石器 7点出土している。14は頁岩製のスクレイパー類で、搔器的な刃角を呈す。15は磨製石斧、16~19は敲・磨石類である。20は台石・石皿類で、炉前庭部の石組みに転用されていた約53×47cmの扁平な礫である。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後~末葉であると考えられる。

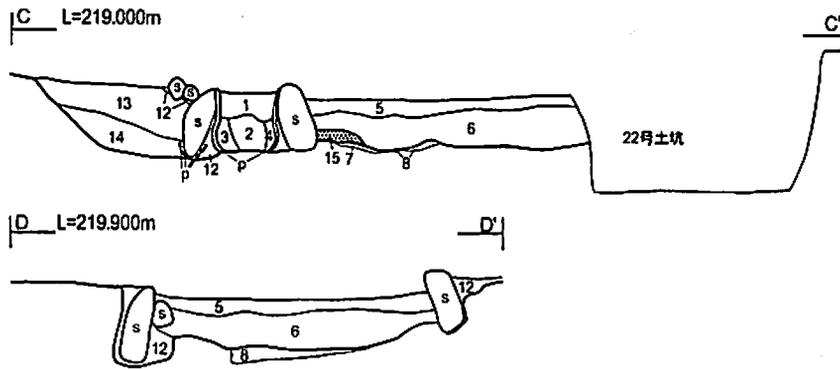


2号竪穴住居跡

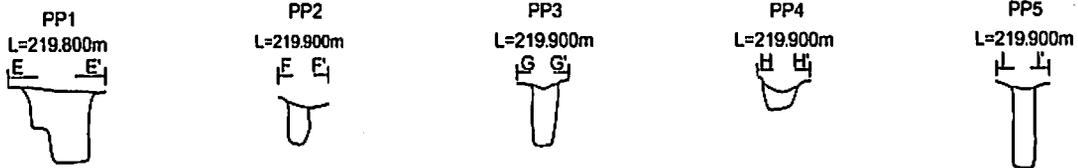
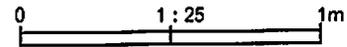
- 1 10YR1, 7/1黒色シルト 10YR3/3暗褐色表土表面にまばらに10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまりやや弱
- 2 10YR4/6褐色V層系シルト 10YR1, 7/1黒色シルト10%含む To-Ch1%未満含む 炭化物粒(φ1cm)1%含む 漸移層 粘性やや強 しまりやや弱
- 3 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/6褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強しまり中
- 4 10YR4/6褐色V層系シルト VI層系の小石を5%含む To-Ch1%未満含む 粘性やや強 しまり中
- 5 10YR6/4にぶい黄橙色VI層系シルト 小石・To-Nbそれぞれ2%含む 粘性やや強 しまりやや強
- 6 10YR5/6黄褐色V層系シルト 5層土が5%混入 崩落土粘性やや強 しまりやや強
- 7 10YR3/3暗褐色砂質シルト 粘性中 しまり中
- 8 6層と同じ
- 9 10YR6/4にぶい黄橙色VI層系シルト 小石2%含む 粘性強 しまりやや強
- 10 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 砂を含む 粘性中 しまり中
- 11 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性やや強 しまりやや強
- 12 10YR6/3にぶい黄橙色VI層系シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強
- 13 10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強
- 14 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強

0 1:50 2m

第7図 2号竪穴住居跡(1)



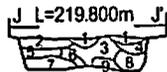
- 2号竪穴住居跡 炉
- 1 10YR4/4褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトの混合土 炭化物粒 (φ5mm以下) 1%含む
粘性やや強 しまりやや弱
 - 2 10YR2/1黒色シルトと炭化物粒 (φ5~10mm) 5%含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 3 10YR4/4褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり中
 - 4 10YR R 4/4褐色粘質シルト 10YR2/1黒色シルトブロック (φ3cm) 2%含む
粘性やや強 しまり中
 - 5 10YR4/4褐色粘質シルト 炭化物粒 (φ5mm) 1%含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 6 10YR4/4褐色粘質シルト 炭化物粒 (φ5mm) 2%含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 7 10YR2/1黒色砂質シルト 被熱のため硬化している 粘性弱 しまり強
 - 8 5Y R 5/4にぶい赤褐色焼土 硬化している 粘性弱 しまり強
 - 11 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまり中
 - 12 11層と同じものと思われるが、埋設土器に接触する部分やや赤みがあり、7、5YR5/6明褐色の焼土へ変質している 13土坑①4層に同じ
 - 14 土坑①9層に同じ
 - 15 7、5YR6/8橙褐色焼土 5YR明赤褐色焼土粒 (φ1cm) 2%含む 粘性やや強 しまり中



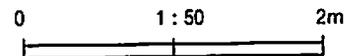
- 2号竪穴住居跡 柱穴
- PP1 10YR4/4褐色シルト 粘性やや強 しまりやや弱
 - PP2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 10YR2/2黒褐色粘質シルトブロック (2cm) 1%含む
粘性強 しまり中
 - PP3 10YR 4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR7/6明黄褐色VI層系シルトブロック (φ1~2cm) 2%含む
粘性強 しまり中
 - PP4 10YR3/4暗褐色粘質シルト 炭化物粒 (φ1~2cm) 1%含む 粘性強 しまり弱
 - PP5 PP4に同じ 炭化物は含まず 粘性強 しまり弱

2号竪穴住居跡 柱穴

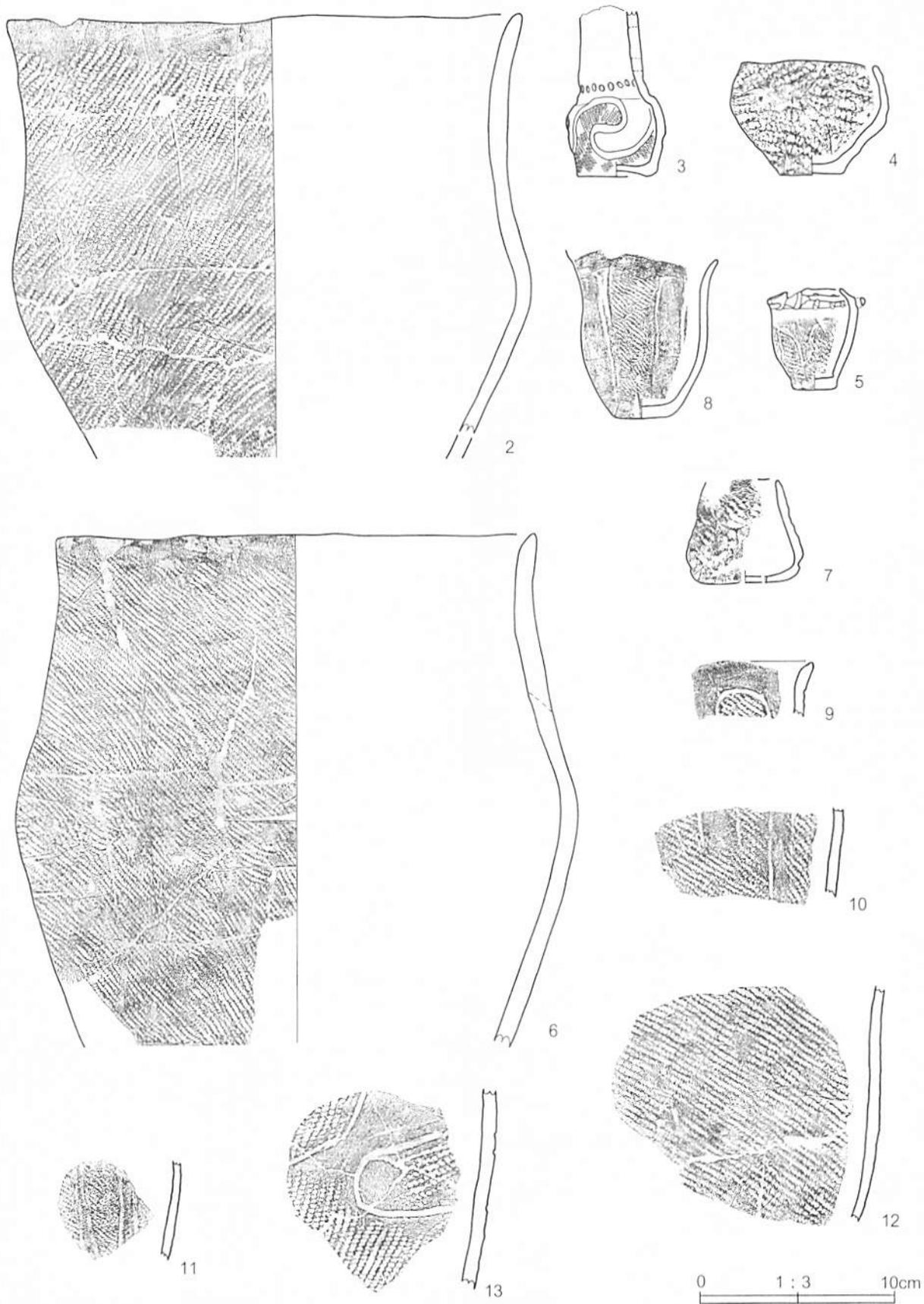
No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	49×46	135×135	9×8	13×12	17×16
深さ(cm)	49	28	41	19	54



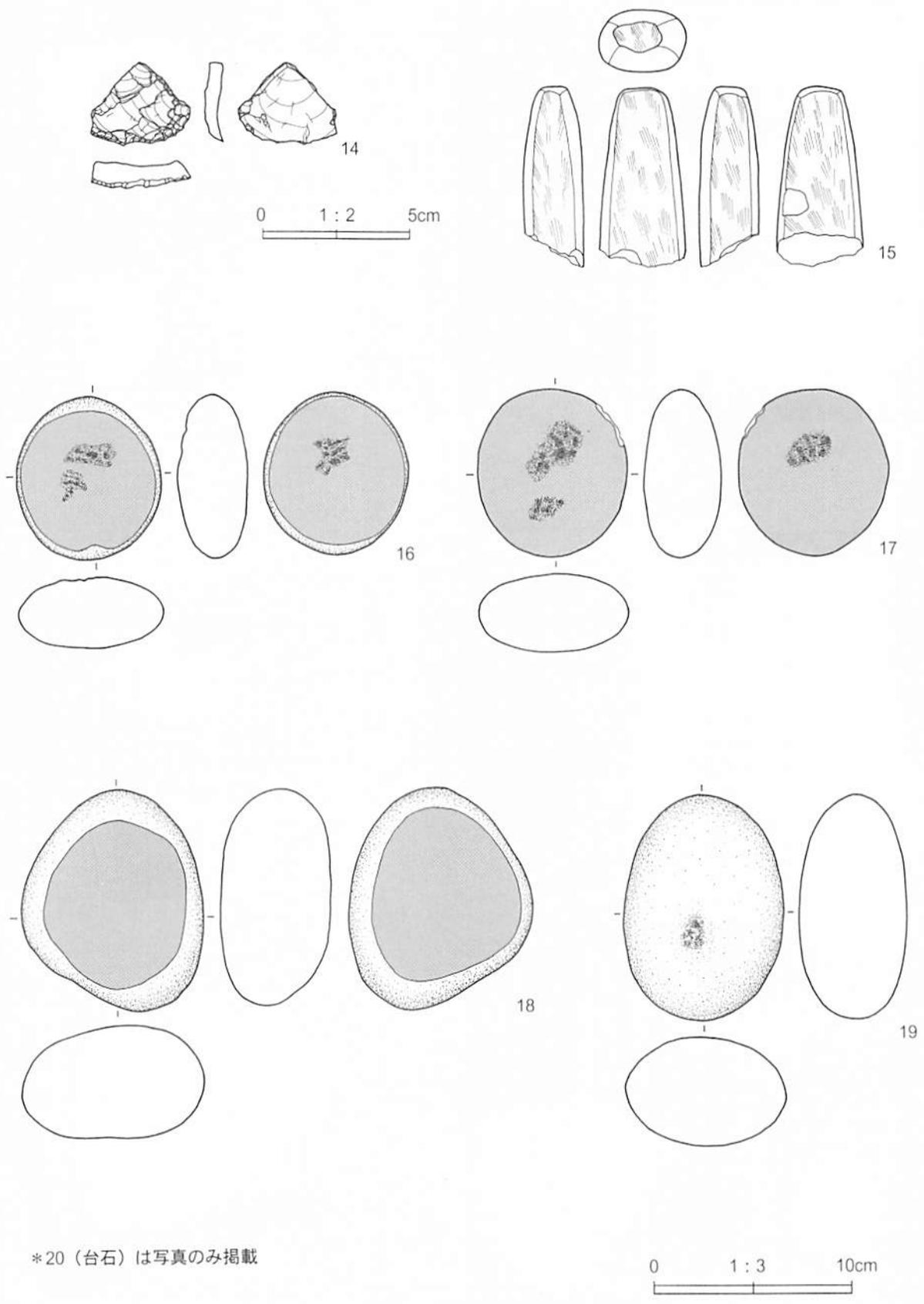
- 2号竪穴住居跡 土坑①
- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (床土?) 粘性中 しまり強
 - 2 10YR4/4褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの混合土 (床土?) 粘性やや強 しまりやや強
 - 3 7.5YR5/6明褐色粘土 粘性強 しまり強
 - 4 7.5YR4/4褐色粘土 (伊13層に同じ) 粘性強 しまり強
 - 5 10YR4/4褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり中
 - 6 10YR R 5/6黄褐色粘土 粘性強 しまり強
 - 7 10YR4/3にぶい黄褐色粘土と10YR6/4にぶい黄褐色粘土5%含む 粘性強 しまり中
 - 8 7.5YR4/4褐色粘土 5YR4/6赤褐色焼土まばらに5%含む 粘性強 しまり中
 - 9 10YR 6/4にぶい黄褐色粘土 粘性強 しまり強



第8図 2号竪穴住居跡 (2)



第9图 2号竖穴住居跡出土遺物(1)



第10図 2号竖穴住居跡出土遺物(2)

3号竪穴住居跡（第11図、写真図版5）

〈位置〉 調査区北部、遺構集中エリアの下方、ⅡD6dグリッドに位置する。

〈検出状況〉 V層中に現れた土坑大の黒褐色円形プランを半裁したところ、東側に礫がかがを形成しており、再度検出し直したところ、黒色シルト混じり黄褐色シルトの半円形のプランを認めた。

〈規模・形状〉 東側の壁・床が削平され不明であるが、残存部から直径約380cmのほぼ円形プランと推定される。

〈埋土〉 V層系のにぶい黄褐～黄褐色シルトを主体に構成される。自然堆積であると思われる。

〈壁・床〉 壁はほぼ垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。部分的に硬化している。

〈柱穴〉 5基検出した。PP5-炉ラインを軸対称にPP1～4が配されている。

〈炉〉 石囲炉である。径5～20cmの亜角礫が、径約60cmの円形に組まれている。焼土は認められない。

〈遺物〉（第12図、写真図版23の21～24）

土器 21は床面出土の小形深鉢で、大木9式に相当する特徴をもつ。ここに掲載していないが、中期に収まるとされる粗製土器が数片出土している。

石器 3点出土している。22は床面出土で、細部調整のある礫器である。23は台石としたが、一端に凹形の顕著な痕跡が見られる。24は柱穴から出土した敲・磨石類である。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代中期後葉頃であると考えられる。

4号竪穴住居跡（第13・14図、写真図版6・7）

〈位置〉 調査区北部、斜面中位のⅡD3f～ⅡD4fグリッドに位置する。

〈検出状況〉 V層中で、他の遺構と重複していると思われる黒～黒褐色の不整形プランとして検出した。平面プランで遺構同士の切り合いを把握することができず、プラン不明のままベルトを設定し、掘り下げた。1号集石焼土遺構、5号・6号竪穴住居跡、26号・27号土坑と重複し、1号集石焼土遺構、5号竪穴住居跡に切られている。そのほかの遺構との新旧関係は把握できなかった。

〈規模・形状〉 重複のため、全体像は不明であるが、残存する床・壁から推測すると、直径8mほどの円形あるいは楕円形であったと考えられる。

〈埋土〉 黒～黒褐色シルトを主体に構成される。床上には炭化物が多く認められた。

〈壁・床〉 壁はやや緩やかに外傾して立ち上がるものと思われる。床はほぼ平坦であり、しまりは強くない。

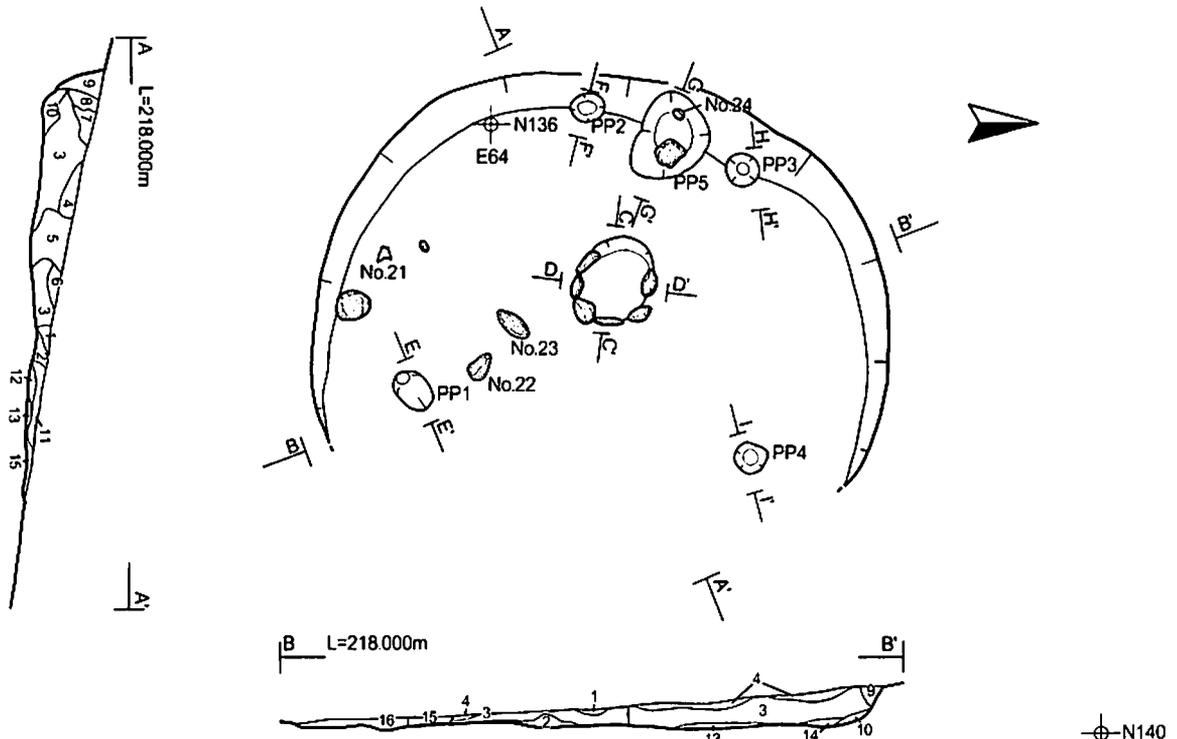
〈柱穴〉 4基検出したが、全体像が不明なため、関係性はわからない。また壁際の一部に直径5～18cm、深さ約10cmの小ピットを6基確認した。これらの中には壁の立ち上がり際に炭化材が斜位に刺さるものもあった。

〈炉〉 本遺構に属するものかどうかは不明であるが、床面で焼土を検出した。24×42cmの不整形で最大5cmの厚みをもつ。重複する1号集石焼土遺構に削られたものと推測される。

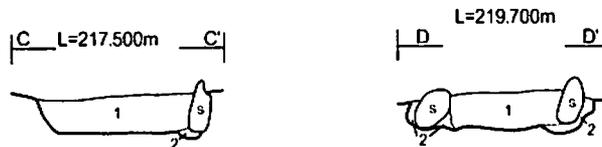
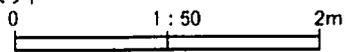
〈遺物〉（第15～17図、写真図版23・24の25～43）

5号竪穴住居跡との切り合いを捉えられずに精査を進めたため、本来5号竪穴住居跡に属するものも混在している可能性が高い。

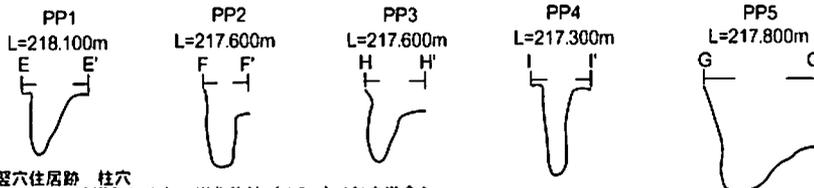
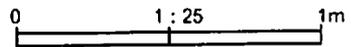
土器 深鉢5点、小形の深鉢、鉢形土器、壺形土器、ミニチュア形土器各1点、壺2点を掲載した。25は壁際から出土した樽形状の壺形土器で、内部に赤色顔料が充填されていた。この土器は斜位逆倒立の状態で出土したが、口部には上が入り込んでおり内容物が外に流出した痕跡はなかった。26は縦位燃糸文が全体に施



- 3号竪穴住居跡
- 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトまばらに3%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに3%含む 粘性中 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土 10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに2%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 粘性弱 しまりやや弱
 - 10YR4/4褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに3%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR6/4にぶい黄褐色VI層系粘質シルト粒(φ5mm以下)3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト 10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに3%含む 10YR3/2黒褐色シルトブロック(φ1~3cm)3%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR4/6褐色粘質シルト 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch3%含む 粘性やや強 しまり強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに10%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色シルトブロック(φ4~5cm)3%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまり中



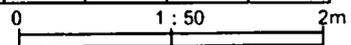
- 3号竪穴住居跡 炉
- 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 炭化物粒(φ5~10mm)2%含む 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR4/4褐色シルトと10YR6/4にぶい黄褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中



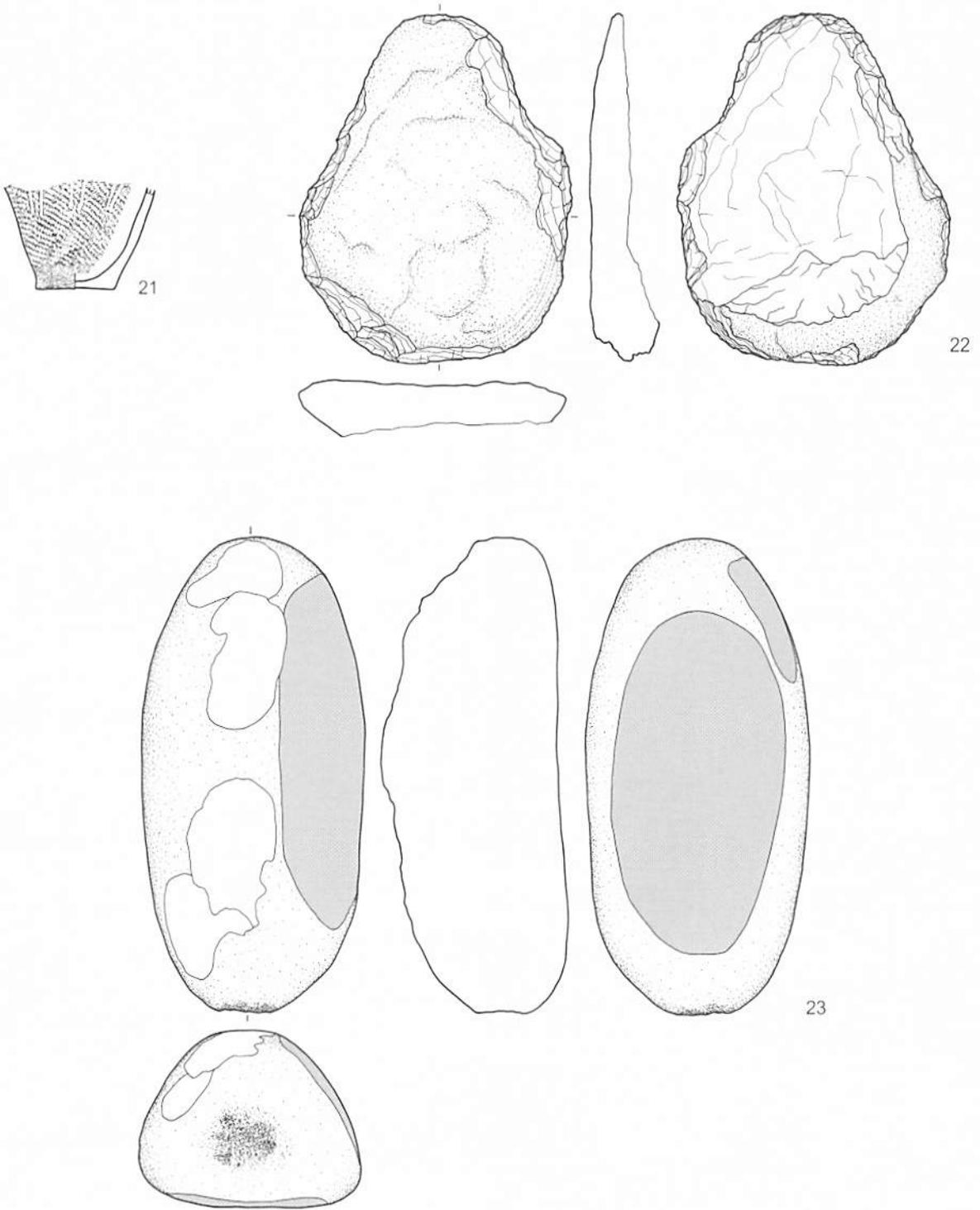
- 3号竪穴住居跡 柱穴
- PP5 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒(φ5mm)1%未満含む 粘性やや強 しまり弱
- PP1 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 下位は10YR3/3暗褐色粘質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
- PP4 10YR5/6にぶい黄褐色VI層系シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
- PP2 PP5に同じ
- PP3 PP5に同じ

3号竪穴住居跡 柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	26×25	28×20	23×21	23×22	59×48
深さ(cm)	40	49	39	57	70



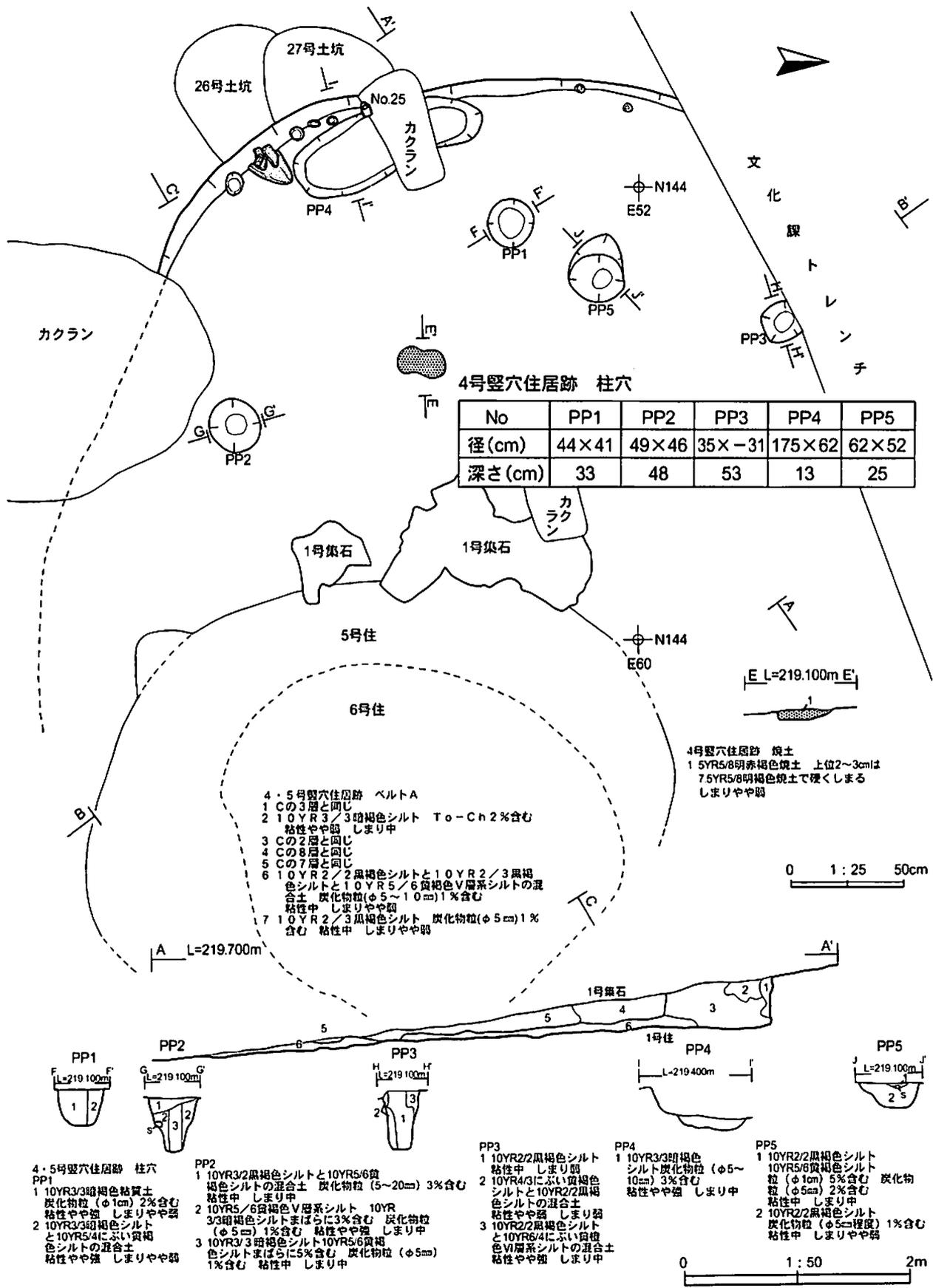
第11図 3号竪穴住居跡



*24 (敲・磨石類) は写真のみ掲載

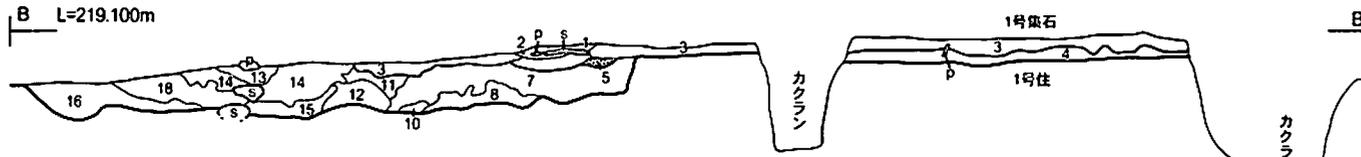
0 1:3 10cm

第12図 3号竪穴住居跡出土遺物



第13図 4・5号竪穴住居跡(1)

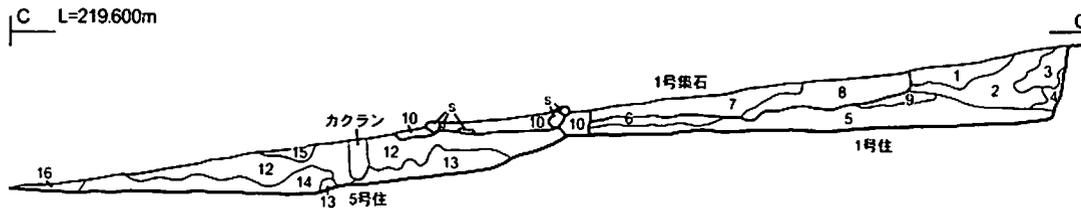
第14図 4・5号竪穴住居跡 (2)



4・5号竪穴住居跡 ベルトB

- 1 Dの1層と同じ
- 2 Dの2層と同じ
- 3 Cの7層と同じ
- 4 Aの6層と同じ
- 5 5YR4/6赤褐色焼土と10YR3/3暗褐色シルトの混合土
粘性弱 しまりやや弱
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色シルト全体にうすく2%含む
炭化物粒 (φ5mm以下) 1%含む 粘性中 しまり中
- 7 Dの7層と同じ
- 8 Dの8層と同じ
- 9 7層と同じ
- 10 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまり中
- 11 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルト5%、
10YR6/6明黄褐色シルト2%まばらに含む 粘性中 しまり中

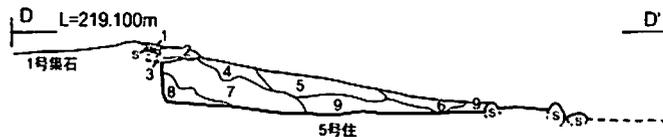
- 12 10YR5/6黄褐色V層系シルトまたは10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト
- 10 YR2/2黒褐色シルトまばらに3%含む 粘性やや強 しまりやや強
- 13 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土
粘性やや弱 しまりやや弱
- 14 10YR2/1黒色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに2%含む 粘性やや弱 しまり中
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土
炭化物粒 (φ5~10mm) 1%含む 粘性やや強 しまり中
- 16 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに10%含む
炭化物粒 (φ5mm程度) 1%含む 粘性やや強 しまり中
- 17 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに5%含む 粘性弱 しまりやや弱
- 18 10YR2/3黒褐色シルト 10YR4/6褐色シルトまばらに5%含む
炭化物粒 (φ5mm程度) 1%含む 粘性中 しまりやや弱



4・5号竪穴住居跡 ベルトC

- 1 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
- 2 10YR3/3暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに3%含む
炭化物粒 (φ5~10mm) 3%含む 粘性中 しまり中
- 3 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまりやや弱
- 4 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまり中
- 5 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに10%含む
炭化物粒 (φ5~20mm) 5%含む 粘性やや強 しまり中
- 6 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまりやや弱

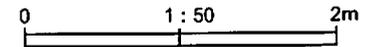
- 7 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱
- 8 10YR1/7/1黒色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 10YR3/3暗褐色シルト
まばらに5%含む 粘性中 しまり中
- 9 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 炭化物粒 (φ5~10mm) 3%含む 粘性やや強 しまり中
- 10 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまりやや弱
- 12 Dの7層と同じ
- 13 Dの8層と同じ
- 14 Dの9層と同じ
- 15 Dの5層と同じ
- 16 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまりやや弱

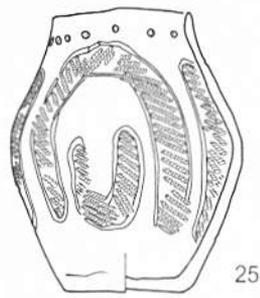


4・5号竪穴住居跡 ベルトD

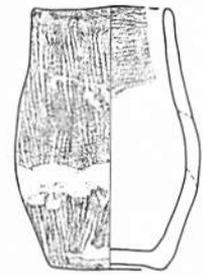
- 1 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや弱 しまり中
- 2 10YR2/1黒色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまり中
- 3 5YR4/6赤褐色焼土と10YR2/3黒褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまり中

- 4 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む
粘性やや弱 しまり中
- 5 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む
粘性やや弱 しまり中
- 6 10YR2/1黒色シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに5%含む 粘性弱 しまり中
- 7 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 炭化物粒 (φ5mm以下) 1%未満含む
粘性やや弱 しまり中
- 8 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 炭化物粒 (φ5mm以下) 1%未満含む 粘性中 しまり中
- 9 10YR3/2黒褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱

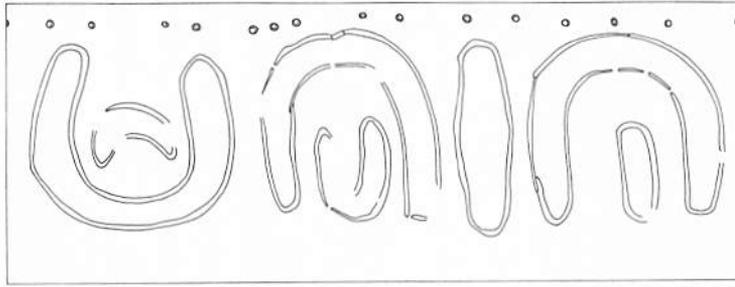




25



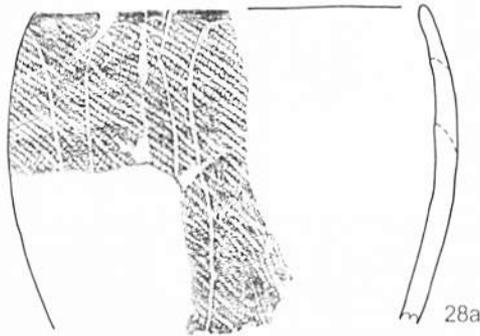
26



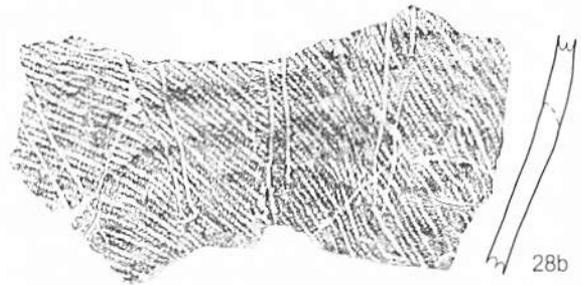
25展開図



27



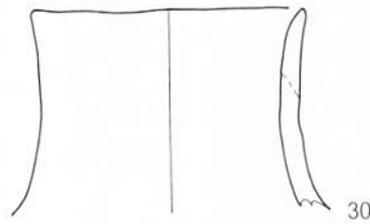
28a



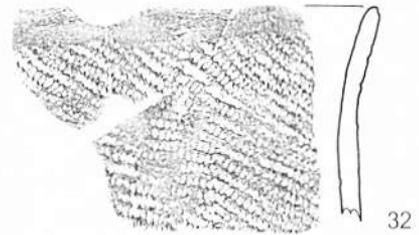
28b



29



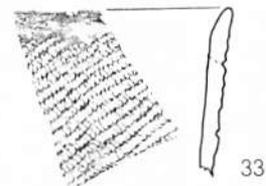
30



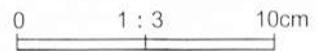
32



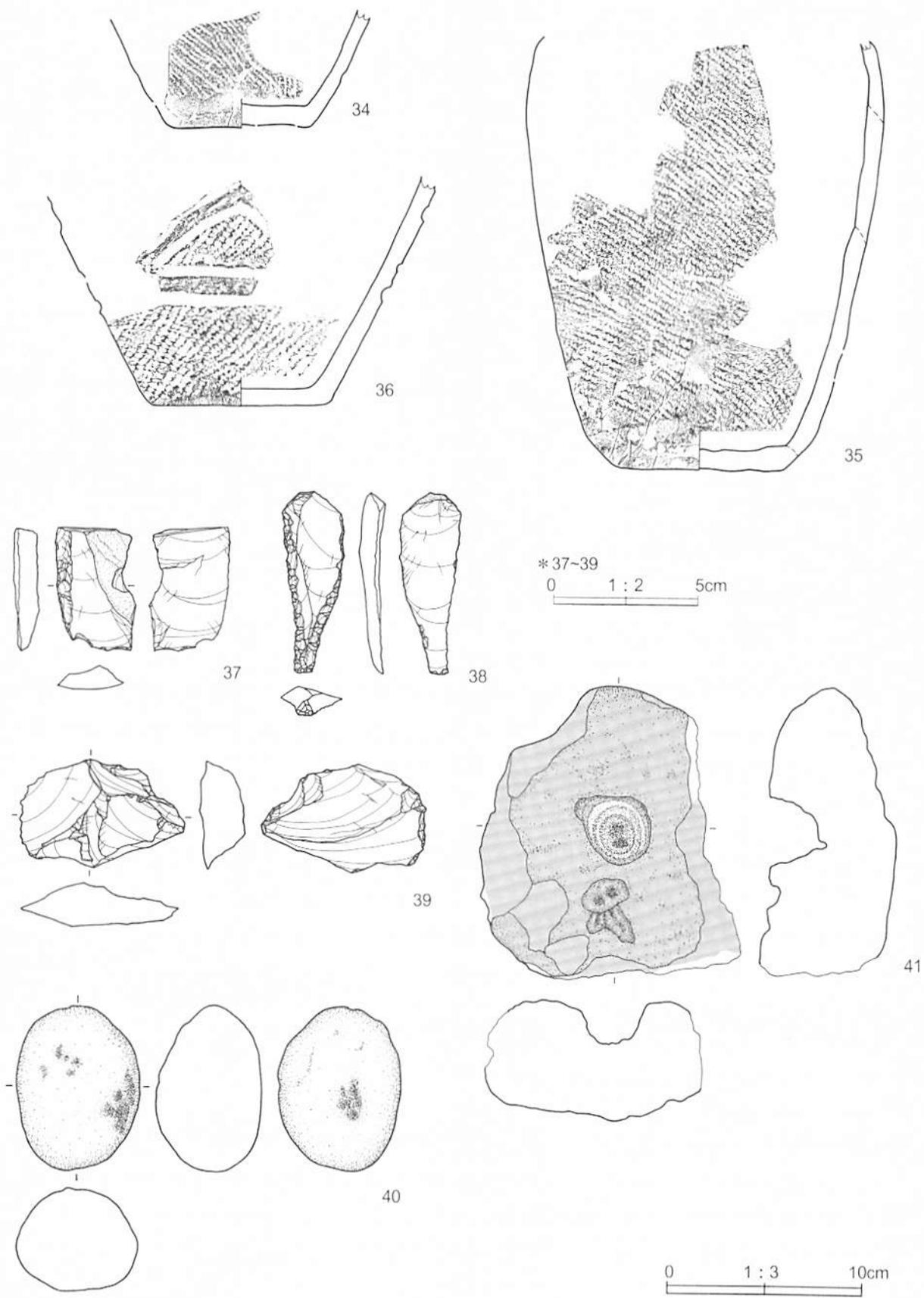
31



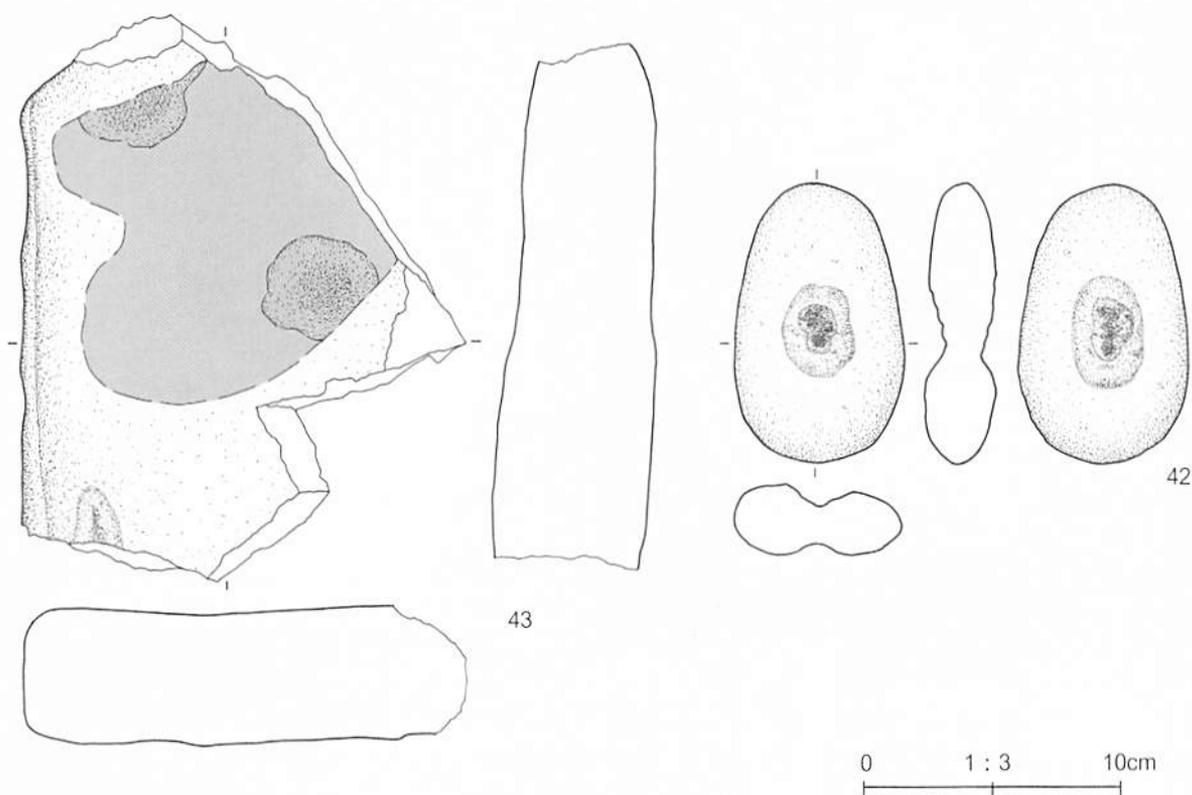
33



第15図 4号竪穴住居跡出土遺物(1)



第16图 4号竖穴住居跡出土遺物(2)



第17図 4号竪穴住居跡出土遺物(3)

され、さらに口縁部内側にも横位に施文されている。29は鉢形土器片で、外面にタール状の付着物が見られる。31は壺の片と推測される。内外面に赤色塗彩が施されている。25・28は「I」字や「U」字文などの文様が見られ、大木9式に相当する。29は渦巻状の文様が横位に連続しており、大木10式の様相を呈す。36の三角形の文様をして十腰内I式に区分した。30が後期に、他は中期後～末葉に属すると思われるが、特定は困難である。

石器 7点出土している。37・38はスクレイパー類、39はリタッチド・フレイク、40は敲・磨石類、41・42は凹石、43は台石・石皿類である。41は被熱変色している。重複している平安時代頃の1号集石・焼土遺構の礫も同様に焦げ、変色していたことから、この頃に被熱したものと推測される。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後～末葉であると考えられる。

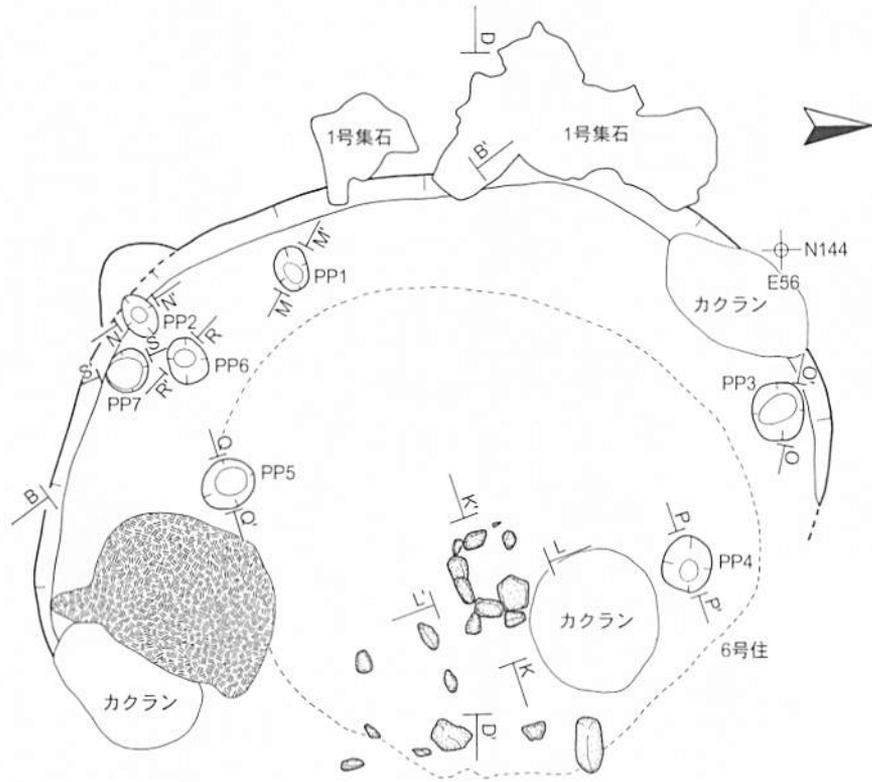
5号竪穴住居跡(第12・13・18図、写真図版6・7)

〈位置〉調査区北部、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡の間、6号竪穴住居の上位、1号集石焼土遺構の下位、II D 5 e グリッドに位置する。

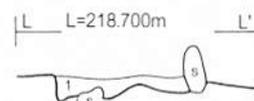
〈検出状況〉他遺構との重複関係が把握できなかったため、プラン不明のまま全体に何本かベルトを残し、掘り下げた。1号竪穴住居跡東側、6号竪穴住居上位を切り、1号集石焼土遺構に上位を切られていた。

〈規模・形状〉後世の攪乱・削平のため、全体像は明確ではないが、直径約535cmの円形あるいは楕円形と思われる。主軸方向は、炉-硬化面ラインとすると南-北である。

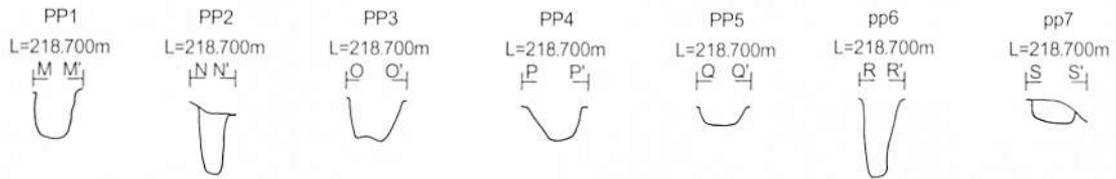
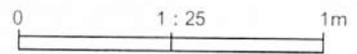
〈埋土〉Ⅲ層系の黒～黒褐色シルトを主体に構成される。自然堆積の様相を呈する。



⊕ N140
E60



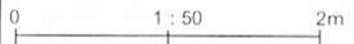
5号竪穴住居跡 炉
1 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱



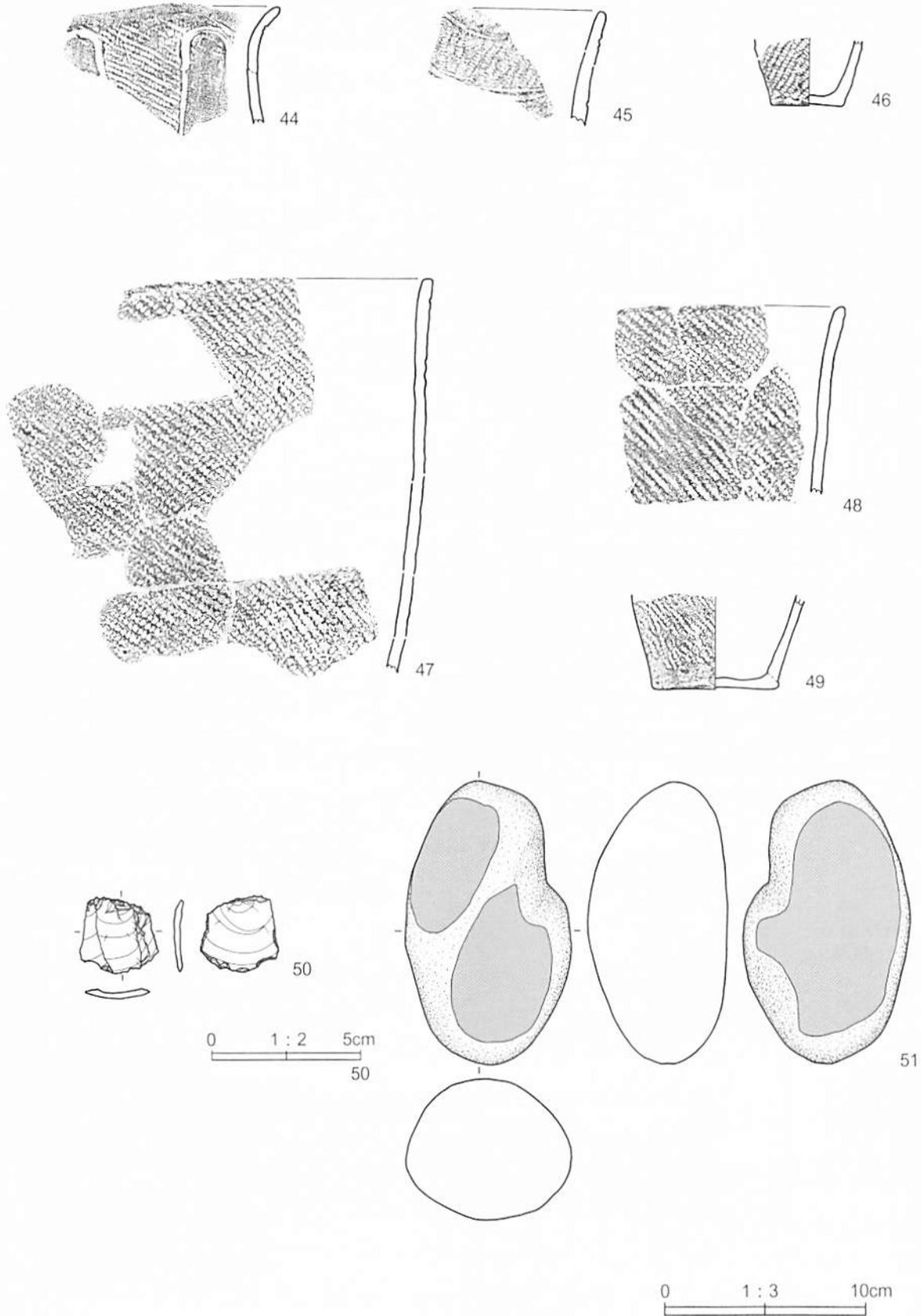
5号竪穴住居跡 柱穴
PP1 10YR2/1黒色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに2%含む 粘性やや弱 しまり弱
PP2 10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや強 しまり中
PP3 PP2と同じ
PP4 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱
PP5 PP2と同じ
PP6 PP2と同じ
PP7 PP2と同じ

5号竪穴住居跡 柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7
径(cm)	28×24	32×22	39×34	38×33	37×33	32×28	29×29
深さ(cm)	32	44	29	23	13	52	17



第18図 5号竪穴住居跡



第19图 5号竖穴住居跡出土遺物

〈壁・床〉壁は明確な部分はわずしか残っておらず、床も、直下に6号竪穴住居の埋上があり、不明瞭な部分が多い。炉より南側、壁近くに145×100cmの広がりをもつ凹凸のある硬化面が認められた。

〈柱穴〉7基検出した。規則性は認められない。

〈炉〉石囲い炉である。10～25cm程度の垂角礫によって構成され、約60×45cmの方形に組まれている。周囲、南東側に構成礫らしき礫が不整に散在しており、もとは複式炉であったものが壊されている可能性がある。焼土は認められない。精査中、直下に6号竪穴住居跡の石囲炉が検出された。

〈遺物〉(第19図、写真図版25の44～51)

4号竪穴住居との切り合いを把握できないまま、精査を進めたので、本遺構の遺物が前記遺構に混在している可能性がある。ここでは、本遺構に帰属することが明確であるものだけに限り、掲載した。

土器 44は床面上の深鉢口縁部片である。口縁部は緩やかな波状を呈し上端で外反する。文様は縦方向への沈線区画内を磨消しており、大木9式に位置づけられる特徴を持つ。45も口縁部片で埋土からの出土である。曲線を描く沈線区画内に細文が施文され、大木10式に相当する特徴をもつ。46は小形深鉢である。46～49は粗製の深鉢で、おおよそ他の土器と同時期に収まるものと思われる。ほかに同様の土器片が少量出土している。

石器 2点出土している。50はリタッチド・フレイクで不整に細部調整が見られる。51は敲・磨石類で、磨痕は顕著ではない。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後～末葉であると考えられる。

6号竪穴住居跡(第20図、写真図版8)

〈位置〉調査区北部、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡の間、5号竪穴住居と重なってII D 5 f グリッドに位置する。

〈検出状況〉5号竪穴住居の炉を精査中、下位に別の炉を検出し、また5号竪穴住居跡の床面で黒褐色の不明瞭な円形プランとして検出した。

〈規模・形状〉壁は立たず、床面のみの残存値からの推定であるが、直径340cm以上の円形あるいは楕円形と思われる。

〈埋土〉IV層系の暗褐色シルトを主体として構成される。

〈壁・床〉壁は立たなかった。底面はほぼ平坦で硬くしまっている。炉の東側に約110×55cm範囲の硬化面が広がっている。

〈柱穴〉本遺構の床面からは検出されなかった。

〈炉〉石囲炉である。7～35cmの垂角礫で構成され、径約75cmの円形に組まれている。炉東側に構成礫であった可能性がある礫が数個散在する。焼土は炉内北西寄りに25×25cmほどの広がり、最大8cmの厚さで形成されている。焼土は炉覆土と混在しており、廃棄後に攪乱を受けている可能性がある。

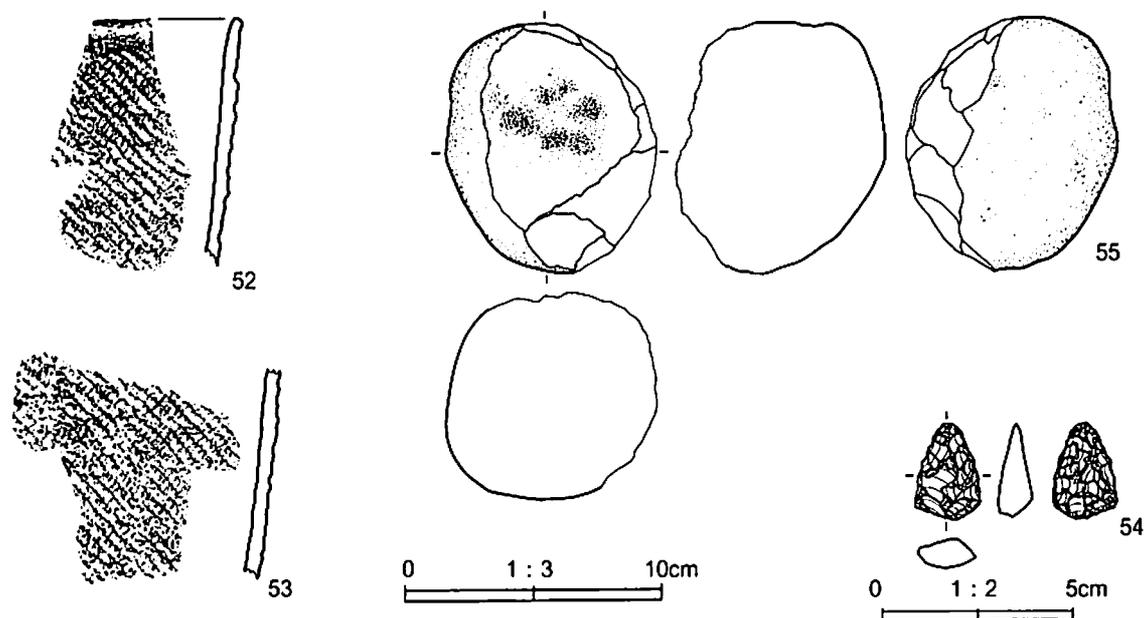
〈遺物〉(第21図、写真図版25の52～55)

残存形が薄いため、出土遺物も少ない。

土器 52・53とも中期に属すると考えられる粗製深鉢である。他に時期不明の小破片が少量出土している。

石器 2点出土している。54は炉から出土した頁岩製の石鏃で、基部は無茎凸形である。55は敲・磨石類である。敲打痕が顕著である。後世の剥落が激しい。

〈時期〉出土遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期の、5号竪穴住居跡よりは古い時期に属するものである。



第21図 6号竪穴住居跡出土遺物

② 土坑 (第22~31図、写真図版9~19)

今回の調査で検出された遺構は45基である。個々の記述は下表にゆずり、ここでは全体の概観を記す。時期は出土遺物と埋土の類似性からほとんど縄文時代に属するものと思われるが、詳細は不明である。形態は平面形を円形、楕円形、方形、断面形をフラスコ状、ビーカー状、逆台形状、皿状等に分類した。ただし、こと断面形に関してはあくまでも残存形であり、本来の形と大きくかけ離れている可能性が高い。平面形は円形に近く、直径は110~150cmのものが多い。底面は平坦に整えられている場合が多い。各土坑の配置は竪穴住居跡周辺に集まっているが、規則性は見出せない。住居跡と重複するものが少ないことから、住居跡との何らかの関連性を検討する余地はあると思われる。

次頁以降、表中の規模の単位はcmであり、() 値は推定値、- 値は残存値を表している。

〈出土遺物〉 (第32図、写真図版25の56~63)

遺物が出土した土坑は不掲載遺物も含め23基である。

土器 掲載した遺物のうち土器については、口縁部片、底部片等、比較的状态のよいものを抽出し、同形態のものは省略した。56・58・60・62は口縁~胴部片である。56は胴部から口唇部にかけて外傾気味に立ち上がる器形である。口縁部は平縁で、胴部にはLの回転文が施される。58は内湾して立ち上がる器形で、地文はLR横回転による。60は外反して立ち上がる。地文はLR縦回転である。62は口唇部が凹型に成形されており、器形は緩やかなS字状を呈するものと推測される。LR縦の地文に平行沈線・フック状沈線文と磨消縄文が施され、十腰内I式に相当する特徴を持つ。57・59・61は底部片である。57・61は網代痕を持ち、59は上げ底状に成形されている。これ以外の不掲載の土器はすべて遺構当該期の粗製深鉢片である。

石器 25号土坑からの1点のみの出土である。63はリタッチド・フレイクで、石質は頁岩である。

以上はすべて各土坑埋土からの出土である。遺構内から出土した土器破片同士接合した例として、26 (16号土坑と4号竪穴住居跡) と35 (35号土坑と4・5号竪穴住居跡) があることから、ほとんどが斜面上方に位置する住居跡から下方の土坑に流れ込んだものと推測される。

第1表 土坑観察表

遺構名			1号土坑			遺構名			2号土坑			遺構名			3号土坑				
図版	遺構	22	遺物	-	図版	遺構	22	遺物	-	図版	遺構	22	遺物	-	図版	遺構	22	遺物	-
写真図版	遺構	9	遺物	-	写真図版	遺構	9	遺物	-	写真図版	遺構	9	遺物	-	写真図版	遺構	9	遺物	-
位置	ⅡD6a				位置	ⅡD1b				位置	ⅡD1a								
検出状況・重複関係	Ⅳ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層								
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形							
	断面形	ビーカー状				断面形	皿状				断面形	逆台形状							
規模	開口部径	112×100			規模	開口部径	128×118			規模	開口部径	126×118							
	底部径	78×70				底部径	118×110				底部径	72×48							
	深さ	74				深さ	36				深さ	90							
埋土	Ⅲ層系黒・黒褐色シルト主体、炭化物を含む、自然堆積				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、上位炭化物を含む、自然堆積				埋土	上位Ⅲ層系黒色シルト、下位ほど崩落土主体、自然堆積								
底面	Ⅵ層、平坦				底面	Ⅵ層、平坦				底面	Ⅶ層、平坦								
出土遺物					出土遺物	不掲載あり				出土遺物									
遺構名			4号土坑			遺構名			5号土坑			遺構名			6号土坑				
図版	遺構	22	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-
写真図版	遺構	9	遺物	-	写真図版	遺構	10	遺物	-	写真図版	遺構	10	遺物	-	写真図版	遺構	10	遺物	-
位置	ⅡD1a				位置	ⅡD6e				位置	ⅡD6f								
検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層								
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形							
	断面形	逆台形状				断面形	フラスコ状				断面形	フラスコ状							
規模	開口部径	144×138			規模	開口部径	98×94			規模	開口部径	114×108							
	底部径	112×98				底部径	114×106				底部径	126×122							
	深さ	76				深さ	48				深さ	74							
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積?				埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積								
底面	Ⅶ層、平坦				底面	Ⅶ層、平坦				底面	Ⅶ層、平坦								
出土遺物	不掲載あり				出土遺物	不掲載あり				出土遺物	不掲載あり								
遺構名			7号土坑			遺構名			8号土坑			遺構名			9号土坑				
図版	遺構	23	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-	図版	遺構	23	遺物	-
写真図版	遺構	10	遺物	-	写真図版	遺構	10	遺物	-	写真図版	遺構	11	遺物	-	写真図版	遺構	11	遺物	-
位置	ⅡD6f				位置	ⅡD6f				位置	ⅠD9d								
検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層								
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形							
	断面形	逆台形状				断面形	逆台形状				断面形	フラスコ状							
規模	開口部径	98×82			規模	開口部径	114×104			規模	開口部径	182×160							
	底部径	146×127				底部径	73×63				底部径	176×170							
	深さ	43				深さ	53				深さ	119							
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積?				埋土	Ⅲ層系黒・黒褐色シルト主体、炭化物を含む、自然堆積。記録なしの部分は黒色土と地山が縞状に堆積								
底面	Ⅶ層、平坦				底面	Ⅶ層、平坦				底面	Ⅳ層、平坦								
出土遺物	不掲載あり				出土遺物	不掲載あり				出土遺物									

遺構名	10号土坑		遺構名	11号土坑		遺構名	12号土坑	
図版	遺構 24	遺物 -	図版	遺構 24	遺物 -	図版	遺構 24	遺物 -
写真図版	遺構 11	遺物 -	写真図版	遺構 11	遺物 -	写真図版	遺構 11	遺物 -
位置	II C 2 j		位置	II D 5 c		位置	II D 1 d	
検出状況 ・重複関係	V層		検出状況 ・重複関係	V層		検出状況 ・重複関係	V層	
形状	平面形	円形	形状	平面形	円形	形状	平面形	楕円形
	断面形	碗状		断面形	皿状		断面形	皿状
規模	開口部径	98×97	規模	開口部径	114×109	規模	開口部径	(182)×(110)
	底部径	52×39		底部径	92×82		底部径	(86)×78
	深さ	55		深さ	30		深さ	44
埋土	IV層系にふい黄褐色粘質シルト主体、自然堆積		埋土	VI層系黒褐色シルト主体、自然堆積		埋土	III層系黒・黒褐色シルト主体、自然堆積、攪乱を受けている	
底面	VI～VII層		底面	VI層、平坦		底面	VI層、平坦でない	
出土遺物			出土遺物			出土遺物		

遺構名	13号土坑		遺構名	14号土坑		遺構名	15号土坑	
図版	遺構 24	遺物 -	図版	遺構 24	遺物 -	図版	遺構 25	遺物 -
写真図版	遺構 12	遺物 -	写真図版	遺構 12	遺物 -	写真図版	遺構 12	遺物 -
位置	II D 2 a		位置	II D 4 a		位置	II D 4 b	
検出状況 ・重複関係	V層		検出状況 ・重複関係	V層		検出状況 ・重複関係	V層	
形状	平面形	楕円形	形状	平面形	円形	形状	平面形	円形
	断面形	逆台形状		断面形	皿状		断面形	碗状
規模	開口部径	109×80	規模	開口部径	146×137	規模	開口部径	118×108
	底部径	86×67		底部径	123×116		底部径	72×66
	深さ	40		深さ	40		深さ	42
埋土	III層黒褐色・IV層暗褐色シルト主体、自然堆積		埋土	VI層系にふい黄褐色シルト主体、自然堆積		埋土	VI層系にふい黄褐色砂質シルト主体、自然堆積	
底面	VI層、平坦		底面	VI層、やや西側に傾斜		底面	V層、湾曲	
出土遺物			出土遺物			出土遺物	不掲載あり	

遺構名	16号土坑		遺構名	17号土坑		遺構名	18号土坑	
図版	遺構 25	遺物 -	図版	遺構 25	遺物 -	図版	遺構 25	遺物 -
写真図版	遺構 12	遺物 -	写真図版	遺構 13	遺物 -	写真図版	遺構 13	遺物 -
位置	II D 6 g		位置	II D 7 f		位置	II D 7 f	
検出状況 ・重複関係	V層、1号住かを切る		検出状況 ・重複関係	V層、18号土坑を切る		検出状況 ・重複関係	V層、17号土坑に切られる	
形状	平面形	円形	形状	平面形	円形	形状	平面形	円形
	断面形	ピーカー状		断面形	皿状		断面形	ピーカー状
規模	開口部径	154×145	規模	開口部径	109×91	規模	開口部径	127×116
	底部径	134×132		底部径	82×59		底部径	119×106
	深さ	55		深さ	30		深さ	63
埋土	III層系黒色シルト主体、上位中心部にV層系黄褐色シルト、人為による堆積		埋土	III層系黒褐色シルト主体、自然堆積		埋土	上位VI層系にふい黄褐色シルト、下位III層系黒褐色シルト主体、人為による堆積	
底面	VI層、平坦		底面	V層、やや湾曲		底面	VI層、平坦	
出土遺物	不掲載あり		出土遺物	56中期粗製深鉢片、他		出土遺物	57後期深鉢片、他	

遺構名	19号土坑			遺構名	20号土坑			遺構名	21号土坑							
図版	遺構	25	遺物	32	図版	遺構	25	遺物	32	図版	遺構	26	遺物	-		
写真図版	遺構	13	遺物	26	写真図版	遺構	13	遺物	26	写真図版	遺構	13	遺物	-		
位置	ⅡD3a			位置	ⅡD4a			位置	ⅡD3a							
検出状況	V層、20号土坑に切られ、 ・重複関係 2号住を切る			検出状況	Ⅲ層、19号土坑を切り、 ・重複関係 2号住を切る			検出状況	Ⅵ層、2号住に切られる ・重複関係							
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形				
	断面形	ピーカー状				形状	断面形	ピーカー状			形状	断面形	ピーカー状			
規模	開口部径	136×134			規模		開口部径	143×135				規模	開口部径	134×-120		
	底部径	120×115				規模	底部径	75×69			規模		底部径	125×-118		
	深さ	48					規模	深さ	69				規模	深さ	62	
埋土	V層系黒褐色シルト主体、 自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、 自然堆積			埋土	Ⅵ層系黄褐色シルト主体、 自然堆積							
底面	Ⅵ層、段差あり			底面	Ⅵ層、地形に沿って東に傾斜			底面	Ⅴ層、平坦							
出土遺物	58・59後期深鉢片、他			出土遺物	60中期粗製深鉢片、他			出土遺物	不掲載あり							

遺構名	22号土坑			遺構名	23号土坑			遺構名	24号土坑							
図版	遺構	26	遺物	-	図版	遺構	26	遺物	-	図版	遺構	26	遺物	-		
写真図版	遺構	14	遺物	-	写真図版	遺構	14	遺物	-	写真図版	遺構	14	遺物	-		
位置	ⅡD3b			位置	ⅡD3c			位置	ⅡD6g							
検出状況	Ⅴ層、2号住炉前庭部を ・重複関係 切る			検出状況	Ⅴ層 ・重複関係			検出状況	Ⅳ層、1号住を切り、25 ・重複関係 号土坑に切られる							
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形				
	断面形	ピーカー状				形状	断面形	ピーカー状			形状	断面形	皿状			
規模	開口部径	91×85			規模		開口部径	214×209				規模	開口部径	113×108		
	底部径	67×54				規模	底部径	214×195			規模		底部径	106×95		
	深さ	54					規模	深さ	93				規模	深さ	34	
埋土	Ⅵ層系にぶい黄褐色シル ト主体、自然堆積			埋土	Ⅵ層系にぶい黄褐色シル ト主体、土粒が多く不自 然、人為による堆積			埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、 自然堆積							
底面	Ⅴ層、平坦			底面	Ⅵ層、平坦			底面	Ⅴ層、平坦							
出土遺物				出土遺物	不掲載あり			出土遺物	不掲載あり							

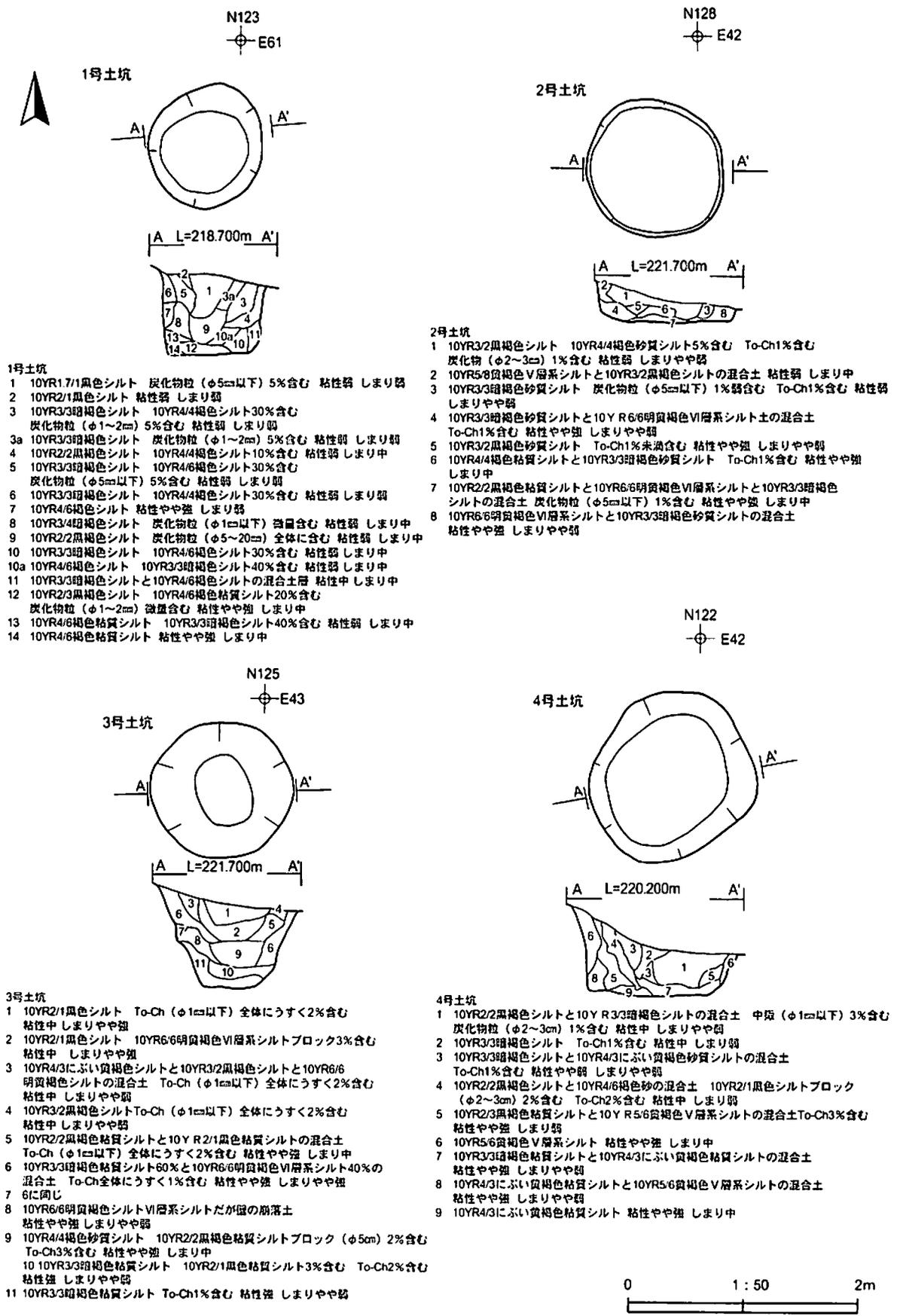
遺構名	25号土坑			遺構名	26号土坑			遺構名	27号土坑							
図版	遺構	26	遺物	-	図版	遺構	27	遺物	32	図版	遺構	27	遺物	-		
写真図版	遺構	14	遺物	-	写真図版	遺構	15	遺物	26	写真図版	遺構	15	遺物	-		
位置	ⅡD6g			位置	ⅡD3e			位置	ⅡD3f							
検出状況	Ⅵ層、1号住炉を切り、 ・重複関係 24号土坑を切る			検出状況	Ⅴ層、4号住と重複、新旧 ・重複関係 不明、27号土坑に切られる			検出状況	Ⅴ層、4号住と重複、新 ・重複関係 旧不明、26号土坑を切る							
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形?			形状	平面形	円形?				
	断面形	ピーカー状				形状	断面形	皿状			形状	断面形	皿状			
規模	開口部径	136×129			規模		開口部径	-70×-100				規模	開口部径	114×-88		
	底部径	123×113				規模	底部径	-55×-75			規模		底部径	73×-52		
	深さ	80					規模	深さ	43				規模	深さ	36	
埋土	Ⅲ層系黒色シルト主体、 自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、 自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、 自然堆積							
底面	Ⅵ層、平坦			底面	Ⅴ層、東側に傾斜			底面	Ⅴ層、東側に傾斜							
出土遺物	不掲載あり			出土遺物	61中～後期深鉢片			出土遺物	不掲載あり							

遺構名	28号土坑			遺構名	29号土坑			遺構名	30号土坑					
図版	遺構	27	遺物	-	図版	遺構	27	遺物	32	図版	遺構	28	遺物	-
写真図版	遺構	15	遺物	-	写真図版	遺構	15	遺物	26	写真図版	遺構	16	遺物	-
位置	ⅡD 7 d			位置	ⅡD 5 a			位置	ⅡD 7 d					
検出状況・重複関係	V層			検出状況・重複関係	V層			検出状況・重複関係	V層					
形状	平面形	円形		形状	平面形	円形		形状	平面形	円形				
	断面形	皿状			断面形	皿状			断面形	すり鉢状?				
規模	開口部径	158×150		規模	開口部径	152×141		規模	開口部径	114×110				
	底部径	114×104			底部径	101×90			底部径	23×23				
	深さ	49			深さ	55			深さ	49				
埋土	Ⅲ層系黒色シルト主体、上位Ⅵ層系黄褐色シルト堆積、不自然、人為による堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積					
底面	Ⅵ層、やや東側に傾斜			底面	Ⅵ層、平坦			底面	V層、中心に向かい傾斜					
出土遺物	不掲載あり			出土遺物	62十腰内Ⅰ深鉢片、他			出土遺物						
遺構名	31号土坑			遺構名	32号土坑			遺構名	33号土坑					
図版	遺構	28	遺物	-	図版	遺構	28	遺物	-	図版	遺構	28	遺物	-
写真図版	遺構	16	遺物	-	写真図版	遺構	16	遺物	-	写真図版	遺構	16	遺物	-
位置	ⅡD 9 h			位置	ⅡD 9 f			位置	ⅡD 5 e					
検出状況・重複関係	V層			検出状況・重複関係	Ⅳ層			検出状況・重複関係	V層					
形状	平面形	円形		形状	平面形	楕円形		形状	平面形	円形				
	断面形	皿状			断面形	皿状			断面形	皿状				
規模	開口部径	138×129		規模	開口部径	144×109		規模	開口部径	125×110				
	底部径	89×68			底部径	107×72			底部径	104×79				
	深さ	42			深さ	39			深さ	47				
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒・黒褐色シルト主体、自然堆積			埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積					
底面	V層、やや東側に傾斜			底面	V層、中心に向かい傾斜			底面	Ⅵ層、平坦					
出土遺物				出土遺物				出土遺物						
遺構名	34号土坑			遺構名	35号土坑			遺構名	36号土坑					
図版	遺構	29	遺物	-	図版	遺構	29	遺物	-	図版	遺構	29	遺物	-
写真図版	遺構	17	遺物	-	写真図版	遺構	17	遺物	-	写真図版	遺構	17	遺物	-
位置	ⅡD 6 d			位置	ⅡD 7 e			位置	ⅡD 4 a					
検出状況・重複関係	V層			検出状況・重複関係	V層			検出状況・重複関係	V層					
形状	平面形	円形		形状	平面形	楕円形		形状	平面形	円形				
	断面形	皿状			断面形	フラスコ状?			断面形	皿状				
規模	開口部径	134×113		規模	開口部径	157×113		規模	開口部径	136×130				
	底部径	114×90			底部径	114×105			底部径	123×113				
	深さ	19			深さ	68			深さ	42				
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積			埋土	上位Ⅵ層系黄褐色シルト、下位Ⅲ層系黒褐色シルト主体、人為による堆積			埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積					
底面	V層、平坦			底面	Ⅵ層、平坦			底面	Ⅵ層、平坦					
出土遺物	不掲載あり			出土遺物	不掲載あり			出土遺物						

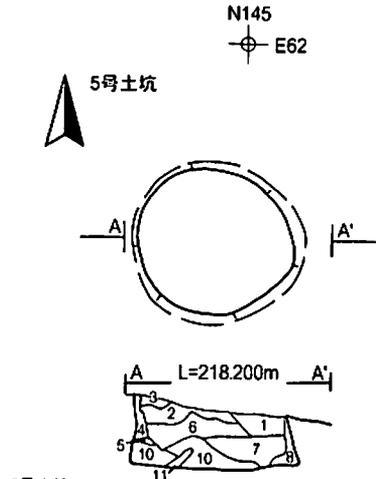
遺構名	37号土坑		遺構名	38号土坑		遺構名	39号土坑	
図版	遺構 29	遺物 -	図版	遺構 30	遺物 -	図版	遺構 30	遺物 -
写真図版	遺構 17	遺物 -	写真図版	遺構 18	遺物 -	写真図版	遺構 18	遺物 -
位置	ⅡD 3 i		位置	ⅡD 3 a		位置	ⅡD 3 a	
検出状況・重複関係	V層		検出状況・重複関係	V層、2基の土坑の重複か? 39号土坑をさる		検出状況・重複関係	V層、38号土坑に切られる	
形状	平面形	円形	形状	平面形	楕円形	形状	平面形	楕円形?
	断面形	逆台形状		断面形	皿状		断面形	フラスコ状
規模	開口部径	118×110	規模	開口部径	142×96	規模	開口部径	-82×135
	底部径	69×68		底部径	139×76		底部径	-67×119
	深さ	65		深さ	43		深さ	46
埋土	V層系褐色シルト主体、自然堆積		埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積		埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、不自然、人為による堆積	
底面	Ⅶ層、平坦		底面	Ⅵ層、段差あり		底面	Ⅵ層、平坦	
出土遺物			出土遺物			出土遺物		

遺構名	40号土坑		遺構名	41号土坑		遺構名	42号土坑	
図版	遺構 30	遺物 -	図版	遺構 30	遺物 -	図版	遺構 30	遺物 -
写真図版	遺構 18	遺物 -	写真図版	遺構 18	遺物 -	写真図版	遺構 19	遺物 -
位置	ⅡD 2 e		位置	ⅡD 2 f		位置	ⅡD 7 f	
検出状況・重複関係	V層		検出状況・重複関係	V層		検出状況・重複関係	V層	
形状	平面形	円形	形状	平面形	円形	形状	平面形	円形
	断面形	皿状		断面形	皿状		断面形	皿状
規模	開口部径	131×120	規模	開口部径	147×129	規模	開口部径	138×129
	底部径	122×94		底部径	124×104		底部径	97×92
	深さ	35		深さ	29		深さ	42
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積		埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積		埋土	V層系褐色シルト主体、不自然、人為による堆積	
底面	V層、やや東側に傾斜		底面	V層、やや東側に傾斜		底面	V層、やや東側に傾斜	
出土遺物			出土遺物			出土遺物	不掲載あり	

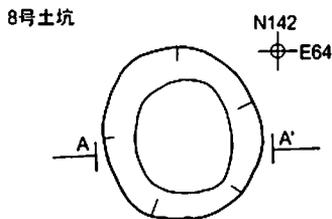
遺構名	43号土坑		遺構名	44号土坑		遺構名	45号土坑	
図版	遺構 31	遺物 -	図版	遺構 31	遺物 -	図版	遺構 31	遺物 -
写真図版	遺構 19	遺物 -	写真図版	遺構 19	遺物 -	写真図版	遺構 19	遺物 -
位置	ⅡD 10 b		位置	ⅡD 5 g		位置	ⅡD 4 g	
検出状況・重複関係	Ⅳ層		検出状況・重複関係	V層、45号土坑と類似		検出状況・重複関係	Ⅳ層、44号土坑に類似	
形状	平面形	方形	形状	平面形	方形	形状	平面形	方形
	断面形	皿状		断面形	皿状		断面形	皿状
規模	開口部径	198×156	規模	開口部径	170×164	規模	開口部径	177×163
	底部径	163×98		底部径	143×139		底部径	157×139
	深さ	30		深さ	45		深さ	34
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積		埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、土粒が多く不自然、人為による堆積か		埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、土粒が多く不自然、人為による堆積か	
底面	V層、平坦		底面	Ⅵ層、平坦		底面	Ⅵ層、平坦	
出土遺物	不掲載あり		出土遺物			出土遺物		



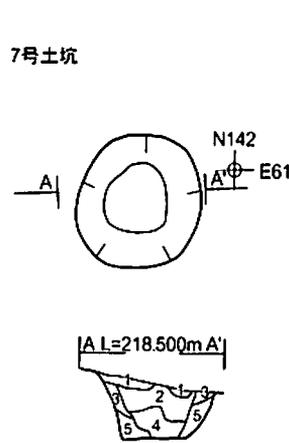
第22図 1~4号土坑



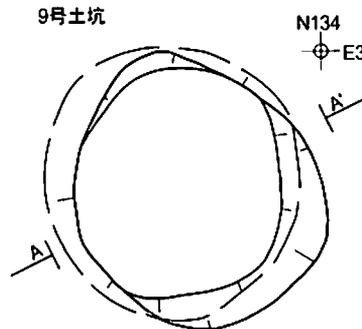
- 5号土坑
- 10YR3/3暗褐色シルトTo-Ch2%含む
粘性弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルトTo-Ch2%含む
粘性中 しまりやや弱
 - 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 To-Ch1%含む
粘性弱 しまり弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト60%と10YR3/3暗褐色シルト40%の混合土 To-Ch1%含む
粘性弱 しまり弱
 - 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 To-Ch2%含む
粘性弱 しまり弱
 - 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ1~2cm)5%含む To-Ch3%含む
粘性やや強 しまり中
 - 8層とほぼ同じ 黄褐色土の割合が大きい
 - 10YR3/3暗褐色粘質シルト To-Ch1%未測含む
粘性やや強 しまり弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR6/6明黄褐色VI層系シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 6層に同じ



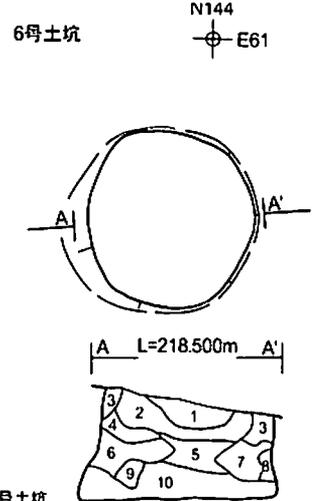
- 8号土坑
- 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch1%未測含む
粘性弱 しまり弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト(崩落土)
粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック(φ3~4cm)1%含む To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック(φ4~5cm)1%含む To-Ch1%未測含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 To-Ch1%含む
粘性中 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/2黒褐色粘質シルトの混合土 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトブロック(φ2~3cm)1%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトブロック1%含む
To-Ch1%未測含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
To-Ch1%未測含む 粘性弱 しまり中



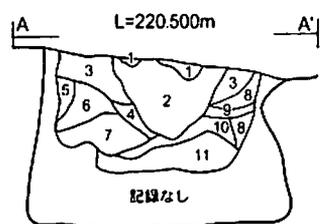
- 7号土坑
- 10YR2/3黒褐色シルト To-Ch1%含む
粘性中 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック(φ5cm)1%含む To-Ch2%含む 粘性弱 しまりやや強
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ2~3cm)5%含む To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色砂質シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ1~2cm)3%含む To-Ch1%未測含む
粘性やや弱 しまりやや強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR3/2黒褐色砂質シルト10%含む To-Ch1%含む
粘性やや弱 しまりやや強



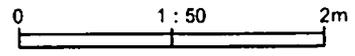
- 9号土坑
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土 草木根多い
粘性弱 しまりやや強
 - 10YR2/1黒色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトまばらに1%含む To-Ch全体にうすく7%含む 炭化物粒(φ5~10mm)2%含む 草木根多い 粘性中 しまり強
 - 10YR4/2灰黄褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 To-Ch2%含む
草木根多い 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色砂質シルトまばらに1%含む To-Ch3%含む
草木根多い 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルトと10YR2/2黒褐色粘質シルトの混合土 To-Ch2%含む
粘性強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%未測含む
(崩落土) 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 To-Ch3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルト To-Ch2%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 To-Ch2%含む
粘性やや弱 しまり中
 - 10YR2/1黒色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む To-Ch3%含む
粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色粘質シルトの混合土 To-Ch2%含む
炭化物粒(φ1~2cm)1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合土 10YR2/1黒色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR6/6明黄褐色VI層系シルトそれぞれまばらに3%含む
炭化物粒(φ1cm)1%含む To-Ch局所的に1%含む 粘性やや強 しまりやや強



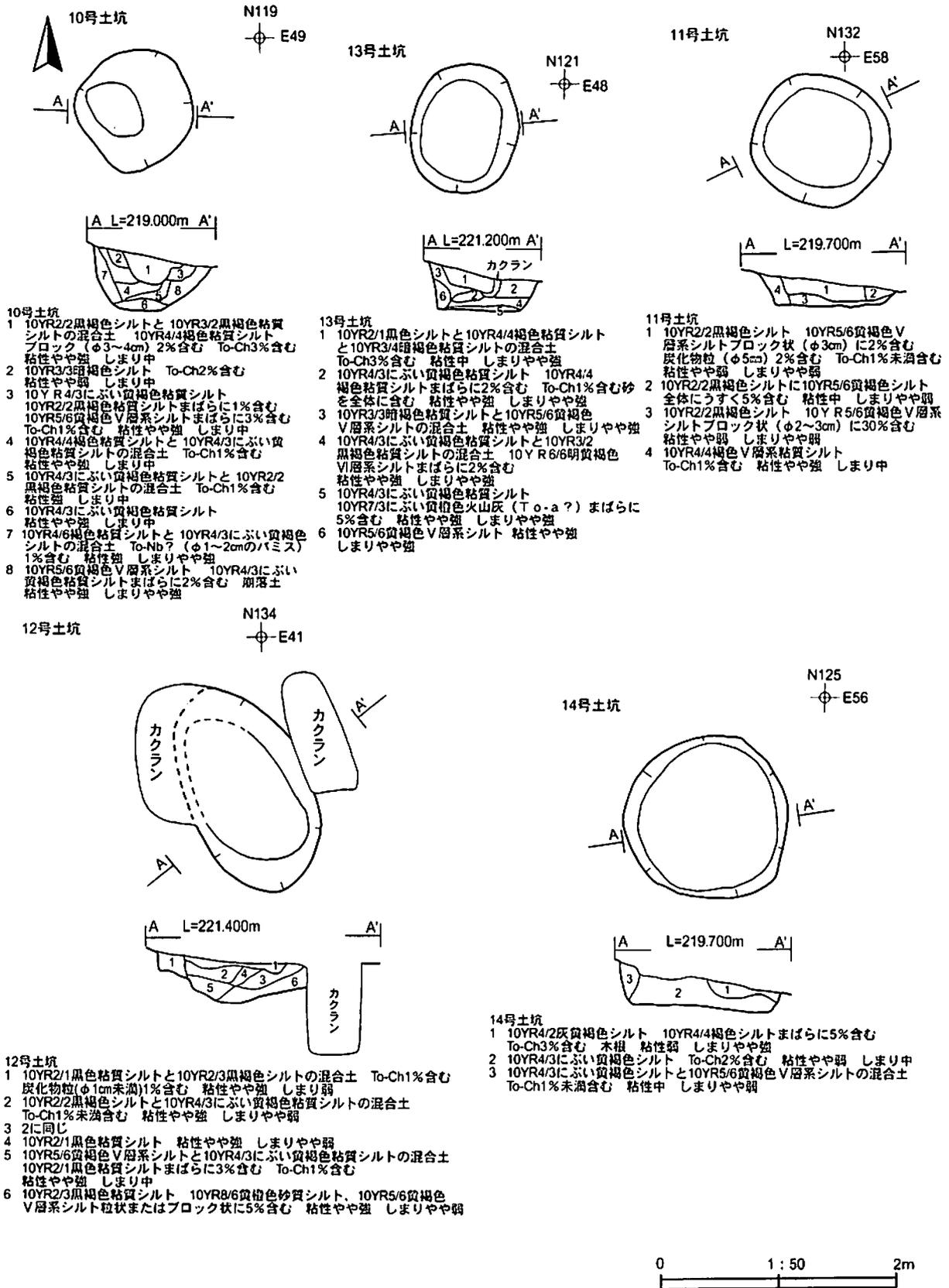
- 6号土坑
- 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色砂質シルト3%含む To-Ch1%含む
粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/4暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトV層系5%含む To-Ch5%含む
粘性弱 しまりやや強
 - 10YR4/4褐色シルトと10YR5/6黄褐色系シルトの混合土 To-Ch1%含む
粘性弱 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルト10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック(φ3cm)1%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR3/4暗褐色粘質シルト To-Ch1%含む
粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR3/4暗褐色粘質シルト10%含む
粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR3/4暗褐色粘質シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト3%含む To-Ch2%含む
粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR3/3暗褐色粘質シルトと10YR6/6明黄褐色VI層系シルトの混合土
粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土
粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルト
粘性弱 しまり中



- 9号土坑
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土 草木根多い
粘性弱 しまりやや強
 - 10YR2/1黒色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトまばらに1%含む To-Ch全体にうすく7%含む 炭化物粒(φ5~10mm)2%含む 草木根多い 粘性中 しまり強
 - 10YR4/2灰黄褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 To-Ch2%含む
草木根多い 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色砂質シルトまばらに1%含む To-Ch3%含む
草木根多い 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルトと10YR2/2黒褐色粘質シルトの混合土 To-Ch2%含む
粘性強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%未測含む
(崩落土) 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 To-Ch3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルト To-Ch2%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 To-Ch2%含む
粘性やや弱 しまり中
 - 10YR2/1黒色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む To-Ch3%含む
粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色粘質シルトの混合土 To-Ch2%含む
炭化物粒(φ1~2cm)1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合土 10YR2/1黒色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR6/6明黄褐色VI層系シルトそれぞれまばらに3%含む
炭化物粒(φ1cm)1%含む To-Ch局所的に1%含む 粘性やや強 しまりやや強



第23図 5~9号土坑



- 10号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色粘質シルトの混合土 10YR4/4褐色粘質シルトブロック (φ3~4cm) 2%含む To-Ch3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR2/2黒褐色粘質シルトまばらに1%含む 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに3%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR2/2黒褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性強 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/6褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 To-Nb? (φ1~2cmのパミス) 1%含む 粘性強 しまりやや強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトまばらに2%含む 崩落土 粘性やや強 しまりやや弱

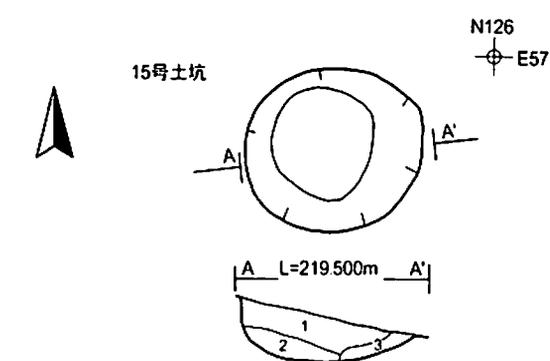
- 13号土坑
- 10YR2/1黒色シルトと10YR4/4褐色粘質シルトと10YR3/4暗褐色粘質シルトの混合土 To-Ch3%含む 粘性中 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR4/4褐色粘質シルトまばらに2%含む To-Ch1%含む砂を全体に含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR3/3暗褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR3/2黒褐色粘質シルトの混合土 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトまばらに2%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR7/3にぶい黄褐色火山灰 (T o-a ?) まばらに5%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまりやや強

- 11号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック状 (φ3cm) に2%含む 炭化物粒 (φ5mm) 2%含む To-Ch1%未測含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルトに10YR5/6黄褐色シルト全体にうすく5%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック状 (φ2~3cm) に30%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/4褐色V層系粘質シルト To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中

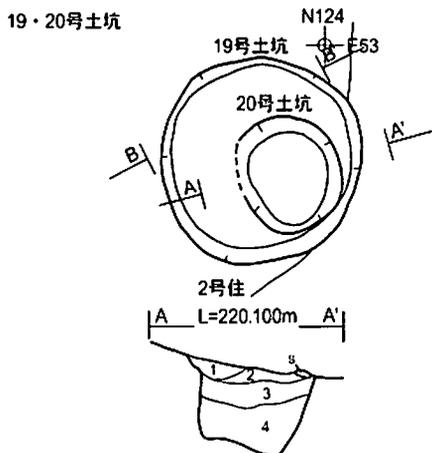
- 12号土坑
- 10YR2/1黒色粘質シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 炭化物粒 (φ1cm未満) 1%含む 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%未測含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 2に同じ
 - 10YR2/1黒色粘質シルト 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土 10YR2/1黒色粘質シルトまばらに3%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/3黒褐色粘質シルト 10YR8/6黄褐色砂質シルト、10YR5/6黄褐色V層系シルト粒状またはブロック状に5%含む 粘性やや強 しまりやや弱

- 14号土坑
- 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR4/4褐色シルトまばらに5%含む To-Ch3%含む 木屑 粘性弱 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 To-Ch1%未測含む 粘性中 しまりやや弱

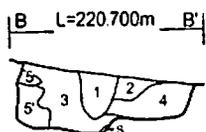
第24図 10~14号土坑



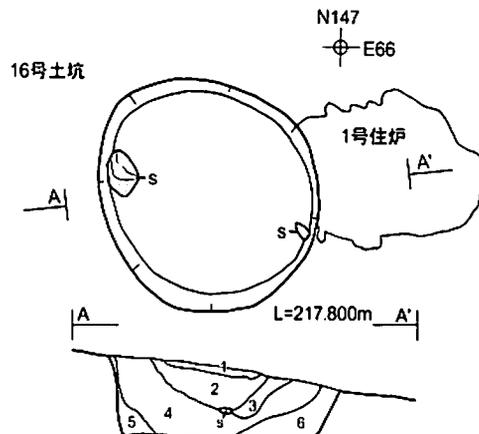
- 15号土坑
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト To-Ch2%含む To-Nb?1%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに20%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや弱 しまり中



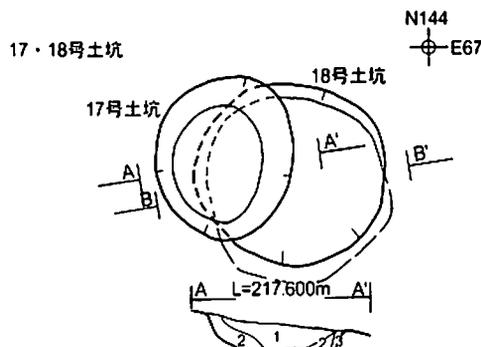
- 19・20号土坑
- 20号土坑
- 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック(φ3cm)2%含む 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト粒1%含む 小石1%含む 粘性弱 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色V層系シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土 小礫1%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1~2cm)3%含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルトと2.5Y R VI/4にぶい黄色VI層系粘質シルトの混合土 粘性やや強 しまり弱



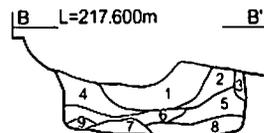
- 19号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色V層系シルト全体にうすく1%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色粘質シルトと10YR3/4暗褐色シルト全体にまばらに1%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 小石1%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに2%含む 崩落土 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに10%含む 崩落土 粘性やや強 しまりやや弱



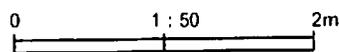
- 16号土坑
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 木屑含む 表土 粘性やや弱 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに2%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 炭化物粒(極小)1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR1.7/1黒色シルト 炭化物粒(φ1cm)3%含む To-Ch全体にうすく1%未滴含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト60%と10YR2/1黒色シルト40%の混合土 小礫1%含む 崩落土 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR2/1黒色シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト粒状に5%含む 崩落土 炭化物粒(φ1cm)2%含む 粘性やや強 しまりやや弱



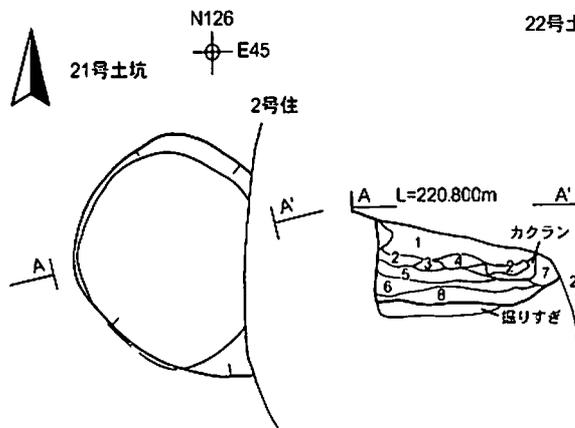
- 17・18号土坑
- 17号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%未滴含む 炭化物粒(φ1cm以下)1%含む木屑含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト全体にうすく5%含む To-Ch1%未滴含む 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色地山起源シルト 10YR2/2黒褐色シルト全体にうすく5%含む To-Ch1%未滴含む 粘性やや強 しまり中



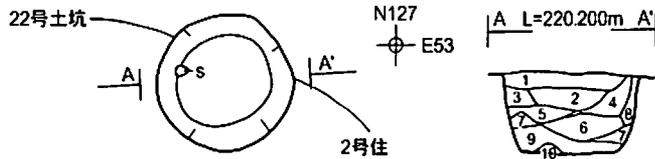
- 18号土坑
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルトブロック(φ3~4cm)10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系粘質シルトまばらに3%含む 10Y R 4/4褐色シルトV層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒(φ5mm)粘性やや強 しまり中
 - 4層に10YR1.7/1黒色粘質シルトまばらに3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 角礫(φ4~5cm)を含む 粘性やや弱 しまり弱
 - 10YR2/2黒褐色粘質シルト 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルトブロック(φ3cm)1%含む 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR4/4褐色V層系シルトまばらに2%含む 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR2/3黒褐色粘質シルト 粘性やや強 しまりやや弱



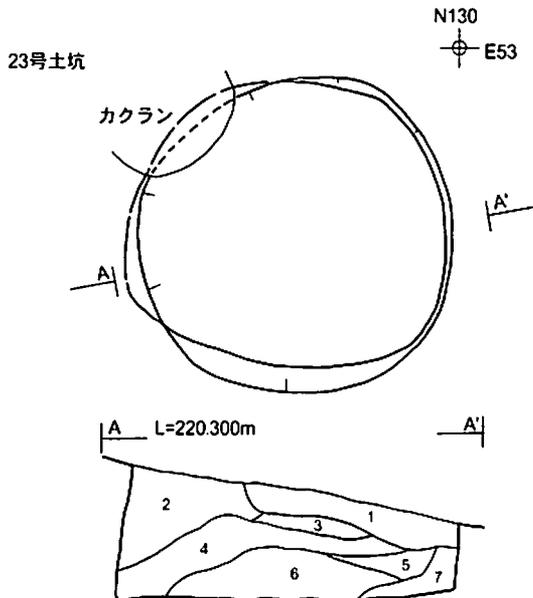
第25図 15~20号土坑



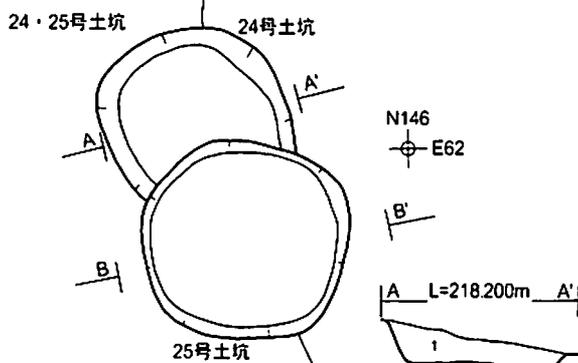
- 21号土坑
- 10YR2/3黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR6/6明黄褐色V層系シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに20%含む 粘性強 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱
 - 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト 粘性強 しまりやや強
 - 10YR4/2灰黄褐色粘土 グライ化 粘性強 しまり強
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱



- 22号土坑
- 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 To-Nb?2%含む 粘性弱 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色VI層系砂質シルトの粒状塊 To-Nb?5%含む 小礫10%含む 粘性弱 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト5%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルトが粒状に混合 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性中 しまりやや強
 - 6に類似 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR4/4褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 小礫3%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 6に類似 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱



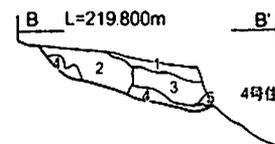
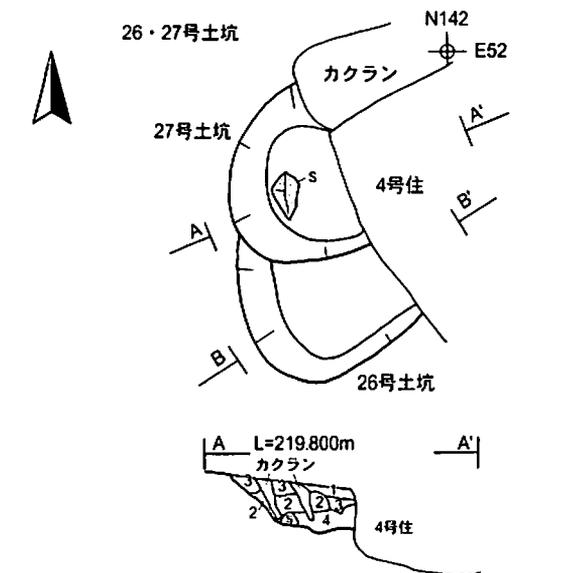
- 23号土坑
- 10YR5/8黄褐色V層系シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに5%含む小礫(φ1~2cm)5%含む 粘性弱 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/8黄褐色V層系シルト粒(φ1~5cm)5%含む 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1~2cm)3%含む 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルト粒5%、10YR5/8黄褐色V層系シルト粒5%、10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト粒5%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒10%、10YR5/8黄褐色V層系シルト粒10%、10YR3/2黒褐色シルト粒10%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト、10YR5/8黄褐色V層系シルト、10YR5/4にぶい黄褐色シルト細粒状に混合 粘性やや強 しまりやや弱
 - 2層に同じ
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/8黄褐色V層系シルト粒(φ5~10mm)3%含む 10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒(φ5~10mm)3%含む 炭化物粒(φ2~3cm)3%含む 粘性やや強 しまり弱



- 24号土坑
- 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト 全体にまばらに3%含む炭化物粒(φ5~10mm)3%含む To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまり中

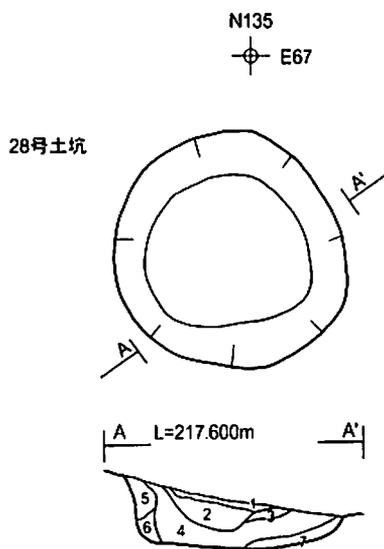
- 25号土坑
- 10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 炭化物粒(φ1cm)4%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土 炭化物粒1%含む To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 2層に10YR2/1黒色粘質シルトをまばらに2%含む
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに10%含む To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色シルト10%、10YR3/2黒褐色シルト10%、10YR4/3にぶい黄褐色シルト80%の混合土 To-Ch2%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR5/6黄褐色シルト80%、10YR3/2黒褐色シルト10%、10YR4/3にぶい黄褐色シルト10%の混合土 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR2/1黒色粘質シルトをまばらに2%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト 粘性強 しまりやや強

第26図 21~25号土坑

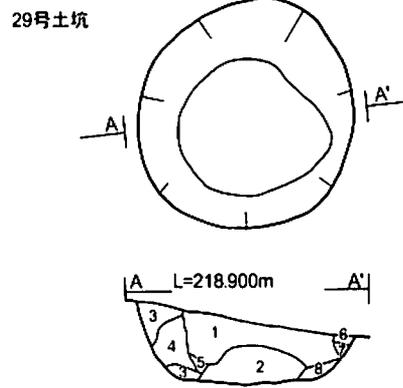


- 26号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR4/6褐色V層系シルトまばらに10%含む 炭化物粒(φ5mm以下)1%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに5%含む 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ5~10mm)1%含む 炭化物粒(φ5mm以下)1%未滿含む To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまり弱

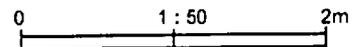
- 27号土坑
- 10YR2/1黒色粘質シルト 10YR4/4褐色シルトまばらに3%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに1%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR2/3黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土 10YR4/4褐色シルトまばらに3%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱



- 28号土坑
- 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色シルト 全体にうすく1層の黄褐色シルト2%混入 炭化物粒(φ5mm以下)1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色シルト 1層の黄褐色シル全体にまばらに5%含む 粘性中 しまり弱
 - 10YR3/2黒褐色粘質シルト 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系粘質シルト底面近く中心にまばらに3%含む 粘性強 しまりやや強
 - 10YR4/6褐色V層系粘質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粘質シルト全体にまばらに5%含む 粘性やや強 しまりやや強
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系粘質シルトブロック1%含む 粘性やや強 しまり中



- 29号土坑
- 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR5/4にぶい黄褐色V層系シルト 10YR3/3暗褐色シルトまばらに20%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 To-Ch1%未滿含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/3暗褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに5%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 10YR5/6黄褐色V層系シルト20%、10YR4/3にぶい黄褐色シルト80%の混合土 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR4/4褐色V層系シルト To-Ch1%含む (崩落土) 粘性中 しまりやや強
 - 10YR2/3黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまりやや強

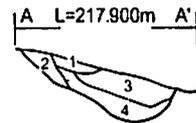
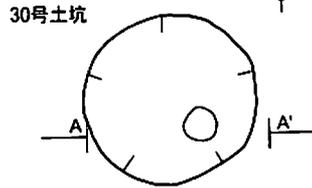


第27図 26~29号土坑



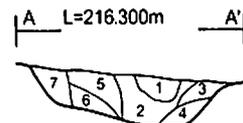
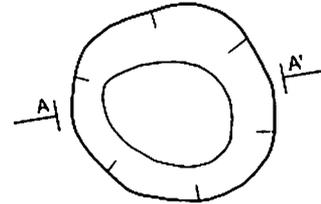
N151
E77

N134
E66



- 30号土坑
- 10YR4/2灰黄褐色シルト 細かい草根を多く含む 表土 粘性中 しまり弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルト まばらに10%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまりやや強
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトブロック(φ2~5mm)5%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱

31号土坑

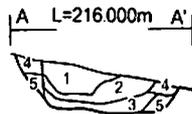
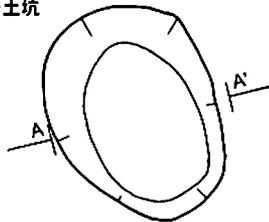


- 31号土坑
- 10YR2/1黒色シルト To-Ch1%含む 粘性弱 しまりやや弱
 - 10YR2/3黒褐色シルト 10YR4/4褐色シルトまばらに5%含む To-Ch2%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/8黄褐色V層系シルトの混合土 崩落土 粘性弱 しまりやや弱
 - 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに2%、10YR6/6明黄褐色VI層系シルトブロック(φ3cm)2%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土 To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/4褐色粘質シルト 粘性強 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり中

N143
E77

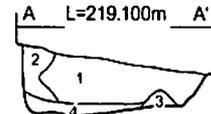
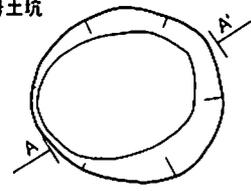
N139
E58

32号土坑



- 32号土坑
- 10YR2/1黒色シルト 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR3/2黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト粒(φ1cm以下)2%含む 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR2/2黒褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり弱
 - 10YR3/3暗褐色シルト 上位に5層土5%含む 粘性やや強 しまりやや強

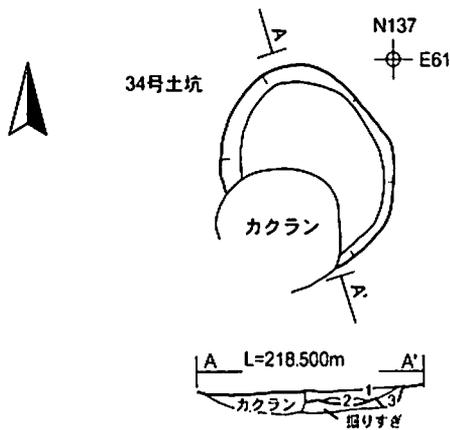
33号土坑



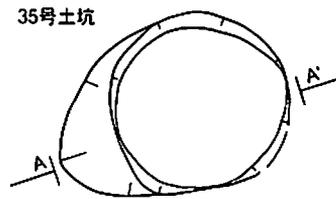
- 33号土坑
- 10YR3/2黒褐色シルト 10YR6/8明黄褐色VI層系シルトブロック(φ5cm)1%含む 10YR4/4褐色粘質シルトまばらに5%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR4/4褐色粘質シルトの混合土 To-Ch1%未滿含む 粘性やや強 しまり中
 - 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまり弱
 - 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト 粘性やや強 しまり中

0 1:50 2m

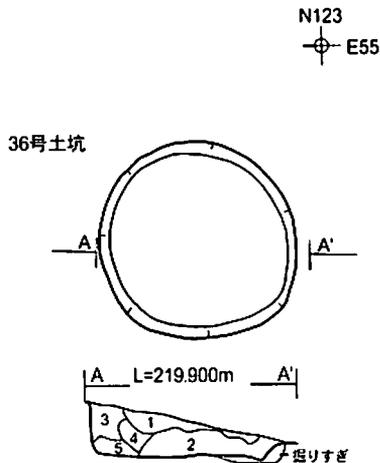
第28図 30~33号土坑



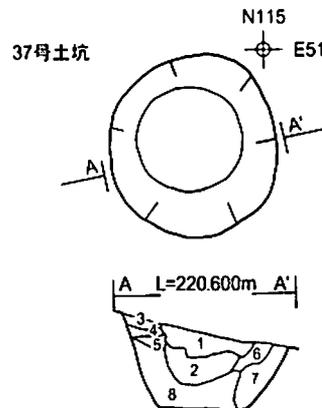
- 34号土坑
- 1 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 2 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ1cm以下)の混合土 粘性やや強 しまりやや弱
 - 3 10YR2/2黒褐色シルト10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに20%含む 粘性やや強 しまり中



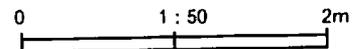
- 35号土坑
- 1 10YR5/6黄褐色V層系シルトまたは10YR6/6明黄褐色VI層系シルト 粘性やや強 しまりやや強
 - 2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト (To-Ch1%含む) 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらにそれぞれ10%含む 粘性中 しまり中
 - 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ2cm以下) 10%含む 粘性中 しまりやや弱
 - 4 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱
 - 5 10YR2/3黒褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒と10YR5/6黄褐色V層系シルト(φ1cm)、それぞれ5%含む 粘性やや強 しまりやや弱



- 36号土坑
- 1 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
 - 2 10YR3/3暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒(φ5mm)1%未滴含む 粘性やや強 しまり中
 - 3 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR6/6明黄褐色VI層系シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱
 - 4 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色V層系シルトまばらに7%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 5 10YR3/3暗褐色シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト全体にうすく3%含む 粘性やや強 しまり中



- 37号土坑
- 1 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR2/3黒褐色粘質シルトまばらに10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
 - 2 10YR2/3黒褐色粘質シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 3 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
 - 4 10YR5/4にぶい黄褐色VI層系シルト 粘性やや強 しまりやや弱
 - 5 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
 - 6 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR3/4暗褐色シルトまばらに5%含む 粘性やや弱 しまり中
 - 7 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色V層系シルトの混合土 粘性強 しまりやや弱
 - 8 10YR4/4褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色V層系シルト20%含む 粘性強 しまり中

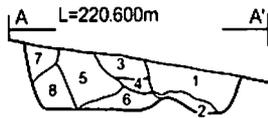
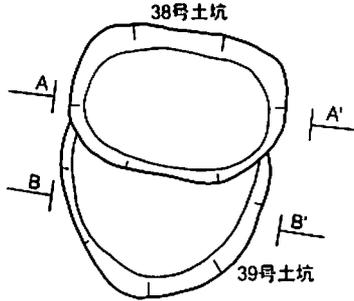


第29図 34~37号土坑

38・39号土坑

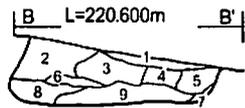
N122
E51

N141
E46



38号土坑

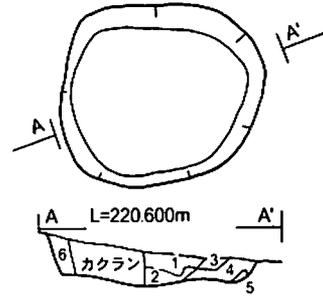
- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒 (φ1~2cm)5%含む 粘性中 しまり中
- 2 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトと10YR5/6黄褐色5層系シルトの混合土 10YR3/3暗褐色シルトまばらに10%含む 粘性やや強 しまり中
- 3 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルト粒、10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1~2cm)それぞれ5%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 4 10YR3/3暗褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒 (φ5mm)3%含む 粘性中 しまりやや弱
- 5 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトまばらに3%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまりやや弱
- 6 10YR3/4暗褐色粘質シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトまばらに5%含む 粘性強 しまりやや弱
- 7 10YR5/6黄褐色5層系シルト70%と10YR3/4暗褐色シルト30%の混合土 粘性やや強 しまり中
- 8 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトの混合土 粘性やや強 しまり弱



39号土坑

- 1 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック (φ2~5cm) 3%含む To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトブロック (φ1~2cm) 2%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまりやや強
- 3 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトと10YR5/8黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまり強
- 4 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまりやや弱
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや強
- 6 10YR2/3黒褐色シルト 粘性やや強 しまり中
- 7 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む 粘性やや強 しまり中
- 8 10YR3/4暗褐色粘質シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトまばらに5%含む 粘性やや強 しまり中
- 9 10YR2/3黒褐色粘質シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒 (φ1~3cm) まばらに10%含む 粘性やや強 しまり中

40号土坑

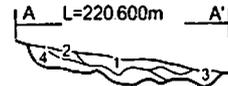
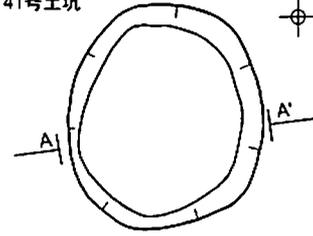


40号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色5層系シルト粒(φ5~10mm) 3%含む To-Ch1%未満含む 粘性中 しまりやや弱
- 3 10YR2/3黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含むTo-Ch1%未満含む 粘性やや強 しまり中
- 4 10YR3/4暗褐色粘質シルト 10YR2/3黒褐色シルトまばらに5%含む 10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック(φ5cm)3%含む 粘性やや強 しまり中
- 5 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまり中
- 6 10YR5/8黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中

41号土坑

N142
E48

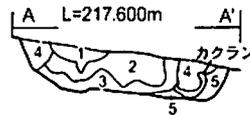
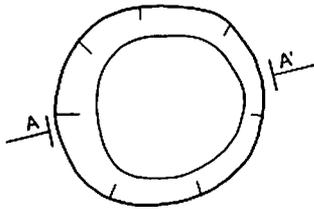


41号土坑

- 1 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに3%含む 10YR3/3暗褐色粘質シルトまばらに10%含む To-Ch2%含む 粘性やや強 しまりやや強
- 2 10YR3/3暗褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり中
- 3 10YR4/2灰黄褐色粘土 グライ化 粘性強 しまり強
- 4 10YR3/3暗褐色粘質シルト To-Ch1%含む 粘性強 しまり強

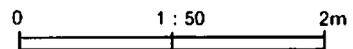
42号土坑

N142
E67

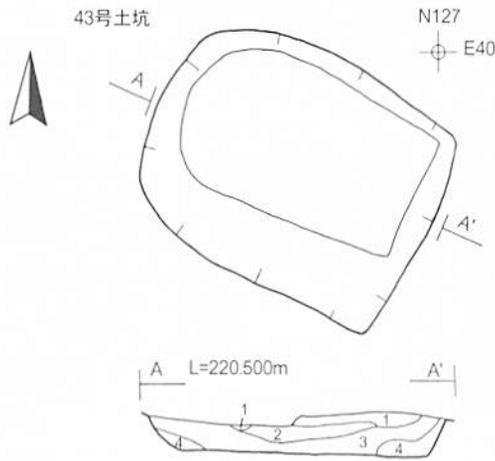


42号土坑

- 1 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch1%含む 小石(1~3cm) 2%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 2 10YR4/4褐色粘質シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト、10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルトまばらにそれぞれ5%含む 粘性やや強 しまり弱
- 3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色シルトまばらに10%含む 炭化物粒(φ5~10mm) 2%含む 粘性やや強 しまり弱
- 4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱
- 5 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまり中

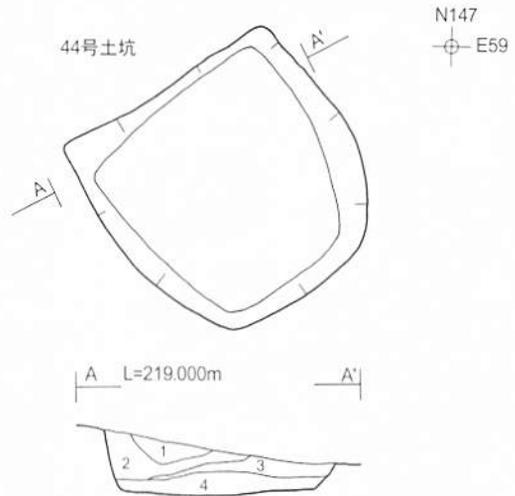


第30図 38~42号土坑



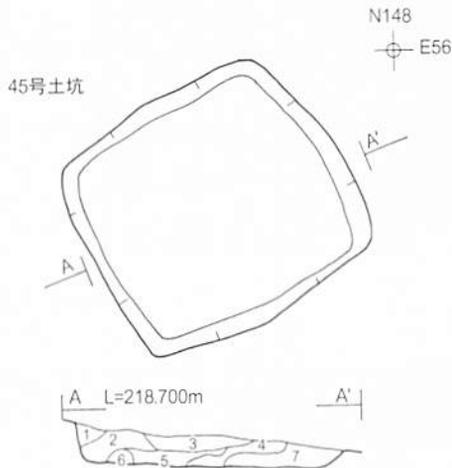
43号土坑

- 1 10YR2/3黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック状(φ2~5cm)2%含む 粘性弱 しまり弱
- 2 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
- 3 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒(φ1~2cm)1%含む 粘性やや弱 しまり弱
- 4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性弱 しまりやや弱



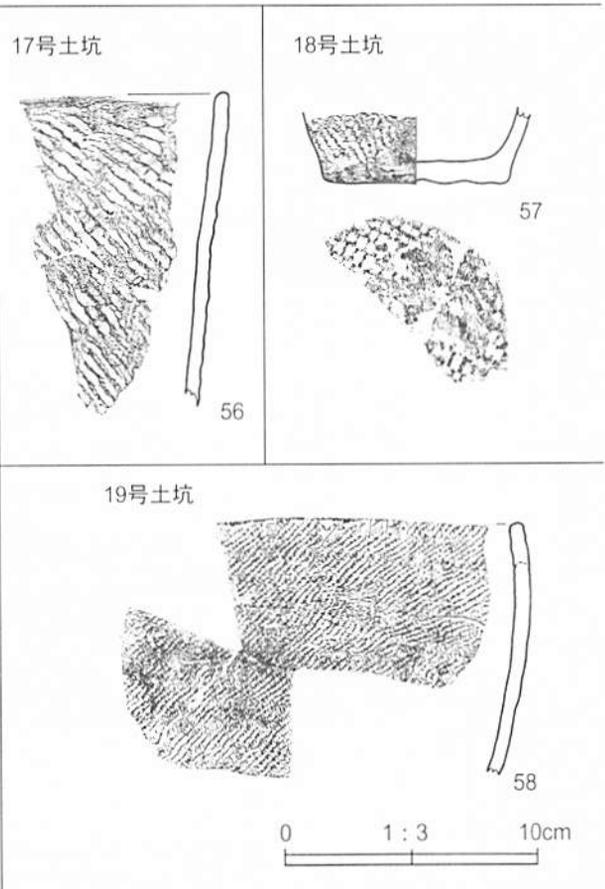
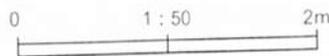
44号土坑

- 1 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト全体にまばらに5%含む 粘性弱 しまり弱
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 小礫1%含む 炭化物粒(φ10mm)1%含む 粘性中 しまりやや弱
- 3 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒状に5%含む 炭化物粒(φ5mm)1%含む 粘性中 しまりやや弱
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト粒と10YR2/1黒色シルト粒1%含む 粘性中 しまりやや弱

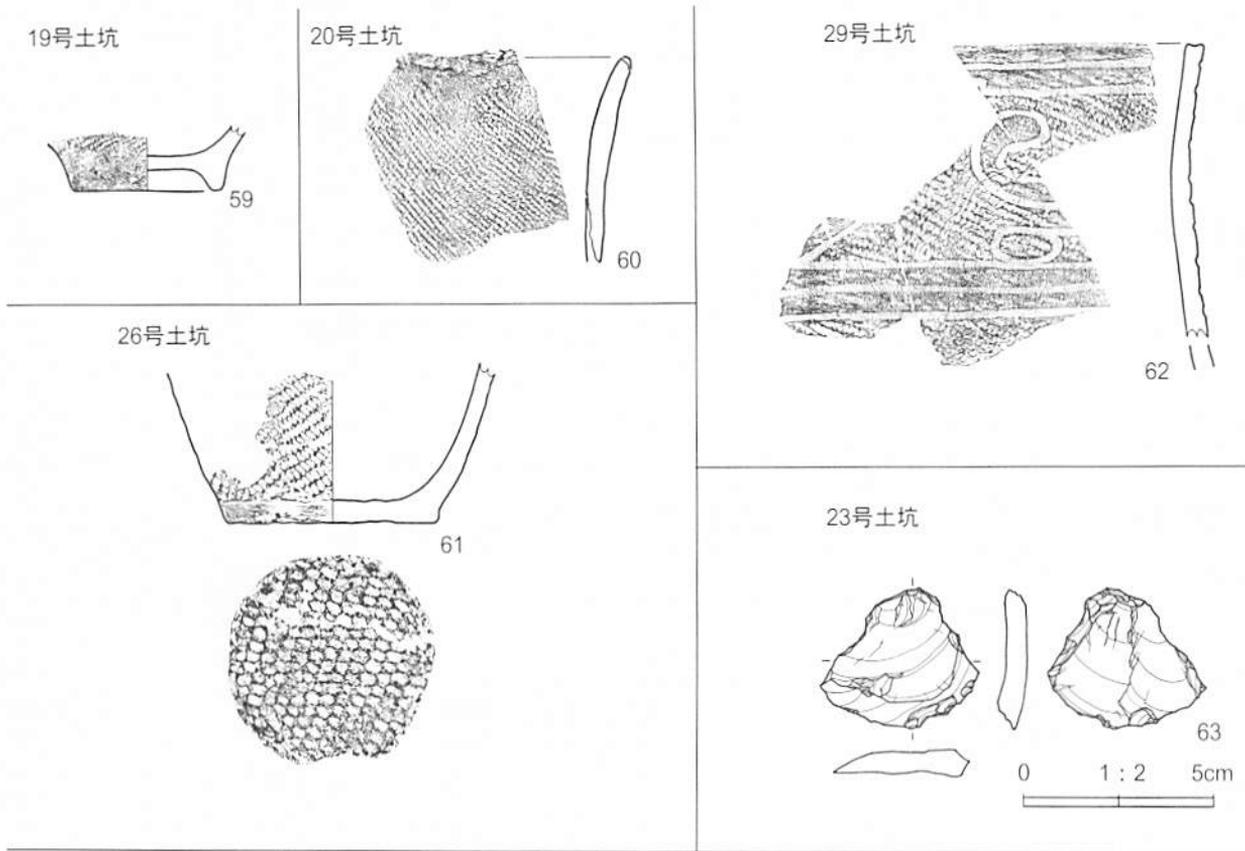


45号土坑

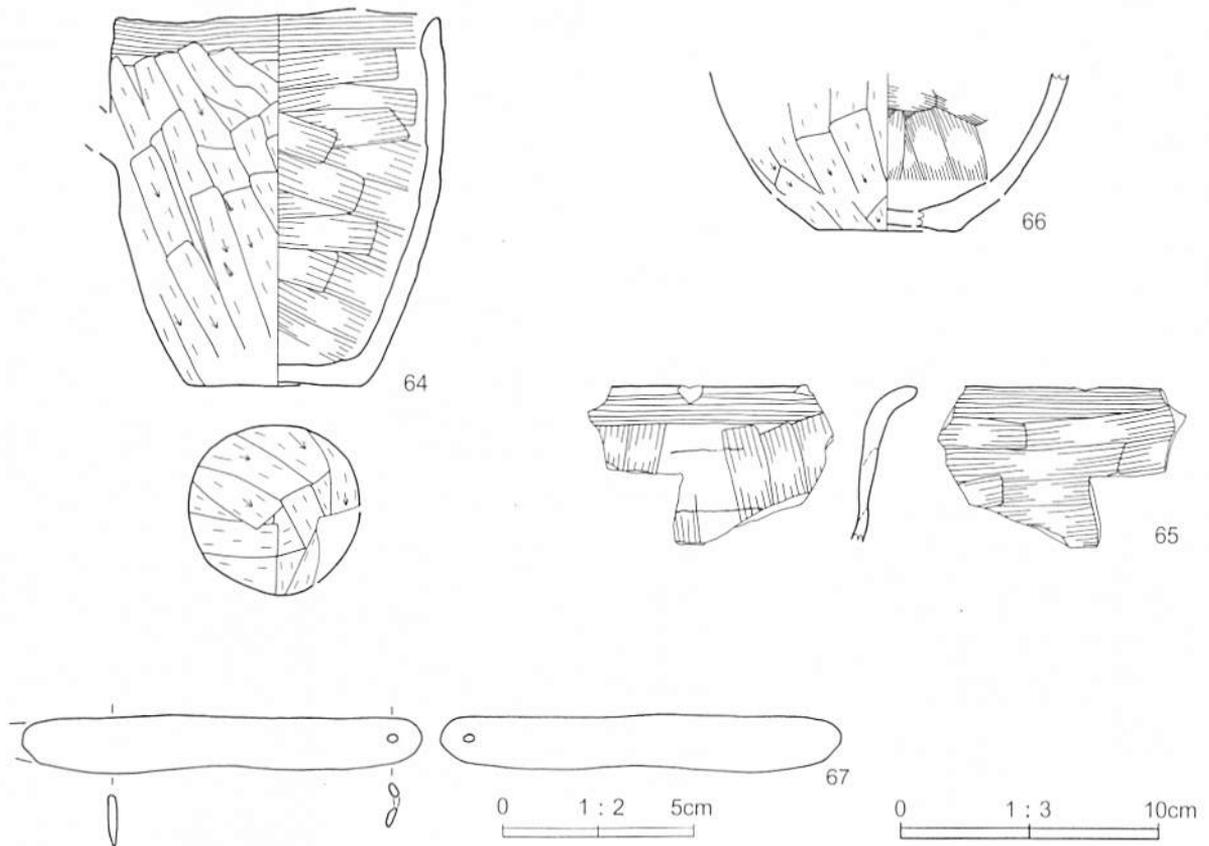
- 1 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色VI層系シルトブロック状(φ1~5cm)の混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
- 2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1cm以下)10%、10YR2/2黒褐色シルト粒(φ2cm以下)5%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 3 10YR3/2黒褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1cm以下)5%、10YR2/2黒褐色シルト粒(φ2cm以下)5%含む 炭化物粒(φ2cm以下)1%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルト粒3%、10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒5%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
- 5 10YR3/2黒褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルト粒5%、10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ5mm)3%含む 粘性やや強 しまり中
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ5mm)3%、10YR2/2黒褐色シルト粒(φ5mm)3%含む 粘性やや弱 しまり中
- 7 10YR4/4褐色粘質シルト 10YR2/2黒褐色シルト粒(φ5mm)2% 10YR6/3にぶい黄褐色VI層系シルト粒(φ1cm以下)1%含む 粘性やや強 しまりやや弱



第31図 43~45号土坑・土坑出土遺物



1号集石烧土遗構



第32图 土坑·1号集石烧土遺構出土遺物

(2) 平安時代

1号集石焼土遺構（第23図、写真図版20）

〈位置〉調査区北部、縄文竪穴住居跡と重複、ⅡD4「グリッド」に位置する。

〈検出状況〉表土除去後、1号竪穴住居跡から5号竪穴住居跡へと続く黒～黒褐色の不整プランの中に、被熱した脆い礫の集合が確認された。当初はこの住居跡に伴う炉跡と判断し精査を進めたが、1号竪穴住居精査中さらに礫範囲が広がり、密集していることが判明した。礫と覆土を取り除くと焼土が現れ、最大約9cmの厚さで形成されていた。焼土の周辺、内部の一部がレンガ状に硬化していた。集石範囲と焼土範囲の位置にずれがあるが、集石は一部現況表土でも観察されており、後世の削平・攪乱によって破壊されたためと考えられる。周辺および覆土から鉄製品や鉄滓、土師器片が出土したため、何らかの鍛冶施設であったことが推測されるが判然としない。壁と床はかろうじて1号竪穴住居跡の埋土断面で確認できただけで、建物としての平面プランは把握できなかった。

〈規模・形状〉建物全体としてのプランは不明であるが、断面から推測するに、およそ310×540cmの広がりであったと思われる。石の集合は150×120cmの広がりを持ち、原形は何かしら整形されていたと推測されるが、残存形は不整である。焼土は145×62cmの広がり、熱の伝わり方の違いのためと思われるが不整形である。

〈埋土〉1号竪穴住居跡との共用ベルトを参照していただきたい。Ⅲ層系の黒褐色シルトを主体として構成されている。礫の周囲から採取した土壌サンプルを磁石でより分けたところ磁鉄鉱が多く抽出された。

〈壁・床〉1号竪穴住居跡との共用ベルトで、本遺構の床面とした面ではやや傾いているので、実際は1号竪穴住居跡の床面と同じくらいであったのかもしれない。壁はやや外傾して立ち上がるようである。

〈遺物〉（第24図、写真図版26の64～70）

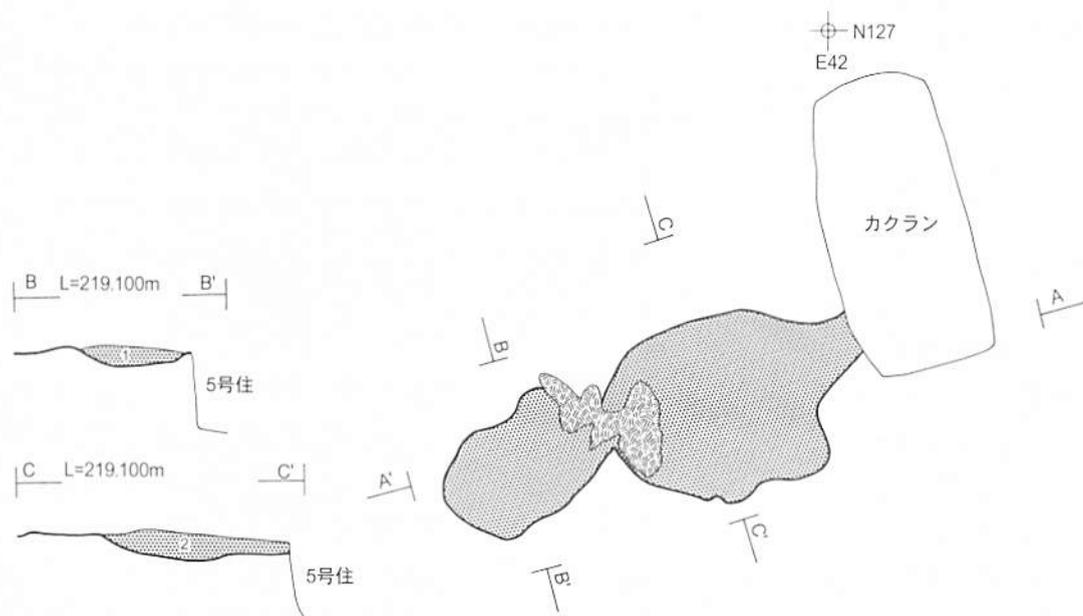
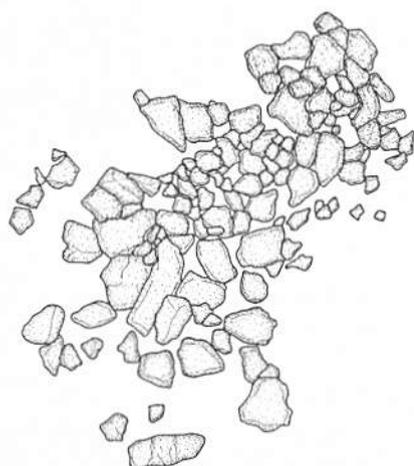
前述したように、4号竪穴住居跡と混同して精査をしたので、遺物も混交していた。出土層位・地点から判断して、明らかに本遺構に属すると思われる遺物を7点掲載した。

土器 64は把手付き甕と考えられる。把手と思われる部分から口縁部まで欠失しており、形状は不明である。痕跡は片手だけである。東北10世紀後半から11世紀にかけて増加する器形で、秋田県のはりま館遺跡の報告に事例が見られる。一戸町内の上野遺跡でも平安時代の遺物として把手付鉢が出土している。65は土師器甕の口縁部片である。66同じく土師器甕の胴～底部片である。

鉄製品・他 67は基部に貫通孔のある刀子である。68～69は周辺から出土した鉄滓である。鍛冶鉄滓である可能性が高い。

〈時期〉出土遺物から平安時代のものと考えられる。

⊕ N127
E42



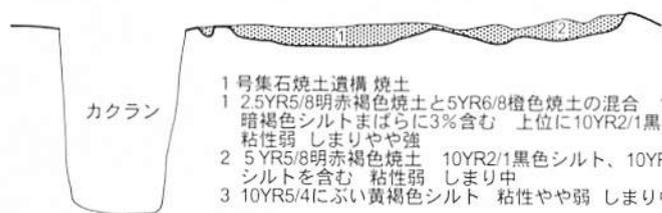
B L=219.100m B'



C L=219.100m C'



A L=219.100m A'



- 1 号集石焼土遺構 焼土
- 1 2.5YR5/8明赤褐色焼土と5YR6/8橙色焼土の混合 10YR3/3 暗褐色シルトまばらに3%含む 上位に10YR2/1黒色シルト混じる 粘性弱 しまりやや強
- 2 5YR5/8明赤褐色焼土 10YR2/1黒色シルト、10YR3/3暗褐色シルトを含む 粘性弱 しまり中
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり中

0 1:25 4m

第33図 1号集石焼土遺構

5. 遺構外出土遺物（第35～37図、写真図版26～28）

仁昌寺Ⅲ遺跡の出土遺物の総量は2×32×30cmのコンテナで約4箱である。遺構外からは約2箱分の遺物が出土した。内訳は土器（縄文・弥生）、土製品、陶磁器、石器、銭貨である。本遺跡の遺構外出土遺物は多くが調査区北側の遺構集中域の表土～Ⅲ層中から出土している。

(1) 土器・土製品・陶磁器

① 縄文～弥生時代の土器

縄文～弥生時代の土器の総量は42×32×30cmのコンテナで約3箱である。その内遺構外からは2箱が出土した。遺構外で出土した遺物の多くは土器類で占められるが、完形や復元できる個体は少なく、大半は小破片であるため、全体像が分かる資料はほとんどない。資料の選定にあたっては、時期を特定できる個体を、該当する各時期を網羅するよう抽出した。資料数が僅少であるため、分類は行わず、時期ごとに特徴を述べるとどめた。出土地点はほぼ調査区全域から出土しているが、グリッドごとの遺物量を単純に集計・比較すると、遺構集中区に近づくにつれて出土量が多くなっている。時期別の量を比較すると、資料数が少ないため言及するのは適当でないかもしれないが、縄文時代中期後葉～末葉が多く、その他各期は少量である。

縄文時代：中期後葉に相当する土器群（71～75）

大木9式に相当する土器群で、5点を掲載した。いずれも深鉢で、71～74は口縁部片で、やや外反して立ち上がる器形である。75は胴部片である。いずれも縦方向への沈線区画と磨消縄文という特徴を持つ。71は地文に数条の曲線による沈線文が施されるのみで、他に比べ手法が簡略化された印象である。本群あるいは次群から派生した大木系の土器と考えて大過ないであろう。72は沈線頂部に刺突穴を持つ。

縄文時代：中期末葉に相当する土器群（76～78）

3点掲載した。いずれも深鉢形土器で76・77は口縁部片、78は胴部片である。76・78は曲線による沈線区画内に縄文が充填される。77は口縁部に橋状把手状の貼り付けが作られ、そのアーチのもとに円形刺突が施されている。大木10式に相当する土器群である。

縄文時代：後期前葉に相当する土器群（79～83）

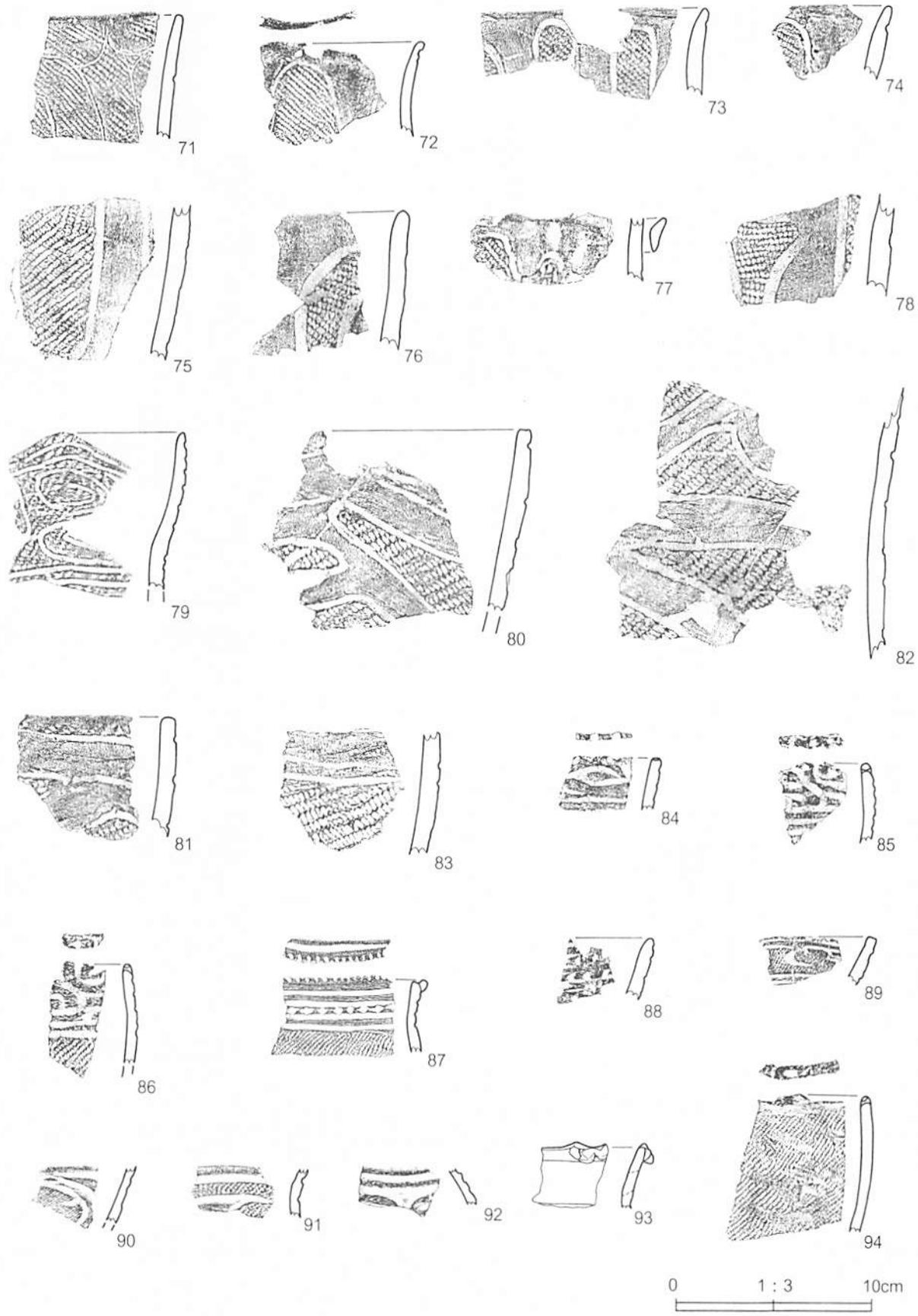
5点掲載した。79・80～83（同一個体）は深鉢片である。79は口縁部が大きな山形を呈し、渦巻状沈線文が描かれる。80～83は口縁部が大きな山形を呈し、胴部が蛇行状や三角形の沈線文と磨消縄文により施文されている。十腰内I式に相当する土器群である。

縄文時代：晩期に相当する土器群（84～94）

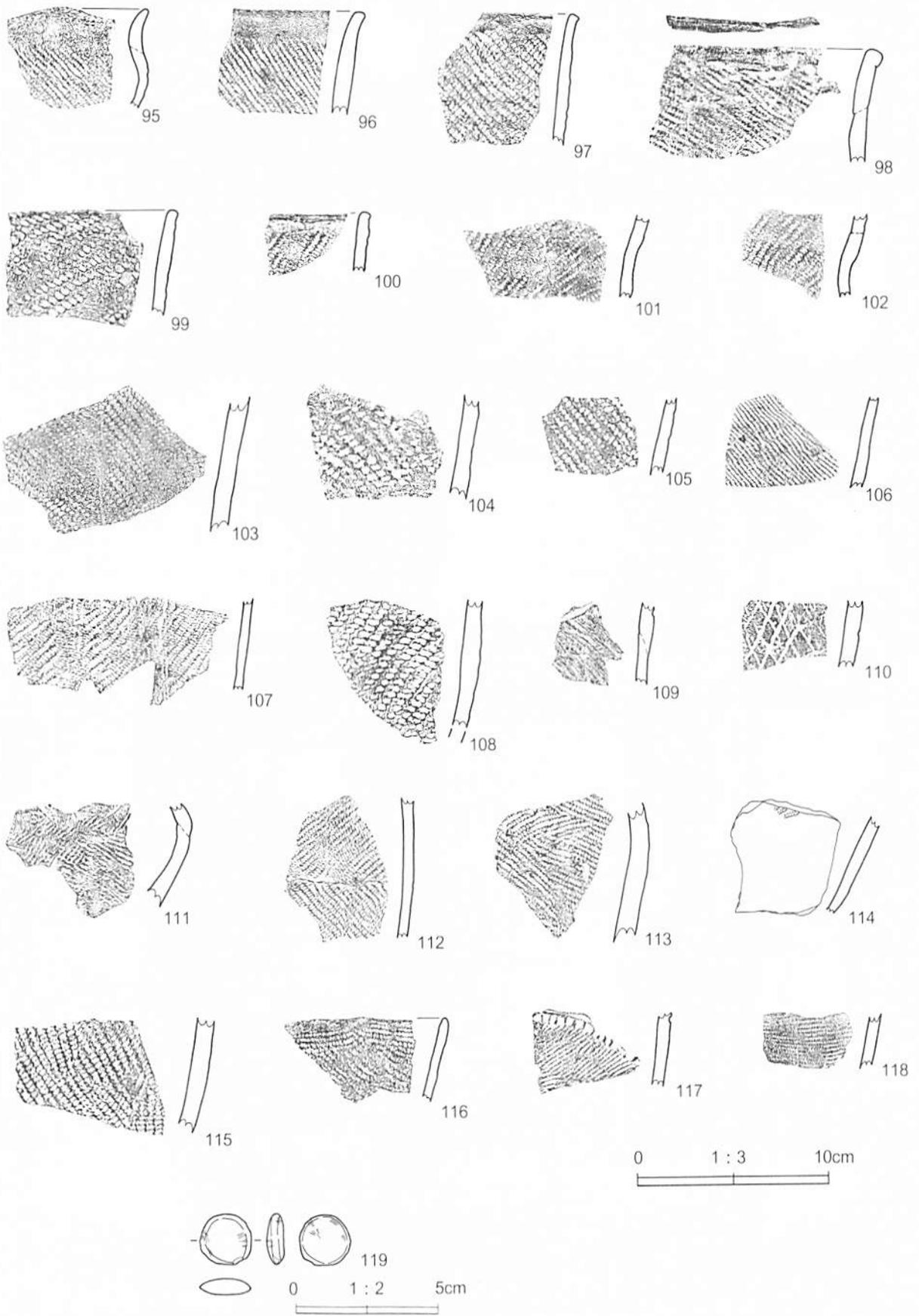
11点掲載した。84・86・94は深鉢形土器口縁部片、85・87～89・93は鉢形土器の口縁部片、90は同じく胴部片、91・92は壺形土器の肩部片である。84は小波状の口縁を呈し人組三叉文をもつ。85・86は口唇部に「B」字を横倒しした形状の小突起を持ち、口縁部は若干入り組んだ平行沈線が施されている。87は口唇部が階段状になっており、上段は鋸歯状の刻目が入る。口頭部は平行沈線とその間に刻みが巡る。88も同じく沈線間の刻みによる文様が施されている。89・90は雲形文状の文様をもつ。91・92は平行沈線文が施される。93は口唇部が肥厚し小突起が作られている。94は胴部から口唇部に向かい内湾する器形を呈し、口唇部に刺突痕をもつ小突起が貼り付けられている。概ね、大洞B～C₂式に相当する土器群である。

縄文時代：中期～晩期相当の粗製土器群（95～118）

器面に縄文のみを施す時期特定が困難な土器を21点掲載した。さらに細分可能であろうが、種類も個体数も過少のため一括してここに収めた。95・118は鉢形土器口縁部片、111はミニチュア形土器胴部片、96～100・116は深鉢形土器の口縁部片、101～110・112～115・117は深鉢胴部片である。原体の種類はL R・R



第34図 遺構外出土遺物（土器1）



第35图 遺構外出土遺物（土器2・土製品）

しともに縦位回転が多い。ほとんどは中期から後期の間に収まるものと思われる。118は弥生時代の土器の様相を呈すが、判然としないためここに加えた。

② 土製品 (119)

本来ここに分類するのが妥当なミニチュア形土器は土器項目で記述した。他に土製品として出土したものは119土おはじき状土製品1点のみである。直径約1.7cmの扁平な碁石状であるが、片面が平坦である。時代は不明であるが、類似品が出土する報告書に倣い、縄文時代に区分した。

③ 陶磁器 (120～128)

陶磁器の破片が調査区全域の表土～Ⅱ層から、42×32×10cmのコンテナで約半分量出土した。比較的古手のものを選定したが、すべて19C後半以降の近・現代に属するものである。したがって、参考までに代表的なものを9点写真と表のみで掲載した。

(2) 石器

石器の総量は42×32×30cmのコンテナ約1箱分で、剥片を除いた33点を登録した。内訳は、遺構内23点、遺構外10点である。点数が少ないため、ここでは、遺構内・外合わせて形態分類を行う。

① 剥片石器

石鏃、スクレイパー類、リタッチド・フレイクの3種が存在する。いずれも少数である。石材は130の瑪瑙以外すべて頁岩である。

石鏃 (54・129・130)

扁平で左右対称、尖頭部とそれよりは場の広い基部を有する小形の石器を石鏃とした。3点出土している。基部形態は、54が無茎凸、129が有茎、130が無茎凹形である。

スクレイパー類 (14・37・38・131)

側縁の2分の1以上に連続的な調整のあるものをスクレイパーとした。4点出土している。素材はすべて通常剥離で作出されており、37・38・131は縦長剥片、14は欠損のため、不明である。刃部角は37が47°と比較的鋭角を、14・131は65°以上と鈍角を呈する。38は素材末端部に幅約5mmの狭小刃部が形成され、刃部角は55°を測る。刃部からは37が削器的、他3点が搔器的といえる。

リタッチド・フレイク (1・39・50・63・132～136)

細部調整が行われた剥片で、定形的な刃部を持たないものを一括した。9点出土している。素材は不定形で、通常剥離と両極剥離の両者が存在する。

② 礫石器

磨製石斧、石錘、敲・磨石類、凹石、台石、その他の礫器が存在する。

磨製石斧 (15)

1点のみ。斑レイ岩製。刃部側が欠損している。一部に剥離調整痕が残る。平面形は撥形であったものと推定される。

石錘 (137)

1点のみ。デイサイト製。最大長6.8cmの小扁平礫を利用している。調整はごく僅かである。

敲・磨石類 (16～19・24・40・51・55)

「敲打」と「磨り」の痕跡が観察されるものを一括した。8点出土しており、素材はすべて円礫である。痕跡の種類・程度によって、

a : 敲打痕の顕著なもの (19・40・55)

b : 磨痕の顕著なもの (18・24・51)

c : 両者の混在するもの (16・17)

の3種に大別される。c種は表・裏両面が磨かれた後、平面中央に弱い敲打痕が入る。石材は砂岩(16・18・19)、石英安山岩(17)、安山岩(24・40・55)、閃緑岩(51)と多様である。

凹石 (41・42・138)

礫の平坦面に敲打による凹みが見られるものである。3点出土している。素材は42, 138が安山岩の円礫で、41は板状の角礫凝灰岩である。前者は表・裏両面とも使用されている。後者は被熱により変色しており、その後欠損している。

台石 (20・23・43)

大形礫の平坦面に磨痕や潰痕が観察されるものである。3点出土しており、いずれも安山岩で、23は棒状、20, 43は板状を呈する。20は使用後、炉石に転用されている。

その他の礫石器 (22)

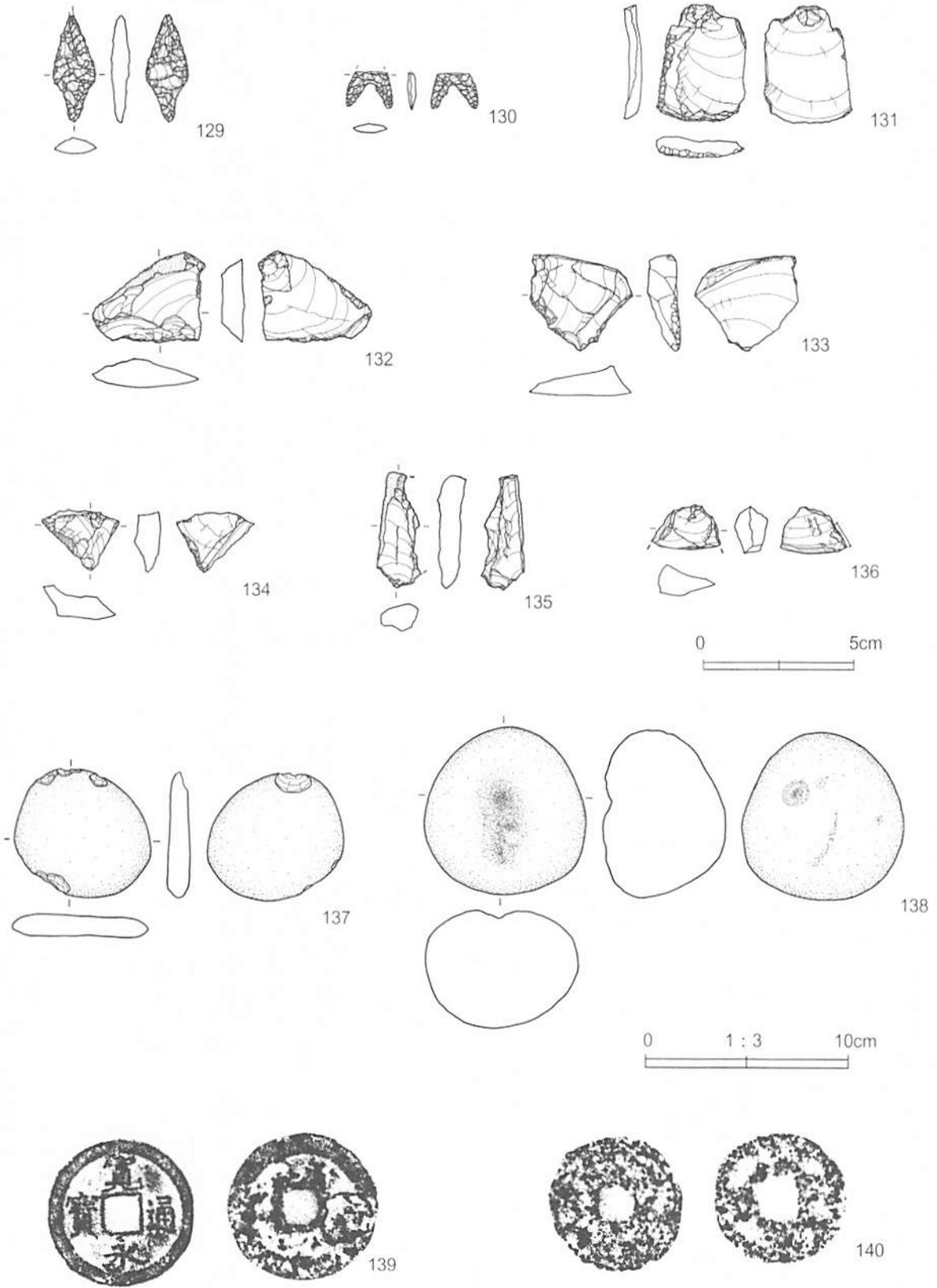
22は上記の種別に分類できない細部調整がある礫器である。石材は頁岩である。

(3) 錢貨 (139・140)

表土から2点出土している。139は寛永通寶で、新寛永である。140は鉄製で文字は何も書かれてない。

〈参考文献〉

- ・岩手県立博物館 1982 「岩手の土器一県内出土資料の集成一」
- ・大川清・鈴木公雄・工業普通 1996 「日本土器事典」
- ・秋田県教育委員会 1990 「はりま館遺跡発掘調査報告書」
- ・一戸町教育委員会 1994 「平成5年度一戸遺跡群詳細分布調査報告書」
「一戸の遺跡(IV)」一戸町文化財調査報告書第135集
- ・久慈市教育委員会 2001 「平沢I遺跡発掘調査報告書VI」久慈市埋蔵文化財調査報告書
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983 「小井田IV遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第69集
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 「平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第76集
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1985 「小井田Ⅲ遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第85集
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「上野遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第359集
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 「仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第400集
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 「柵の木遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第263集



第36図 遺構外出土遺物（石器・銭貨）

第2表 遺物観察表 (土器・ミニチュア形土器)

掲載 番号	撮影 番号	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写真
2	17	2号住跡	炉埋設	深鉢	口~胴	26.8	-	-22.9	L R縦	ナデ		中期粗製	9	21
3	18	2号住跡	炉前庭部	ミニチュア形土器	口~底	-	3.6	8.75	口縁部下端に横位に連続する工具刺突列、胴部横位連続曲線文、磨消縄文 (L R縦・横)	ナデ		大木10	9	21
4	21	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口~底	7	3.3	5.85	多方向のL R横	ミガキ	胎土に海面付針	中期粗製	9	21
5	37	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口~底	2.7	2.2	(5.1)	胴部上端「く」の字に肥厚し、口縁部再び内傾、肥厚部に小形の穿孔列が巡る、胴部は細沈線による曲線的な区画文をもち、内部にL R縄文が縦位に施文される、磨消縄文			大木9	9	21
6	19	2号住跡	床直	深鉢	口~底	(25.0)	-	-26.4	R L横	ミガキ	一部赤色	中期粗製	9	21
7	22	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口~底	-	(4.1)	5.3	L R縦	ミガキ		中期粗製	9	21
8	20	2号住跡	埋土+床直	小形深鉢	口~底	(7.9)	2.8	8.6	波状口縁 (3単位?)、縦方向の沈線区画、磨消し縄文、L R縦	ミガキ		大木9	9	21
9	23	2号住跡	埋土下	深鉢	口~胴	-	-	-	口縁波状を呈し、上方で短く外反、沈線区画内L R、磨消縄文	ミガキ?		大木9	9	21
10	25	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	-	-	-	縦沈線区画、L R縦	ナデ	器面磨耗	大木9	9	21
11	26	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	-	-	-	L R縦、磨消縄文 (縦方向の沈線区画)	ナデ		大木9	9	21
12	27	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	-	-	-	L R縦	ナデ	砂粒含む	中期粗製	9	21
13	24	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	-	-	-	R L R縦、沈線区画	ナデ		大木10	9	21
21	28	3号住跡	床直	小形深鉢	胴~底	-	3.7	-5.3	縦方向の沈線区画、L R縦	ミガキ?	内外面炭化物付着	大木9	12	23
25	1	4号住跡	埋土上	壺形土器	完形	5.3	4.6	10.95	口縁部周縁に小形の穿孔列、U字とI字の組み合わせによる区画文、L R縦・横		内部に赤色顔料充填	大木9	15	23
26	2	4号住跡+16号土坑	埋土	小形深鉢	口~底	5.6	4.6	10.3	撚糸L	口縁裏側にも撚糸文、ナデ?		大木10	15	23
27	8	4号住跡	埋土	ミニチュア形土器	口	-	-	-	竹管による縦位の連続円形刺突文	粗雑なナデ		大木10?	15	23
28	3	4号住跡	埋土中	深鉢	口~胴	(15.0)	-	-	逆U字型の細沈線文、L R縦	ミガキ		大木9	15	23
29	4	4号住跡	埋土中	鉢形土器	胴	-	-	-	曲線の沈線区画、磨消し縄文、L R横・斜位	ミガキ	外面にタール状付着物	大木10	15	23
30	6	4号住跡	埋土中	壺	口	(10.8)	-	-8.0	ミガキ顕著	ミガキ	内面炭化物少量	後期	15	23
31	7	4号住跡	埋土中	壺?	口	-	-	-	内・外面赤色塗彩	ミガキ顕著		大木10?	15	23
32	9	4号住跡	埋土中	深鉢	口~胴	-	-	-	L R縦	ナデ		中期粗製	15	24
33	10	4号住跡	埋土中	深鉢	口~胴	-	-	-	R L縦	ナデ・ミガキ		中期粗製	15	24
34	12	4号住跡	埋土中	深鉢	胴~底	-	-6.1	7.0	底面ミガキ、L R縦	ミガキに近いナデ	胎土砂粒少量	中期粗製	16	24

* () : 推定値、- : 残存値

第2表 遺物観察表 (土器・ミニチュア形土器)

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
35	11	4・5号住跡+35号土坑	埋土	深鉢	胴~底	-	8.6	-22.3	L R縦	ミガキ		中期粗製	16	24
36	5	4号住跡	埋土中	深鉢	胴~底	-	9.4	-11.8	二重沈線の三角形区画、R L縦	ナデ	内面炭化物少量	十腰内 I	16	24
44	29	5号住跡	床直	深鉢	口~胴	-	-	-	口縁波状を呈し、上方で外反、二重沈線区画内磨消細文、L R縦	ミガキ		大木9	19	25
45	30	5号住跡	埋土上	深鉢	口~胴	-	-	-	口縁部外反、波状口縁、曲線の沈線区画内にR L縦施文、磨消細文	ミガキ		大木10?	19	25
46	34	5号住跡	埋土	小形深鉢	胴~底	-	3.35	-3.5	R L縦	ミガキ	底部内面下端部のみ黒色付着物あり	大木9	19	25
47	31	5号住跡	埋土	深鉢	口~胴	-	-	-	L R縦	ナデ?	外面炭化物少量	中期粗製	19	25
48	32	5号住跡	埋土	深鉢	口~胴	-	-	-	L R縦	ナデ?	外面炭化物付着	中期粗製	19	25
49	33	5号住跡	埋土	深鉢	胴~底	-	(6.25)	-5.1	L R縦	ミガキ	底部ミガキ	中期未粗製	19	25
52	35	6号住跡	覆土	深鉢	口~胴	-	-	-	L R縦	ミガキ		中期粗製	21	25
53	36	6号住跡	埋土	深鉢	胴	-	-	-	L R縦	ミガキ		中期粗製	21	25
56	38	17号土坑	埋土	深鉢	口~胴	-	-	-	無節L縦	ナデ、ミガキ?		中期粗製	31	25
57	42	18号土坑	埋土	深鉢	胴下~底	-	(7.4)	-2.7	底部網代痕、L R縦	ナデ	砂粒含む	後期	31	25
58	40	19号土坑	埋土	深鉢	口~胴	-	-	-	L R横	ナデ		後期粗製	31	25
59	41	19号土坑	埋土	深鉢	胴~底	-	5.8	-2.3	L R斜位、底部上げ底	ナデ		後期	32	25
60	39	20号土坑	埋土上	深鉢	口~胴	-	-	-	L R縦	ミガキに近いナデ		中期粗製	32	25
61	43	26号土坑	埋土	深鉢	胴下~底	-	8.2	-6.3	底部網代痕、L R縦	ナデ	粗砂含む	中~後期	32	25
62	78	29号土坑	埋土	深鉢	口~胴	-	-	-	平行沈線、フック状沈線、磨消細文、L R縦	ミガキ		十腰内 I	32	25
64	46	1号集・焼	覆土	土師器 把手付甕	口~底	(12.9)	6.9	14.8	〔口〕ヨコナデ〔胴〕ヘラケズリ 〔底〕ナデ	〔口〕ヨコナデ〔胴〕ヘラナデ	胎土粗砂多量	10C後半	32	26
65	45	1号集・焼	覆土	土師器 甕	口	-	-	-	〔口〕ヨコナデ〔胴〕ナデ	〔口〕ヨコナデ〔胴〕		平安時代	32	26
66	44	1号集・焼	覆土	土師器 甕	胴~底	-	5.6	-6.3	〔胴〕ヘラケズリ	ナデ〔胴〕ヘラナデ		平安時代	32	26
71	63	II D 4 g	表~II	深鉢	口~胴	-	-	-	沈線、L縦	ミガキに近いナデ		大木9	34	26
72	54	II C 6 f	表土	深鉢	口	-	-	-	口縁やや外反、波状口縁、沈線頂部に刺突、逆U字の沈線区画内L R縦、磨消細文	ミガキ		大木9	34	26
73	70	II D 6 b	II~III	深鉢	口~胴	-	-	-	口縁わずかに外反、縦方向の沈線区画、磨消細文、L R縦	ナデ?		大木9	34	26
74	95	III D 2 d	II	深鉢	口	-	-	-	縦方向の沈線区画、磨消細文、L R縦	ミガキ		大木9	34	26

* () : 推定値、- : 残存値

第2表 遺物観察表 (土器・ミニチュア形土器)

掲載 番号	撮影 番号	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
75	71	ⅡD6c	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	胴	-	-	-	縦方向の沈線区画、磨消細文、RL縦	ナデ		大木9	34	26
76	73	ⅡD6e	表~Ⅱ	深鉢	口~胴	-	-	-	沈線区画内LR縦、磨消細文	ミガキに近いナデ		大木10	34	26
77	75	ⅡD7d	表土	深鉢	口	-	-	-	橋状把手、円形刺突、沈線区画内LR縦	ミガキ?		大木10	34	26
78	76	ⅡD8d	表~Ⅱ	深鉢	胴	-	-	-	沈線、LR斜位	ナデ		大木10	34	26
79	68	ⅡD6b	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	口~胴	-	-	-	山形口縁、蛇行状沈線、RL縦	ナデ		十腰内I	34	26
80	80	ⅡD9e	表~Ⅱ 上	深鉢	口~胴	-	-	-	山形口縁状、蛇行状沈線文、磨消細文、RL縦	ミガキ	81~83と同一個体	十腰内I	34	26
81	84	ⅡD9e	表~Ⅱ 上	深鉢	口~胴	-	-	-	蛇行状沈線文、磨消細文、RL縦	ミガキ	80・82・83と同一個体	十腰内I	34	26
82	79	ⅡD9e	表~Ⅱ 上	深鉢	胴	-	-	-	三角状区画文、蛇行状沈線、磨消細文、RL縦	ミガキ	80・81・83と同一個体	十腰内I	34	26
83	81	ⅡD9e	表~Ⅱ 上	深鉢	胴	-	-	-	平行沈線、磨消細文、RL縦	ミガキ	80~82と同一個体	十腰内I	34	27
84	52	ⅡB6j	表~Ⅱ	深鉢?	口~胴	-	-	-	小波状口縁、入組三叉文	ミガキ?		晩期	34	27
85	57	ⅡC7a	Ⅱ	鉢形土器	口	-	-	-	口唇部に二個一対の小突起、平行沈線	ミガキ		晩期	34	27
86	58	ⅡC9b	表~Ⅱ	深鉢	口	-	-	-	口唇部二個一対の小突起、平行沈線、LR横	ミガキ		晩期	34	27
87	51	ⅠD10d	表~Ⅱ	鉢形土器	口	-	-	-	口唇部鋸歯状刻目、口頸部刺突列、平行沈線、RL縦、裏側に沈線状の段	ミガキ		晩期	34	27
88	88	ⅢB3g	表土	鉢形土器	口	-	-	-	羊歯状文?		摩滅激しい	晩期	34	27
89	87	ⅢB3g	表土	鉢形土器	口	-	-	-	雲形文状の文様、RL縦?	ミガキ		晩期	34	27
90	72	ⅡD6c	表~Ⅱ 上	鉢形土器	胴上	-	-	-	雲形文状の文様をもつ、LR横?	ミガキ?		晩期	34	27
91	93	ⅠD10b	表土	壺?	肩?	-	-	-	平行沈線、LR横	ミガキ?	外面赤色塗彩	晩期	34	27
92	59	ⅡC9b	表~Ⅱ	壺?	肩	-	-	-	平行沈線	ミガキ		晩期	34	27
93	94	ⅠD10b	表土	鉢形土器	口	-	-	-	口唇部肥厚、小突起	ミガキ		晩期	34	27
94	55	ⅡC6f	表土	深鉢	口	-	-	-	粘土貼付による小突起、LR横	ナデ		晩期	34	27
95	67	ⅡD6a	表~Ⅱ	鉢形土器	口~胴	-	-	-	口縁部波状を呈し、胴部は膨らみを持ち、頸部ですぼまり、口縁が反する、LR縦	ミガキ		中期粗製	35	27
96	86	ⅡD10c	表~Ⅱ	深鉢	口~胴	-	-	-	LR縦	ミガキ		中期粗製	35	27
97	83	ⅡD9e	Ⅱ	深鉢	口~胴	-	-	-	LR縦	ナデ		中期粗製	35	27
98	61	ⅡD3d	表~Ⅱ	深鉢	口	-	-	-	LR縦	ナデ	器面磨耗、胎土砂粒含む、内面炭化物付着	中期粗製	35	27
99	65	ⅡD6a	表~Ⅱ	深鉢	口	-	-	-	RL縦	ミガキ	内外面炭化物付着	中期粗製	35	27
100	14	ⅠD10c	Ⅲ層	深鉢	口	-	-	-	RL縦	ミガキに近いナデ	101・102と同一個体	中期粗製	35	27

* () : 推定値、- : 残存値

第2表 遺物観察表 (土器・ミニチュア形土器)

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写真
101	16	ID10c	Ⅲ層	深鉢	胴	-	-	-	RL縦	ミガキ	100・102と同一個体	中期粗製	35	27
102	13	ID10c	Ⅲ層	深鉢	胴	-	-	-	RL縦	ミガキに近いナデ	100・101と同一個体	中期粗製	35	27
103	62	IID4a	表~Ⅱ	深鉢	胴	-	-	-	LR縦	摩耗により不明	胎土粗砂含む	中期粗製	35	27
104	82	IID9e	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	胴	-	-	-	LR縦	ナデ	器面磨耗、胎土砂粒含む	中期粗製	35	27
105	91	III C1f	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	胴	-	-	-	LR縦	ナデ	胎土砂粒少量含む	中期粗製	35	27
106	15	ID10c	Ⅲ層	深鉢	胴	-	-	-	LR縦	ミガキ		中期粗製	35	27
107	60	IID2e	Ⅲ下	深鉢	胴	-	-	-	RL縦	ミガキに近いナデ	胎土粗砂少量含む	中期粗製	35	27
108	66	IID6a	表~Ⅱ	深鉢	胴	-	-	-	RL縦	ミガキに近いナデ		中期粗製	35	27
109	64	IID4g	表~Ⅱ	深鉢	胴	-	-	-	絡条体、L燃糸文、沈線	ミガキ		中期?	35	27
110	77	IID9d	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	胴	-	-	-	網目状燃糸文 (RI)	ナデ?		中末~後初	35	27
111	85	IID9g	表土	ミニチュア形土器	胴~底	-	-	-	(Lr) 細回転文	ナデ		後期?	35	27
112	53	IIB6i	表~Ⅱ	深鉢	胴	-	-	-	羽状細文 (LR/RL)	ミガキ		後期?	35	27
113	74	IID7c	表~Ⅱ上	深鉢	胴	-	-	-	羽状細文	ナデ?		後期?	35	27
114	89	IIIB4c	表土	深鉢	胴下~底	-	-	-	ミガキ、R横?	ミガキ	内面炭化物付着	後期	35	27
115	92	IID3e	表~Ⅱ上	深鉢	体	-	-	-	RL横?	ナデ	外面に炭化物付着、胎土砂粒混入	後期?	35	27
116	69	IID6b	表土	深鉢	口	-	-	-	LR/RL	ナデ		後中~後	35	27
117	56	II C6f	表土	深鉢	胴	-	-	-	沈線に沿う刺突列、前々段多条 (LRI)	ナデ		後中~後	35	27
118	90	IIIB4c	表土	鉢形土器?	胴	-	-	-	LR斜+磨消	ミガキに近いナデ		弥生?	35	27

第3表 遺物観察表 (土製品)

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	時代	図版	写真
119	96	ID10d	表~Ⅱ	おはじき状土製品	1.75	1.85	0.60	1.57	片面が扁平	縄文時代	35	27

* () : 推定値、- : 残存値

第4表 遺物観察表(陶磁器)

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	文様等の特徴	備考	時期	図版	写真
120	55	ⅡD9g	表~Ⅱ	白磁、小杯			19C後半以降	-	28
121	56	ⅡD9g	表~Ⅱ	白磁・染付け、小杯				-	28
122	57	ⅡB3g	表土	白磁・染付け、皿	生焼け			-	28
123	53	不明	表土	白磁・染付け、鉢	端反り、口紅	124と同一個体、肥前系		-	28
124	51	ⅡC97a	Ⅱ~Ⅲ	白磁・染付け、鉢	蛇の目高台	123と同一個体、肥前系		-	28
125	52	不明	表下~Ⅱ	染付け、鉢	蛇の目高台	肥前系		-	28
126	50	ⅠD9e	表下	陶器・天目釉、鉢		美濃系		-	28
127	58	ⅢA3i	表土	陶器・皿				-	28
128	59	ⅡD7c	表~Ⅱ	陶器・皿		目あと		-	28

第5表 遺物観察表(鉄製品・鉄滓・銭貨)

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	時期	図版	写真
67	60	1号集・焼	暗褐色土層	刀子	10.5	1.5	0.25	13.7	基部穿孔あり	平安時代?	32	26
68	61	2号集・焼	暗褐色土層	鉄滓	7.1	4.5	3.0	43.3			-	26
69	62	3号集・焼	暗褐色土層	鉄滓	5.5	4.7	3.4	58.0			-	26
70	63	1号集・焼付近	暗褐色土層	鉄滓	6.3	4.9	3.0	85.1			-	26
139	65	ⅡD7c	表~Ⅱ上	寛永通宝	2.5	2.5	0.2	3.8	新寛永		36	28
140	67	ⅡD7b	表~Ⅱ	不明	2.3	2.3	0.3	2.8	無文字	不明	36	28

* () : 推定値、- : 残存値

第6表 遺物観察表(石器)

掲載 番号	撮影 番号	出土地点	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	図版	写真
1	4	1号住跡	埋土	Rフレ	2.80	2.60	0.75	3.9	頁岩(北上山地)		2	22
14	5	2号住跡	埋土下位	スクレイパー類(石器)	2.75	3.40	0.75	5.8	頁岩(北上山地)		10	22
15	27	2号住跡	床直	磨製石斧	(9.10)	4.40	3.10	211.2	斑レイ岩(北上山地)	刃部側欠損	10	22
16	26	2号住跡	床直	敲・磨石類c	8.30	7.40	3.50	294.9	砂岩(北上山地)	両面に敲打・磨痕	10	22
17	29	2号住跡	炉前庭部内	敲・磨石類c	8.50	7.70	4.00	357.6	石英安山岩(北上山地)	全面に磨痕、両面に敲打痕	10	22
18	30	2号住跡	床直	敲・磨石類b	11.30	9.25	5.65	833.3	砂岩(北上山地)	両面磨痕	10	22
19	28	2号住跡	床直	敲・磨石類a	11.50	8.15	5.50	710	砂岩(北上山地)	片面に弱い敲打痕	10	22
20	25	2号住跡	炉構成礎	台石	474.00	527.00	63.00	14000	安山岩(奥羽山脈)	写真のみ掲載	-	22
22	32	3号住跡	床直	細部調整のある礫 石器	16.40	12.90	3.20	770.3	頁岩(北上山地)		12	23
23	33	3号住跡	床直	台石	22.60	10.65	8.85	2900.9	安山岩(奥羽山脈)	棒状、一端に潰痕	12	23
24	31	3号住跡pp5	埋土	敲・磨石類b	12.18	10.70	6.80	1175.1	安山岩(奥羽山脈)	写真のみ掲載	-	23
37	1	4号住跡	埋土	スクレイパー類(石器)	4.25	2.80	0.85	11.5	頁岩(北上山地)		16	24
38	2	4号住跡	床直	スクレイパー類(石器)	6.30	2.20	0.90	7.4	頁岩(北上山地)		16	24
39	10	4号住跡	床直	Rフレ	3.70	5.75	1.6	28.2	頁岩(北上山地)		16	24
40	24	4号住跡pp4	埋土	敲・磨石類a	8.60	6.40	5.60	406.5	安山岩(奥羽山脈)		16	24
41	20	4号住跡	埋土	凹石	15.30	13.40	7.10	987.3	角礫凝灰岩(奥羽山脈)	被熱により一部変色、脆い、被熱後欠損	16	24
42	21	4号住跡	埋土	凹石	11.00	6.70	2.80	269.7	安山岩(奥羽山脈)	両面に凹み	17	24
43	23	4号住跡	埋土	台石	22.20	16.40	6.00	3200	安山岩(奥羽山脈)	磨痕範囲不明瞭	17	24
50	6	5号住跡	風倒木痕	Rフレ	2.50	2.65	0.20	2	頁岩(北上山地)		19	25
51	34	5号住跡	埋土	敲・磨石類b	14.20	8.30	7.00	1179.5	閃緑岩(北上山地)		19	25
54	7	6号住跡	炉内	石鏃	2.50	1.70	0.95	3	頁岩(北上山地)	基部無茎凸形	21	25
55	36	6号住跡	植物根痕	敲・磨石類a	9.80	8.30	8.10	895.6	安山岩(奥羽山脈)		21	25
63	8	25号土坑	埋土	Rフレ	3.65	4.15	0.75	9.8	頁岩(北上山地)		32	25
129	11	ⅡD7d	表下	石鏃	3.55	1.40	0.60	1.9	頁岩(北上山地)	基部有茎形、尖頭端部欠損	36	28
130	12	ⅡD7f	表~Ⅱ上	石鏃	(1.15)	1.55	0.30	0.4	メノウ(北上山地)	基部無茎凹型、上半部欠損	36	28
131	3	ⅡC10e	表~Ⅱ上	スクレイパー類 (石器)	3.85	2.90	0.60	5.6	頁岩(北上山地)		36	28
132	13	ⅡD8d	表~Ⅱ上	Rフレ	3.00	3.70	0.75	6.6	頁岩(北上山地)		36	28
133	14	ⅡD9c	表~Ⅱ上	Rフレ	3.10	0.95	1.00	9.2	頁岩(北上山地)		36	28
134	15	ⅡD10a	表~Ⅱ上	Rフレ	2.05	2.55	1.10	3.9	頁岩(北上山地)		36	28
135	16	ⅢC1e	Ib層	Rフレ	3.85	1.45	0.70	4.50	頁岩(北上山地)	上部欠損	36	28
136	9	ⅡD5e	埋土	Rフレ	1.50	2.30	0.90	2.85	頁岩(北上山地)	下部欠損	36	28
137	37	ⅡD7b	表~Ⅱ	石鏃	6.30	6.80	1.10	63.9	デイスイト(北上山地)	不整に調整	36	28
138	38	ⅡD9e	Ⅱ~Ⅲ	凹石	8.20	8.10	6.10	532.0	安山岩(奥羽山脈)		36	28

* (): 推定値、- : 残存値

6. まとめ

本稿では、仁昌寺Ⅲ遺跡の遺構・遺物の特徴を列記してまとめた。

(1) 遺構

検出された遺構は竪穴住居跡—6棟、土坑—45基、集石焼土遺構—1基である。本遺跡は平瀬川左岸にあたる東向きの丘陵緩斜面に立地する。現況は畑地・果樹園で、全域にわたり人工的な土地改変が行われ、全体的に残存状況が悪い。仁昌寺Ⅲ遺跡は縄文時代中期後葉～後期初頭に営まれた集落跡、平安時代頃の集石・焼土遺構の複合遺跡である。近隣に位置する仁昌寺・仁昌寺Ⅱ遺跡とほぼ同時期にあたる。

① 竪穴住居跡

〈分布〉6棟検出されているが、すべて調査区北側の緩やかな尾根状地形に沿って分布している。調査区外北側は小さな沢があるため、分布はさらに西側あるいは東側に広がりを持つと推測される。調査区中央～南部は緩やかな落ち込みとなっており、雨天時には沢状に水が流れるためここを避けて、水はけのよい尾根に沿って居住していたものと推測される。遺構は無く、遺物も少なかった。

〈規模・平面形〉検出数が少なく、規模・平面形はすべて残存形からの推測であるため断定はできないが、直径4m弱から5m超までの範囲に収まる円形あるいは楕円形というのが標準形のようなものである。

〈壁・床〉壁はやや外傾して立ち上がるものが多い。床はほとんどが平坦で部分的に硬化しているだけで壁溝や貼床は確認されなかった。

〈柱穴〉支柱穴については規則性を見出せるものが少なかった。多くが床を削平されているため、柱穴跡も削られて消失したのであろう。

〈炉〉検出した6棟中炉の跡を検出できたものは5棟である。そのうち石囲炉は3基、複式炉は2基である。複式炉は石組みだけで区画するものと土器埋設部を石で囲って区画するものがある。住居跡全体の規模と関係性は見られない。

〈時期〉遺構内から出土した遺物を見る限り、縄文時代中期後葉～末葉か若しくは後期初頭までの位置づけができるが、出土量が少ないので断定はできない。

② 土坑

45基検出されており、竪穴住居跡と同様調査区北側に集中している。出土遺物が少なく、それらの遺物も直接関係するものである可能性は低く、周囲生活圏からの流れ込みであると推測される。土坑個々の用途や時期は不明であるが、土坑群の分布域が住居跡群の分布域とほぼ重なること、遺物の時期が重なること、埋土の類似性から、住居跡とほぼ同時期のものと思われる。

③ 集石焼土遺構

縄文時代以外の時期に属する唯一の遺構である。焼け焦げた礫集合の周辺から鉄製の刀子、鍛冶鉄滓が出土している。また集石部を覆っていた土サンプルからは磁鉄鉱が多く抽出された。以上から本遺構は、何らかの鍛冶関連施設跡であったことが推測される。そのほかに周辺から出土している土師器甕から判断して平安時代頃の遺構とも考えられるが、一概に断定はできない。平成12・13年に調査が行われた仁昌寺Ⅱ遺跡でも工房関連施設・工房跡が検出されているが、その時期は中世であり、本遺構とは時期がずれる。

(2) 遺物

本遺跡では大コンテナ約4箱分の遺物が出土した。内訳は土器（縄文時代：中・後・晩期）、土師器、土製品、陶磁器、石器、金属製品、銭貨である。

① 縄文～弥生時代の土器

・本遺跡の縄文時代の土器は中期から晩期まで及ぶ。主体をなすのは沈線区画と磨消縄文や縄文充填の手法を特徴とする大木9・10式に相当する中期後葉～末葉の土器群である。これらは大木式土器そのものに比べ、手法を簡略化した印象を受ける。大木式土器の流れを汲む土着の大木系土器といえようか。

・後期の土器は出土しているものの量的には少ない。文様のある個体を見ると、縄文を付した器面全体に多条の平行沈線を描いて区画し、区画した1部の縄文を磨り消す手法を用いており、十腰内I式の流れを汲んでいる土器群である。

・晩期の土器は遺構外から出土しており、当該時期の遺構は検出していない。平行沈線や沈線間の刺突列、入組文や雲形状文、口唇部のB字状の突起等の特徴から、大洞B～C₂に収まる土器群である。周辺に生活圏が広がるのか、あるいは削平により遺構が消失したものか推測の域を出ない。

② 土師器

・土師器は甕の破片が3点出土しており、平安時代に属するものである。1点は把手状突起の一部が残っている。東北では10世紀後半から11世紀にかけて増加してくる器形である。

③ 陶磁器

すべて表土・耕作土からの出土であり、19世紀後半以降の新しい時期に属するものである。

④ 石器

総数で33点である。種類の内訳は石鏃、スクレイパー類、リタッチド・フレイク、磨製石斧、石錘、敲・磨石類、凹石、台石、その他の礫石器である。遺構内外ともに出土量が少ない。定形的な石器が少ない。

⑤ 金属製品

鉄製の刀子が1点のみであり、鍛冶鉄滓と共に出土している。仁昌寺Ⅱ遺跡では鍛冶工房跡関連施設が検出されており、これとの関連性も考え得るが、出土状況が不良であったため詳細は不明である。

⑥ 銭貨

時期不明の無文字模造銭と寛永通宝（新寛永）が表土から出土している。

以上のことから、当遺跡は縄文時代中期後葉～後期初頭の間形成された集落跡を中心とした、平安時代の建物跡との複合遺跡であるといえよう。遺構の分布は調査区北側の幅の狭い尾根状地形に集中している。

仁昌寺Ⅲ遺跡出土顔料塊の自然科学的調査

岩手県立博物館 赤 沼 英 男

1 はじめに

岩手県一戸町仁昌寺Ⅲ遺跡からは縄文時代中期後葉から末葉に比定される土器が見出され、土器内から赤色顔料塊の残存が確認された¹⁾。遺跡内からは赤褐色を呈する岩石塊も見出されている。土器内に残存する顔料塊、および赤褐色を呈する岩石塊を分析した結果、前者は酸化第二鉄を主成分とするパイプ状を呈する物質（以下、パイプ状物質という）を、後者は微細酸化鉄粒子が残存した頁岩またはチャート（以下、赤色チャートという）であることが判明した。以下に当該物質の自然科学的調査結果を報告する。

2 調査資料

調査資料は表1に示す5資料である。

3 調査方法

赤褐色を呈する岩石塊については、図1・2の位置からダイヤモンドカッターを装着したハンドドリルを使って約0.2gの微小試料を摘出した。摘出した試料をさらに2分し一方は組織観察に、もう一方はメノー乳鉢で粉末にした後、X線粉末回折に供して鉱物組成を調べた。X線粉末回折用試料をサンプルホルダーから取り外し、酸を使って溶解し、誘導結合プラズマ発光分光分析（ICP-AES）法によって、表2に示す12成分を化学成分分析した。

4 調査結果

No.1から摘出した試料は、主として酸化ケイ素からなるガラス化した領域に、局所的に微細酸化鉄粒子が濃密に分布する領域が混在する（図1）。Si、Feはそれぞれ39.4%、0.97%で、表2に示す他の10成分はいずれも1%未満にある。No.3もNo.1とほぼ同じ化学組成をとり、No.2およびNo.4にはNo.1、No.3の5倍を超えるFeが含有されている。No.2およびNo.4から摘出した試料には微細な酸化鉄粒に加え、Fe-Mn-O系のやや暗灰色をした領域も観察される（図2 a₁・b₁・c₁、図2 a₃・b₃・c₃）。No.1～No.3のX線粉末回折パターンは石英、No.4のX線粉末回折パターンは石英と酸化第二鉄にはほぼ合致する（図4）。

No.5から摘出した試料は横断面の直系が約1μmのパイプ状物質によって構成される。含有される元素濃度分布のカラーマップによって、パイプ状物質は鉄(Fe)、ケイ素(Si)、および酸素(O)を主成分とすることが判明した（図3）。X線粉末回折パターンは、酸化第二鉄とほぼ合致する（図4）。

5 考察

仁昌寺Ⅲ遺跡土器内部に残存する赤色物質塊は、主として酸化第二鉄を主成分とするパイプ状物質である。この物質は鉄バクテリア起源とする見方が出されていて²⁾、縄文時代前期および縄文時代中期から後期に比定される三内丸山遺跡出土土器および土器の赤色塗彩部にその使用が確認されている³⁾。さらに、三内丸山遺跡では縄文時代中期の遺構から当該物質が点在する樹脂状物質を残存する土器も見出されている⁴⁾。仁昌

寺Ⅲ遺跡から見出された土器に残存するパイプ状物質についても、赤色顔料として使用された可能性が高い。

遺跡内から出土した赤褐色岩石塊は、直径1 μm以下の微細な赤鉄鉱粒子を含有する頁岩またはチャート（赤色チャート）であることが判明した。同様の岩石塊は三内丸山遺跡縄文時代前期および中期から後期に比定される遺構から見出されていて、その粉末が残存した土器、またはその粉末が混和された樹脂を塗彩した木器および土器も検出されている³⁾⁴⁾。さらに赤色チャートを素材とする石鏝も確認されている³⁾。また、隣接する仁昌寺Ⅱ遺跡からも赤色チャートを素材とする石鏝が出土しており、当地域においても赤色チャートが石器の素材として使用されたことは間違いない。三内丸山遺跡の調査結果を加味すると、石鏝を加工する際に排出される赤色チャート片を赤色顔料の素材として活用した可能性も十分に考えられる。これらの赤色物質を自然科学的方法で調査し、その組成を明らかにすることによって遺跡内における赤色顔料の製作と活用の実態に迫ることができると思われる。

これまでの調査結果によって、三内丸山遺跡では既に縄文時代前期に赤色チャートを使用して赤色顔料の製作が行われていたことが明らかにされているが、パイプ状物質については縄文時代中期になって製作への利用が確認される³⁾⁴⁾。パイプ状物質については、山形県高島町押出遺跡の縄文時代前期の遺構から出土した遺物、岩手県一戸町御所野遺跡縄文時代中期の遺構から出土した土器片の塗彩にも使用が認められる⁵⁾⁶⁾。赤色チャート、パイプ状物質の利用に、地域的、時間的特長があった可能性がある。時代特定が可能で型式学的研究が可能な赤色塗彩資料の組成、遺跡内における赤色チャートおよびパイプ状物質の検出状況とその組成、および赤色チャートの賦存状況とその組成を明らかにするための調査を進め、それらの結果を比較検討することによって、東北地方北部における縄文時代の赤色塗彩技術の変遷がみえてくるにちがいない。

註)

- 1) 財団法人岩手県埋蔵文化財調査センターからのご教授による。
- 2) 岡田文男「パイプ状ベンガラ粒子の復元」日本文化財科学会第14回発表要旨、1997。
- 3) 『特別史跡三内丸山遺跡年報5』 2002 青森県教育委員会。
- 4) 『特別史跡三内丸山遺跡年報6』 2003 青森県教育委員会。
- 5) 赤沼英男・武田昭子・中村美杉・渋谷孝雄・上条朝宏・門倉武夫「土器残存塗膜の自然科学的研究」日本文化財科学会第19回大会発表要旨。
- 6) 赤沼英男「円筒土器文化圏における石器ならびに土器表面加工技術に関する研究－三内丸山および周辺遺跡を中心として－」。2003年三内丸山遺跡報告会発表要旨。

表 1 調査資料の概要

No	検出遺構		資料名
	遺構名	層位	
1	1号住	埋土暗褐色	岩石
2	1号住	埋土	岩石
3	1号住	埋土	岩石
4	II C 7 g	黒褐色	岩石
5	1号住 P 1	西壁際	顔料

注) Noは分析番号、検出遺構、資料名、推定年代は
 働岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センター
 による。

表 2 石褐色岩石塊の分析結果

No	化 学 成 分 (mass %)											
	T.Fe	Cu	Mn	Ni	Co	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V
1	0.97	0.001	0.166	0.002	<0.001	0.07	0.005	39.4	0.105	0.342	0.037	0.020
2	5.86	0.001	0.028	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	39.7	0.018	0.019	<0.001	0.001
3	1.18	<0.001	0.003	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	37.5	0.002	0.039	0.005	<0.001
4	9.03	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	35.8	0.003	0.021	0.003	<0.001
5	35.66	0.001	0.130	<0.001	0.001	0.22	0.316	15.2	1.52	4.52	0.761	<0.001

注) Noは表 1 に対応。化学成分分析はICP-OES法による。

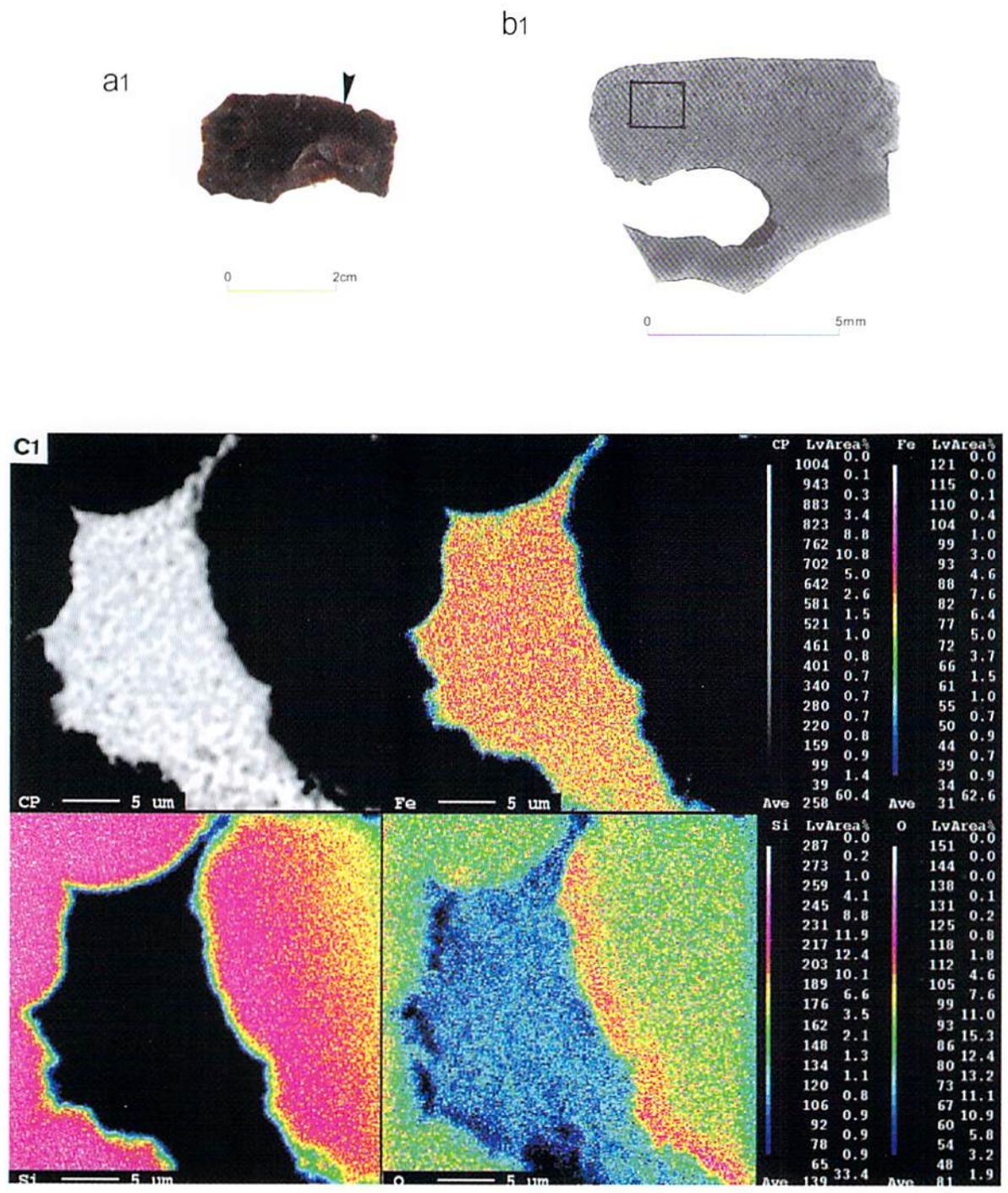
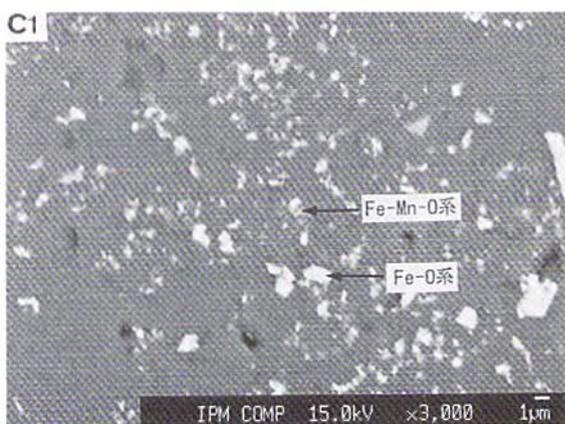
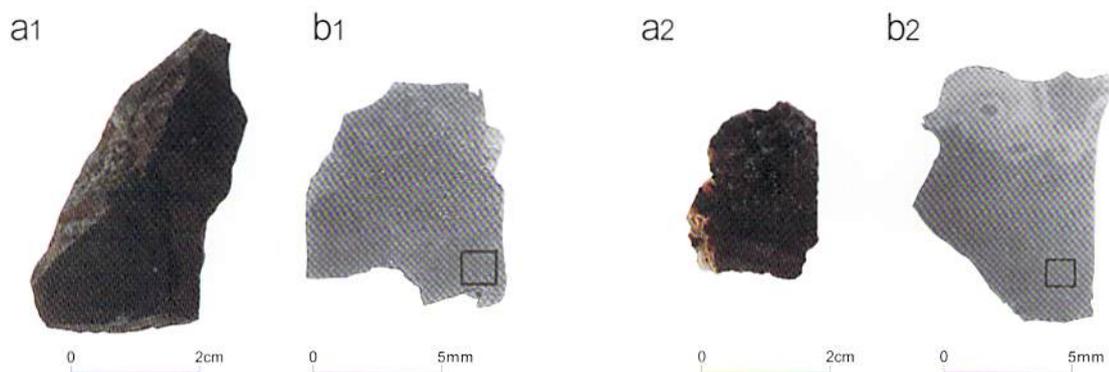
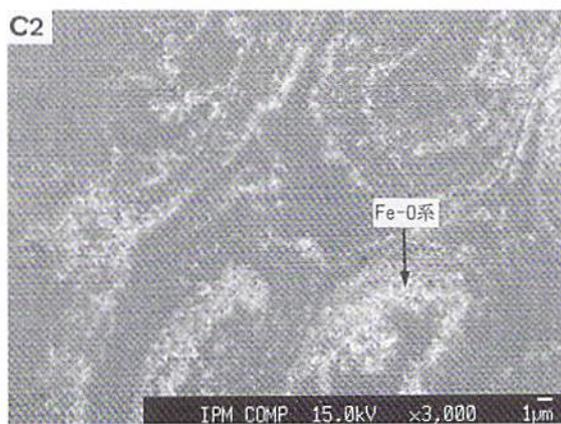


図1 No.1の外観と抽出した試料の組織観察結果

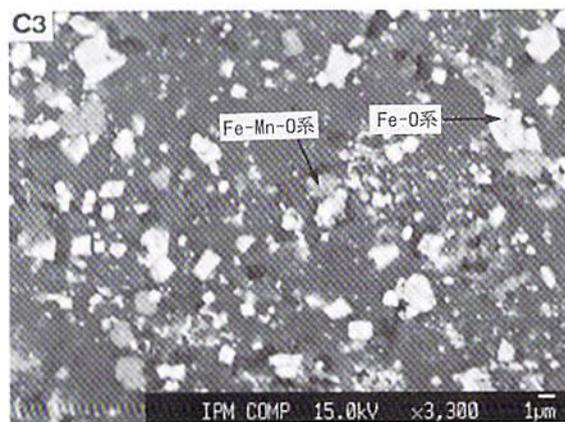
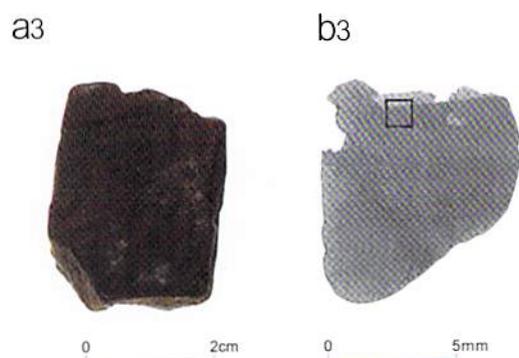
a1：外観。b1：マクロ組織。c1：b1枠内部のEPMAによる組成像（COMP）と含有される元素濃度分布のカラーマップ。



(No. 2)



(No. 3)



(No. 4)

図2 No.2～No.4の外観と抽出した試料の組織観察結果

a1-3：外観。b1-3：マクロ組織。c1-3：b1-3の枠内部のEPMAによる組成像（COMP）。

a1

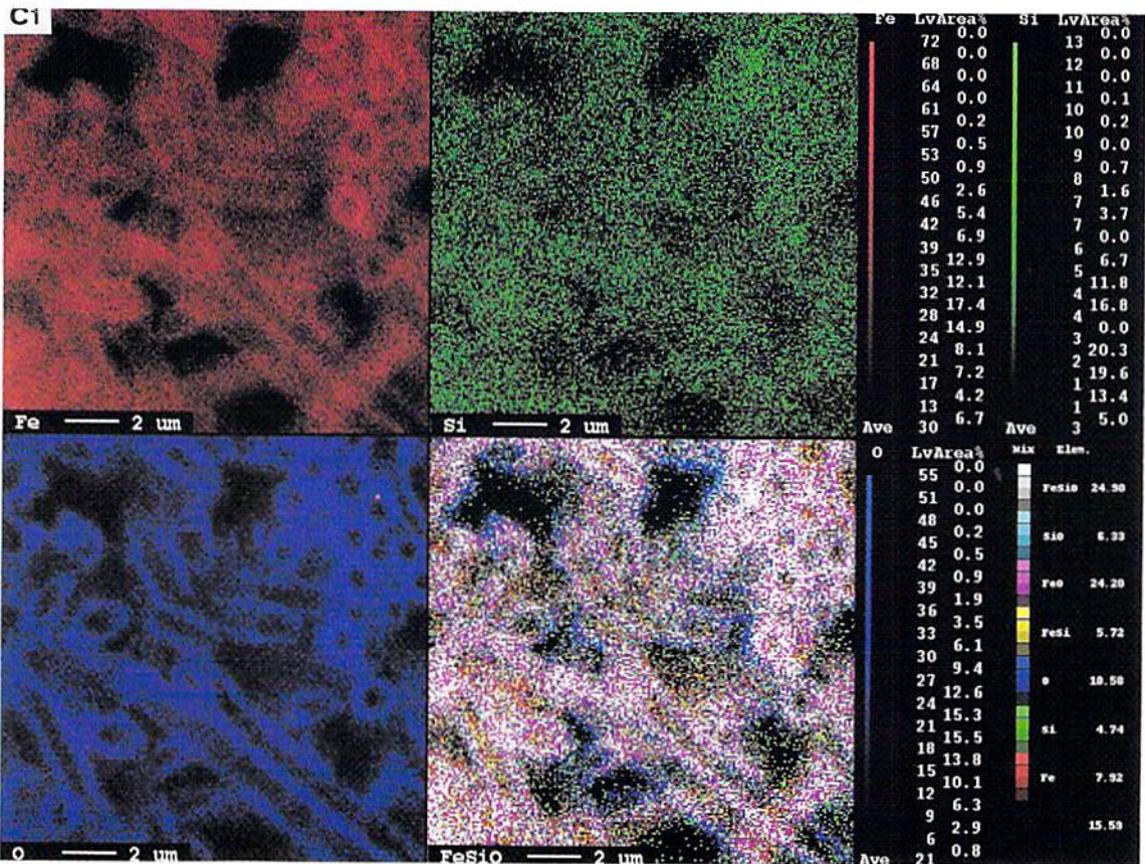
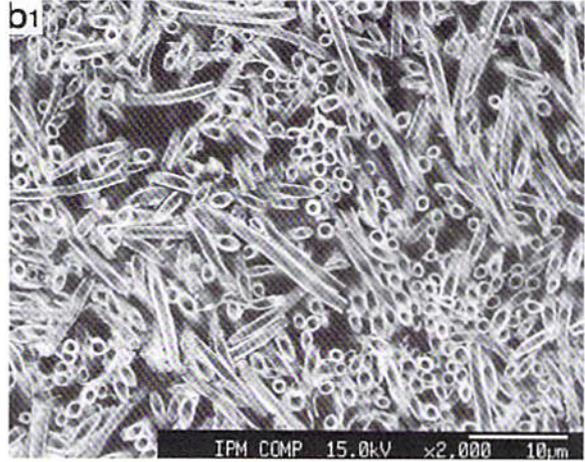


図3 No.5の外観と抽出した試料の組織観察結果

a1：外観。b1：EPMAによる組成像。c1：含有される元素濃度分布のカラーマップ。

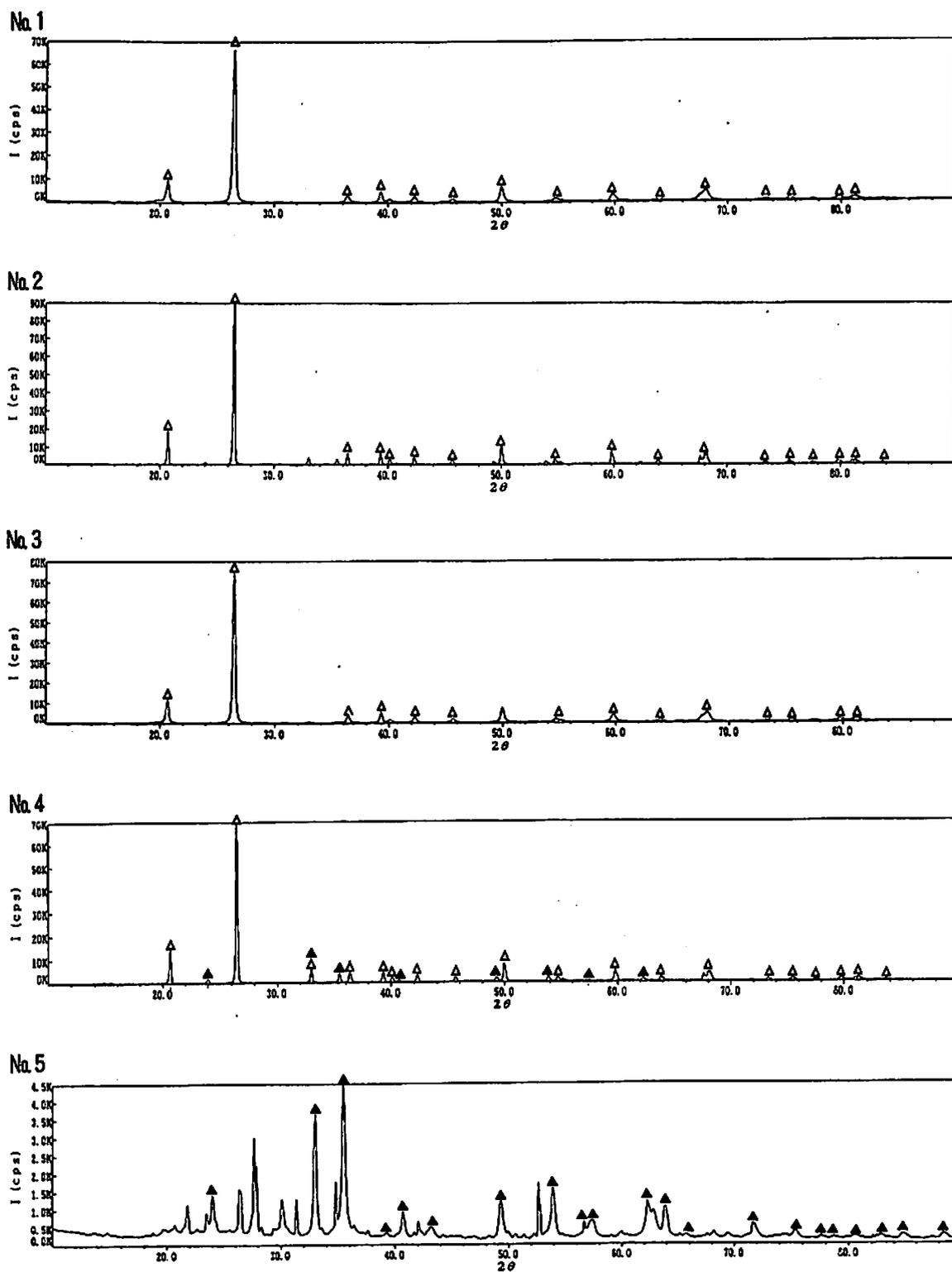
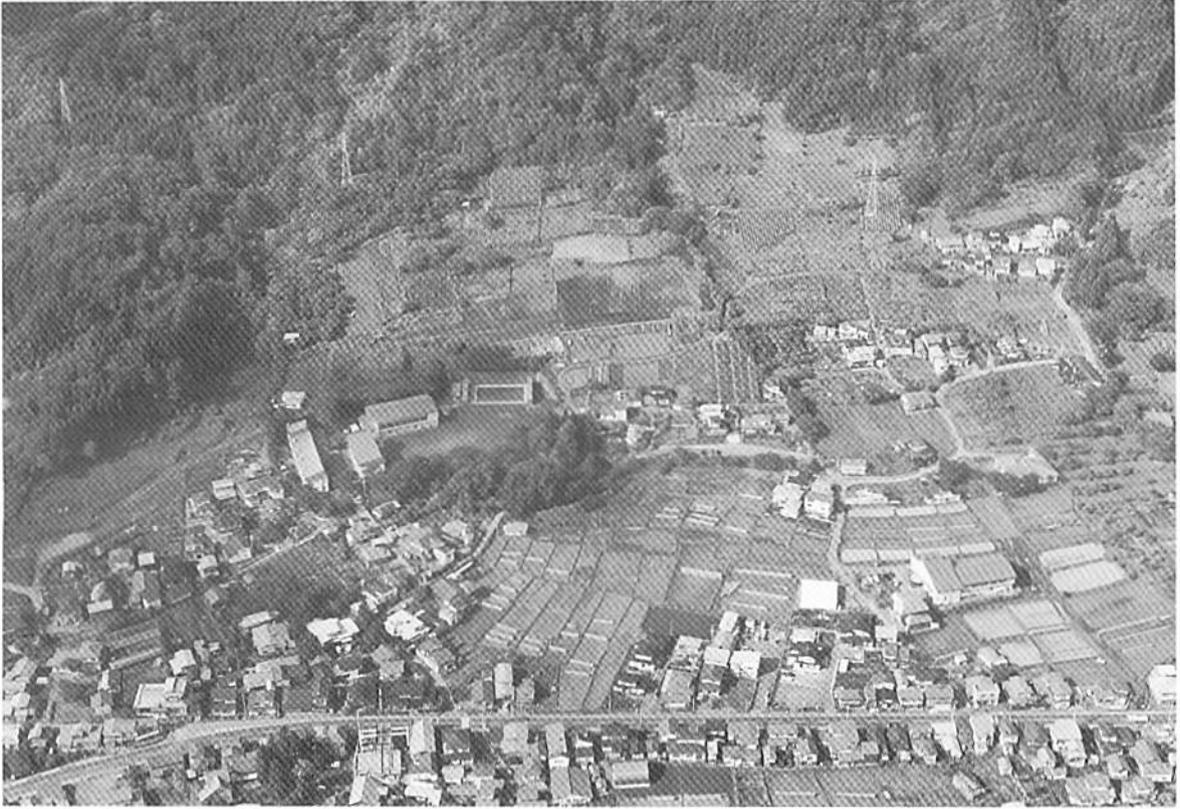


図4 No.1~No.5のX線粉末回折パターン。
 白三角 (\triangle) : 石英、黒三角 (\blacktriangle) : 酸化第二鉄。

写 真 图 版

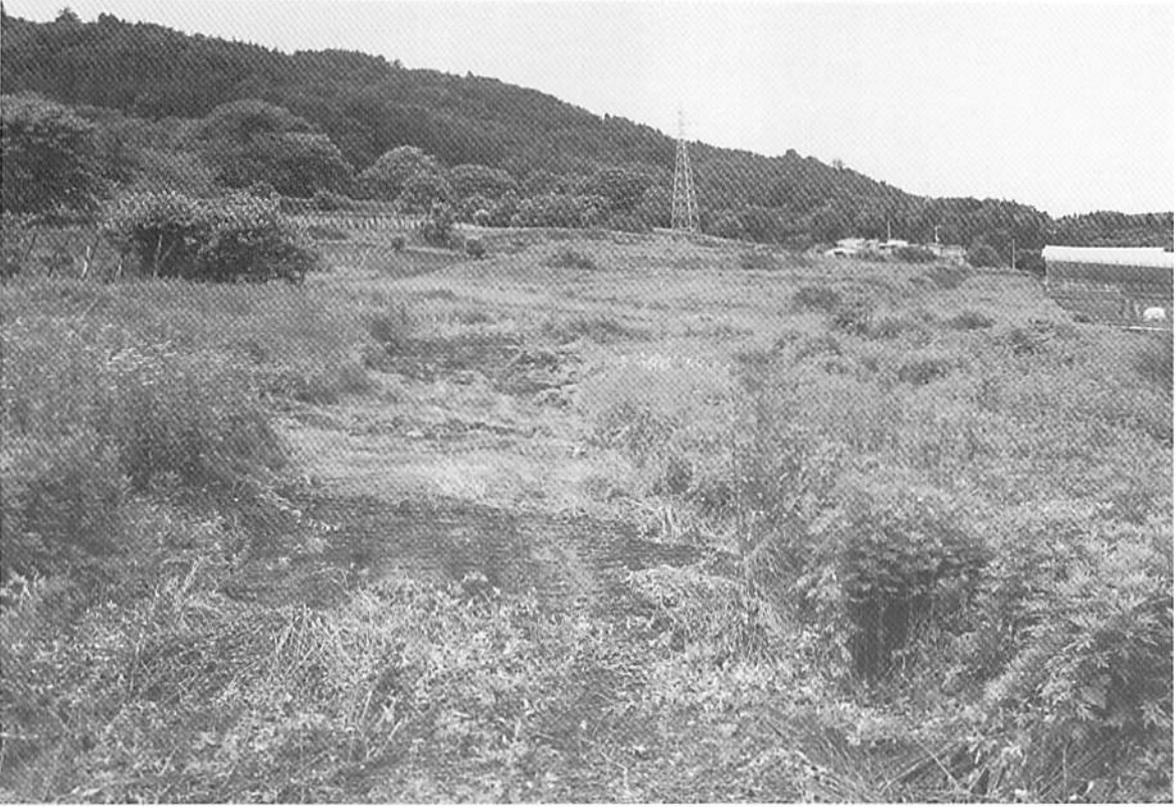


調査区 東から

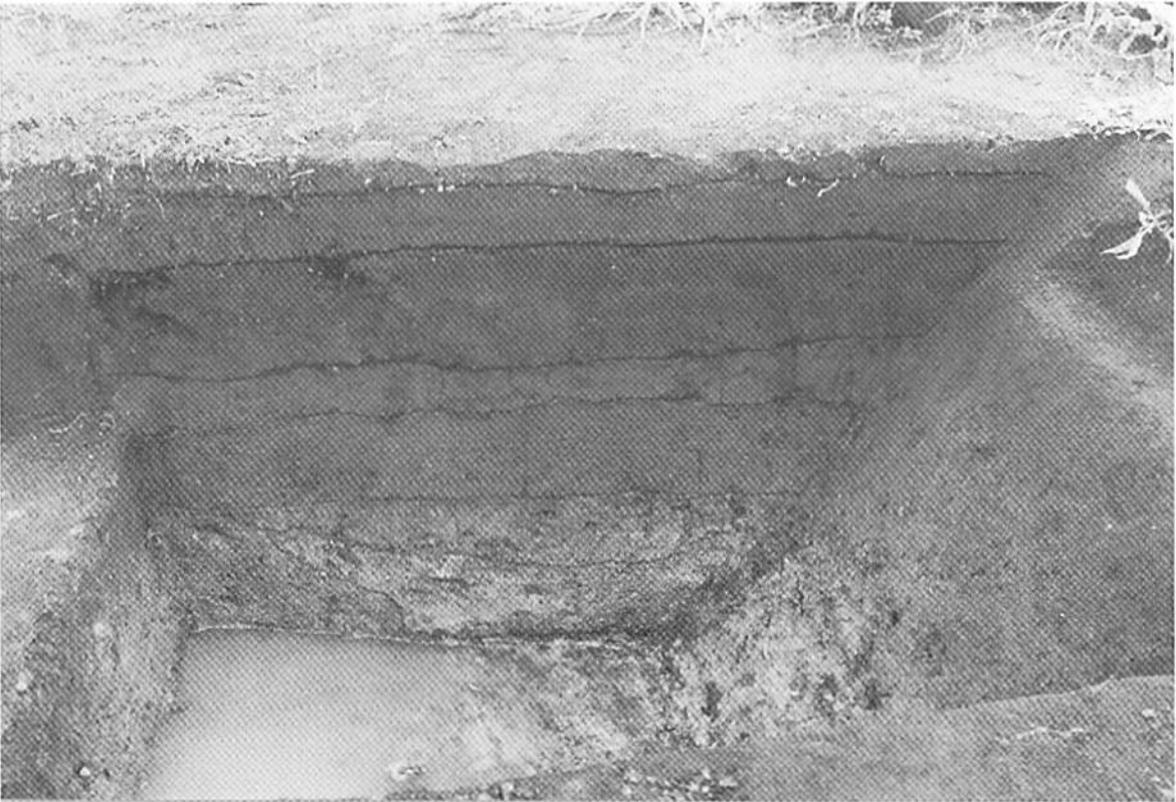


調査区 真上から

写真図版1 空中写真



調査前 近景（南から）



基本土層

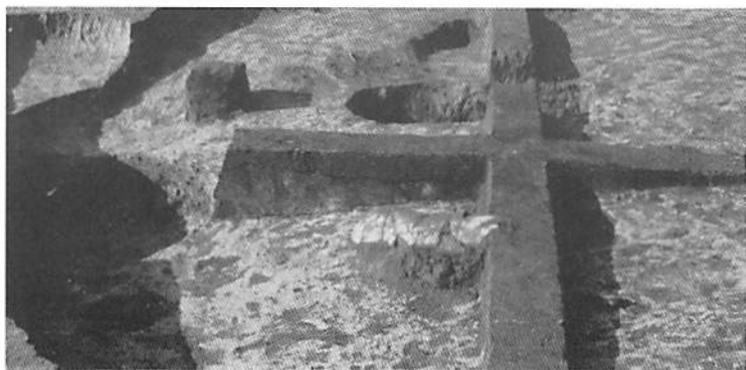
写真図版 2 調査区近景・基本土層



平面



断面

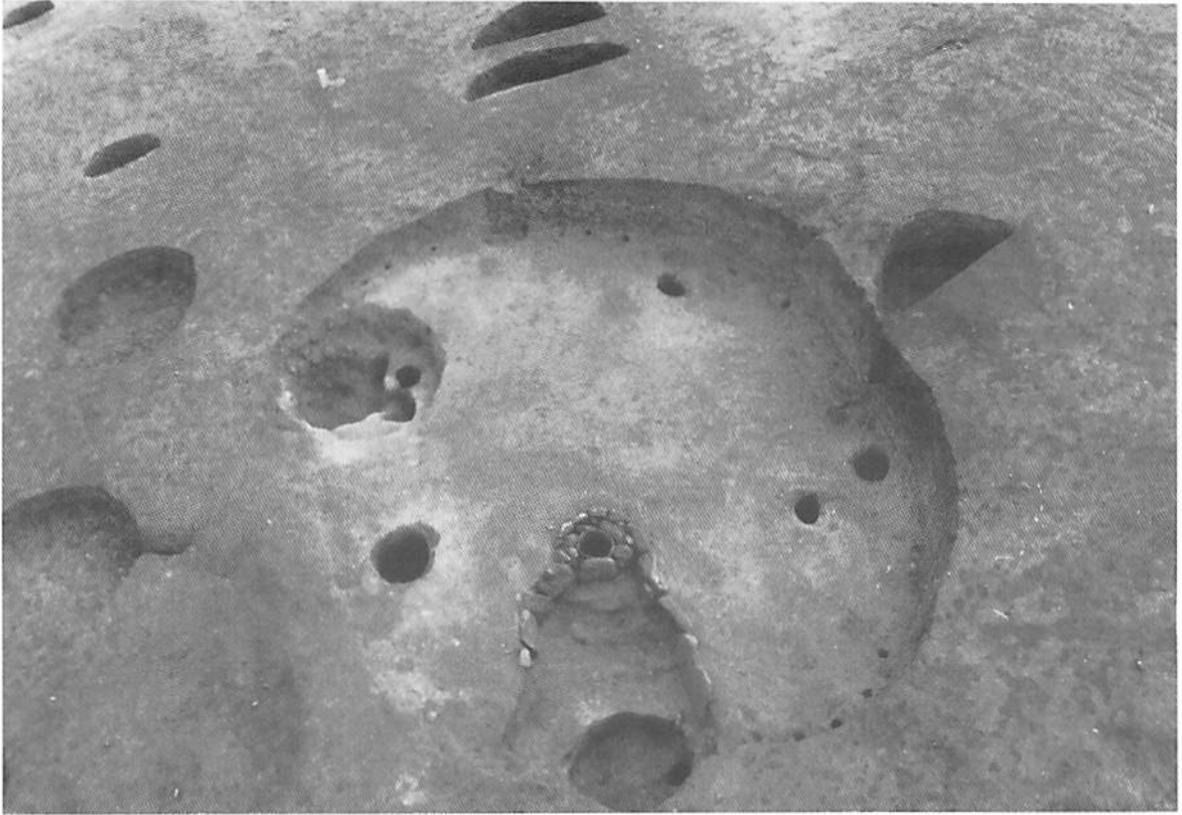


断面



炉断面

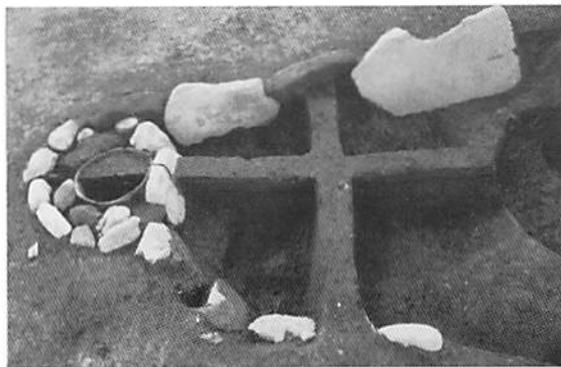
写真图版 3 1号竖穴住居跡



平面



断面

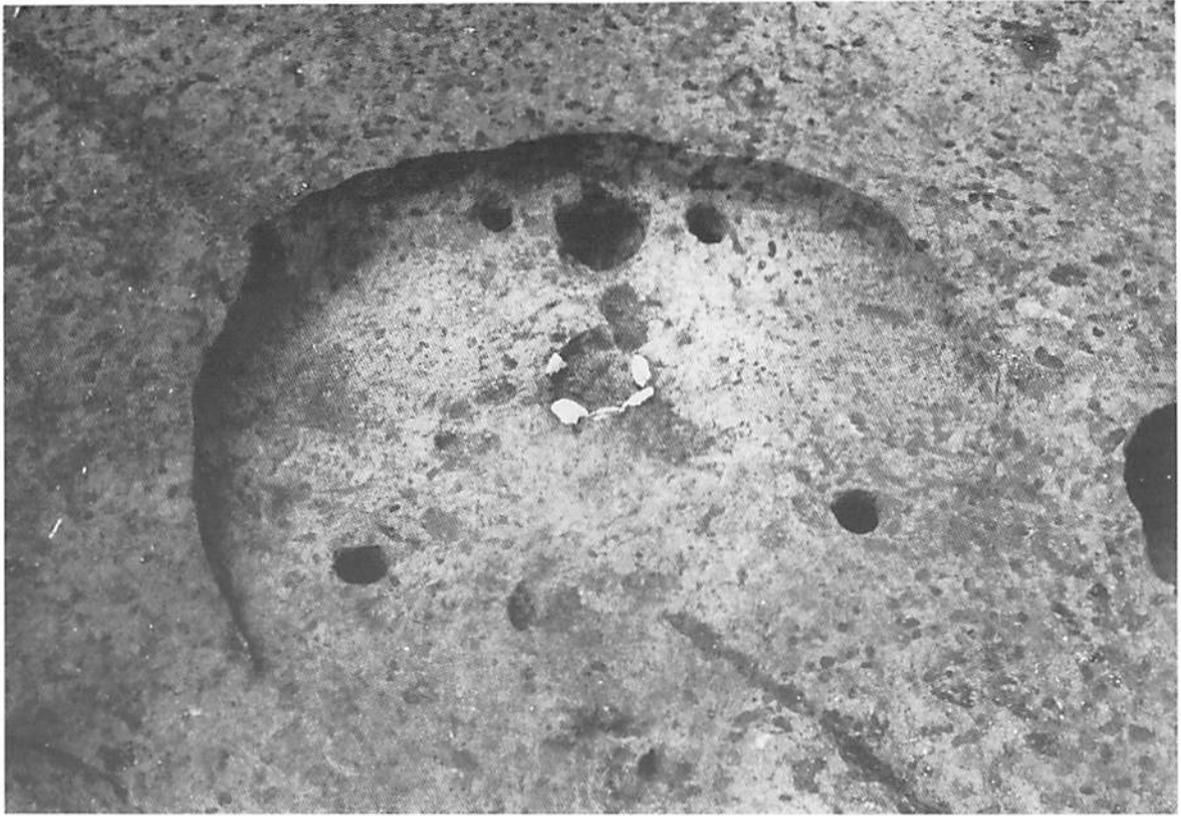


断面

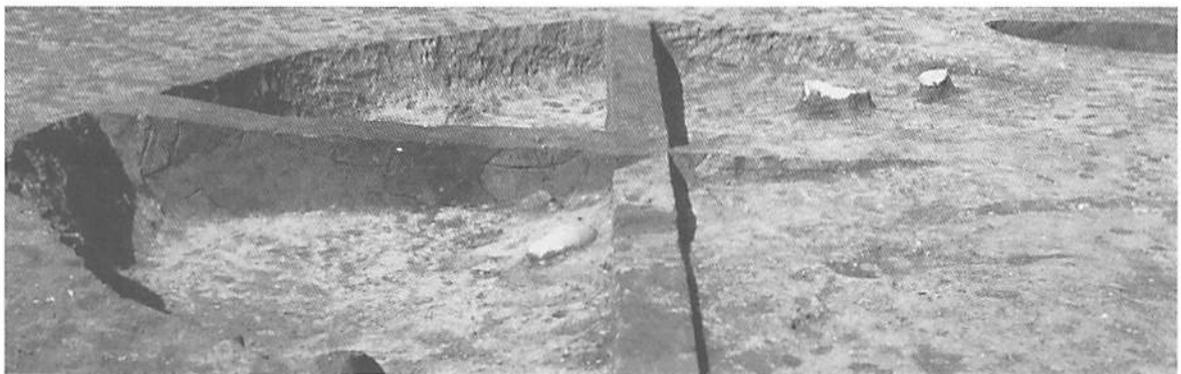


炉内遺物検出状況

写真図版 4 2号竪穴住居跡



平面



断面

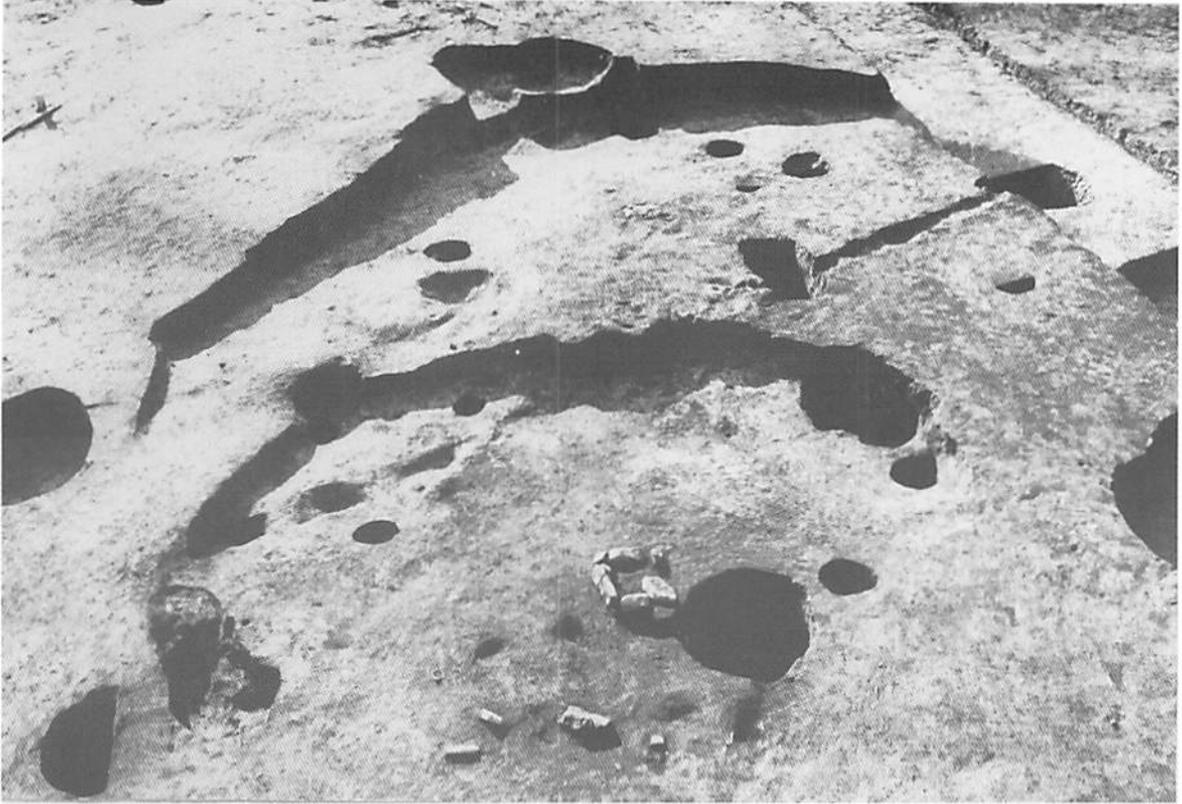


断面

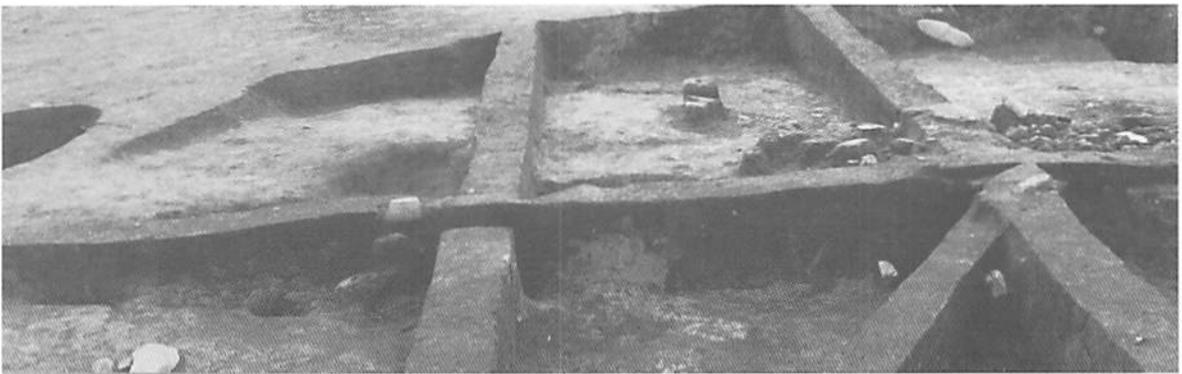


遺物検出状況

写真図版 5 3号竪穴住居跡



4・5号竪穴住居跡 平面



4・5号竪穴住居跡 断面（ベルトB）

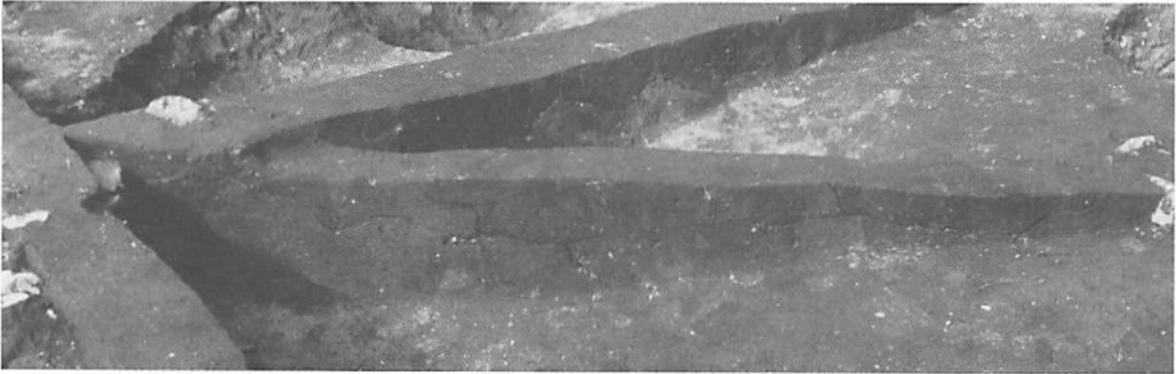


4・5号竪穴住居跡 断面（ベルトB）

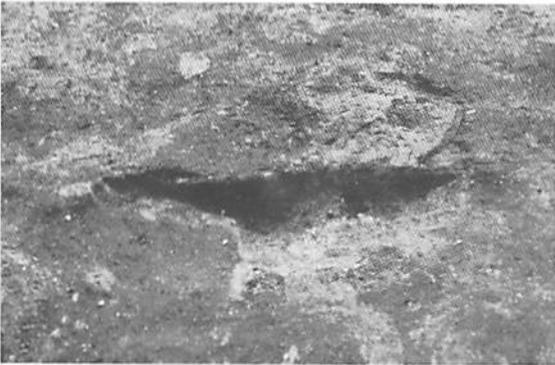
写真図版6 4・5号竪穴住居跡（1）



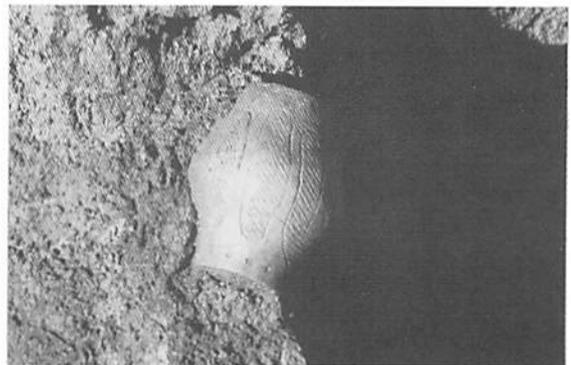
4・5号竪穴住居跡 断面 (手前からベルトA・C)



5号竪穴住居跡 断面 (ベルトD)



4号竪穴住居跡 焼土断面



4号竪穴住居跡 遺物出土状況



5号竪穴住居跡 炉平面

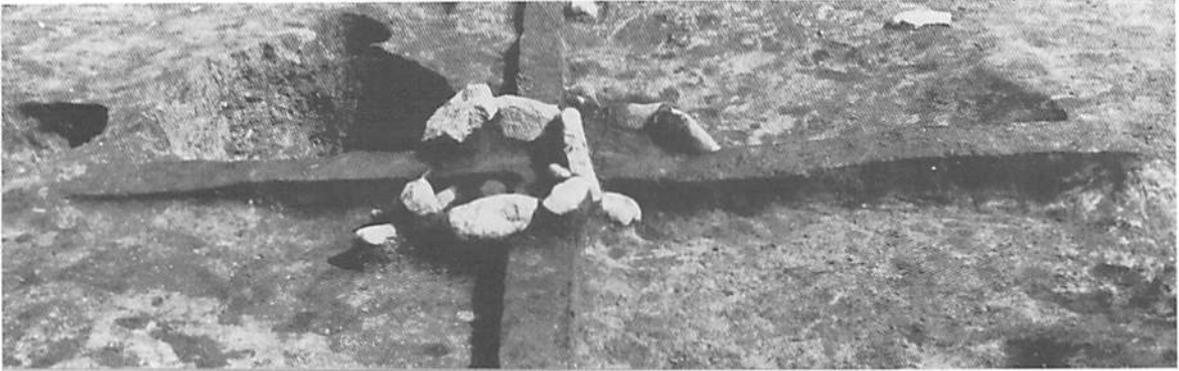


5号竪穴住居跡 炉断面

写真図版7 4・5号竪穴住居跡 (2)



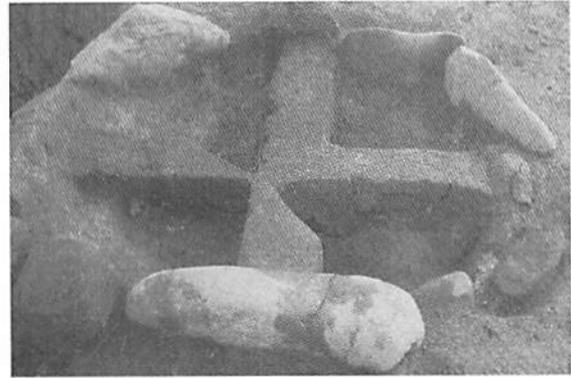
平面



断面

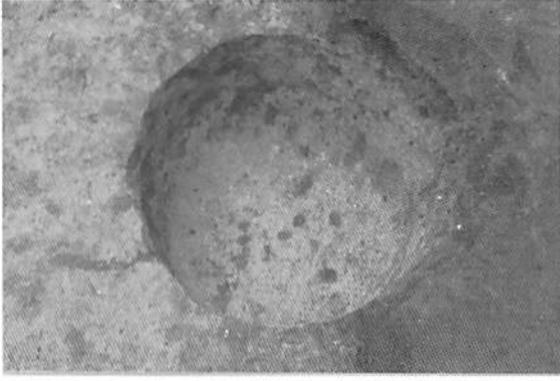


炉断面



炉烧土断面

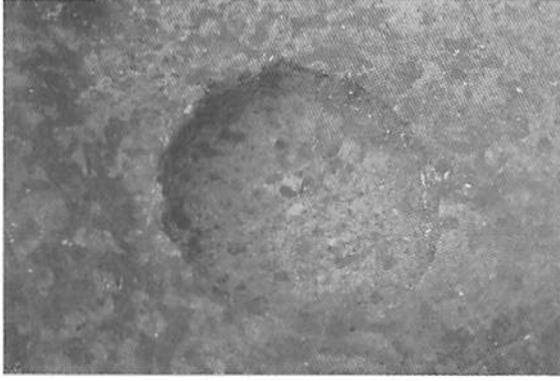
写真图版 8 6号竖穴住居跡



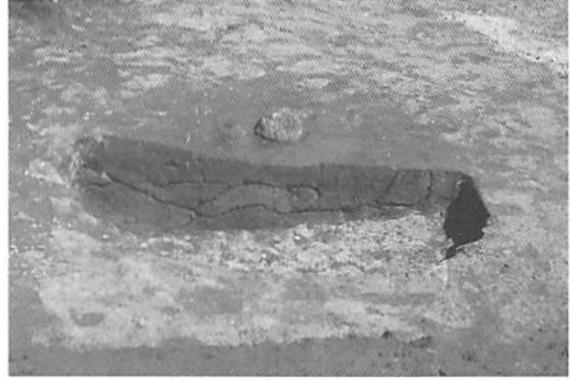
1号土坑平面



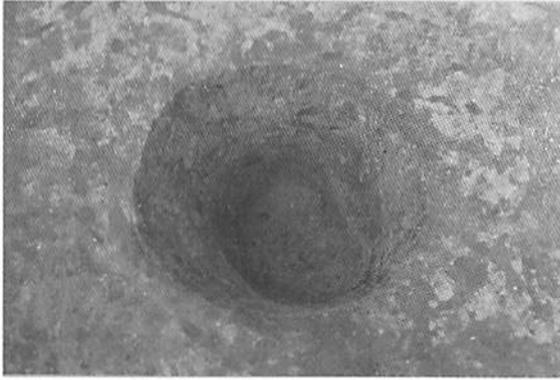
1号土坑断面



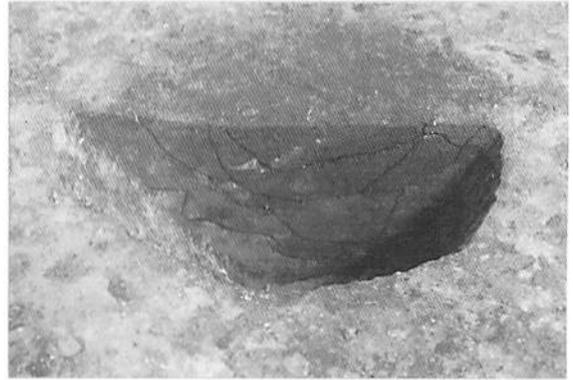
2号土坑平面



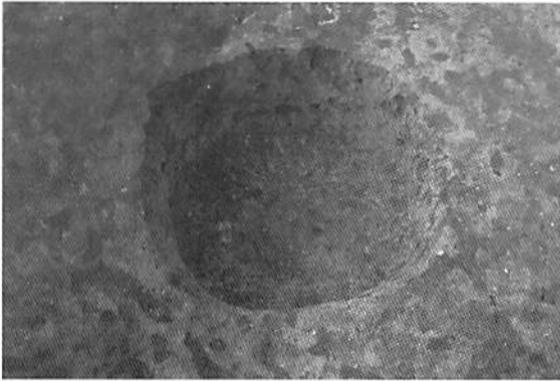
2号土坑断面



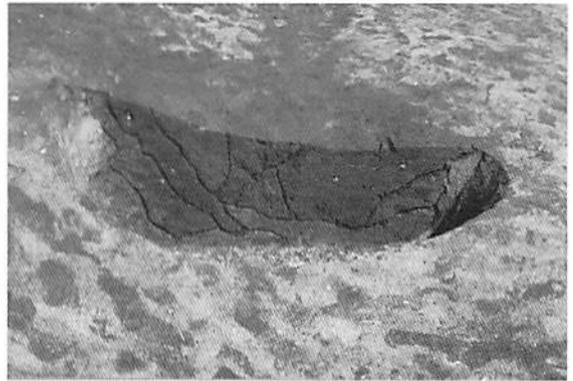
3号土坑平面



3号土坑断面

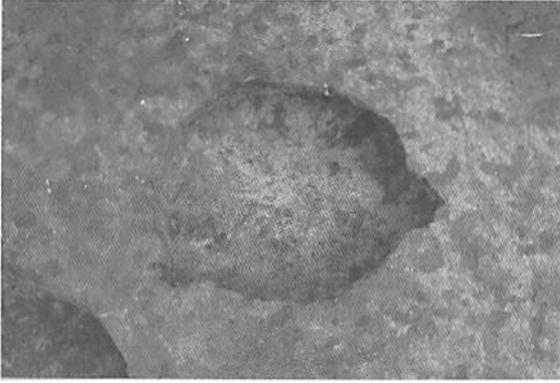


4号土坑平面

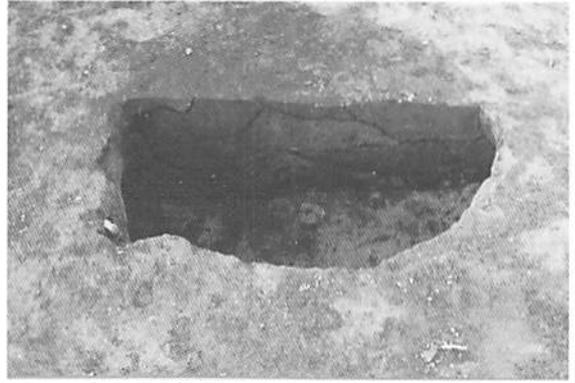


4号土坑断面

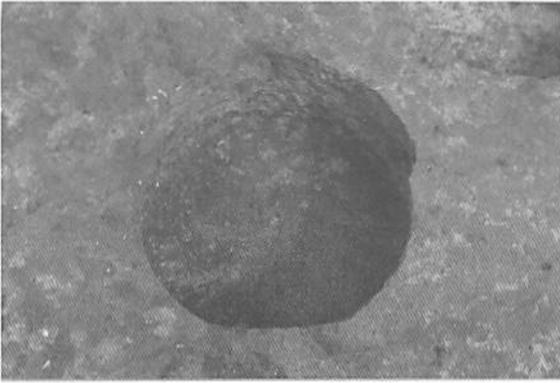
写真图版9 1~4号土坑



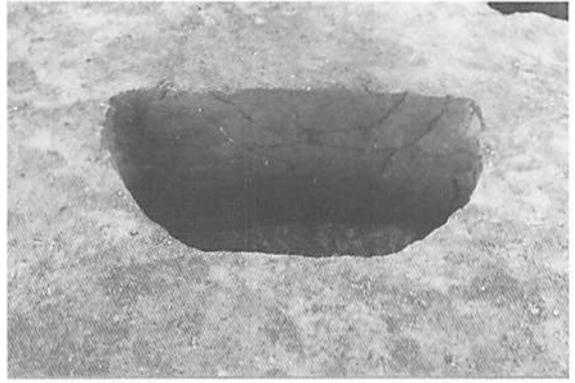
5号土坑平面



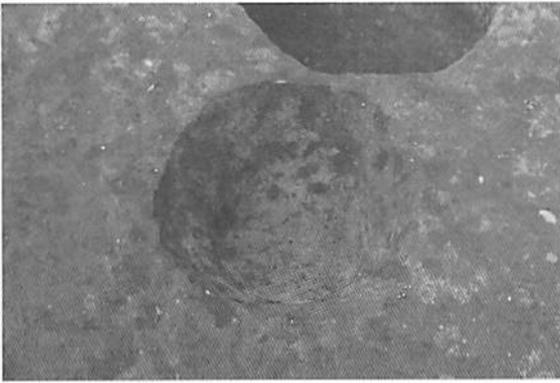
5号土坑断面



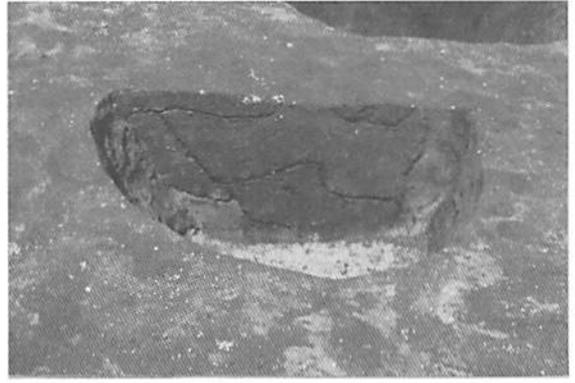
6号土坑平面



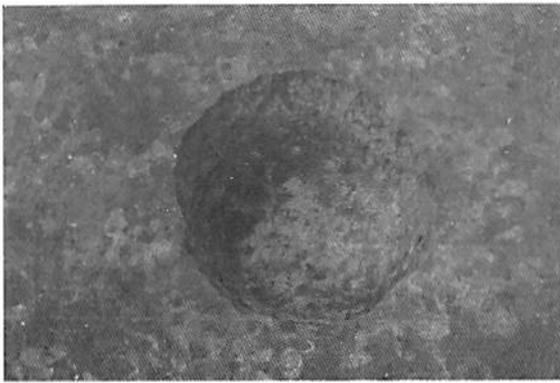
6号土坑断面



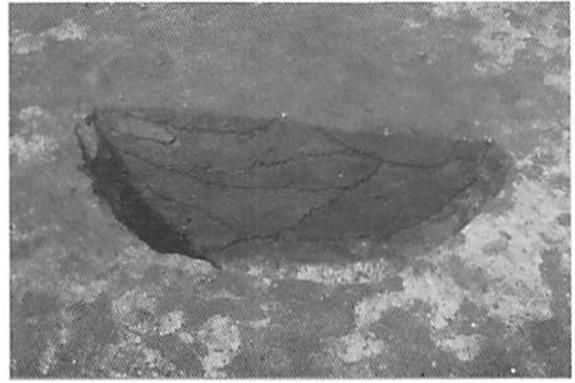
7号土坑平面



7号土坑断面



8号土坑平面



8号土坑断面

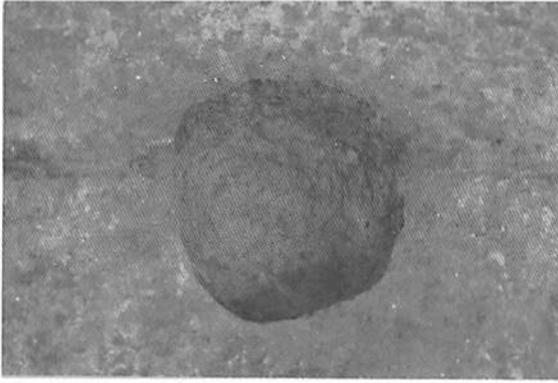
写真图版10 5~8号土坑



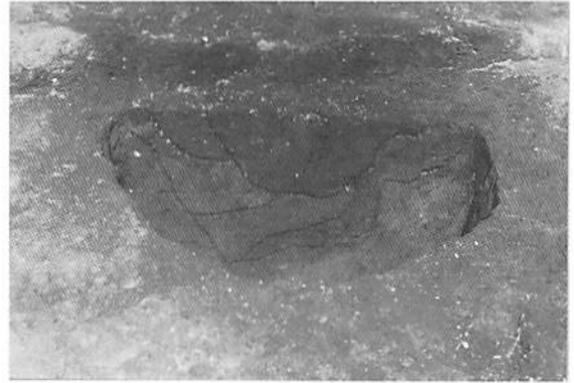
9号土坑平面



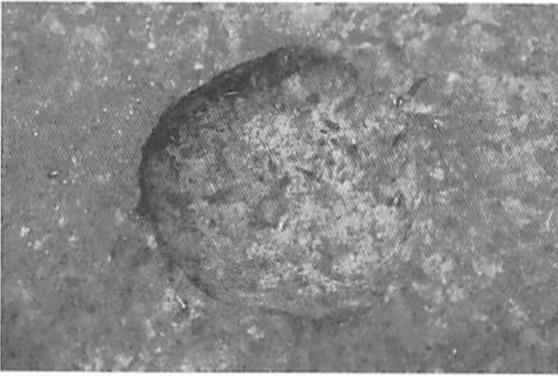
9号土坑断面



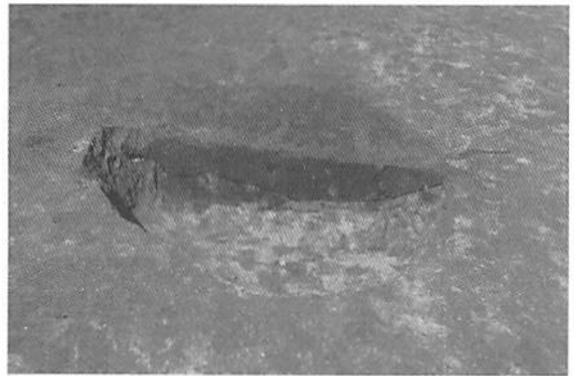
10号土坑平面



10号土坑断面



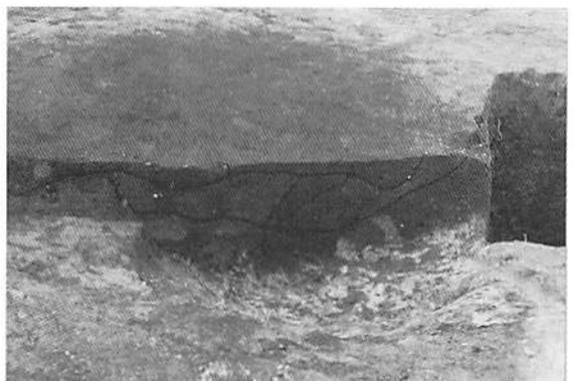
11号土坑平面



11号土坑断面

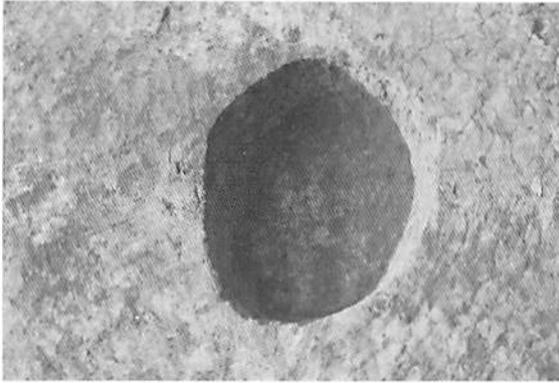


12号土坑平面

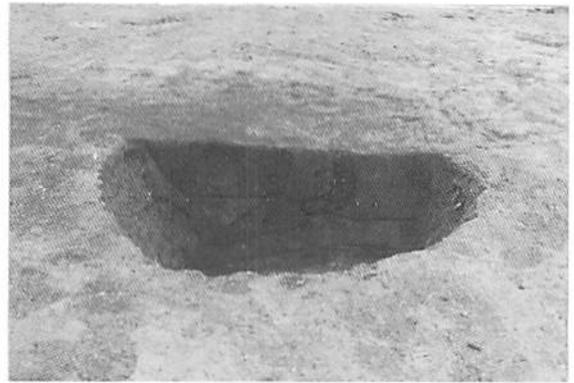


12号土坑断面

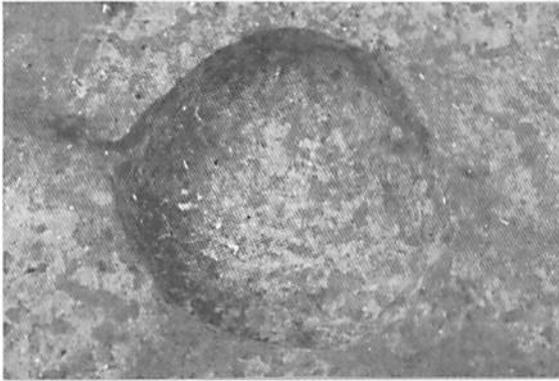
写真图版11 9~12号土坑



13号土坑平面



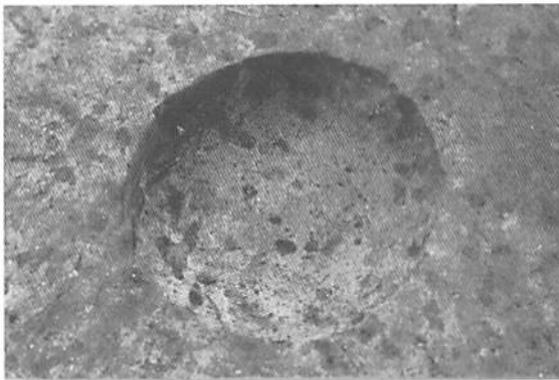
13号土坑断面



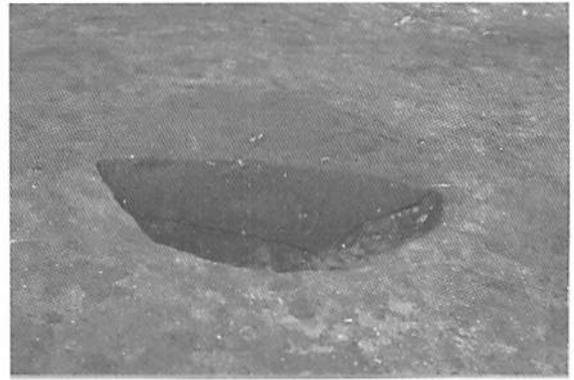
14号土坑平面



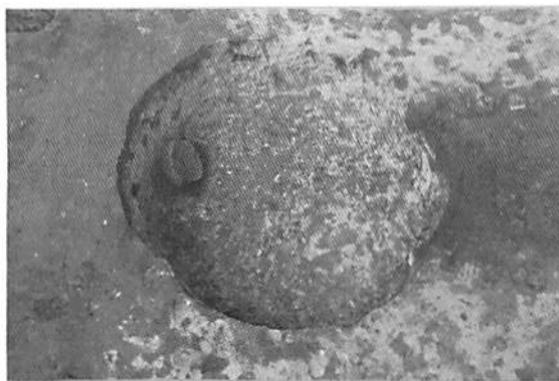
14号土坑断面



15号土坑平面



15号土坑断面

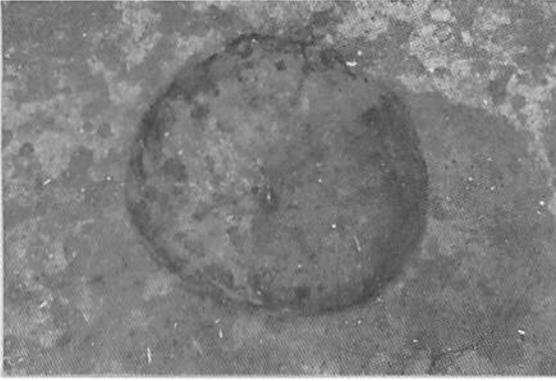


16号土坑平面

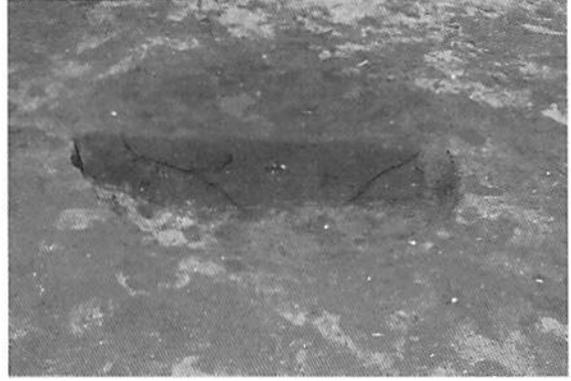


16号土坑断面

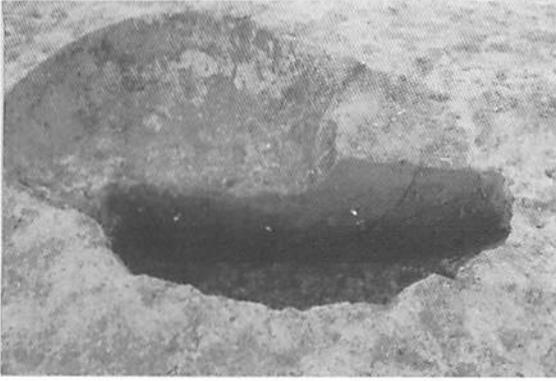
写真图版12 13~16号土坑



17号土坑平面



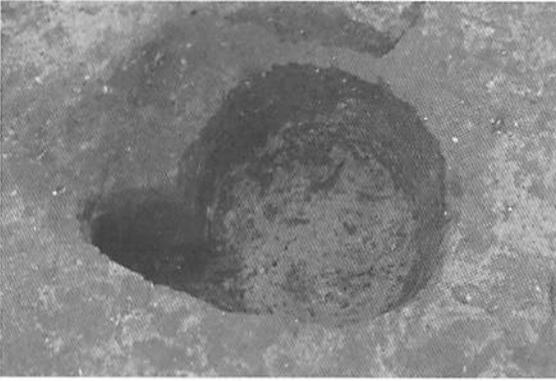
17号土坑断面



18号土坑平面



19号土坑断面



20号土坑平面



20号土坑断面



21号土坑平面



21号土坑断面

写真图版13 17~21号土坑



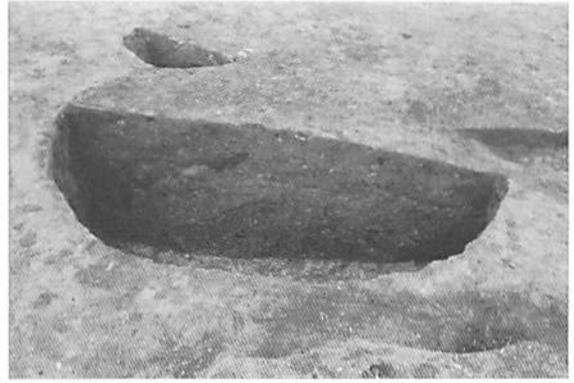
22号土坑平面



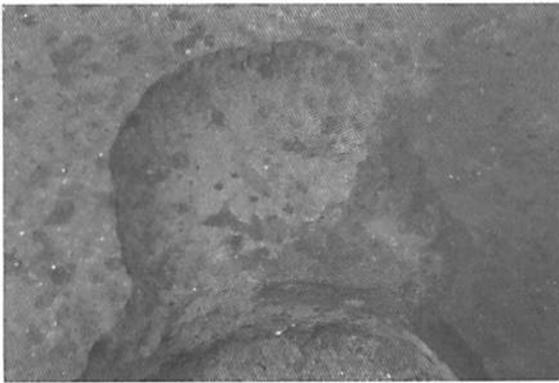
22号土坑断面



23号土坑平面



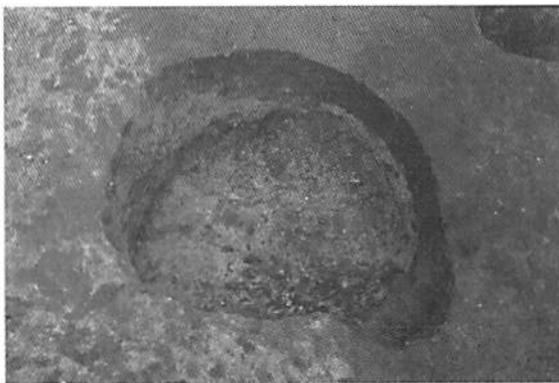
23号土坑断面



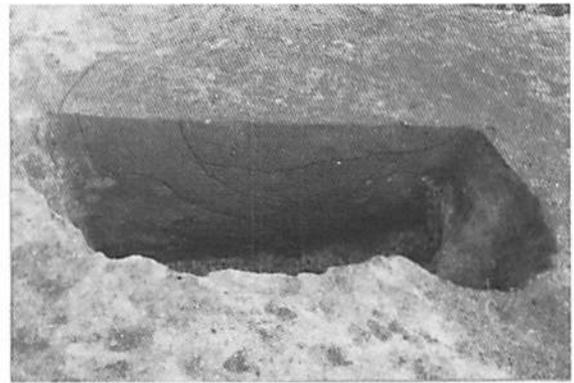
24号土坑平面



24号土坑断面

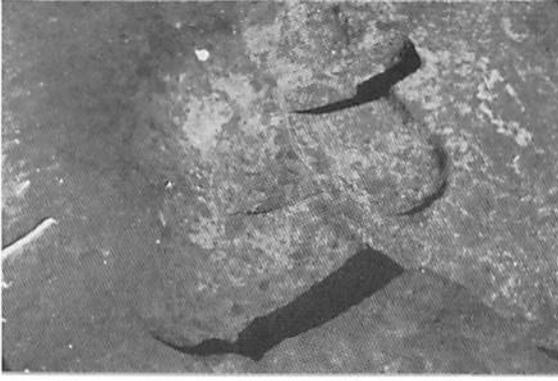


25号土坑平面



25号土坑断面

写真図版14 22~25号土坑



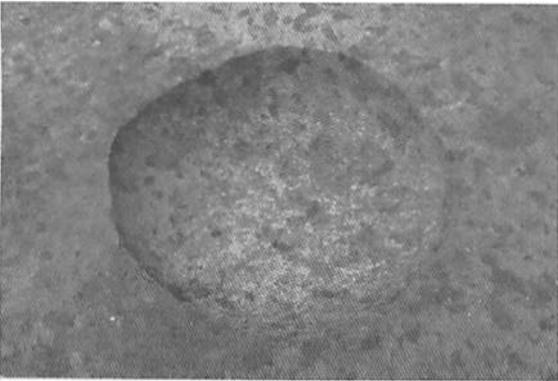
26号土坑平面



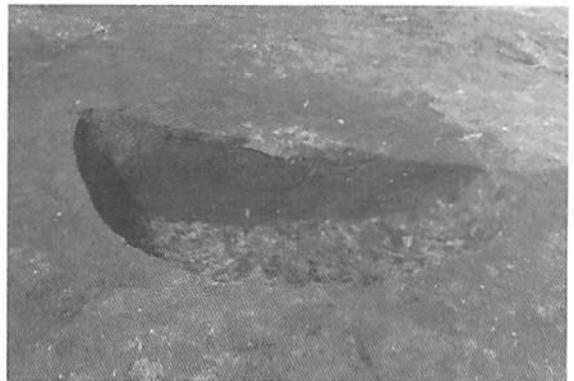
26号土坑断面



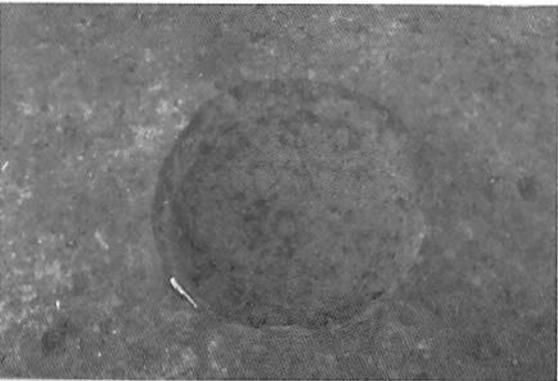
27号土坑断面



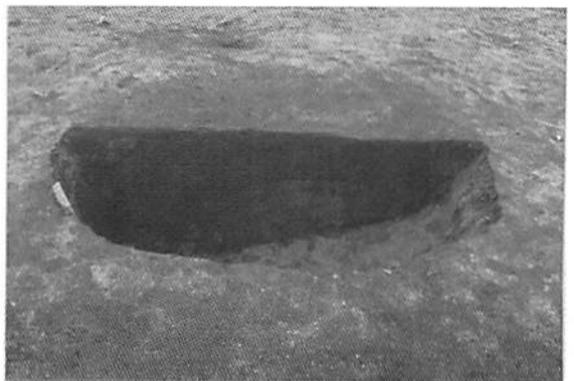
28号土坑平面



28号土坑断面

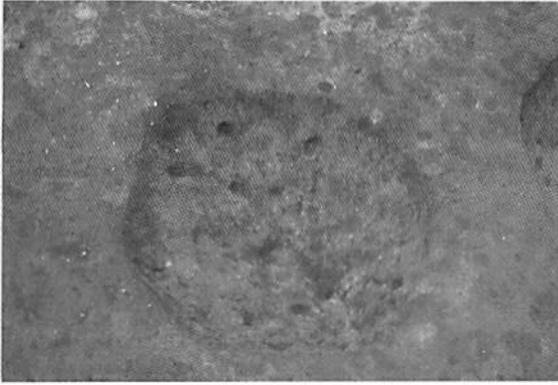


29号土坑平面

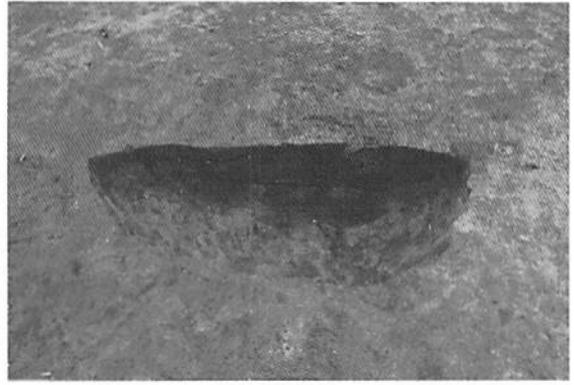


29号土坑断面

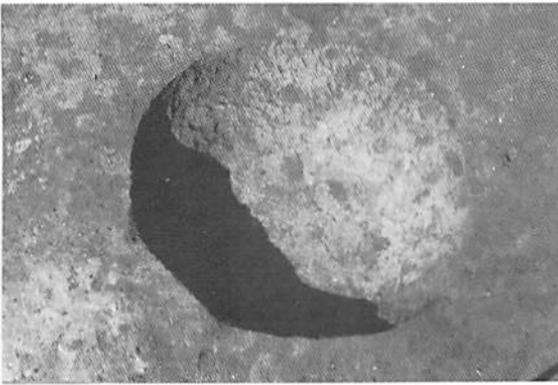
写真图版15 26~29号土坑



30号土坑平面



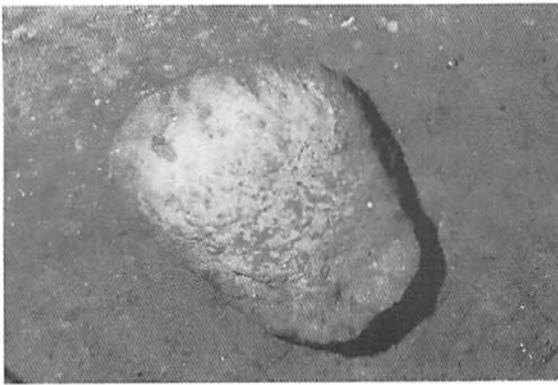
30号土坑断面



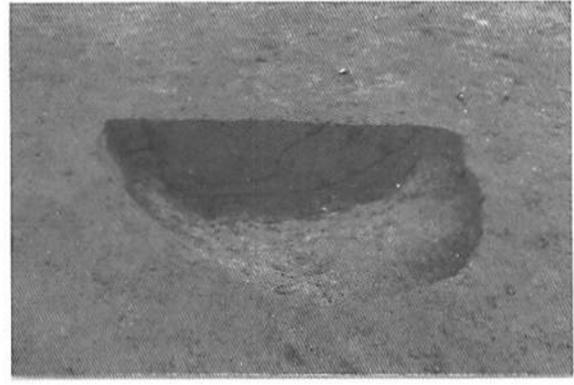
31号土坑平面



31号土坑断面



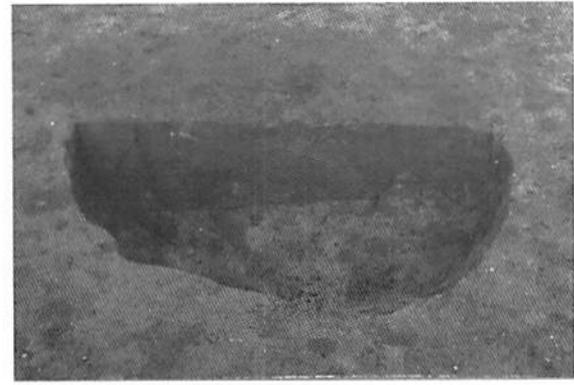
32号土坑平面



32号土坑断面

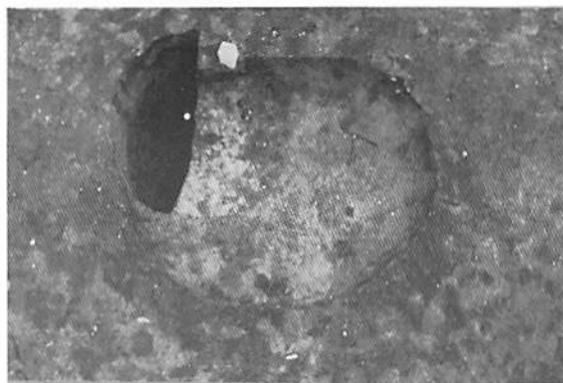


33号土坑平面

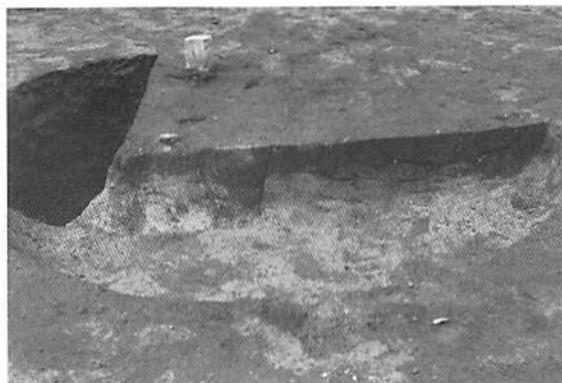


33号土坑断面

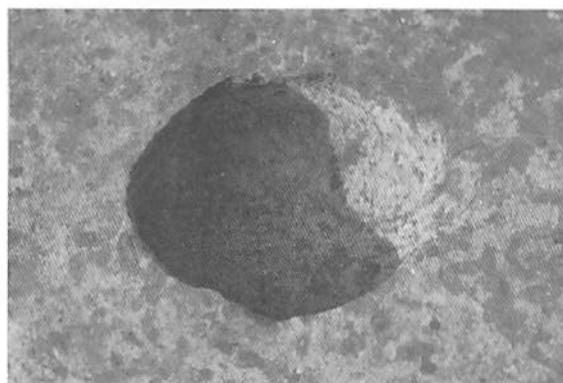
写真图版16 30~33号土坑



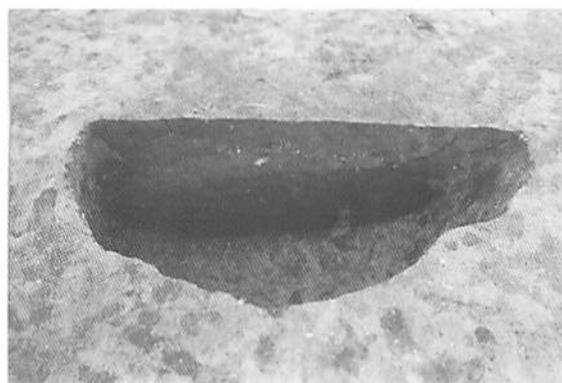
34号土坑平面



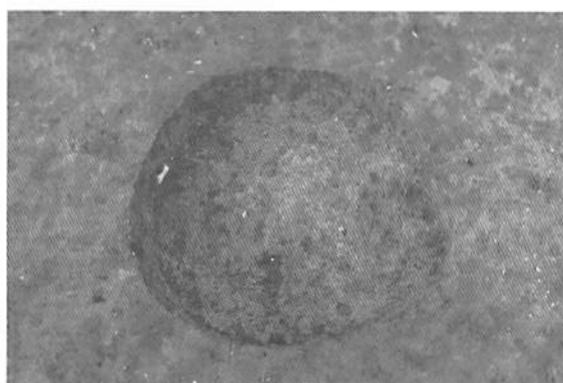
34号土坑断面



35号土坑平面



35号土坑断面



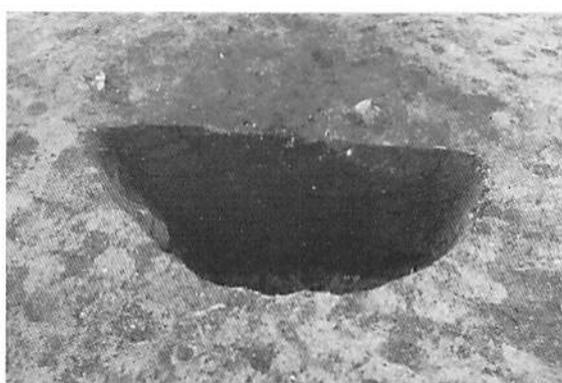
36号土坑平面



36号土坑断面

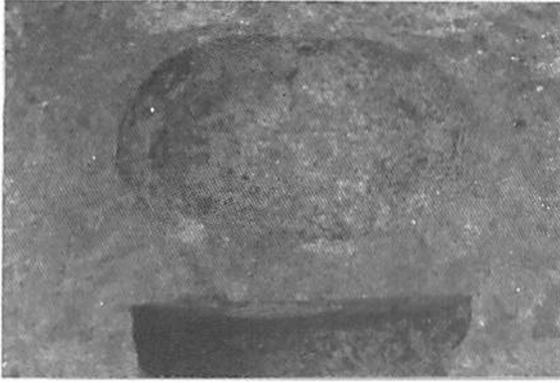


37号土坑平面



37号土坑断面

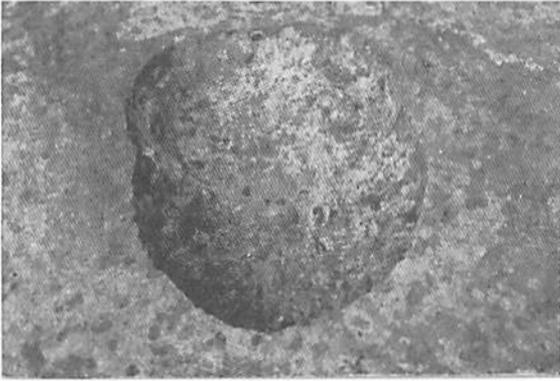
写真图版17 34~37号土坑



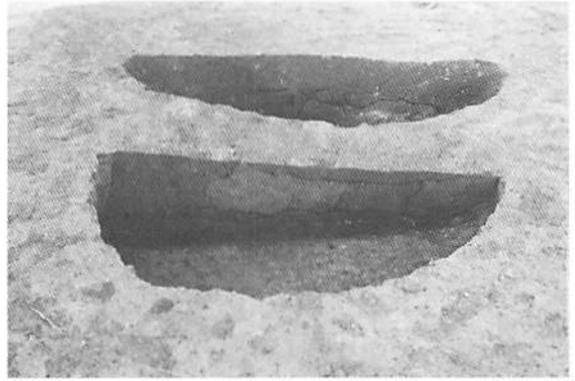
38号土坑平面



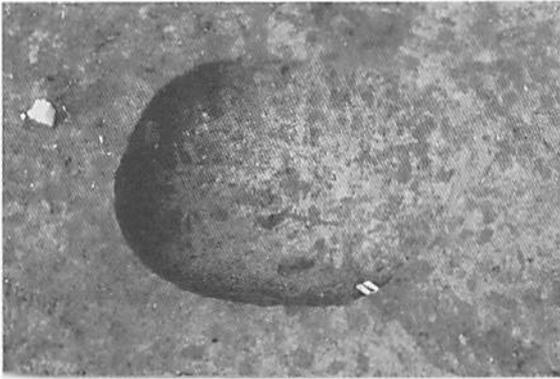
38号土坑断面



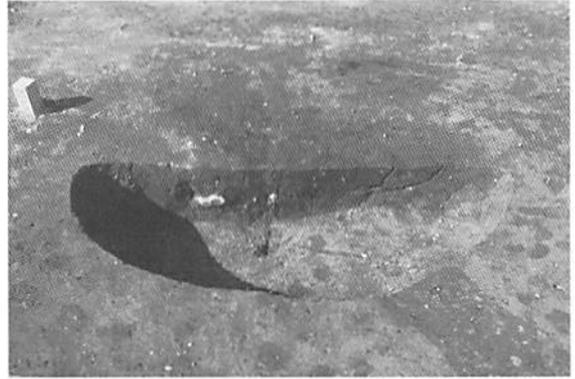
39号土坑平面



39号土坑断面



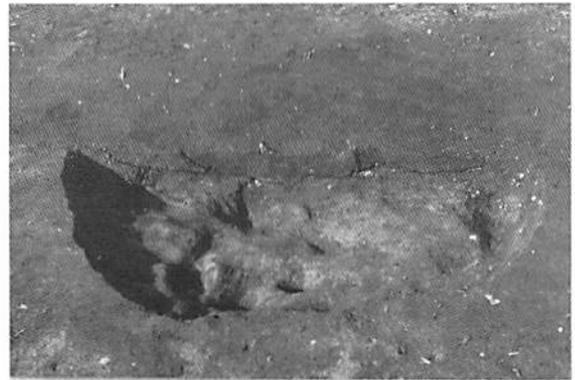
40号土坑平面



40号土坑断面

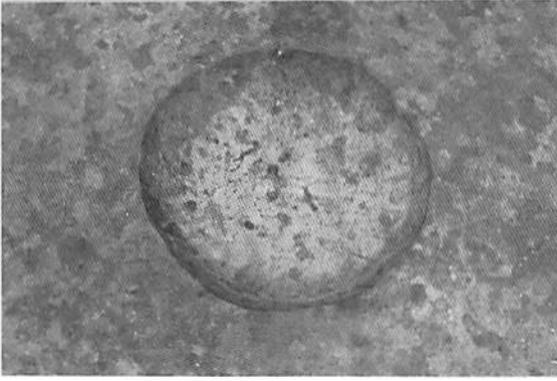


41号土坑平面



41号土坑断面

写真图版18 38~41号土坑



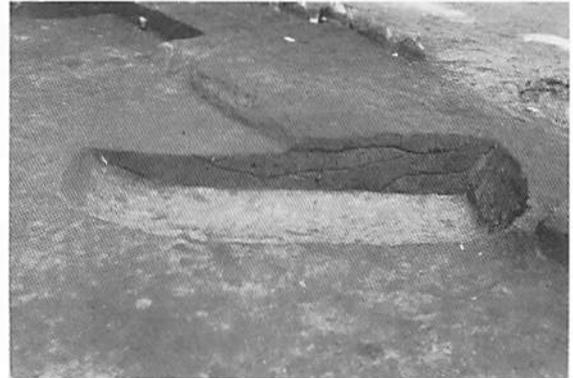
42号土坑平面



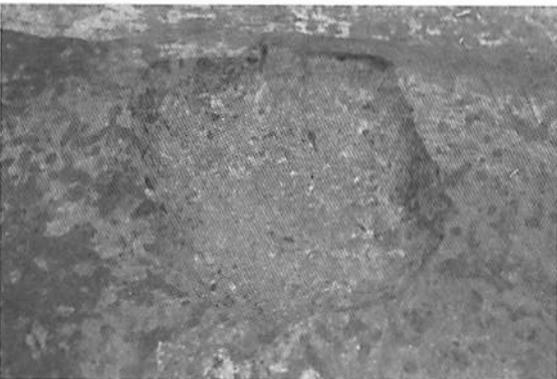
42号土坑断面



43号土坑平面



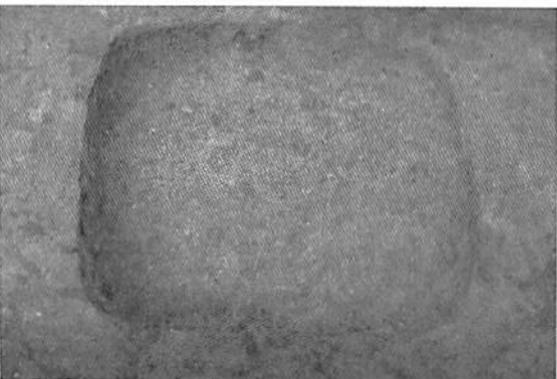
43号土坑断面



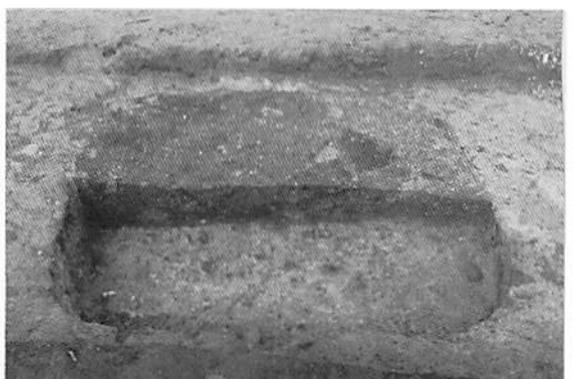
44号土坑平面



44号土坑断面

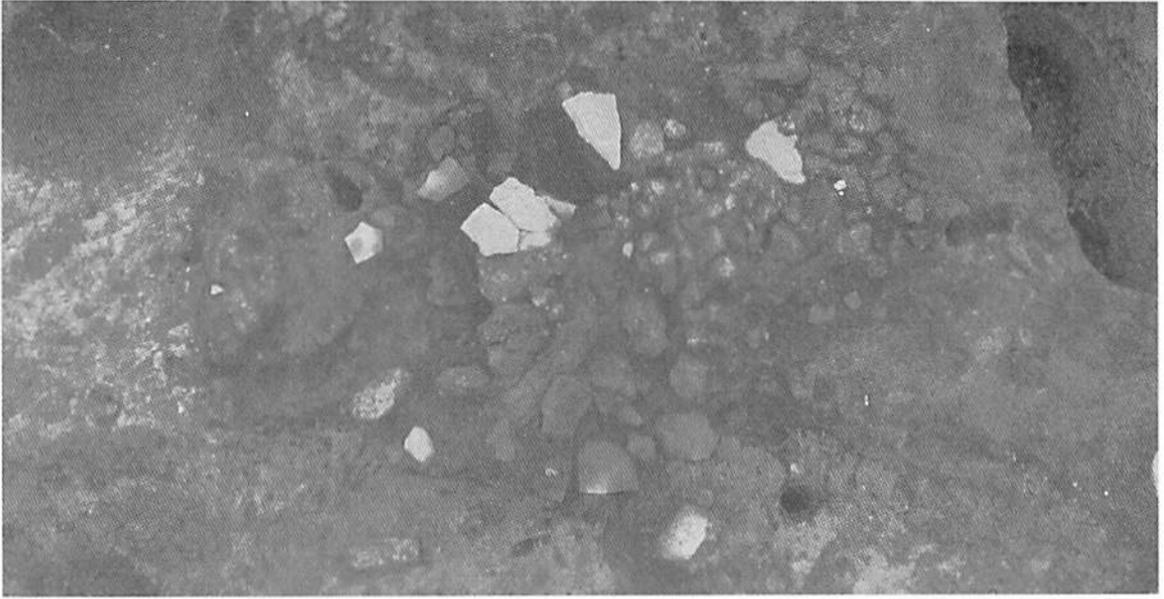


45号土坑平面

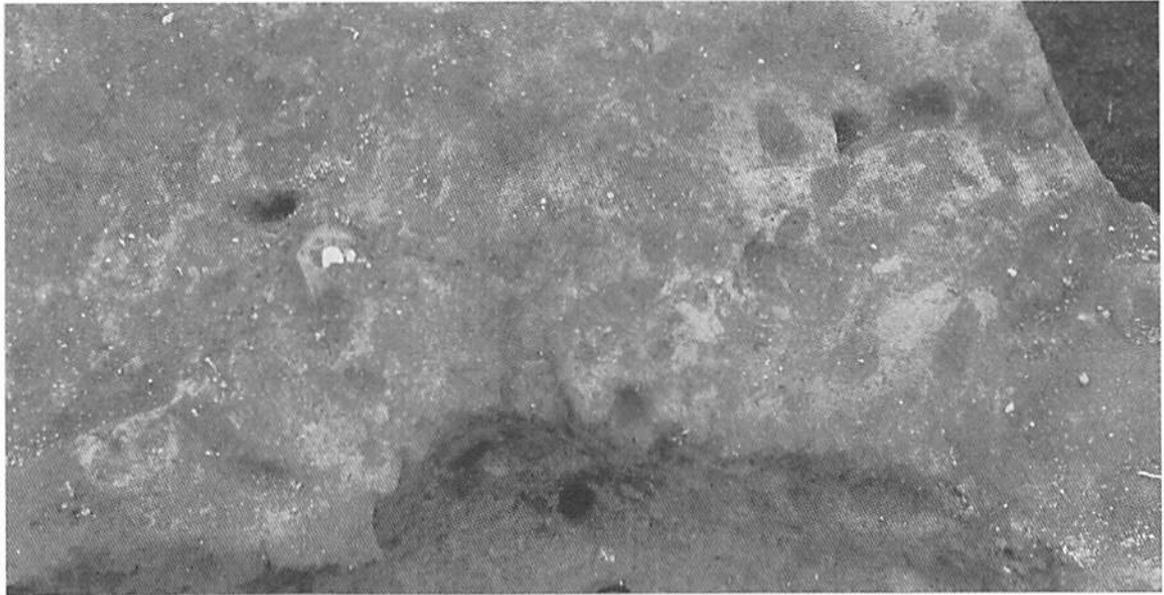


45号土坑断面

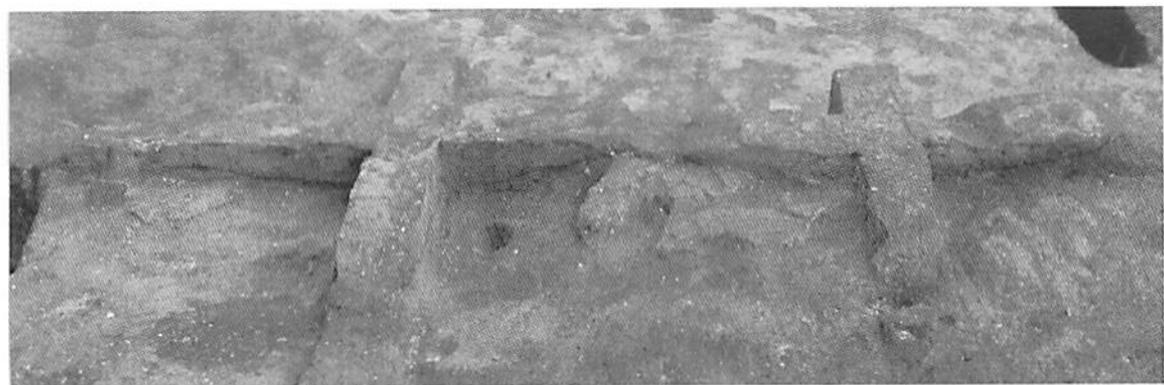
写真图版19 42~45号土坑



集石部検出状況



焼土面検出状況



焼土断面

写真図版20 1号集石焼土遺構



写真図版21 1・2号竖穴住居跡出土遺物



14



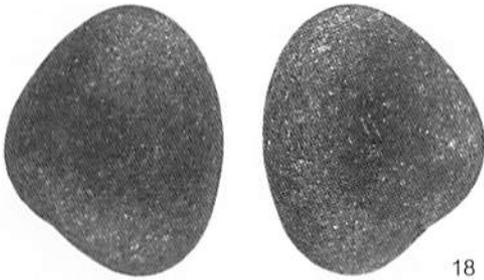
16



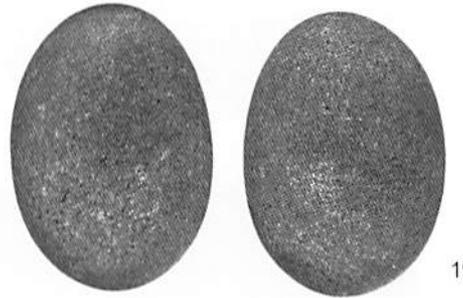
15



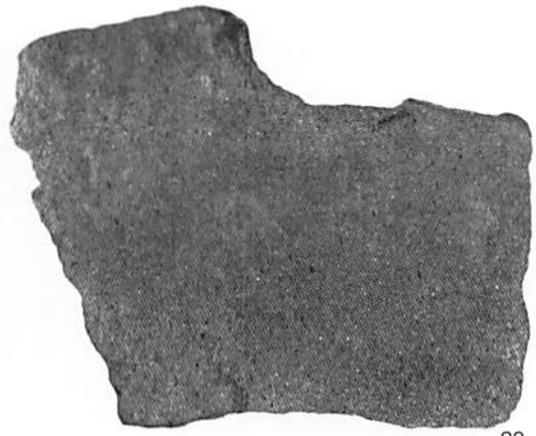
17



18



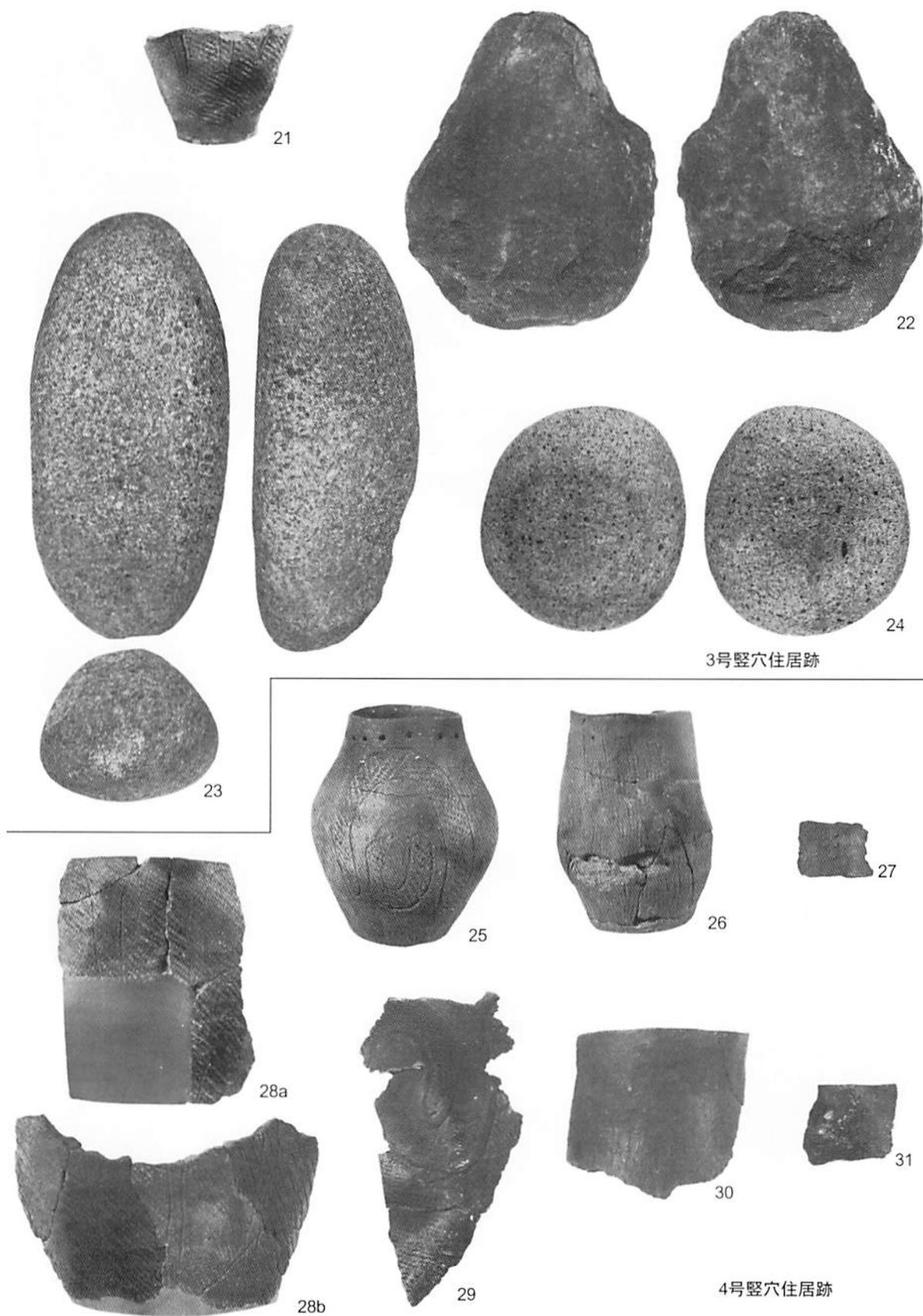
19



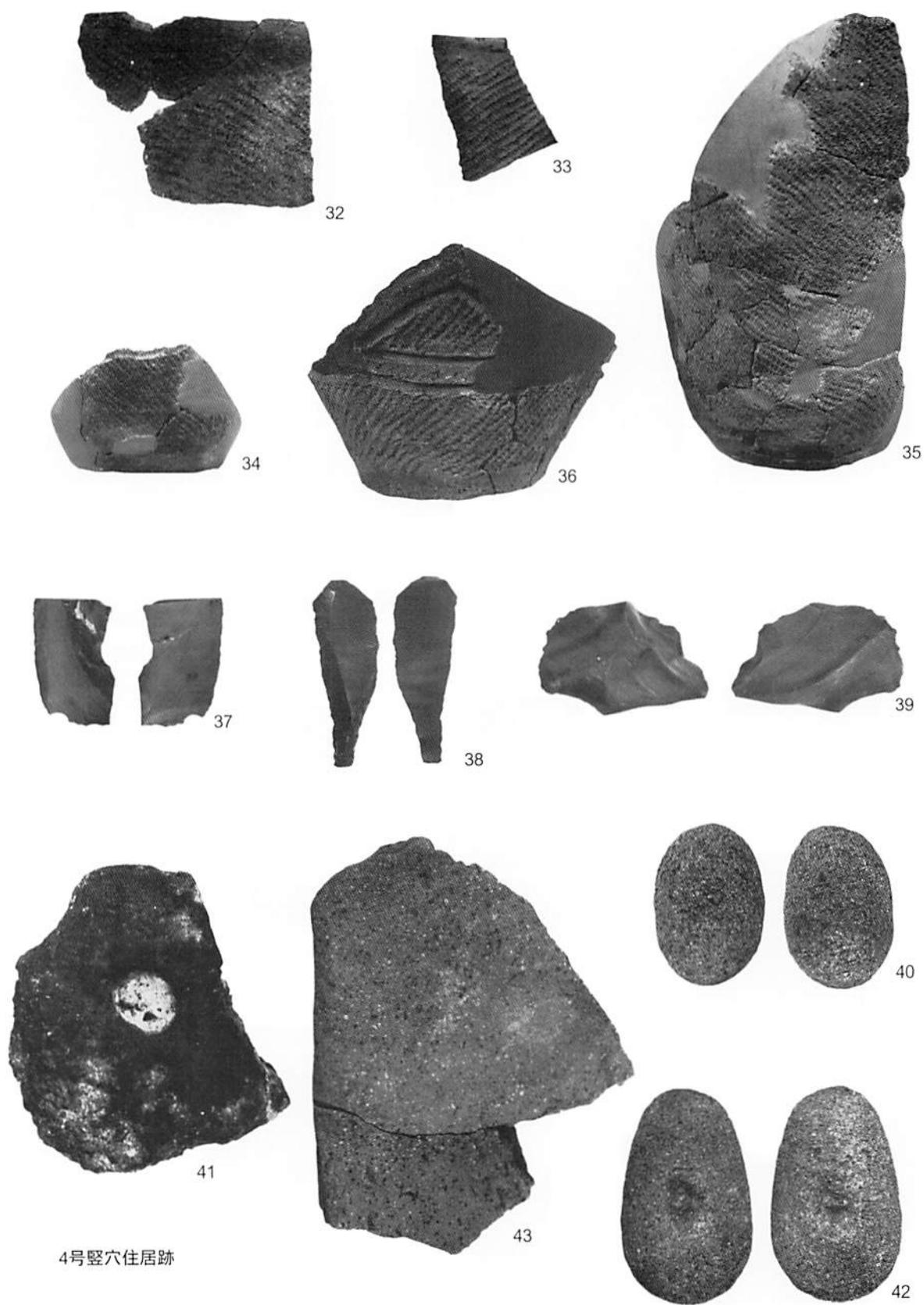
20

2号竖穴住居跡

写真图版22 2号竖穴住居跡出土遺物

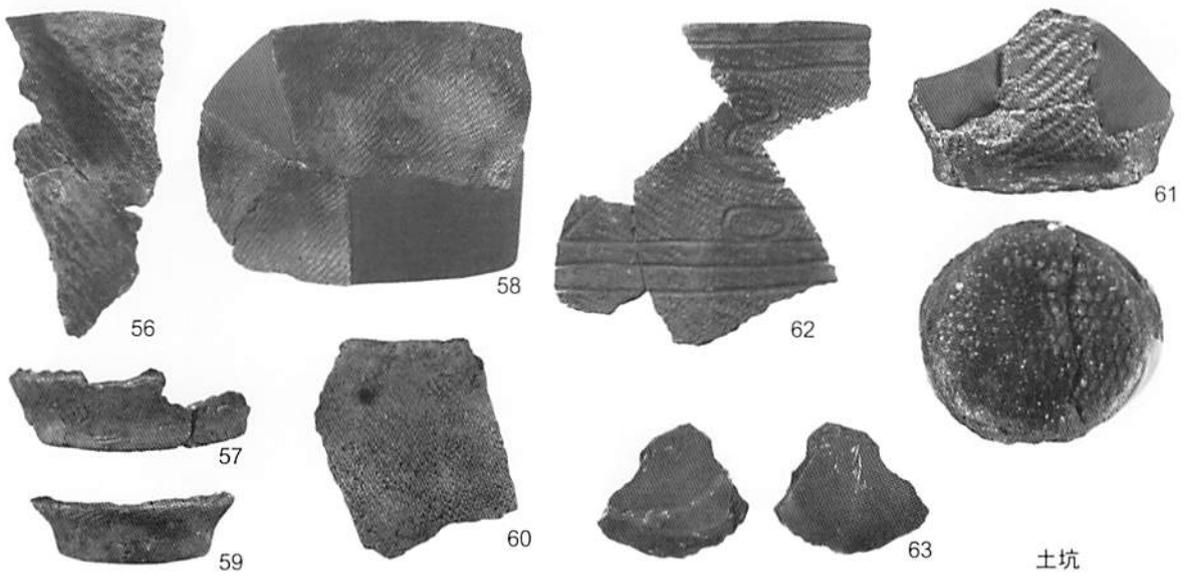
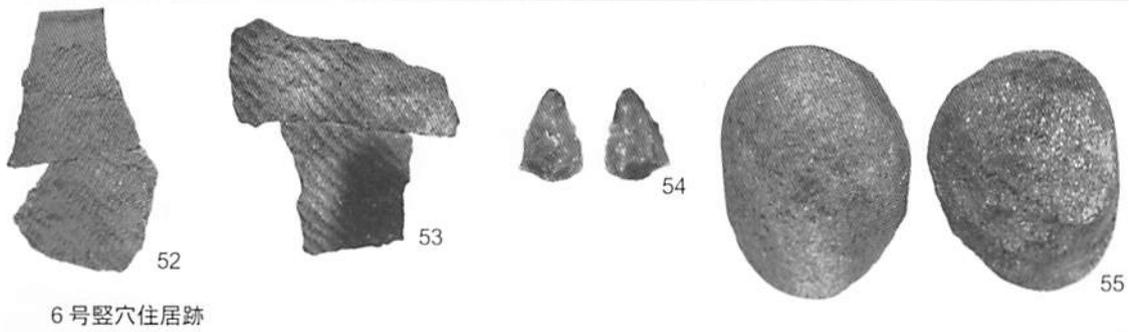
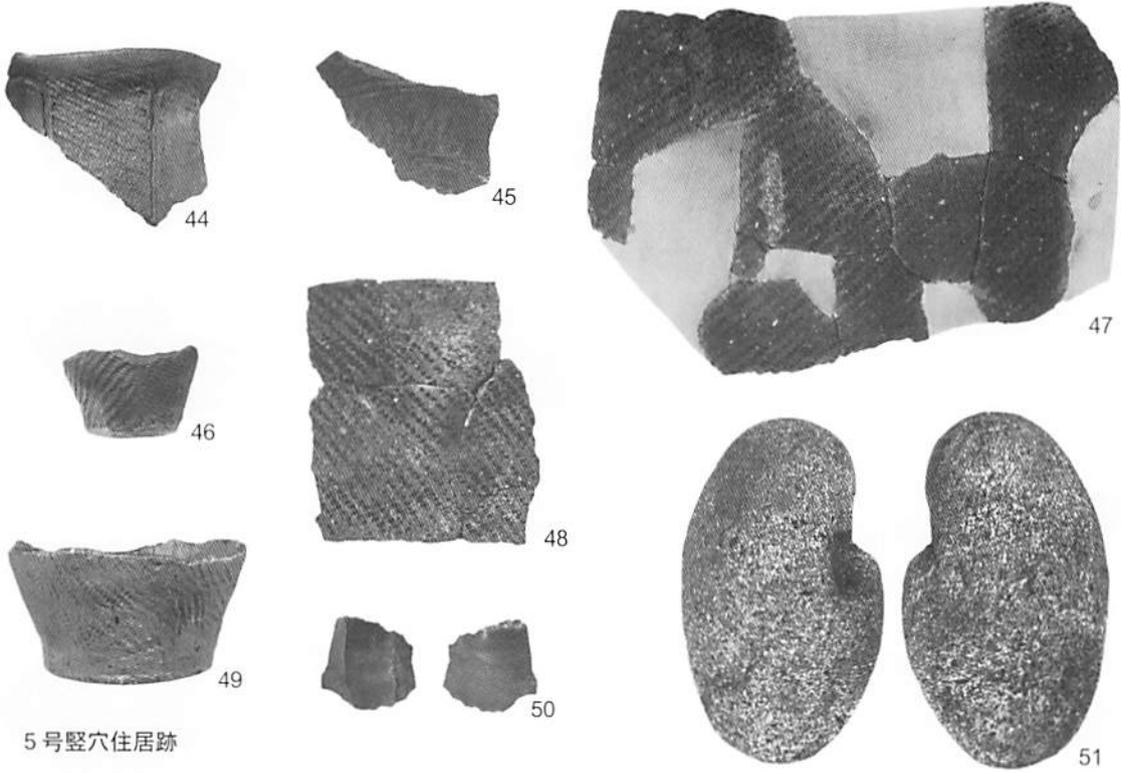


写真図版23 3・4号竖穴住居跡出土遺物

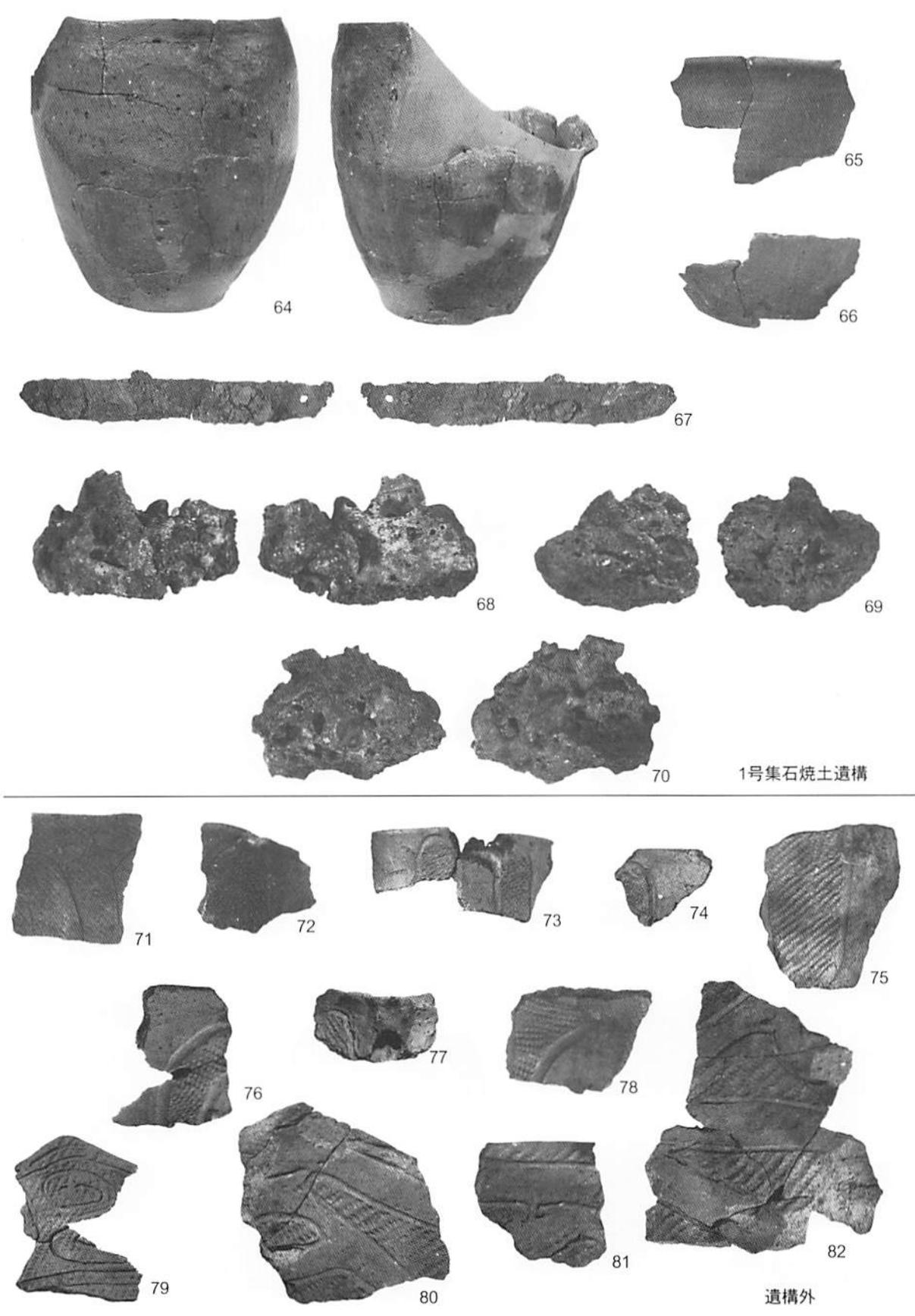


4号竖穴住居跡

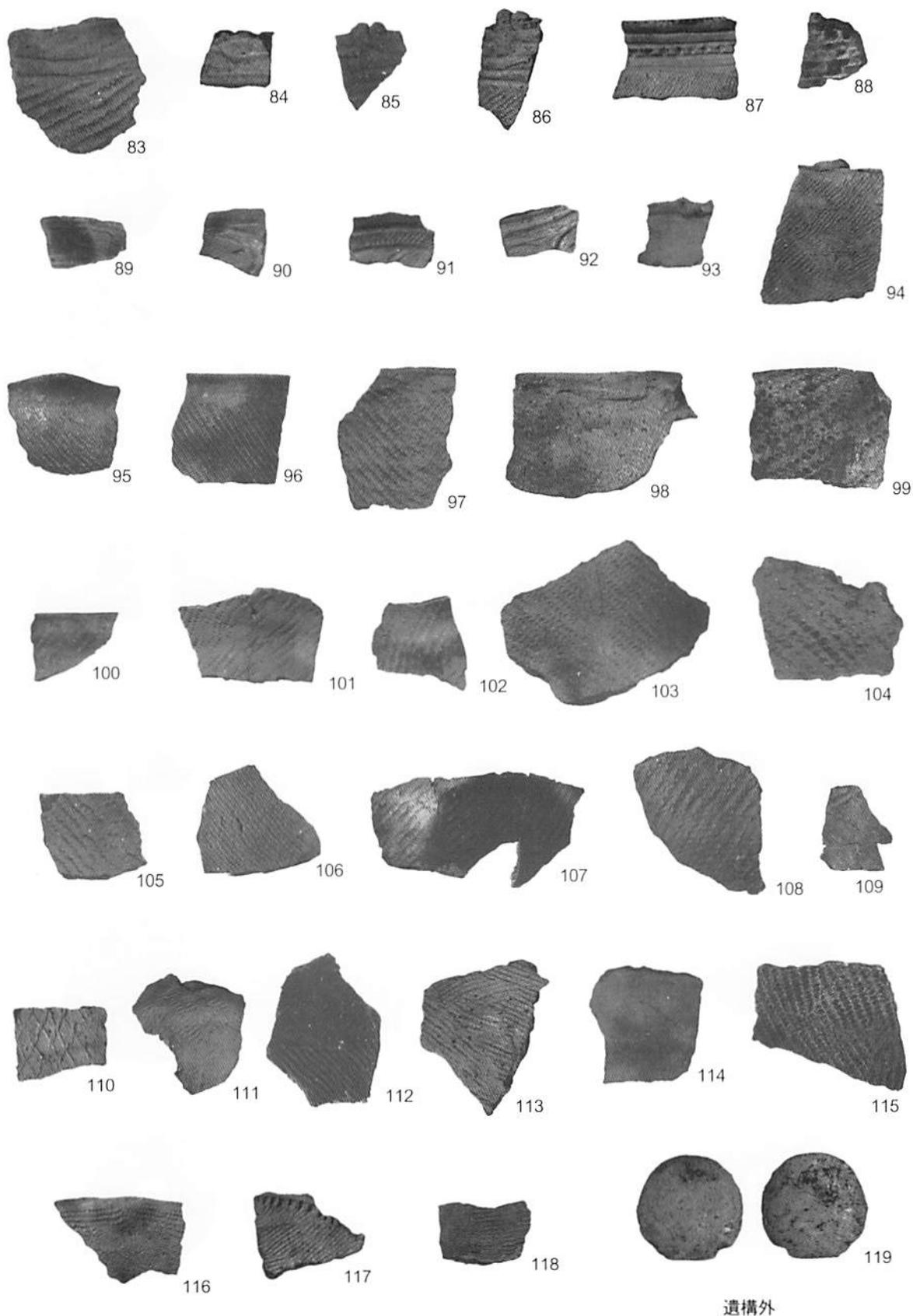
写真図版24 4号竖穴住居跡出土遺物



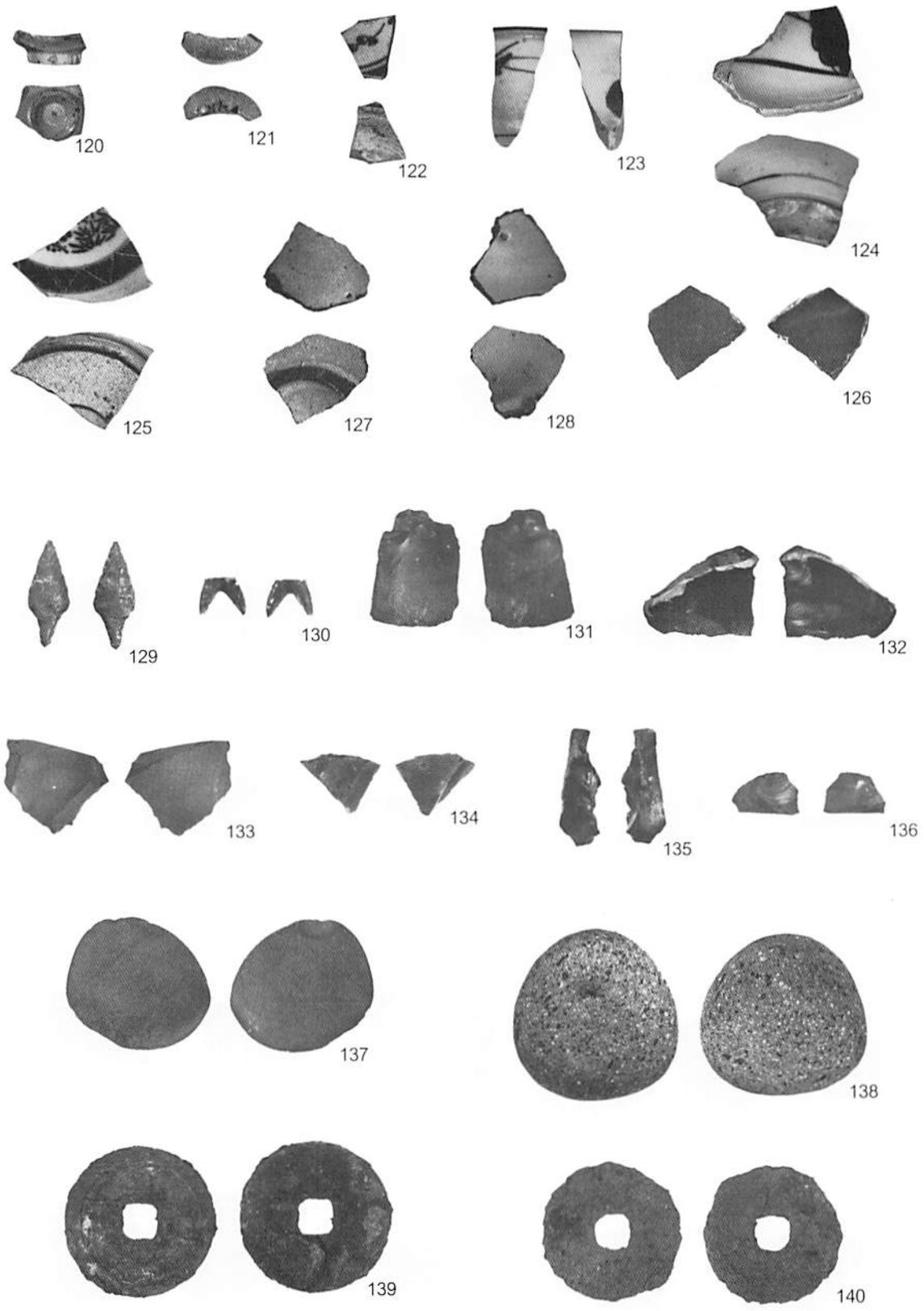
写真図版25 5・6号竖穴住居跡出土遺物・土坑出土遺物



写真図版26 1号集石烧土遺構出土遺物・遺構外出土遺物（土器1）



写真図版27 遺構外出土遺物（土器2・土製品）



遺構外

写真図版28 遺構外出土遺物（陶磁器・石器・錢貨）

報告書抄録

ふりがな	にしょうじさんいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書							
副書名	国道4号小鳥谷バイパス建設関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第424集							
編著者名	原 美津子							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 Tel 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦2004年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° . ' . "	東経 ° . ' . "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仁昌寺Ⅲ 遺跡	岩手県二戸郡 一戸町小鳥谷 字仁昌寺 66-10ほか	03524	JF30- 2061	40度 10分 00秒	141度 18分 08秒	2002.06.20 ～ 2002.10.04	6,250㎡	国道4号小鳥 谷バイパス建 設による緊急 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
仁昌寺Ⅲ 遺跡	集落	縄文時代 (中期後 ～末葉)	竪穴住居跡 土坑	6棟 45基	縄文土器 (中期、後期、晩期) 土製品 石器 陶磁器			
		平安時代	集石焼土遺構	1基	土師器 鉄製品・鉄滓 銭貨			

緯度と経度は世界測地系

平成15年度（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	木 村 昇	副 所 長	平 野 允 苗
(管 理 課)			
課 長	菲 澤 正 吾	嘱 託	高 橋 照 雄
課 長 補 佐	山 岸 直 美	"	湯 沢 邦 子
主 査	中 嶋 賢 一	"	沼 田 テル子
主 事	猿 橋 幸 子	"	伊 藤 滋 子
(調 査 第 一 課)			
課 長	佐々木 勝	文化財調査員	北 村 忠 昭
課 長 補 佐	佐々木 清 文	"	八 木 勝 枝
文化財専門員	金 子 昭 彦	"	丸 山 浩 治
文化財調査員	吉 田 充	"	北 田 勲
"	亀 大 二 郎	"	島 原 弘 征
"	野 中 真 盛	期限付調査員	坂 部 恵 造
"	新 妻 伸 也	"	小 林 弘 卓
"	阿 部 勝 則	"	藤 原 大 輔
"	杉 沢 昭 太 郎	"	小 針 大 志
"	西 澤 正 晴	"	太 田 代 一 彦
"	村 木 敬	"	新 井 田 えり子
(調 査 第 二 課)			
課 長	三 浦 謙 一	文化財調査員	星 雅 之
課 長 補 佐	中 川 重 紀	"	佐 藤 淳 一
"	高 橋 義 介	"	星 幸 文
文化財専門員	小 山 内 透	"	溜 浩 二 郎
"	金 子 佐 知 子	"	本 多 準 一 郎
"	濱 田 宏	"	丸 山 直 美
文化財調査員	赤 石 登	"	福 島 正 和
"	阿 部 眞 澄	"	米 田 寛
"	水 上 明 博	"	須 原 拓
"	阿 部 憲 美	"	中 村 絵 美
"	早 坂 淳	"	川 又 晋
"	小 松 則 也	"	村 田 淳
"	阿 部 徳 幸	"	(村 上 拓)
"	阿 窓 岩 伸 吾	期限付調査員	齋 藤 麻 紀 子
"	亀 澤 盛 行	"	石 崎 高 臣
"	飯 坂 一 重	"	吉 田 里 和
"	鈴 木 裕 明	"	立 花 裕
"	林 勲	"	江 藤 敦
"	阿 部 孝 明	"	駒 木 野 智 寛
"	羽 柴 直 人		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第424集

五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道4号小島谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成16年2月20日

発行 平成16年2月27日

発行 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
F A X (019) 638-8563

印刷 (有) 博光出版
〒020-0122 盛岡市みたけ5丁目8番43号
電話 (019) 641-0671

© (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004

